

PHASE 1

次世代高齢者研究報告書

変化し続ける高齢者意識の研究

～世代や年代の差異がもたらすもの～



2017年9月

公益財団法人ハイライフ研究所

Research Institute for High-Life

次世代高齢者研究報告書

変化し続ける高齢者意識の研究
～ 世代や年代の差異がもたらすもの～
(Phase1)

2017年 9月
公益財団法人ハイレイフ研究所

〈 目次 〉

第 1 部 研究概要	3
1 研究背景《財団の活動趣旨》	4
2 研究テーマ	6
3 研究プロセス	9
4 研究体制	11
第 2 部 次世代高齢者の生活意識と生活実態 ～「次世代高齢者調査」の結果から～	12
1 次世代高齢者調査の実施概要	13
2 調査結果のカテゴリーと分析手法	14
3 調査結果の概要	16
4 調査結果のまとめ	55
第 3 部 老後の生き方の座標軸研究	58
1 問題と目的	59
2 研究方法	64
3 結果と考察	67
4 全体的考察	77
5 引用文献	79
第 4 部 時層研究～次世代シニアの楽しみの行方を探る～	80
1 報告にあたって	81
2 楽しみを感じて行う行動の現在～次世代シニアと現在形シニア～	83
3 世代でとらえる次世代シニアと現在形シニア	89
4 好きと楽しい、の生活史。「時層」に見る両者の同質・異質	97
5 考察 楽しみのかたち・好きこそ人生の糧	107
第 5 部 総括	116
参考資料 時層 MAP 個票一覧表・分野別・世代別概要表	119

第 1 部

研究概要

1. 研究背景《財団の活動趣旨》

「都市を中心とした生活者のよりよい生活の実現・構築へ向けた調査・研究事業」という財団の事業理念をもとに、これからの時代が抱える問題を解決すべく、基本方針「持続可能な都市居住の実現に向けた知見の獲得と、社会との共有」を踏襲し、調査・研究事業と啓発・活動事業の枠組みのもと、それぞれの内容の充実・高度化を当財団は目指してまいりました。

現在、日本は人口減少社会、経済の長期低迷など、過去に経験したことがない多くの重大な困難に直面しています。国民生活に大きな影響を与えている少子高齢化、経済のグローバル化、慢性的な国内需要不足といった社会変化に適切に対処していくことが重要と考えます。なかでも少子高齢化の急速な進展は深刻であり、年金や医療・介護など社会保障制度の将来に対する不安が消費者の節約志向と貯蓄の意識を高めて支出を鈍らせ、構造的なデフレ体質による経済低迷をもたらしています。また経済のグローバル化の進展といった変化に伴い雇用環境も大きく変化しています。正規雇用が減少する一方、非正規雇用の労働者が増加し、低水準な賃金により、経済循環はますます悪化していきます。さらには、低所得者層の増加と、少子高齢化の影響で世帯構造も変化し、単身世帯や高齢世帯が増え、家族や地域社会との繋がりが希薄化しています。

この様に国民の暮らしが上向きイメージを描きにくい時代ではございますが、「超高齢社会における“幸せの追究”を高齢者のみならず、次世代高齢者をも対象にした研究」と、豊かな生活を営むための経済循環すなわち「これからの時代における消費の活性化、小売業のあり方」に主眼を置き、平成28年度～平成29年度の2年間に亘り調査・研究を行ってまいります。

〈財団の調査研究体系〉

調査 **都市生活者意識調査 2016** + **次世代高齢者調査** ※研究のための基礎データ取得

研究 **次世代高齢者研究**

「変化し続ける高齢者意識の研究 ～世代や年代の差異がもたらすもの～」

近未来消費研究

「高齢化と人口減に伴う、消費行動変化の研究 ～消費者と小売業の未来～」

財団では平成28年度～平成29年度の2年間に亘り、メインの研究テーマとして2つ研究テーマを設けております。本報告書の「次世代高齢者研究：変化し続ける高齢者意識の研究 ～世代や年代の差異がもたらすもの～」と、「近未来消費研究：高齢化と人口減に伴う、消費行動変化の研究 ～消費者と小売業の未来～」です。どちらも超高齢社会を踏まえた研究であり、その研究のための基礎データをを得るために2つの調査を実施しました。一つは「次世代高齢者調査」です。東京30km圏内に在住の51歳～75歳の男女500人を対象とした調査です。もう一つの調査は毎年実施している「都市生活者意識調査」です。東京30km圏内に在住の満13歳～79歳の男女、1,350人を対象とした調査です。

〈参考資料：人口推移と高齢化など〉

■総人口と65歳以上人口（構成比率）の推計

年次	総人口	65歳以上人口	割合 (%)
2015年	1億2,709万人	3,386万人	26.6%
2020年	1億2,532万人	3,619万人	28.9%
2025年	1億2,254万人	3,771万人	30.0%
2030年	1億1,912万人	3,716万人	31.2%
2035年	1億1,521万人	3,781万人	32.8%
2040年	1億1,091万人	3,920万人	35.3%

※国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』2017より作成

■高齢化する社会

65歳以上の人口が総人口に占める割合を高齢化率という。（国連・WHOの定義）

- 高齢化社会 = 高齢化率 7%超
- 高齢社会 = 高齢化率 14%超
- 超高齢社会 = 高齢化率 21%超

→日本は超高齢社会である。

→高齢化する社会の次は「多死社会」という言葉もあり、人口減に拍車がかかるということとともに、多死の時代への社会インフラ（特に医療関係）の問題も指摘されている。

■若くなる高齢者

一般社団法人日本老年医学会と日本老年学会は、高齢者の定義と区分に関する提言を行なった（2017年1月）。「65歳以上とされる高齢者の定義に、医学的・生物学的根拠は無く、前期高齢者には若く活動的な人が多く、定義に違和感がある」といった点を踏まえ、加齢に伴う身体機能変化の出現が遅れるデータを示し、以下の提言を行なった。

- 65～74歳 准高齢期（pre-old）  「准高齢者」
- 75～89歳 高齢期（old）  「高齢者」
- 90歳以上 超高齢期（oldest-old、super-old）  「超高齢者」

■減少する平均世帯人員

2010年の2.42人から2035年の2.20人まで減少を続ける。

2030年までは「単独世帯」が増加し続け、平均世帯人員の減少に直結するが、それも2031年以降は減少傾向がみられる。（全体としての人口減）

※国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数の将来推計』2013より

■生涯未婚率の上昇

50歳時点で一度も結婚したことの無い人の割合（生涯未婚率）は、2015年国勢調査で男性23.37%、女性14.06%。

2. 研究テーマ

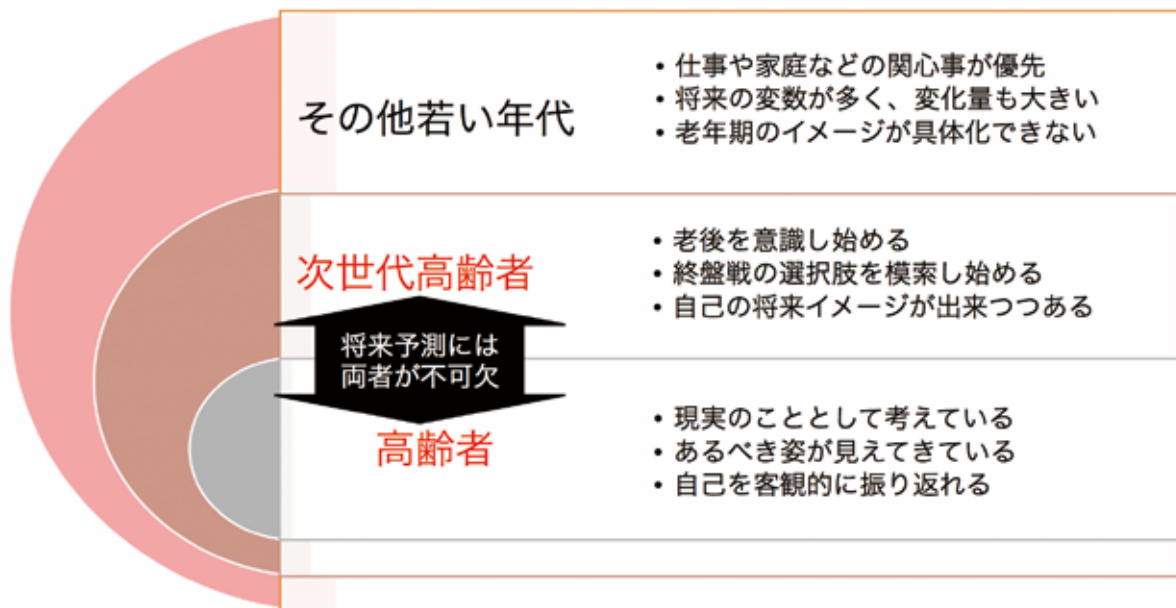
〈次世代高齢者研究〉

変化し続ける高齢者意識の研究 ～世代や年代の差異がもたらすもの～

超高齢化、単身世帯増加、生涯未婚率の上昇、人口減少、過疎化が騒がれてはいるものの、年金問題や介護問題、地域の財政破綻など、人口推移や財源負担面の量的把握のみが先行し、高齢者の生活実態や生活志向の解明については、まだまだ十分な研究は成されていないと思われます。広く一般的に「高齢者」という一括りの捉え方をしてしまう傾向も多々見受けられ、質的な把握からは程遠い現状であると思われます。

財団では高齢者の実態を深く追究し、将来に向けての超高齢社会の変化の予測に取り組めます。その為には65歳以上の高齢者の現状だけを追究しても、総合的な高齢社会の未来を予測するためには不十分だと考えられます。我々の「次世代高齢者研究」においては、概ね人生の後半戦に突入し、老後といった意識や取り組みを現実のものとして考え始める現在の50代を次世代高齢者として、その生活実態や志向・考え方を併せて探ることで、より充実した研究に取り組めます。

図表1 次世代高齢者研究の対象者の考え方図



《研究手法の特徴》

「次世代高齢者研究」において、我々は図表2の区分を設け、現状についての各研究対象の比較を行うとともに、各対象の将来予測や展望を探ることで、今後の超高齢社会全体についても分析研究していくこととします。

下記区分の設定に関して説明致します。

まず、高齢者を66歳から75歳としました。団塊世代を1946年～1950年生まれの5年間とし、まずボリュームゾーンである団塊世代を含むことと、70代に入っている戦中生まれ世代（1941年～1945年生まれ）と併せることとしました。勿論、高齢者は80代も90代も沢山いらっしゃいますが、調査への回答をいただくということから、この様に設定致しました。

次に次世代高齢者の設定ですが、当初は56歳～65歳を想定しましたが、60代の前半には既に年金生活が始まる人、会社務めで現役の人、退職直後で試行錯誤中であったり彷徨っている人が多く、男性のみならず配偶者の変化といったことで女性においてもその傾向があり、敢えて次世代高齢者から外すこととしました。その結果、51歳～60歳を次世代高齢者としました。この年代は、年金受給は開始されておらず、生計を立てるべく会社勤めなどを行っています。そういった共通のステージを考慮すると、50代（厳密には51歳～60歳）を次世代高齢者として分析することで、高齢者との比較を行いやすくなります。

また、全体を通じて、影響力が大きい団塊世代に注目しており、同様に各世代区分（5歳刻み）についても適宜分析の中で意識しています。図表2において高齢者などの対象区分とともに、包含する世代を示しております。（世代名称や区分については他の分類もありますが本研究では図表2の通りとしました）

図表2 研究対象の区分

対象の区分	年齢幅	研究対象としての位置づけ	包含する世代
次世代高齢者	51歳～60歳	・まだ老後という意識はなく、年金受給もない ・ほぼ家庭環境や仕事等の社会的将来像が見えつつある	51～55歳 新人類 (1961～1965年生まれ)
			56～60歳 POPEYE・JJ世代 (1956～1960年生まれ)
准高齢者	61歳～65歳	・環境変化の真っ只中 ・現実と将来が入り乱れる	61～65歳 ポスト団塊世代 (1951～1955年生まれ)
高齢者	66歳～75歳	・高齢者としての生活もスタートし、将来図が定まりつつある ・しかし、後期高齢者の段階に備える意識も強い	66～70歳 団塊世代 (1946～1950年生まれ)
			71～75歳 戦中生まれ世代 (1941～1945年生まれ)

以降、本文中では、上記区分の次世代高齢者を次世代高齢者層と表記し、高齢者を高齢者層と表記します。

《研究目的の整理》

①現状と将来について、高齢者層と次世代高齢者層の差異を把握し分析する

超高齢社会の今後について、示唆を得るべく、高齢者層に次世代高齢者層も加えて、現状の生活全般の実態と意識の比較分析を行います。調査からは様々な気づきが得られることを期待し、これからの（老後）生活や将来のことに何かが問題であるのかなどを炙り出します。

②次世代高齢者の「生きがい」や「老後意識」を模索する

マスコミで取り扱われるときは高齢者全体を一括りにしてしまう傾向が強いですが、高齢者内でも年代や生まれ育ってきた時代環境により志向や行動は異なりますし、同年代でも価値観や生活水準等により様々なクラスターが存在します。また、男女間の行動・意識・考え・志向・価値観の違いは大きなものがあると推察されます。高齢者のクラスターを見極め細かく分析します。また、団塊世代を中心とした高齢者層と次世代高齢者層の「生きがい」や「老後意識」の違いや関係性を調べることで、高齢者にとっての『幸せ』への手掛かりを探索します。

③次世代高齢者の今後における「楽しみ」について考察する

「次世代高齢者研究」は高齢化社会の今後に関する研究です。その中で実態の把握のみならず、何らかの提言を行うことを目標とし、より良い老後の生き方に結びつく領域も探りたいと考えております。そこで我々は「楽しみ」という領域にフォーカスし、主に“趣味、遊び、嗜好”といったことを対象として捉えることとしました。それは、“家庭、仕事”よりも自由度が高く、比較的可変な領域であるといったことに起因しています。

また、ここで一つの拠り所として『世代の共通体験・楽しみの生活史（時層）』を活用しています。これは「次世代高齢者調査」で調査対象者 500 名全員に記入してもらった、言わば自分史です。「楽しかったこと・好きだったこと・夢中になったこと」を 10 代から現在までを振り返るものです。回答は基本的に名称（ブランド名、地名、タイトル名 etc.）を記入する形式で実施しました。これらの結果から、世代間の違いなどを分析し、示唆の獲得、提言に繋がります。

以上、大きく分けて 3 つの目的を設定し、次世代高齢者研究を進めることと致しました。

3. 研究プロセス

〈PHASE1〉 2016 年度実施領域

①「次世代高齢者調査」の分析

～生活実態、生活意識を総合的に分析～

- ◆次世代高齢者調査では 51 ～ 75 歳男女 500 人 に調査をしました。
- ◆調査の領域としては、(1)生活時間・生活行動 (2)生活全般 (3)仕事 (4)家族・家庭 (5)人付き合い (6)楽しみ (7)健康 (8)情報 (9)社会 (10)老後 (11)住まい (12)家計・経済状況と幅広い。質問のスタイルとしては、現状を問うものと、将来的な展望を問うものに大きく分かれます。
- ◆データの比較、分析については、基本的に次世代高齢者層と高齢者層との違いに注目しています。ただし、質問によっては、男女間の違いの方が注目されるものもあります。

②生きがい、老後の生き方の座標軸という視点での研究

～現状の自己を 9 つのジャンルにおいて座標に置き、老後の生き方をどう志向するかとの関係性をみる～

- ◆次世代高齢者調査において、現状（現状から推測可能な「今後の見通し」も含む）を細かく調べています。ジャンルは「1. 仕事」「2. 学び」「3. 趣味」「4. 配偶者」「5. 家族」「6. 友人」「7. 健康」「8. 経済」「9. 社会」の 9 つを設定しました。これらの現時点での認識を次世代高齢者層と高齢者層で比較して考察しました。
- ◆老後の生き方についての意識（45 の選択肢）についても次世代高齢者調査にて回答を得て、その結果を主成分分析し、因子を次世代高齢者層と高齢者層について、それぞれ求めています。
- ◆そして更に、現状意識の 9 つのジャンルと老後の生き方の因子との相関も検証し、今どのような現状認識にある人が、どういった老後を展望するのかといった関係性についても考察を試みました。

③時層研究

～生きがい・楽しみの世代による違いを研究する～

- ◆次世代高齢者調査の対象者 500 人に対して、過去を振り返って「楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと」を『ファッションブランド・スタイル』『エンターテインメント・音楽・芸能・映画・テレビ番組・ラジオ番組・雑誌』『趣味・娯楽・スポーツ・旅行』『食べ物・飲み物・食卓・飲食店』『街・ショップ・施設』の 5 カテゴリーそれぞれについて、10 代・20 ～ 30 代・40 ～ 50 代・60 ～ 70 代それぞれの時期ごとにフリーアンサー形式で回答を求めました。
- ◆その結果を整理し、上記の 5 つのカテゴリーごとに、各年代層がどのような時代環境を生きてきたのか、同世代の共通体験は何か、そこで培われた価値観は何か、更には、過去から現在そして将来に向けての「楽しみ」は何かを数量的な面からも分析し、示唆を得ました。

〈PHASE2〉2017年度実施領域

④老後の生き方の座標軸に関する更なる探究

～主成分分析結果と他の質問項目との関係～

- ◆老後の生き方の因子と他の質問項目（例えば、様々な生活領域の満足度、仕事の状況、現在の家族構成など）との関係性を分析することで、より深い示唆の獲得が可能となります。
- ◆2016年度の研究においては、試験的に各種質問項目や選択肢を用意しました。2017年度においては新たに次世代高齢者調査は実施しませんが、都市生活者意識調査2017においてこれらの質問を盛り込み、調査項目に関しても精査を行うこととしています。

⑤次世代高齢者層、高齢者層におけるインタビュー調査

～「グループインタビュー」の実施～

- ◆男女別にグループインタビュー（デプスインタビュー）を実施し、世代の特性を炙り出していきます。生き方や価値観といったものは、各人各様であると思われますが、同世代は同じ時間軸で共通の体験や知識を得ていると考えられますので、世代に共通する意識や背景にあるものを探ります。
- ◆一方で、高齢者層は老後の生き方についてより現実としてとらえており、次世代高齢者層は老後に備える段階という時間差が生じていると思われます。この時間差が肯定的となるのか、否定的となるのか、また準備する中身がどういったものであるのかなど、インタビューの視点は多岐に亘ります。
- ◆次世代高齢者調査の定量的なデータからの示唆とも関連付けながら、インタビューの内容を整理し、結論付けること以上に、仮説構築や示唆を得ることを目的とします。

⑥外部識者による研究結果へのコメント

～次世代高齢者研究全体を俯瞰して外部識者からコメントをいただきます～

- ◆①～⑤の結果をジャンルの異なる様々な識者に見ていただくことにより、次世代高齢者層や高齢者層及び総合的なシニアに関する、研究そのものへのアドバイスのみならず、結果から導き出せる仮説や提言を広げていきます。

4. 研究体制

〈PHASE1〉 2016 年度の研究体制

研究幹事	櫻井隆治（公益財団法人ハイレライフ研究所	代表理事副理事長）
研究リーダー	藤原 豊（公益財団法人ハイレライフ研究所	執行理事専務理事）
研究メンバー	杉本浩二（公益財団法人ハイレライフ研究所	上席研究員）
	福與宜治（公益財団法人ハイレライフ研究所	主任研究員）
	谷口明美（公益財団法人ハイレライフ研究所	研究員）
	生方純一（公益財団法人ハイレライフ研究所	事務局長）
研究協力	株式会社行動科学研究所	
	マイボイスコム株式会社	
	統計調査センター株式会社	
	森 義博（（一財）実務教育研究所認定 データ解析士）	

第2部

次世代高齢者の生活意識と生活実態 ～「次世代高齢者調査」の結果から～

1. 次世代高齢者調査の実施概要

■調査対象：東京 30km 圏に在住の満 51 歳～ 75 歳一般男女で 5 世代を設定、各世代を次のように定義した。

- ① 新人類世代 (51～55 歳／ 1961 年～ 1965 年生まれ)
- ② POPEYE・JJ 世代 (56～60 歳／ 1956 年～ 1960 年生まれ)
- ③ ポスト団塊世代 (61～65 歳／ 1951 年～ 1955 年生まれ)
- ④ 団塊世代 (66～70 歳／ 1946 年～ 1950 年生まれ)
- ⑤ 戦中生まれ世代 (71～75 歳／ 1941 年～ 1945 年生まれ)

■標本数（有効回収数）：500 人

	計	次世代高齢者層		准高齢者層者層	高齢者層	
		新人類世代	POPEYE・JJ 世代	ポスト団塊世代	団塊世代	戦中生まれ世代
		51～55 歳	56～60 歳	61～65 歳	66～70 歳	71～75 歳
TOTAL	500	100	100	100	100	100
男 性	250	50	50	50	50	50
女 性	250	50	50	50	50	50

■標本抽出法：エリアサンプリング法

■調査方法：訪問留置法（訪問して調査票配布 → 対象者記入 → 訪問回収）

■調査時期：2016 年 10 月 28 日（金）～ 11 月 14 日（月）

■調査機関：(株)行動科学研究所

※調査結果の詳細は、別冊「次世代高齢者調査」をご参照ください。

2. 調査結果のカテゴリーと分析手法

■ 調査カテゴリー

- (1)生活時間・生活行動：起床・昼寝・就寝、食事・間食・飲酒、自宅での行動、自宅外での行動、外出先、外出行動別同行者、滞在時間、最近1週間にいった所と頻度、外出時の不安
- (2)生活全般：生活満足度、幸せ度、生活分野別満足度と不安度、この1年間で幸せを感じた時、ファッション志向、食志向、普段の夕食のとり方、調理頻度、自宅での飲酒頻度、酒に対する意識と態度、食品の買い物行動、食品の宅配サービス利用状況、食品や日用品の購入店
- (3)仕事：収入を伴う仕事の種類、就業形態、仕事場所、労働日数/週、労働時間/日、今後したい仕事の職種・労働日数・労働時間、定年制度と雇用継続制度の実態、収入を伴う仕事をしていない理由、以前していた仕事の種類、1週間の過ごし方、収入を伴う仕事をしたいか、何歳まで仕事をしたいか、仕事をしたい理由、今後したい仕事のタイプ、収入を伴う仕事をするために現在取り組んでいること
- (4)家族・家庭：同居・近居の状況と理由、自分が要介護になったときの介護手段、配偶者が要介護になったときの介護手段、親が介護になったときの介護手段、外出行動を共にする家族、家事をする頻度、好きな家事、結婚意向、結婚したくない理由、配偶者を頼りにしているか、配偶者から頼られているか、夫婦で一緒に外出する頻度、夫婦共通の趣味や楽しみ、夫婦共通の友人、夫婦での家事分担、夫婦間の会話、家族の悩みや心配事
- (5)人付き合い：友人の種類、友人の人数、大切な友人と知り合った機会・年代、大切な友人、異性の友人、人付き合いで心掛けていること、ボランティアや地域活動への参加実態、同窓会・クラス会への参加実態、友人とのコミュニケーション方法と頻度
- (6)楽しみ：楽しみを感じて行なっていること、以前はやっていたが現在やっていない楽しみ、今後行いたい楽しみ、現在の楽しみの開始時期と理由、最も大事にしたい楽しみ
- (7)健康：現在の健康状態、自分の健康や病気で気がかりなこと、健康維持・改善のために日頃行っていること、健康面において自分にあてはまる状態
- (8)情報：日頃よく見聞きする情報メディアの種類、ネットのSNSでの情報発信の有無・頻度
- (9)社会：50歳以上での年代間格差の有無、振り返ってみて良かった年代
- (10)老後：「老後」に関する意識、「老後」に関する現状と今後の見通し、「高齢者」「老後」の定義、最も充実していた年代、戻りたい年代、人生の節目はいつ、「終活」の認知・イメージ・実態・生前の準備内容、高齢者を形容するのに相応しい言葉

- (11)住まい： 現在の住まい、老後の住まいについての考え、住替え希望時期・住居形態・立地、住まいに求めること
- (12)家計・経済状況： 世帯収入（種類・年収額・満足度）、支出（月間支出額、収支バランス、増えた支出・減った支出）、今後重点的に増やしたい支出・減らしたい支出、お金の使い方に関する考え、世帯保有資産、住宅ローンの有無、これからの人生の準備資金について（不安度、貯蓄計画や実行、考え始めた年齢・切掛け）、老後の準備資金は何歳まで必要か・その金額は、子供の教育費は何歳までかかったか、住宅ローンは何歳までかかったか、今後特に必要となる費用の種類

■データ集計の視点

主に各属性間でデータ比較を行っている。

〈視点1〉 次世代高齢者層と高齢者層の比較

- ① 51 ～ 60歳 次世代高齢者層
- ② 66 ～ 75歳 高齢者層

〈視点2〉 男女の比較 → 上記の①と②について男女の違いを加味して比較

〈視点3〉 世代の比較 → 年代（5歳刻み）の方が理解しやすい場合は下記に分けて比較

- ① 51 ～ 55歳 新人類 （1961 ～ 1965年生まれ）
- ② 56 ～ 60歳 POPEYE・JJ世代 （1956 ～ 1960年生まれ）
- ③ 61 ～ 65歳 ポスト団塊世代 （1951 ～ 1955年生まれ）
- ④ 66 ～ 70歳 団塊世代 （1946 ～ 1950年生まれ）
- ⑤ 71 ～ 75歳 戦中生まれ世代 （1941 ～ 1945年生まれ）

3. 調査結果の概要

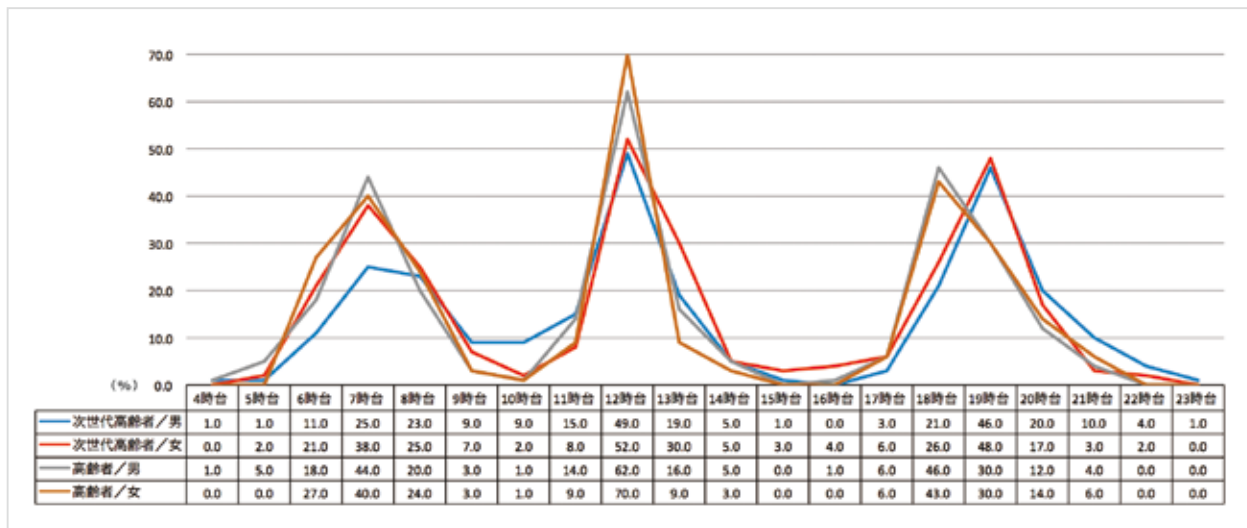
3.1 生活時間・生活行動

①家庭内行動

《起床・就寝》 高齢者層は朝 6 時台に起床する人が最も多いが、次世代高齢者層の場合は 6 時台と 7 時台に起床時間が分散している。年齢が上昇するにしたがって早起きの傾向が見受けられる。一方、就寝時刻は、高齢者層は男女共に 22 時台、次世代高齢者層の場合は深夜 0 時以降の就寝が最も多い。また高齢者層の睡眠時間は平均 8 時間、次世代高齢者層は平均 6 時間となっている。

《食事（図表 3 参照）》 食事時間帯のピークは、7 時台・12 時台・18～19 時台。一日 3 回規則正しく食事を摂っている。尚、夕食に関しては高齢者層は 18 時台、次世代高齢者層は仕事との兼ね合いにより 19 時台と 1 時間のズレがある。尚、図表にはないが飲酒のピーク時間帯は 18～19 時で夕食を食べながらの飲酒が最も多い。また、全体で約 20%の人が 15 時台におやつを食べており、高齢者層に限るとその割合は 30%程度に増す。

図表 3 食事時間帯



《メディア》 テレビや DVD を見る、ラジオや CD を聴く時間帯は、朝は高齢者層の場合 7 時台がピークであるが、次世代高齢者層は 8 時台がピークとなっている。また、夕方から夜にかけての時間帯においては、年代差よりも男女差の方が顕著に現れている。男性は 19～20 時台がピークとなっているが、女性の場合は 1 時間遅く 20～21 時台がピークとなっている。尚、高齢者層は朝晩に加えて昼 12 時台の視聴が 30%強存在している。また、新聞・雑誌を読む時間帯は、朝 6～8 時台に集中しており、その割合は 20%強存在する。

《家事（掃除・洗濯）》 リタイアしても男性の掃除・洗濯への関与度は低くその割合は 10%に満たない。女性高齢者層は朝 7～8 時台に掃除・洗濯を済ませ、次世代高齢者層は 7～9 時台とレンジが 1 時間広い。この 1 時間の差（9 時台）は、夫や子供が家を出てからの活動と推察される。

《家事（料理・炊事）》 リタイア後も男性の料理・炊事への関与度は低い。女性の場合は年齢を問わず 6～7 時台に朝食づくりをし、夕食づくりは高齢者層の場合は 17～18 時台、次世代高齢者層の場合は 18～19 時台と、家族の帰宅時刻に合せ 1 時間繰り下がっている。

〈パソコン・インターネット〉 男性の場合、9～10時台と20時台の2つの時間帯、女性の場合は朝から日中の利用は低く夜20～21時台に集中している。

②外出行動

〈外出率〉 高齢者層の外出は、朝10時台から16時台が基本となっている。8～9時台と17～19時台の通勤通学のラッシュ時を避けての行動で、通勤通学者が出て行った後に行動を起こし、帰ってくる前に帰宅しているようだ。また、朝10時台はスーパーマーケットや商店など様々な施設が開店する時刻でもあり、それに合わせて外出している。また、買い物という行動に着目すると、夕方はスーパーマーケットが混み合う時間帯の前の15～16時台に済ませている。高齢者層は混み合う時間帯を避けて、効率的かつ疲れない行動パターンをとっているようだ。

〈外出先〉 「昨日行ったところ」という質問については、男性は51～55歳を除く全世代で「スーパーマーケット」をあげた人が最も多い。（男性で約40%、女性で約80%）男性51～55歳ではコンビニエンスストアがトップで48%、スーパーマーケットが2位で40%。2番目に多いのが、男性51～55歳、男性71～75歳、女性66～70歳を除いて「コンビニエンスストア」となっている。その他、次世代高齢者層が高齢者層よりも多く訪問しているのは、男女ともに「大型ショッピングセンター」であり、逆に高齢者層が多いのは男女ともに「ウォーキングやジョギング」となっている。次いで「銀行・郵便局・役所・保健所」「商店街」「食堂・料理店」「病院・医院」と挙がってくるが、女性の場合は「友人・知人の家」を訪れている割合も多いことが特徴的である。

〈同行者と滞在時間（図表4参照）〉 「スーパーマーケット」には、高齢者層では男女ともに「一人で」と答えている人が多い（男性68%、女性88%）、しかしながら次世代高齢者層の場合は「夫・妻と」との回答率に大きな男女差が見受けられる。男性は「妻と一緒に」と答えている割合が56%にも及ぶに対して、女性の「夫と一緒に」と答えている割合は13%でしかない。この差異は何であろうか？妻にとって夫は、ただ自分についてきているだけであって共に行動しているという意識が薄いからなのであろうか？滞在時間は性別年齢を問わず、「16～30分」と「31～60分」が多数派である。

「大型ショッピングセンター」もスーパーマーケットと同様、男性の次世代高齢者層は「妻と」、高齢者層は「一人で」行く割合が多い。尚、滞在時間はスーパーマーケットよりも長く「1～2時間」となっている。広さとの関係もあるが、時間つぶしをしていると推察される。

一方「コンビニエンスストア」（「銀行・郵便局・役所・保健所」も同様）は、性別年齢を問わず「一人で」訪れ、滞在時間は「15分以内」となっており、目的を果たしたらさっさと退出している。

図表4 同行者と滞在時間（%）

	スーパーマーケット						コンビニエンスストア					
	調査数	一人で	夫・妻と	15分以内	30分	1時間	調査数	一人で	夫・妻と	15分以内	30分	1時間
次世代高齢者／男	43	39.5	55.8	9.3	44.2	37.2	39	71.8	12.8	92.3	7.7	-
次世代高齢者／女	78	79.5	12.8	15.4	39.7	39.8	20	70.0	20.0	75.0	25.0	-
高齢者／男	41	68.3	29.3	22.0	39.0	31.7	18	94.4	5.6	83.3	11.1	5.6
高齢者／女	80	87.5	5.0	11.3	45.0	35.0	18	88.9	-	72.2	27.8	-

〈1週間の外出先〉 外出先を29提示し、直近1週間の訪問頻度（週4～5日以上、週2～3日、週1日だけ、行かなかった）を質問した。その結果「スーパーマーケット」は女性の全ての世代で100%近く、男性でも70～80%が訪問している。次いで「コンビニエンスストア」が多いが、男女共に年齢が下になるほど利用率が高まる傾向が見受けられる。それ以外の施設で多く挙がってきたのは、「銀行・郵便局・役所・保健所」で男性よりも女性の方が高い（男性33%、女性58%）、次いで「病院・医院」で女性は年代差が無いが、男性は高齢者層が高くなる。「ウォーキングやジョギング」はその次に多いが、高齢者層において更に多くなる。世間一般的に「図書館で時間をつぶす老人」「老人で成立するスポーツジム」等と言われており、確かに老人が多い光景を目の当たりにするが、「図書館や市民館」は11%、「スポーツクラブ・フィットネスジム」10%、「自治会や管理組合・ボランティア活動」10%、「稽古事・習い事」9%、「ゴルフ場やテニスコート」6%、「健康ランドやスーパー銭湯」4%と、自己研鑽や体力増進のための外出はそれほど多くはない。

〈1週間の訪問頻度〉 施設（目的）別の1週間あたりの平均日数を見ると、最も多いのが「スーパーマーケット」で週平均3.1日。女性は週4日、男性は2日弱、次いで「コンビニエンスストア」週平均2.6日で年齢が高いほど訪店頻度は低くなる。以下、「銀行・郵便局・役所・保健所」1.4日、「病院・医院」1.4日と続く。

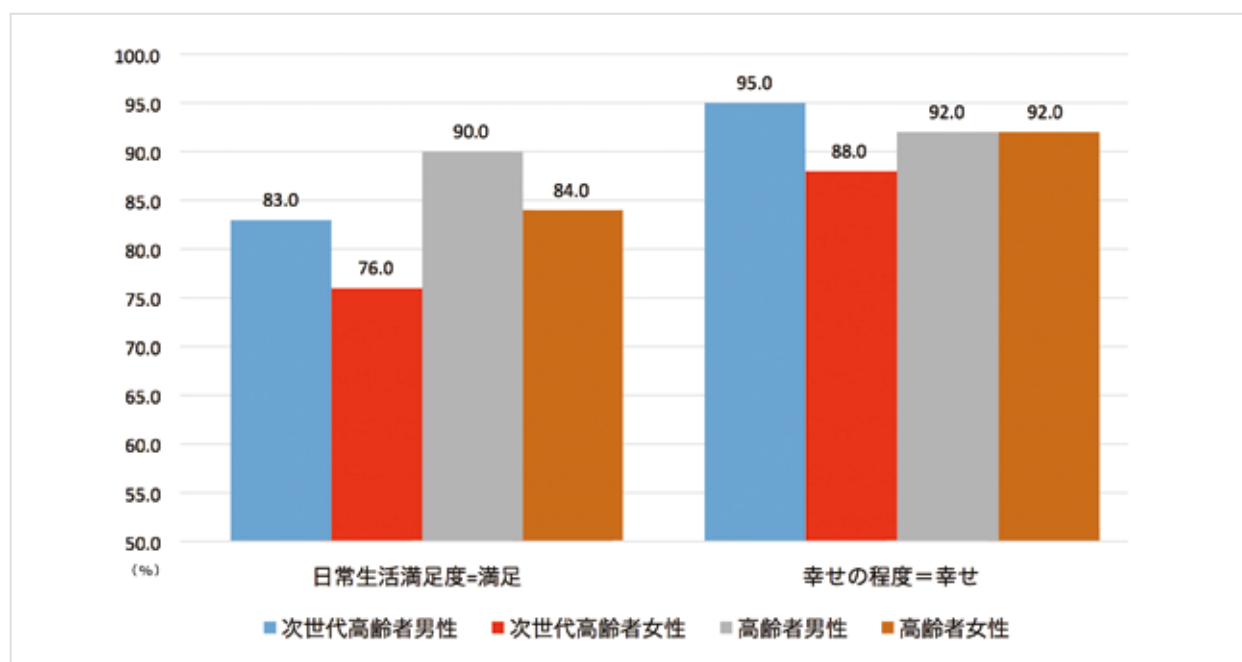
〈外出時に感じること〉 外出時における不満・不安因子を19掲げ、該当するものを選択した結果、最も高かったのは「自動車の維持費（ガソリン代や税金等）が高い」30%で、「電車の運賃が高い」27%、「安心して歩ける歩道が少ない、歩道が狭い」19%、「すぐにトイレに行きたくなる」18%、「まだまだバリアフリーが行き届いていない」16%と続く。男女間の差を見ると、女性よりも男性が高いのは「自動車の維持費が高い」「自動車の運転に際し、身体的能力の衰えによる事故が心配」、男性よりも女性が高いのは「安心して歩ける歩道が少ない、歩道が狭い」「まだまだバリアフリーが行き届いていない」が顕著な差である。次に世代別に見ると、高齢になるほど、「すぐにトイレに行きたくなる」「身体能力の衰えによるケガが心配」「休憩場所やベンチなどの休める場所が少ない」の割合が高くなる。

3.2 生活全般

〈生活満足度・幸せの程度（図表5参照）〉現在の日常生活について、「満足している」「やや満足している」「やや不満である」「不満である」の4段階で質問した。全体でみると「満足している」と「やや満足している」の合計で83%が“満足”と回答している。男女間でみると女性のほうが満足度は低く（男性86%、女性79%）、世代別にみると女性の次世代高齢者層が76%と最も低い。

同様に現在の幸せの程度を4段階で質問。全体でみると92%が“幸せ”と回答。前述の生活満足度と同じく、女性の次世代高齢者層が若干低い。

図表5 生活満足度と幸せの程度



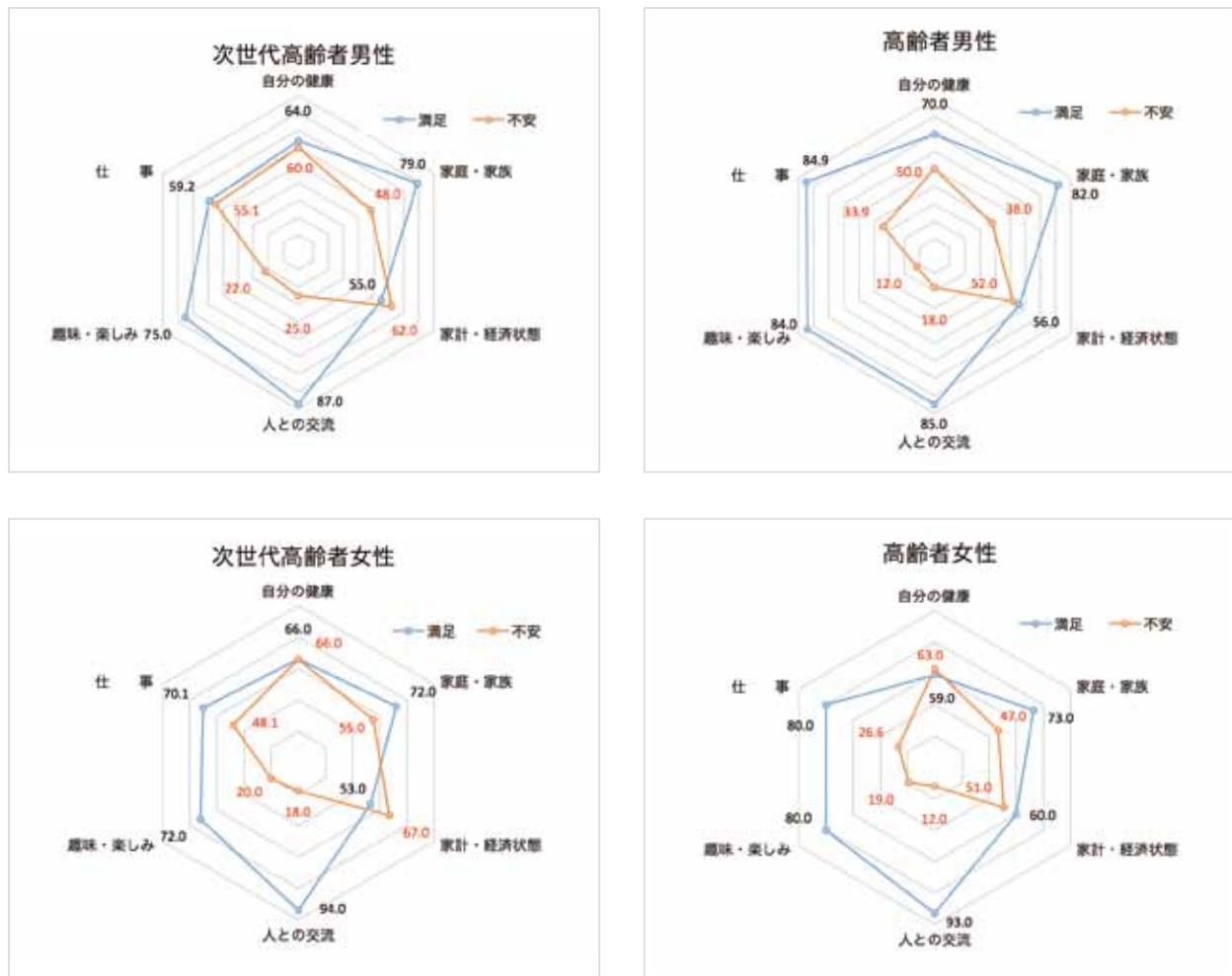
〈満足・不安の因数分解（図表6参照）〉 満足や不安について、1. 自分の健康、2. 家庭・家族、3. 家計・経済状態、4. 人との交流、5. 趣味・楽しみ、6. 仕事 の6つのスコアをレーダーチャートで図式化し、六角形の大きさや凹凸で比較している。

単純に、高齢者層は次世代高齢者層より、満足の六角形が大きく、不安の六角形が小さい。つまり、高齢者層はフォーカスした6つの項目に関して、満足度が高く、不安が少ないということである。

いくつか個々の項目をみると、特に注目されるのが「仕事」についてである。次世代高齢者層はほぼ仕事に従事しており、高齢者層は既にリタイアされている方が多い。「仕事」の満足は、仕事からリタイアした高齢者、もしくは高齢でも仕事を続けている高齢者層が高い。その一方で次世代高齢者層にとって「仕事」は大きな変化をもたらすもので、その不安が如実に数字に表れている。

また、「自分の健康」に関しても年齢で一回り上である高齢者層の方が不安のスコアが低い。満足のスコアは女性においては次世代高齢者層が高齢者層より高いが、男性においては高齢者層の方が高い。つまり、単純に年齢が高いからと言って、心身が後退局面にある、ネガティブな状況にあるということでは決してないということを表している。

図表6 6つのポイントにおける『満足』と『不安』（％）



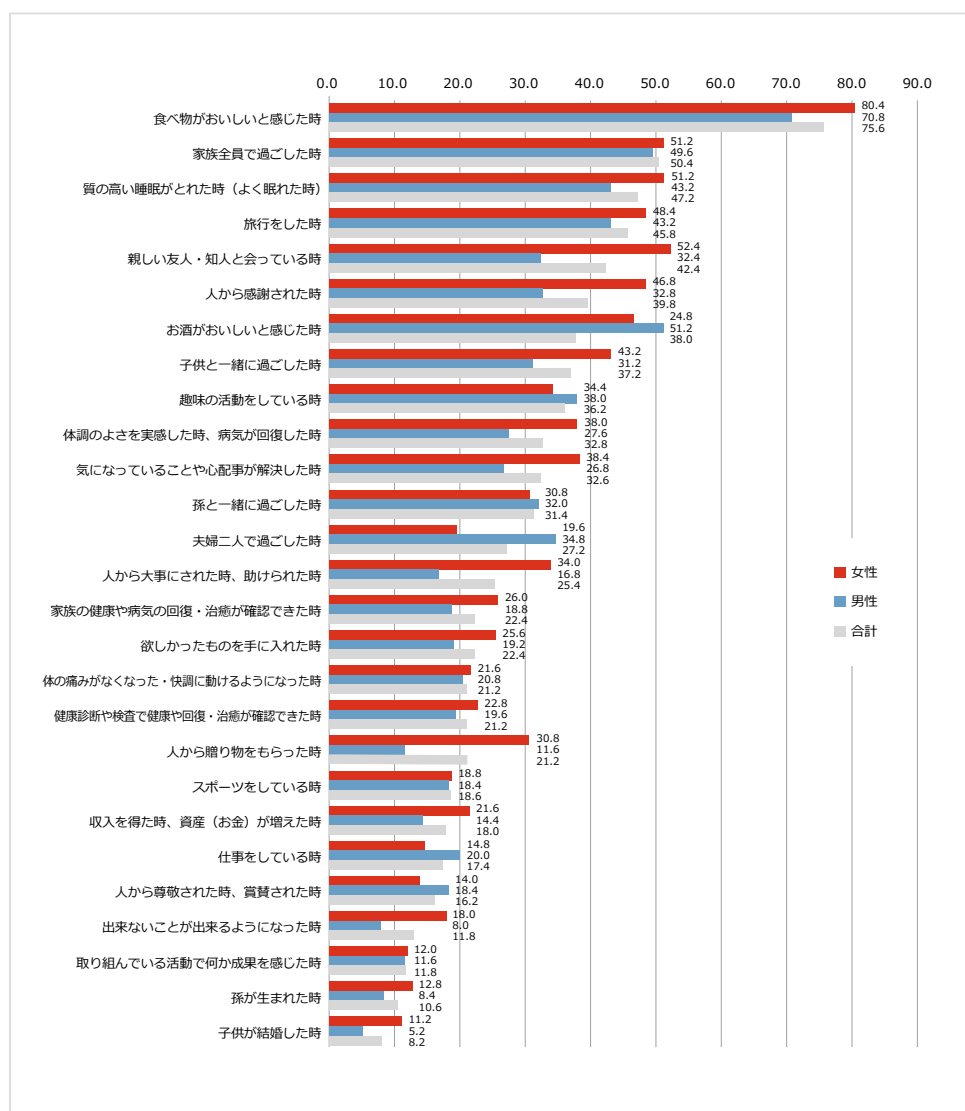
〈幸せを感じたとき（図表 7 参照）〉

この 1 年間で幸せを感じた時と推測される事項をランダムに 40 項目提示し、該当する項目を選んでもらった。本質問においては、世代的な違いよりも男女間の違いが特徴的であるので、図表 7 では合計（TOTAL）と男女に焦点を当てている。

「食べ物おいしいと感じたとき」が断トツで全体の 76% が回答している。次に「家族全員で過ごしたとき」（50%）、「ぐっすりと質の高い睡眠がとれたとき（よく眠れたとき）」（47%）と続く。これらは日常生活の中で感じられることに関する回答であるが、これ以降はよりアクティブなシーンがランキングされている。「旅行をしたとき」（46%）、「親しい友人・知人と会っているとき」（42%）、「趣味の活動をしているとき」（36%）などである。また、「人から感謝されたとき」（40%）といった自己肯定感に繋がる項目が高い位置にあることはホッとさせられる結果である。

男女とも全世代で「食べ物おいしいと感じたとき」がトップとなっているが、次点以下をみると、男性は「家族全員で過ごしたとき」「お酒がおいしいと感じたとき」、さらに「質の高い睡眠がとれたとき」がくる。つまり、自分を中心とした行動に幸せを見出している。一方、女性は、家族・子供と一緒に過ごした、あるいはよい睡眠が得られたときも幸せを感じているが、「旅行をしたとき」「親しい友人・知人と会っているとき」「人から感謝されたとき」など、男性に比べて対人的な行動により幸せを得ていることがわかる。

図表 7 幸せを感じたとき（男女比較）（%）



〈着るもの・ファッションについて〉 ファッションに関連する37項目の質問に各自が該当するか否かを答えてもらった。全体で見ると「自分が着るものは自分が選んで買っている」が67%と圧倒的で、2位以下の選択肢はいずれも40%以下となっている。また、「服は軽いもの、疲れないものを選んで」「保温など、服は機能性に優れたものを選ぶ」など機能を重視する項目は性別を問わず年齢が上の方が高くなる。

しかし、男性は世代を問わず「自分の着るものにこだわりはない」や「着るものにお金はかけない」が50%前後と、約半分の男性がそのように思っているのは少しさびしい。その一方で女性は、世代ごとに拘りをみせている。「その時の気分に応じて着るものの色柄を変えている」は年齢が上がるに連れてスコアが高くなっていき、また「TPOを心がけて着るものや持ち物を選ぶ」は男性と比較しても各世代で高い。

〈「食」について（図表8参照）〉

「食」に関する事項を、①食事について、②食材の選択や購入について、③加工食品・メニューについて…など、カテゴリーごとに複数の質問を用意し、各自に該当するか否かを答えてもらった。まず、食事回数は男女・世代に関わらず「食事は朝・昼・晩と一日3回食べている」（合計で78%）。また、心がけとして「夕食は必ず食べるようにしている」（同78%）、「朝食は必ず食べるようにしている」（同75%）とどちらも高いが、男女を比較すると女性は一日3食を励行し、朝食・夕食共に必ず食べるという意識が高い。男性は次世代高齢者層において朝食を軽視する傾向が高い。夕食に関しては次世代高齢者層、高齢者層ともに大きな差はない。また、「1日に1回はお米を食べている」は全体で80%を超え、総じて高いが、男性は75%前後、女性は各80%を超えている。食材に対する拘りが女性のほうが高いのは、「料理をつくるのが好き」について男女間で大きな差異があることとも関係がありそうだ。

図表8 食に関して（%） ※抜粋

	食事は朝・昼・晩と1日3回食べている	夕食は必ず食べるようにしている	朝食は必ず食べるようにしている	食材や加工食品は生産地等がわかるものを買う	旬の食材、季節の食材を買うようにしている	添加物がない・少ないものを買うようにしている	1日に1回はお米を食べている	料理を作るのが好き
次世代高齢者／男	63.0	76.0	58.0	31.0	20.0	22.0	74.0	25.0
次世代高齢者／女	73.0	77.0	80.0	55.0	61.0	46.0	81.0	40.0
高齢者／男	85.0	76.0	74.0	44.0	44.0	39.0	78.0	13.0
高齢者／女	88.0	86.0	83.0	69.0	64.0	62.0	85.0	51.0

〈夕食のとり方〉 ふだんの夕食のとりかたを「一人で」「家族と一緒に」「友人や同僚と」、それぞれどれくらいの割合かを回答してもらった。男性は年齢上昇に伴い、「家族と一緒に」が増えていく、高齢者層は約80%である。女性は年代ごとのばらつきはあるものの概ね「家族と一緒に」が70%台であるが、高齢者層は60%台に低下する。これは、配偶者との死別といったことの影響があると思われる。

〈自宅で料理をする頻度〉 女性は世代を問わず概ね80%前後が「ほとんど毎日」料理をしている。一方、男性は高齢者層で約10%、次世代高齢者層では約5%に過ぎない。

〈お酒について〉 自宅で「ほとんど毎日」お酒を飲んでいる人は、男性は年代に関係なく 40%前後。女性は 10%前後である。「全く飲まない」男性は、次世代高齢者層は 21%、高齢者層は 35%と加齢によって増加傾向があるように思えるが、「ほとんど毎日」飲む人の構成比は減少しておらず、つまり、中間的な頻度の人が減り、ほとんど毎日飲む人は変わらないという二極化傾向と考えられる。

女性は、もともと「ほとんど毎日飲む」の割合が 10%前後と少なく、男性同様に「全く飲まない」という構成比は次世代高齢者層が 41%、そして高齢者層が 56%と加齢によって増加する傾向にある。

また、お酒に対する意識・態度としては、男性は「お酒を飲むのが好き」と回答している人は 57%で、女性は 27%である。女性は年齢による差異は少ないが、男性の場合、次世代高齢者層では「お酒は食事中に飲むことがほとんどである」が 47%であるが、高齢者層になるとその割合は 30%に縮小する。歳をとると、食事と一緒にお酒を飲むといったスタイルは後退するようである。また、男性の場合、次世代高齢者層では「お酒はストレス解消や癒しになる」が 40%と高い（男性の高齢者層は 18%、女性も 20%以下である）。

〈食品の買い物（図表 9 参照）〉 食品の買い物に限定して、関連する 15 個の項目に関して該当するものを選択してもらった。「スーパー（スーパーマーケット）や CVS（コンビニエンスストア）や DS（ドラッグストア）を使い分けしている」は男女共に世代を問わず高い。特に女性は各世代 70%弱の高さである。

男性は「スーパーに夫婦や家族で買い物に行くのは楽しい」と世代を問わず感じており（34%）、女性の 2 倍近いスコアになっている（19%）。男性は自分では楽しいと思っても、配偶者や家族にとってはそれ程でもないということなのであろう。

次に、食品に限定したサービスに関して 17 個の項目を用意し選択してもらった。宅配サービスの利用は、男女を問わず「生協パルシステムを利用している」が最も多い（男性は世代ごとに 15%前後、女性は世代ごとにばらつきはあるが平均で 24%）。「アマゾンなどの大規模ネット系通販を利用している」は男女共に 10%に満たず、ネットリテラシーも影響しているものと考えられる。

食品や日用品の購入店について質問した。「食品スーパー」の利用は男女共に高いが、男女の差は約 20%と大きい。男性はコンビニエンスストアが高く、女性は「総合スーパー」「ドラッグストア」が続く。

図表 9 食品の買い物（%） ※抜粋

	「食品の買い物」について			「食品の宅配サービス」について			食品や日用品の購入店			
	スーパーや CVS アや DS を使い分けしている	スーパーに夫婦や家族で買い物に行くのは楽しい	スーパーや CVS など複数の店舗を見て回ることが楽しい	生協パルシステムを利用している	重いものを購入する時に利用することが多い	アマゾンなどの大規模ネット系通販を利用している	食品スーパー	コンビニエンスストア	（食品・衣料・雑貨等）総合スーパー	ドラッグストア
次世代高齢者／男	33.0	37.0	18.0	16.0	7.0	9.0	57.0	69.0	31.0	31.0
次世代高齢者／女	68.0	23.0	24.0	35.0	22.0	8.0	82.0	52.0	60.0	54.0
高齢者／男	38.0	29.0	13.0	13.0	8.0	3.0	64.0	42.0	46.0	20.0
高齢者／女	67.0	10.0	25.0	18.0	8.0	5.0	82.0	38.0	54.0	44.0

3.3 仕事

〈収入を伴う仕事の種類・就業形態（図表 10 参照）〉 収入を伴う仕事をしている人は、男性の調査対象 250 人に対して 66%の 206 人、女性は 53%の 132 人。次世代高齢者層では男性の 98%、ほぼ全員が仕事をしており、女性も 77%が収入を得る仕事に就いている。

高齢者層の男性は、約半数が仕事をしていないが、仕事をしている中においては商工・サービス自営業が、定年というタイミングがないためか、その比率が高い。女性においても 70%が仕事をしていないと回答している。

就業形態に関しては、次世代高齢者層・高齢者層ともに、女性においては「パート・アルバイト」の構成比が高い。また、高齢者層の女性においては役員や個人事業主が比較的多いのは、個人経営の会社に配偶者とともに参加、もしくは配偶者が引退（死別も含め）といったことの影響も想定される。

図表 10 仕事の種類と就業形態の現状（％）

	現在している収入をとまなう仕事の種類								就業形態				
	調査数	事務系従事者	技術系従事者	サービス系従事者	労務系従事者	管理職・役員	商工・サービス業自営	収入をとまなう仕事はしていない	回答対象者数	正規社員（総合職）	（一般職、専門職） 正規社員	パート・アルバイト	役員・経営者・個人事業主
次世代高齢者／男	100	25.0	12.0	6.0	23.0	23.0	9.0	2.0	98	34.7	36.7	1.0	21.4
次世代高齢者／女	100	22.0	2.0	29.0	16.0	2.0	6.0	23.0	77	-	10.4	71.4	9.1
高齢者／男	100	8.0	1.0	2.0	15.0	4.0	22.0	47.0	53	3.8	5.7	22.6	50.9
高齢者／女	100	3.0	1.0	10.0	10.0	-	6.0	70.0	30	3.3	3.3	66.7	23.3

〈**仕事場所**〉 次世代高齢者層においては、男女ともに「自宅外」が80%台後半の割合となっている。一方、高齢者層は60%台となり、高齢者層で仕事を持つ人における自営業、個人事業主の割合が増加することを反映した結果となっている。

〈**労働日数 / 週・労働時間 / 日**〉 次世代高齢者層の男性では、週5日で1日8時間が約80%となる。次世代高齢者層の女性と高齢者層の男女においては、約40%から60%と減少する。（対象は仕事をしている人）。

〈**今後したい仕事の仕方 / 職種・日数・時間**〉 今後したい仕事の仕方や仕事先について、「わからない」も含めて13の選択肢を用意し回答してもらった。『現在の勤務先で働く』という回答が、次世代高齢者層・高齢者層の男女ともに、ほぼ半数以上を占める。ただ、内訳に若干の違いがあり、次世代高齢者層の男性は「勤務先の定年まで働く」という回答が多くを占め、次世代高齢者層の女性や高齢者層の男女においては「勤務先で出来るだけ働く」という回答が多くを占める。つまり、次世代高齢者層の男性は会社のルールに従う（見方を変えると雇用が安定している）という意識が強く、他は安定しない雇用という状況も含め、出来るだけ長く働くという意識が強いことが推察される。

労働日数や時間について、今後どうしたいかということについても回答を得ている。興味深いことに、次世代高齢者層・高齢者層ともに、現行の働く時間と日数とほとんど差異がないという結果であった。つまり、51歳を過ぎて働いている人は、その働き方のスタイル（日数、時間）において、理想的なものを既に獲得しているのかもしれない。今後もこのスタイルを持続したいということに包含される意味は、収入面経済面のみならず、生活スタイル、社会との交わりなど、老後の重要な要素であることは間違いない。

〈**定年制度**〉 定年制度の有無についての質問では「ある」と答えたのは次世代高齢者層の男性で約70%、女性で約50%、高齢者層は男女ともに20%前後である。この質問は現在仕事をしている人を対象としており、パートやアルバイト、また自営業の比率が高くなる高齢者層は定年制度を意識することが少ないということが比率に直結している。

〈**収入を伴う仕事をしていない理由・1週間の過ごし方**〉 次世代高齢者層の男性は本質問には該当しない。次世代高齢者層の女性、高齢者層の女性においては「専業主婦だから」という理由がほとんどを占めている。専業主婦という役割をしっかりと果たしているという自負が感じられる。

高齢者層の男性で仕事をしていない理由は「仕事をする必要がない・するつもりがない」が回答のほとんどである。高齢者層の女性においても「専業主婦だから」の次に「仕事をする必要がない・するつもりがない」が回答としてあがってくるが、年金収入があるという経済面の理由のみならず、配偶者との死別により専業主婦という形容をしなくなるという理由が背景としてあるようだ。

収入を伴う仕事をしていない人を対象に1週間の過ごし方について回答を求めた。男女ともに「曜日にかかわらず大体決めている」か「決めている曜日がある」が大半である（65%程度）。「すべての曜日でにだいたい決めている」「すべての曜日で計画を立てて決めている」人は10%以下でさほど多くはない。ほとんどが、週に数日の予定を入れて過ごしているということのようだ。

〈収入を伴う仕事をしたいか・何歳まで仕事をしたいか（図表 11 参照）〉 収入を伴う「仕事を続けたい」と思っている人は、男性では次世代高齢者の 99%。女性も 86%と就業意欲は非常に高い。高齢者層の男性は、55%、女性は 37%が「仕事を続けたい」と回答している。

これら次世代高齢者層男女、高齢者層男女の「仕事を続けたい」という数値は、現状仕事をしている人の構成比を数%下回るだけで、ほぼ同じである。つまり、次世代高齢者層においても高齢者層においても、現在仕事をしている人は今後も仕事を続けたいと回答しているということである。50 歳を超えて働く人は今後も働くことを是としているということに他ならない。

では、「何歳まで仕事をしたいか」に対する回答をみてみたい。「80 歳以上」という回答と「働ける限り働く」という回答を足しあげた数字をみると、次世代高齢者層は男性の約 30%、女性の約 40%がそう答えている。さらに高齢者層になると男女ともに 40%を上回っている。特に女性は 48.6%と半分に近い。仕事を続ける、働ける限り働くという意識は、仕事を続けている人ほど、その思いが強くなる傾向にある。仕事が生きがいといったことの表れかもしれない。

図表 11 今後収入をとまなう仕事をしたいのか、何歳まで仕事をしたいのか（%）

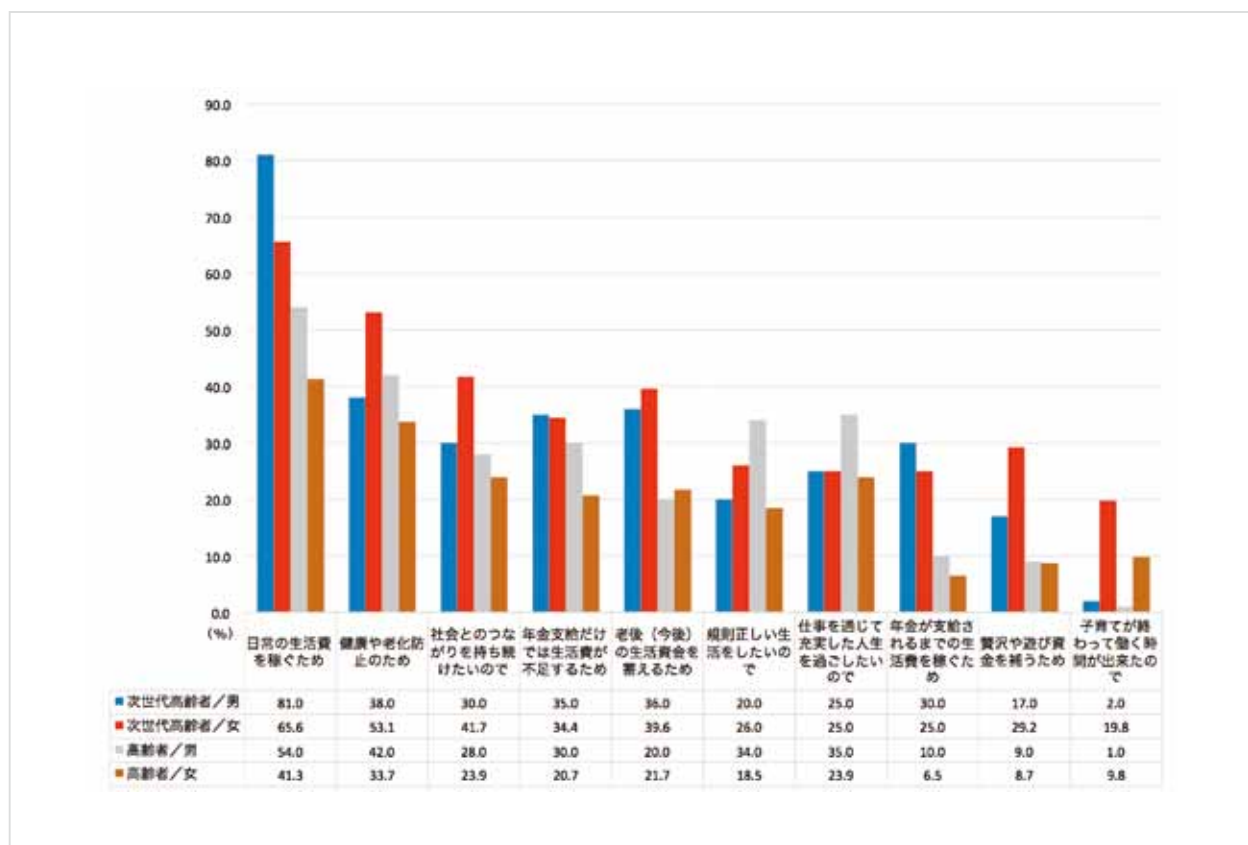
	今後収入をとまなう仕事をしたいか				何歳まで仕事をしたいか	
	調査数	今後も仕事を続ける	今後仕事をするつもりはない	今後も仕事をするつもりはない	※今後も仕事を続けると回答 回答対象者数	80 歳以上・働ける限り
次世代高齢者／男	100	99.0	1.0	-	99	30.3
次世代高齢者／女	100	86.0	10.0	4.0	86	39.5
高齢者／男	100	55.0	45.0	-	55	43.6
高齢者／女	100	37.0	55.0	8.0	37	48.6

〈仕事を続けたい理由（図表 12 参照）〉次世代高齢者層、高齢者層ともに「日常の生活費を稼ぐため」が最大の理由となっている。但し、回答のスコアには差があり、次世代高齢者層の男性 81.0%、同じく女性 65.6%、高齢者層の男性 54.0%、同じく女性 41.3%である。高齢者層のスコアが低く、理由が分散傾向にあると考えられる。

個々の特徴をみると、次世代高齢者層の男性はある意味リアリストで、「老後の生活資金」「年金では不十分」といった回答が目立つ。次世代高齢者層の女性は男性と同じ傾向も示しつつ、「健康や老化防止」「社会とのつながり」そして「贅沢や遊びの資金」といった回答が目立って高い。高齢者層の男性においては、「規則正しい生活」や「仕事を通じて充実した人生」といった回答が目立つ。これらは仕事があれば自分を見失いそうな感じさえる回答である。高齢者層の女性は特に特徴的な回答の高さはなく、分散している。

第一義的には「生活費を稼ぐ」ということであるが、実は 2 番目や 3 番目の理由の中に本当の気持ちも垣間見られるようだ。

図表 12 仕事を続けたい理由



〈今後したい仕事のタイプ〉 今後したい仕事のタイプでは、世代の違いはあまりなく、男性が「現在の経験や技能が活かせる仕事」が約 80%と圧倒的に多数派であるのに対して、女性は「現在の仕事の経験が活かせる仕事」が約 40%、「短時間の仕事」が約 40%と回答が二分される。

〈収入を伴う仕事をするために現在取り組んでいること〉 全体をみると「特にない」が 3分の 1を占めている。高齢者層を中心に次世代高齢者層にも多いのが、「健康維持、体力づくりに取り組んでいる」という回答。次世代高齢者層は加えて「仕事に必要な知見を広げるようにしている」「人脈を広げるようにしている」といった回答も目立つ。

3.4 家族・家庭

①同居・近居について

〈同居・近居している家族と同居・近居したい家族（図表 13 参照）〉 “現在の” 家族各人（配偶者、息子、娘、孫、自分の親・・・など）の居住状況について、特に「同居中」と「同居したい（続けたい）」とを比較したのが、図表 13 である。居住形態、家族形態であるから、基本的に同居中と同居したいとの間の差は小さい。ほぼ同じ数値である。やや差が大きいところの理由を探してみたい。

まず、「娘」「息子」であるが、これは早く独立してほしい、結婚してほしいといった気持ちの反映が同居意向を減少させている。この数値との関係で注目されるのは、「娘夫婦」「息子夫婦」との同居意向である。「娘夫婦」との同居意向は若干であるが同居中を上回るが「息子夫婦」は下回る。決して遠い過去ではないと思われるが、長男が家を継ぎ、長男の嫁は嫁ぎ先の親をみるといったことが一般的であったと思われる。逆に娘は相手先に嫁ぐので、家から離れるということが一般的であった。しかし、現実の意向においては、娘夫婦との同居を望み、息子夫婦の同居は望まない。時代は変わってきたのだろう。孫との同居については、高齢者層においては、スコアそのものは高い方であるが、同居中を同居意向が少し下回っている。孫との同居が幸せの象徴的に映った時代も去ったのかもしれない。磯野家（サザエさん）のように、加齢することがなければ孫もずっと可愛いのかもしれないのかもしれないが…。

図表 13 「現在同居している」・「引き続き or 今後、同居したい」人の比較（％）

	配偶者（夫・妻）		娘		息子		娘夫婦		息子夫婦		孫		配偶者の親		自分の親	
	同居中である	今後同居したい	同居中である	今後同居したい	同居中である	今後同居したい	同居中である	今後同居したい	同居中である	今後同居したい	同居中である	今後同居したい	同居中である	今後同居したい	同居中である	今後同居したい
次世代 高齢者／男	97.0	96.0	56.0	27.0	43.0	21.0	1.0	2.0	2.0	2.0	5.0	4.0	5.0	3.0	9.0	7.0
次世代 高齢者／女	87.0	86.0	59.0	34.0	38.0	27.0	1.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	10.0	4.0	4.0	3.0
高齢者／男	96.0	94.0	12.0	3.0	21.0	2.0	8.0	10.0	7.0	5.0	15.0	11.0	3.0	0.0	2.0	1.0
高齢者／女	68.0	66.0	10.0	5.0	21.0	6.0	12.0	17.0	5.0	2.0	16.0	13.0	0.0	0.0	2.0	1.0

〈同居ではなく近居したい理由〉 一方、同居より近居ということでは、男女各世代とも「いざというときお互いに助け合えるから」（70%）「同居より気楽だから」（61%）の二項目が上位。微妙に距離をおきつつ、いざと言うときに備える姿勢がうかがえる。

②介護について

自分、配偶者、親について、それぞれ介護が必要となった場合、どのような形態「在宅介護」「施設介護」での介護を望むかを質問した。かかる状況にならないと「わからない」という選択肢も用意した。

〈自分に介護が必要となった場合と配偶者や親に介護が必要になった場合（図表 14 参照）〉 先ず、「わからない」との答えが男性で 56%、女性が 46% で約半数を占めている。最も正直な答えなのかもしれない。

次いで注目されるのは、男性と女性の違いである。男性は親は「施設介護」、配偶者は「在宅介護」、自らに関しては「在宅介護」と「施設介護」で揺れている。つまり、配偶者に迷惑を掛けるという気持ちと、できれば自宅にいたいという気持ちで揺れていることが推察される。

一方、女性はどういうと、親も自分も「施設介護」。配偶者についてのみ、配偶者の気持ちを察してか、「施設介護」と「在宅介護」のスコアが比較的拮抗している。しかし、やはり「施設介護」が上回る。女性は介護の大変さを十分に認識しているのかもしれない、つまりリアリストであり、男性はどこかに願

望というか、現実的ではない、無理が生じる解を求めているのかもしれない。老後を生きていくうえで、重要な違いなのかもしれない。

図表 14 介護対象者別に「在宅介護」「施設介護」どちらを選ぶか（％）

	自分の場合		配偶者の場合		親の場合	
	在宅介護	施設介護	在宅介護	施設介護	在宅介護	施設介護
次世代高齢者／男	18.0	21.0	32.0	17.0	16.0	43.0
次世代高齢者／女	14.0	47.0	25.0	30.0	18.0	48.0
高齢者／男	26.0	24.0	36.0	22.0	18.0	34.0
高齢者／女	19.0	30.0	21.0	31.0	13.0	28.0

③外出時に行動をともにすることが多い家族

〈誰と出かけることが多いのか（図表 15 参照）〉この質問は単に外出時のパートナー選びではなく、家族関係を感じさせるものである。明らかに娘は精神的な距離が近く、息子は遠い。本人が男性であっても、次世代高齢者層も高齢者層も娘との距離が近い。男は「親とベタベタしない」と強気な見方もできるが、結果的に老後生活において男性の孤立化といったことと無関係ではないと思われる。

図表 15 外出時に行動をともにすることが多い家族（抜粋）（％）

	娘	息子	孫	兄弟姉妹
次世代高齢者／男	35.0	22.0	8.0	-
次世代高齢者／女	62.0	27.0	2.0	16.0
高齢者／男	25.0	11.0	20.0	2.0
高齢者／女	52.0	21.0	26.0	11.0

※配偶者は質問選択肢に含まれず

④家事について

〈好きな家事&家事をする頻度（図表 16 参照）〉 所謂“家事”と呼ばれるどの家庭でも行われているであろう炊事・洗濯・買い物・掃除・片付け・ごみだしから、ペットを飼っていることが条件になる「ペットの散歩・えさやり」、基本的に一戸建て居住が前提となる「庭や家の周りの手入れ」まで、好きであるかどうかと、その実施頻度を質問した。男性は買い物と庭の手入れこそ、好きだと答える人が20%を上回っているが、他はすべて10%台と低いスコアである。

家事をする頻度に至っては、これは取り上げた8つの項目すべてで女性のスコアを下回る。昨今、男性の家事への参加、役割分担がよく話題になるが、現実はまだまだである。女性にとっては日々の家事であるが、男性にとっては週末型、週に一度のイベントというのが実態のようである。

図表 16 好きな家事と1週間当たりの平均実施回数（男女比較）



⑤結婚について

〈結婚意向〉 全体500名のうち現在独身（離死別者も含む）である、男性10名、女性56名の結婚意向を問うた。すると、男性は10名中2名に結婚意向がみられるが、女性56名の結婚意向は皆無であった。但し、「どちらとも言えない」が全体の50%存在しているという事実もある。恐らく現実のこととして考えていないのではないかと推察される。

〈結婚したくない理由〉 結婚したくない理由は「一人のほうが気楽でよい」（71%）が断トツ、続いて「以前に結婚したことがあるので」（36%）、「自分のやりたいことがあるので束縛されない生活がしたいので」（32%）、「以前の配偶者の思い出があるので」（29%）と続く。“自由”と“思い出”がキーワードのようである。

⑥夫婦について

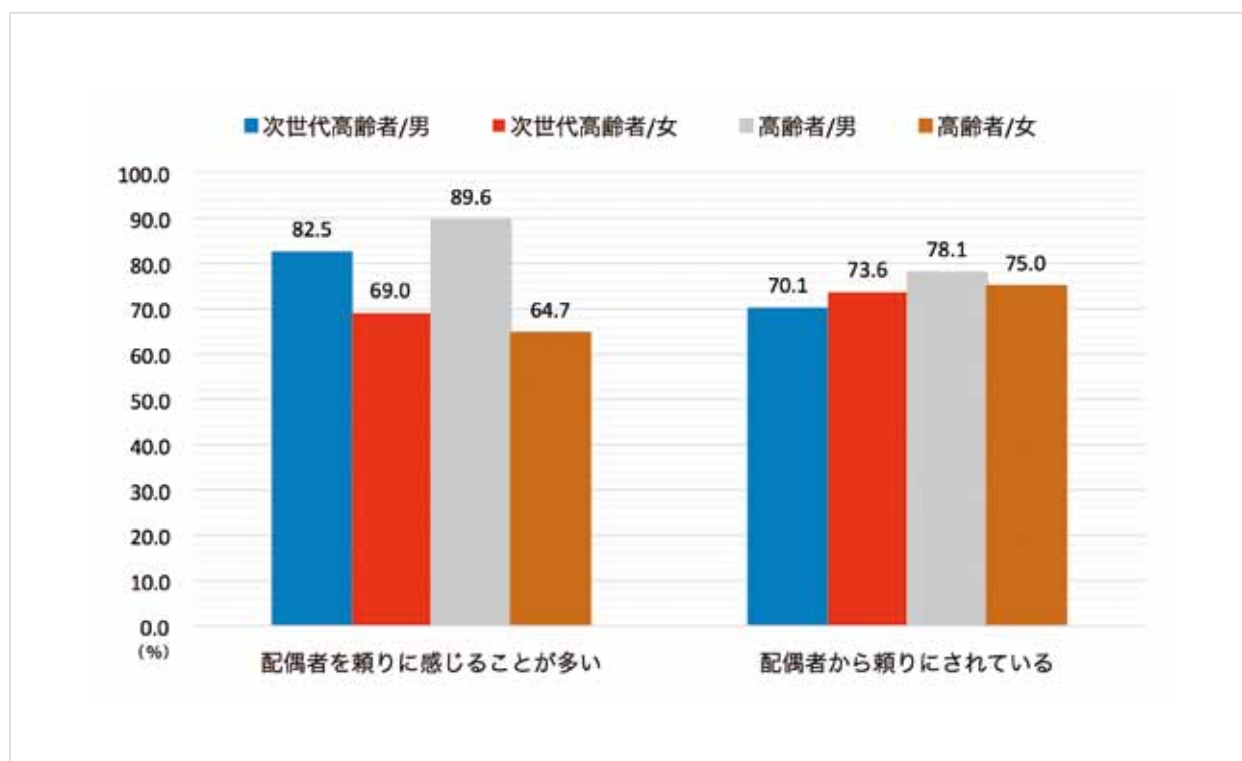
〈配偶者を頼りに感じているのか（図表 17 参照）〉 配偶者がいる人434人（男性240名、女性194名）に「配偶者を頼りに感じているか」を3段階で聞いた。全体で「頼りに感じることが多い」が77%で圧倒的に多く、「どちらともいえない」（16%）、「頼りに感じないことが多い」（7%）と続く。

男女別に見ると、“配偶者を頼りに感じている”のは女性ではなく男性であるというのが次世代高齢者層、高齢者層ともに共通している。男性は80%を超えて配偶者を頼りに思う、ところが女性は60%台に留まる。

更に興味深い事実がある。男性は配偶者を「頼りにしている」のスコアが、配偶者から「頼りにされ

ている」のスコアを上回り（次世代高齢者層 82.5% > 70.1%・高齢者層 89.6% > 78.1%）、その一方で女性は配偶者を「頼りにしている」のスコアが、配偶者から「頼りにされている」のスコアを下回っている（次世代高齢者層 69.0% < 73.6%・高齢者層 64.7% < 75.0%）。これは『夫は妻を頼りにし、妻は夫を頼りにしない』という現実を夫婦ともに冷静に認識しているということである。

図表 17 配偶者を頼りにし、頼られる関係



〈夫婦で一緒に外出するのか〉 夫婦で一緒に外出する頻度を「よくある」「ときどきある」「あまりない」「ない」の4段階で質問した。全体434人でみると全体の40%が「よくある」、35%が「ときどきある」と回答しているが、男女差がある。「よくある」は男性45%、女性34%で10ポイント以上の差で、男性は女性より夫婦で外出することが多いと感じているようである。

〈夫婦共通の趣味や楽しみ〉 夫婦共通の趣味や楽しみがあるか否かについて「いくつかある」「ひとつだけある」「特にない」の3段階で聞いてみた。全体434人のうち、「いくつかある」が約30%、「ひとつだけある」が約20%、「特にない」が約50%であり、男女ほぼ同傾向である。

〈夫婦共通の友人〉 夫婦共通の友人の有無を「いる」「いない」で聞いてみた。全体434人では「いる」「いない」それぞれ半々の結果となった。性別・年代別に見ると、61歳～65歳の年代が男女とも転機であるようで、夫婦共通の友人が増えている。ただ、男性は横ばいしないし、やや減少であるのに対し、女性は増加を続けるという傾向がある。

〈夫婦での家事分担〉 夫婦での家事の分担を「家事はすべて（ほとんど）妻」「家事はすべて（ほとんど）夫」「家事の内容で役割を分担」「状況に応じて役割を分担」「曜日や時間帯により分担」の5つの選択肢から選んでもらった。全体434人でみると男女の回答はほぼ一致しており、「家事はすべて（ほとんど）妻」との答えが約60%である。年代別に見ると男女とも「家事はすべて（ほとんど）妻」が最も高いのは51～55歳で約70%。フルタイムで就業中の男性が多いということが影響していると思われる。

〈夫婦での会話（図表 18 参照）〉 夫婦間での会話の量を 3 段階で聞いている。世代の差よりも男女の差が出ている。男性は「会話量が多いと思う」が「会話量が少ないと思う」を 20%以上、上回る（次世代高齢者層 49.5% vs26.8%・高齢者層 58.3%vs22.9%）。ところが女性は僅差である（次世代高齢者層 42.5% vs39.1%・高齢者層 41.2%vs38.2%）。夫婦での外出に関する質問の際も、男女差がみられたが、ここでも同様の差が存在している。

「会話量が増えている」「会話量が減っている」という認識に関しても、約 70%が「変わらない」ということであるが、増減を比べると男性は増えている方が多く、女性は減っている方が多い。

図表 18 夫婦での会話の量とその増減（%）



〈これから先の生活について夫婦間で話し合うこと〉これから先の生活について夫婦間で話し合うことがあるか否かについても 4 段階で聞いている。男女差はなく、全体では「よくある」約 10%、「たまにある」約 50%、「あまりない」約 30%、「ほとんどない」約 10%である。世代的には、次世代高齢者層が「よくある」10%弱、「たまにある」40%弱であり、高齢者層では「よくある」10%強、「たまにある」50%強と、やはり、高齢者層で話し合うことが増加するようである。

⑦家族に関する悩みや心配事

〈健康や病気のことが気になる（図表 19 参照）〉 家族に関する悩みや心配事に関して 23 個の選択肢の中から答えてもらった。全体的に見ると健康や病気に関する項目が上位にくる。他には「自分の世帯の収入のこと」、子供に関すること（子供の結婚、家庭、教育・・・）が続く。

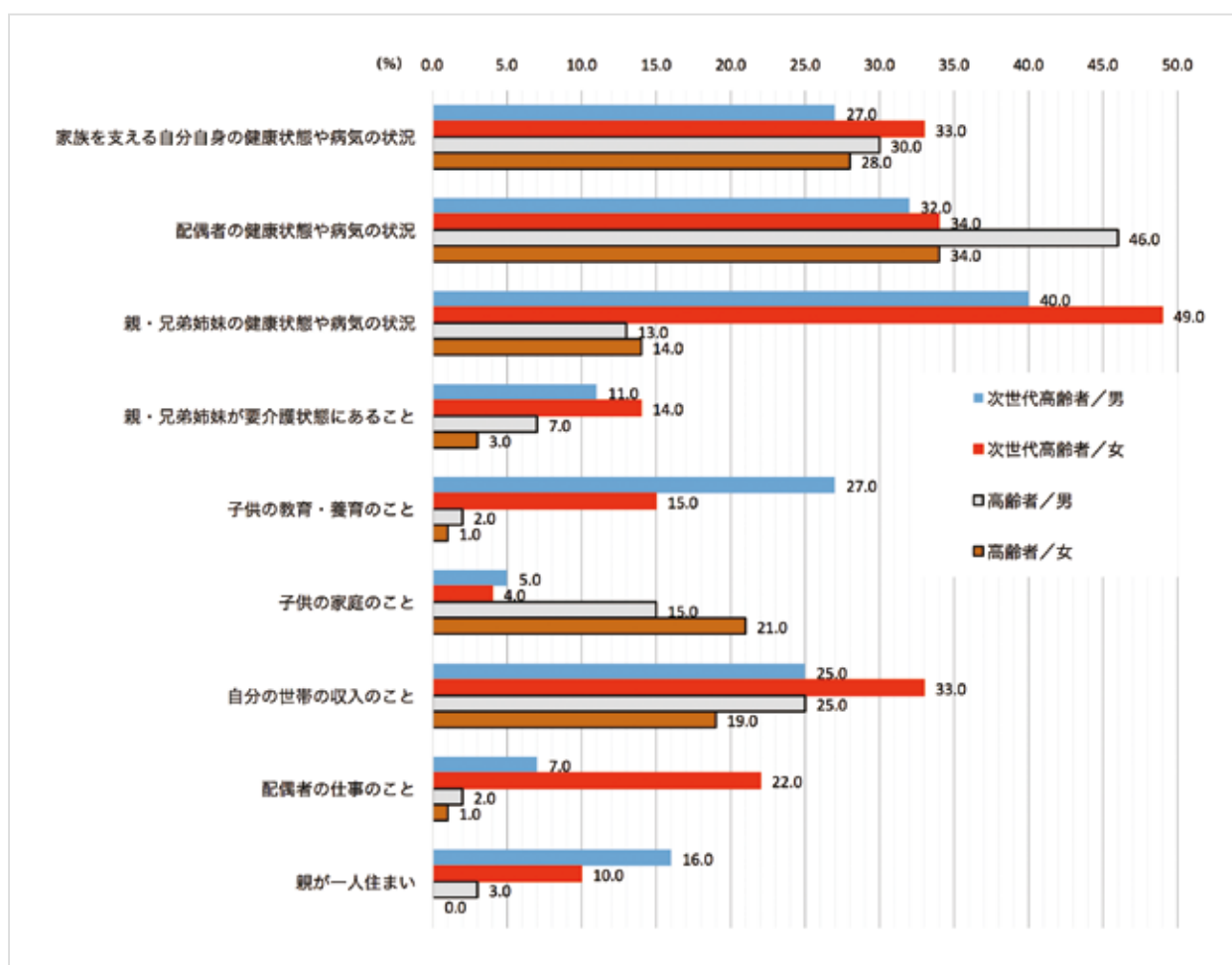
特徴的なこととして、自分自身の健康状態に関しては、次世代高齢者層・高齢者層の男女ともに約 30%

と差異はないが、配偶者の健康となると高齢者層の男性は10ポイント以上他よりも高い。優しさというより、頼りにしていることの表れであろう。

他には、親が健在である可能性が高い次世代高齢者層において、親の健康状態や1人住まいであることを心配し、その一方で子どもの教育についても心配する。

また、収入や仕事については、自分の世帯の収入のことを心配する人は、男性は世代の違いがなく、女性は次世代高齢者層は33%と高く、高齢者層は19%と低い。「配偶者の仕事のこと」という項目で次世代高齢者層の女性が22%と突出しており、次世代高齢者にとって、男性の仕事の行方が大きな心配事になりえることを示唆するものである。

図表 19 家族に関する悩みや心配事（抜粋）



3.5 人付き合い

①友人（グループ）について

〈ふだん付き合っている友人（グループ）・最も大切な友人（グループ）（図表 20 参照）〉

友人との関係性は言うまでもなく重要なポイントである。性別、世代別にも特徴的なことが読み取れる結果となった。

まず男女差で注目されるのが、「子どもを通じて知り合った友人」である。圧倒的に女性優位である。特に子育て期を終えて間もない、次世代高齢者層の女性は、ふだん付き合っている友人として 80%が挙げ、その約半数である 36.5%が最も大切な友人として挙げている。子育ての時間を共有した仲間は生涯の友人と言えそうだ。男性においては、子どもを通じて知り合った友人が実質的にないに等しい。育児参加が叫ばれているが果たして男性のスコアが上昇するかは注目したいところでもある。

次に「職場関係・仕事関係の友人」である。付き合っている友人・最も大切な友人、各々の合計数値は最も高い。生きる上で拘束される時間が長く、家族関係や日々の生活を方向付けるのが『職場関係・仕事関係』とも言えよう。高齢者層の男性は次世代高齢者層より、付き合っている人としての割合は低い、逆に今も尚付き合っている友人であるが故に、最も大切な友人であるとする比率が最も高い。

次に、小・中・高・大といった学生時代の友人について考えたい。付き合っている友人の比率は進学率の問題も考慮すると大きな差はないが、最も大切な友人となると次世代高齢者層は学生時代の友人の比率が高い。逆に「職場関係・仕事関係の友人」は次世代高齢者層と高齢者層を比較すると、最も大切な友人は高齢者層の方が多い。これだけでは、世代特徴と言い切れないと思うが、次世代高齢者層が学生時代の友人、高齢者層は一緒に働く仲間（働いた仲間）といった傾向があるかもしれない。

高齢者層は「地域・地元のお付き合いで知り合った友人」「趣味や習い事、スポーツ等を通じて知り合った友人」との付き合いもあり、最も大切な友人も多い。この点については、次世代高齢者層が仕事との関係性が薄れた時にどう変化するかである。人との交流を今に求める高齢者層と過去（学生時代）に求める次世代高齢者層、環境変化によってどう変わるのか、変わらないのか実に興味深い。

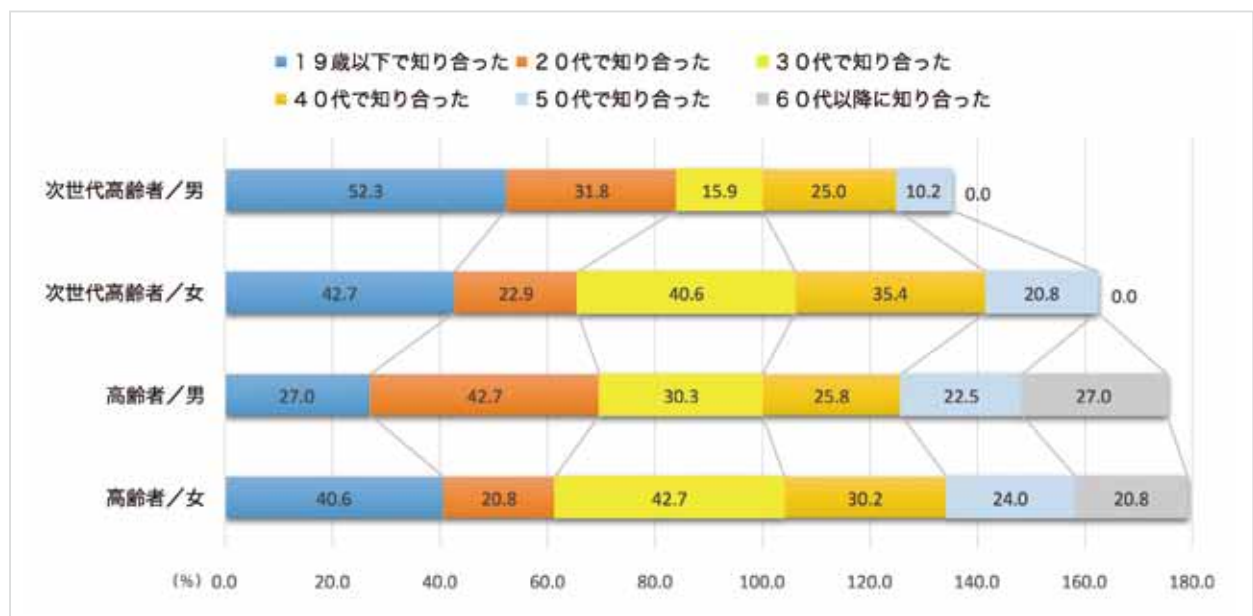
図表 20 付き合っている友人（左）＋最も大切な友人（右）（％）

	職場関係・仕事関係の友人		子供を通じて知り合った友人		地域・地元のお付き合いで知り合った友人		高校（高専・予備校含む）時代の友人		趣味や習い事、スポーツ等を通じて知り合った友人		小・中学校時代の友人		大学・大学院時代の友人		家族や親戚を通じて知り合った友人		ボランティアや社会活動で知り合った友人	
次世代高齢者/男	73.0	24.4	18.0	3.3	22.0	5.6	37.0	18.9	26.0	7.8	27.0	17.8	29.0	13.3	13.0	3.3	5.0	0.0
次世代高齢者/女	68.0	13.5	80.0	36.5	39.0	4.2	46.0	13.5	33.0	6.3	33.0	10.4	21.0	10.4	16.0	2.1	11.0	1.0
高齢者/男	65.0	32.6	13.0	2.2	43.0	21.3	27.0	6.7	35.0	14.6	30.0	7.9	26.0	5.6	19.0	6.7	11.0	1.1
高齢者/女	49.0	18.8	51.0	16.7	58.0	20.8	36.0	12.5	49.0	13.5	31.0	6.3	14.0	4.2	21.0	3.1	19.0	0.0

※縦の 4 つの数字を比べて最も高いものはオレンジ色、次に高いものを黄色で網掛け

〈最も大切な友人（グループ）に出会った時期（図表 21 参照）〉 前述したように次世代高齢者層は学生時代の友人が最も大切な友人であるという傾向にある。その結果、出会った時期は男女ともに 19 歳以下の構成比が高い。更に女性においては、子供を通じて知り合うということが際立っていたので、30 代 40 代の構成比が高い。これは高齢者層の女性についても同様の傾向がみられる。また、高齢者層の男性は職場関係・仕事関係の友人の比率が高いため、20 代の若い頃の占める割合が大きい。高齢者層の 20 代は 60 年代から 70 年代にあたる。時代性の影響も無視できないと思われる。そして、高齢者層で注目されるのは、60 代以降に知り合った最も大切な友人の存在である。趣味や習いごと、スポーツ等といった今のネットワークにおいて、関係性が作られている。これは職場関係・仕事関係とは全く異なるプロセスであり、これが次世代高齢者層にも同様に起こりうるのか、更に大きなものとなるのか…、注目したいところである。

図表 21 最も大切な友人（グループ）に出会った時期



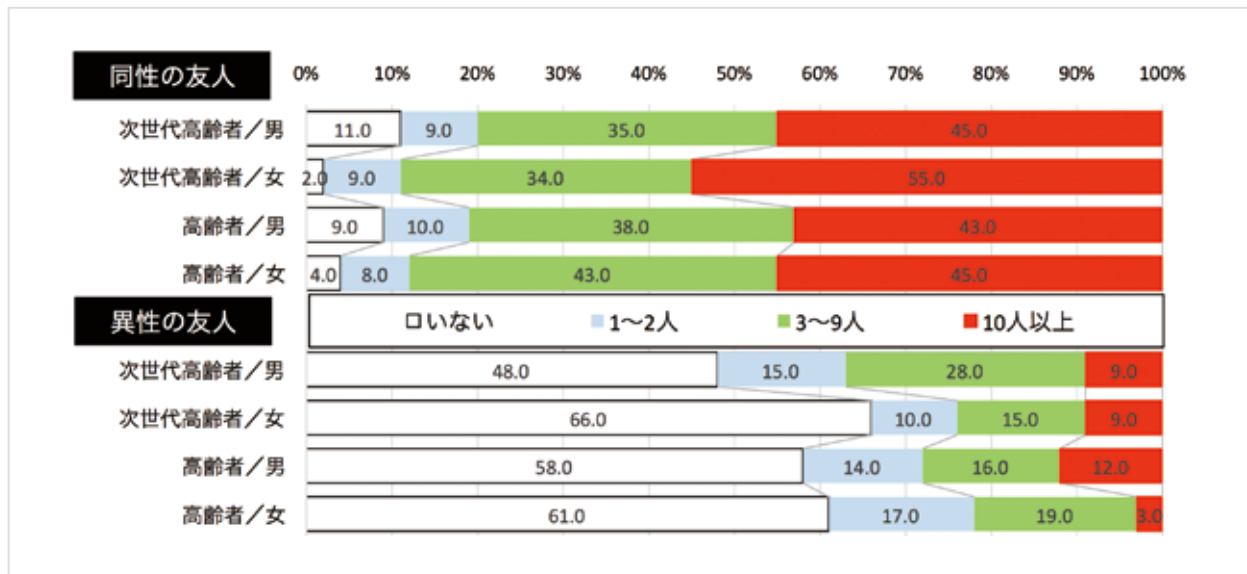
注：最も大切な友人にグループも含めたため、複数回答もあり、グラフ内の数値の合計は 100%ではない。

②友人・知人

〈親しい同性&異性の友人・知人の数（図表 22 参照）〉 男女において多少差はみられるが、世代間の差は特になく、同性の友人が多く、異性は少ないという結果であった。約半数が異性の友人がいないと回答している。今の 20 代 30 代が将来どうなるのか、全く違う様相を示す気がする。

少し気になるのは、男性は次世代高齢者層・高齢者層共通に約 10% が同性の友人がいないと回答している。友人・知人の定義の問題かもしれないが老後の生き方においては心配である。

図表 22 同性・異性の親しい友人・知人の数



〈どのような友人・知人なのか / 同性・異性〉 同性の親しい友人・知人は、男女差、世代差も特になく、ほぼ 90% 以上が同年代に集中している。特に女性は 97.1% が同年代である。

異性の親しい友人・知人は全体の 80% 弱が同年代であり、同性よりはスコアが低いが圧倒的である。

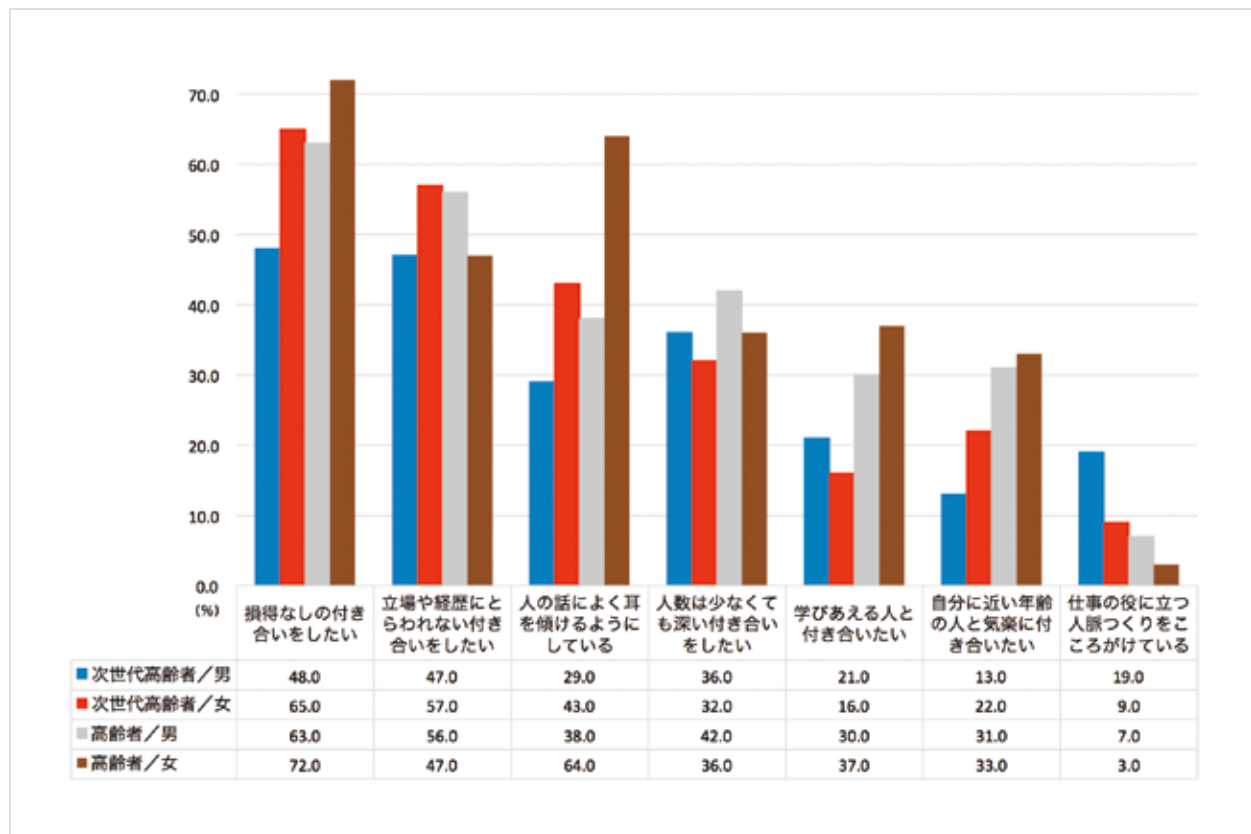
③人付き合いで心がけていること

〈損得なしの付き合いがしたい（図表 23 参照）〉

全体の回答で「損得なしの付き合いがしたい」が最も高く、男女別・世代別で見てもトップの回答となっている。次に「立場や経歴にとらわれない付き合いをしたい」も全体的に高く、これらが基本的な人付き合いの心がけとして普遍的なことかもしれない。

個々に特徴をみると、高齢者層の女性は、「人の話によく耳を傾けるようにしている」のスコアが高く、次世代高齢者層の女性も次いで高いということから、女性の人付き合いの特徴的なことかもしれない。他に高齢者層の特徴として、「学びあえる人と付き合いたい」といったことも注目される。次世代高齢者層の男性においては「仕事の役に立つ人脈づくりをころがけている」といったことが挙がっており、現実的な回答である。

図表 23 人付き合いで心がけていること



④ボランティア活動や地域の自治活動への参加

「ボランティア活動や地域の自治会への参加している人」は、全体及び男女別何れの回答も 30%前後と顕著な差はみられない。世代別にみても、次世代高齢者層を高齢者層が数%上回る程度と大きな差はない。

⑤同窓会やクラス会への参加

〈学生時代の同窓会やクラス会〉 1年以内に1回でも学生時代の同窓会やクラス会へ参加した人は、全体及び男女別何れの回答も約 30%で顕著な差はみられない。世代別にみると、高齢者層の男性を除くと全体平均と同様である。高齢者層の男性は、1年に4回～5回以上参加した人が7%程度（他は1～2%程度）と多く、この分がプラスされる形で1回以上が35%と高くなっている。

〈以前の勤務先や仕事仲間との同窓会や会食〉 1年以内に1回でも以前の勤務先や仕事仲間との同窓会や会食に参加した人は、全体で37%である。機会自体がなかった人が59%と最も多く、機会があったが参加していない人が4%である。高齢者層の男性は、46%が参加しており最もスコアが高い。次世代高齢者層は男性が39%、女性が34%であり、高齢者層の女性は73%が機会自体がなかったと回答しており、参加したのは25%に留まる。

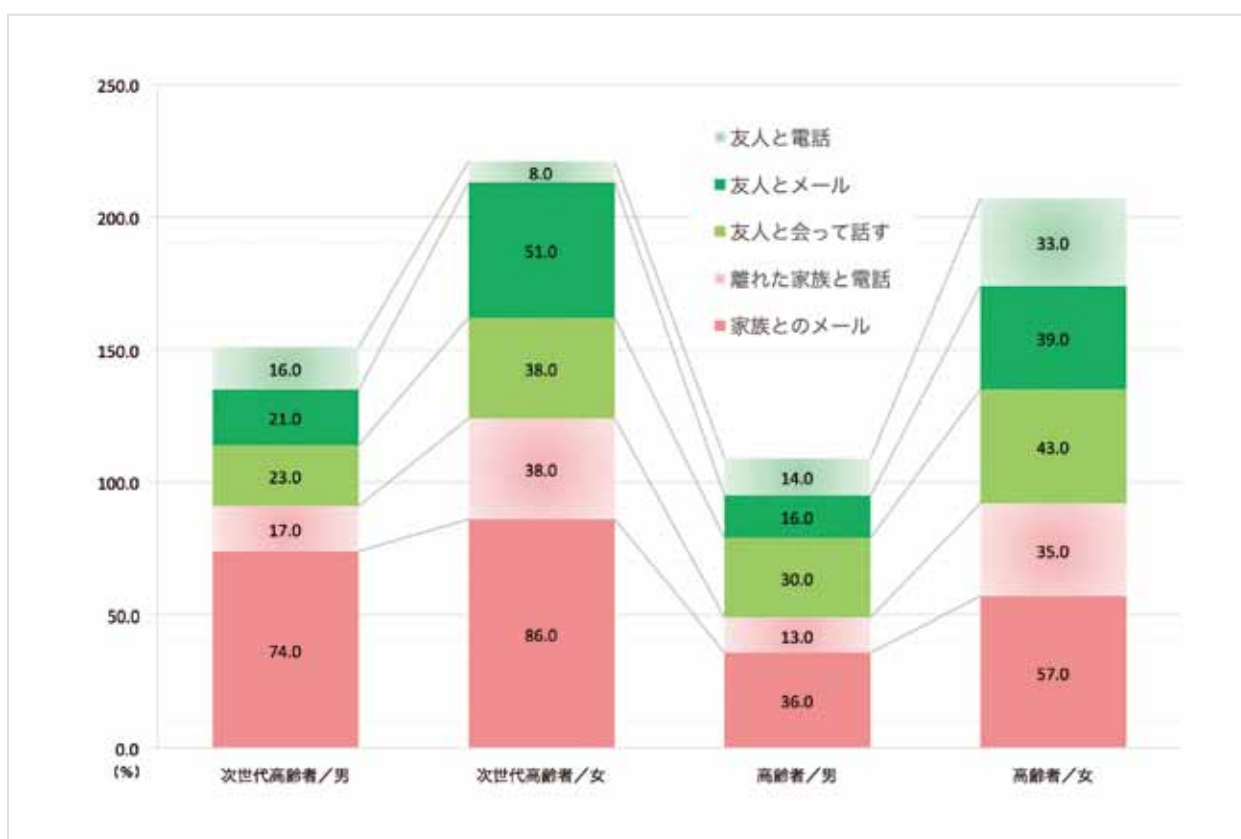
⑥コミュニケーション頻度

〈女性はコミュニケーション頻度が高い（図表 24 参照）〉

「週 1 日以上」行っているコミュニケーションについて選択肢を提示して回答を求めた。圧倒的であったのが「同居の家族との会話」であり、ほぼ 100%という結果が得られた。（図表 24 では差がないので除外した）「家族とのメール」のやり取りでは、次世代高齢者層のスコアが高齢者層を上回る。スマホなどを使いこなすというより、家族（夫婦）が別々にいて、連絡を取り合う必要があることが原因であろう。離れた家族と電話で実際に話すとなると、女性が男性を 20%以上の差をつけてスコアが高くなる。

次に友人とのコミュニケーションである。これも性別による差が大きい。直接会って話す、メールする、電話するとあるが、まさに女性は友人と繋がっている印象を受ける。次世代高齢者層の女性の電話のスコアが低いが、これは相手先が電話口にいることも求められるため、時間を合わせる手間を考えるとメールで代替しているのではと推察される。全体として言えることは、女性がマメにコミュニケーションをとっているということである。

図表 24 週 1 日以上的主要コミュニケーションの実施状況（抜粋）



3.6 楽しみ

〈楽しみを感じて現在行っていること（図表 25 参照）〉 趣味、スポーツ、コミュニケーション、学習、習い事…ジャンルにとらわれることなく多岐にわたる“楽しみ”を 47 の選択肢で提示し、現在行っていることを質問した。その結果、最も多い回答は①「家族との団楽」83%、以下②「テレビやラジオの視聴」75%、③「親しい友人や仲間との交際」71%、④「食べること・お酒を飲むこと（家・外食・食べ歩き・飲み会など）67%、⑤「新聞や雑誌を読む」62%、と続く。このように上位に挙がってくる項目は、趣味的性の高いものやスポーツではなく日常的な行動ばかりである。歳をとると普通であることが何

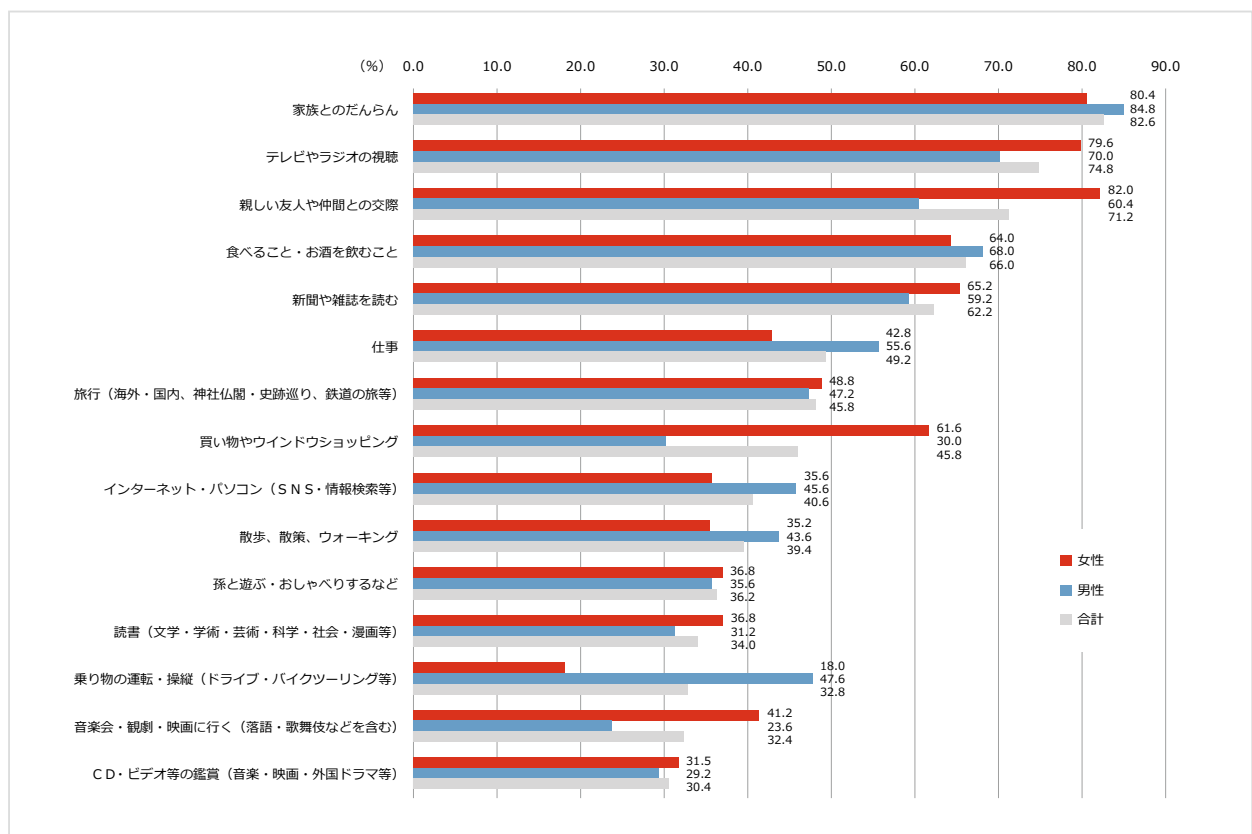
よりも楽しいことなのかもしれない。

6番目以降、30%以上の回答が得られた項目は、⑥「仕事」49%、⑦「旅行」（海外・国内・神社仏閣巡り・史跡巡り・鉄道の旅など）48%、⑧「買い物やウィンドウショッピング」46%、⑨「インターネット・パソコン（ツイッターなどのSNS・情報検索など）」41%、⑩「散歩・散策・ウォーキング」39%、⑪「孫と遊ぶ・おしゃべりする」36%、⑫「読書（文学・学術・芸術・科学・社会・漫画など）」34%、⑬「乗り物の運転・操縦（ドライブ・バイクツーリング・船舶操縦など）」33%、⑭「音楽会・観劇・映画に行く」32%、⑮「CD・ビデオなどの鑑賞（音楽・映画・外国ドラマ等）」30%と続く。

また、世代の違いは、大きな差には繋がっていない。例えば仕事を辞めているといった背景が分かりやすいものにおいて、いくつか世代差がみられる。男女差を見ると「仕事」「インターネット・パソコン」「乗り物の運転」は男性の方が高く、「買い物やウィンドウショッピング」「親しい友人仲間やとのく交際」「音楽会・観劇・映画に行く」は女性の方が高い。

最も注目されることは、「仕事」を楽しみを感じて現在行っているという人が約半数いるということである。次世代高齢者層、高齢者層の半数は「仕事」がなくなることで、大小の差こそあれ喪失感を感じるということである。

図表 25 楽しみを感じて現在行っていること※上位抜粋（性別）



〈以前行っていたが現在は行っていない楽しみ〉「登山・キャンプ・ハイキング・釣りなどのアウトドアレジャー」が22%で最も高く、「スキー・スノーボードなどのウィンタースポーツ」「スポーツ観戦に行く（野球・サッカー・相撲など）」と続き、加齢に伴いスポーツ離れが見受けられる。

〈今後行いたい楽しみ〉 以前行っていたことをもう一度始めたいという意向は少なく、現在の楽しみである「家族との団欒」「親しい友人や仲間との交際」「食べること・お酒を飲むこと」「テレビやラジオの視聴」「旅行」の継続を志向している。

〈最も大事にしたい楽しみ〉 最後に最も大事なことを一つだけ選んでもらった結果、①「家族との団欒」50%、②「親しい友人や仲間との交際」15%、③「孫と遊ぶ・おしゃべりするなど」7%という回答で、趣味やスポーツというコトではなく、「家族」や「友人」との人付き合いを重視している。その理由を聞いたところ、①「心が癒されるから・安らぎを得られるから」56%、②「普段の暮らしの中で気楽にできるから」53%、③「気分転換になるから」53%、④「家族や人との交流ができるから」51%と、日常生活における日々の精神的な充足感を得るための家族や友人との触れ合いを重視している。

3.7 健康

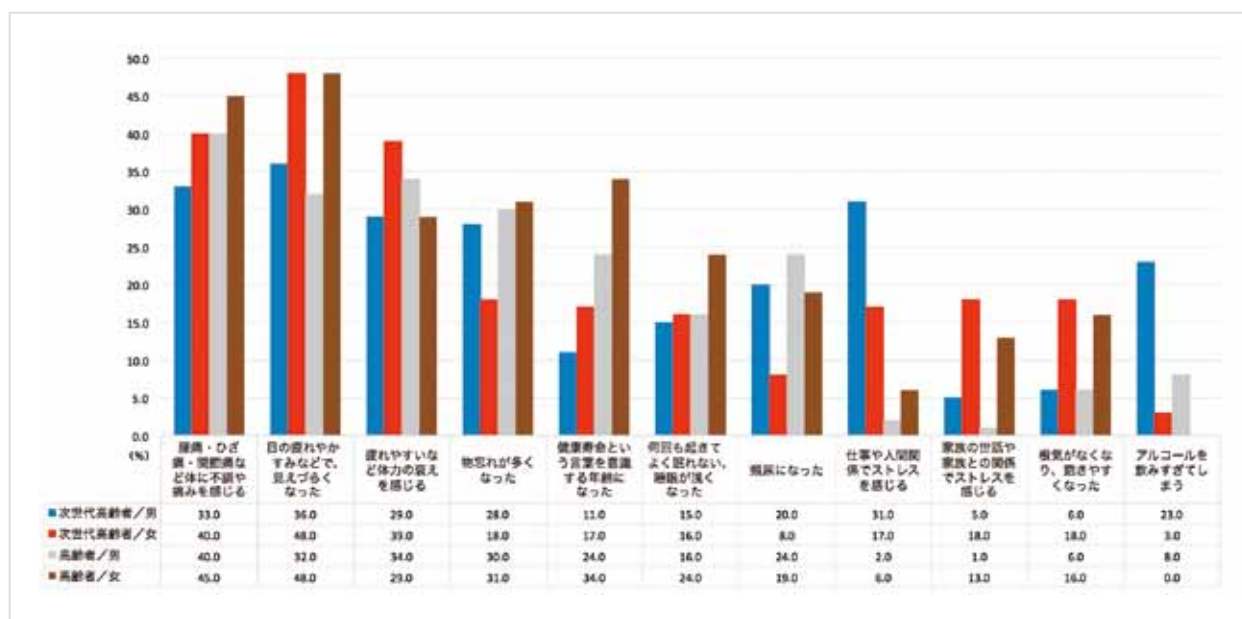
〈健康面からみてあてはまるもの〉 今回の調査被験者 500 人の健康状態であるが、全体の 59%が「生活するのに全く問題ない」人、次いで 28%が「たいした病気や障がいもなく、普通に生活している」人、12%が「日常生活はほぼ自分で行え、一人で外出できる」人であり、99%が健康にはほぼ問題がない人たちである。また 500 人中、要介護認定を受けている人は 5 名（1%）でいずれも「要支援」である。この被験者特性を前提として以下に「現在の健康状態」「自分の健康や病気で気がかりなこと」「健康維持・改善のために日頃やっていること」を以下にまとめる。

〈現在の健康状態〉 全体で「良い」15%、「まあ良い」23%、「ふつう」46%で、今回の調査対象者の 84%が健康面で問題はないと回答している。男女間で差異は見られないが、相対的に年齢が上がるほど健康状態は低下する傾向にある。

〈自分の健康や病気で気がかりなこと（図表 26 参照）〉 全体では「腰痛・ひざ痛・関節痛など体のあちこちに不調や痛みを感じること」が 41%で最も高く、「目の疲れやかすみなどで、見えづらくなったこと」「疲れやすいなど体力の衰えを感じること」がそれぞれ 30%台で続いている。

次世代高齢者層の男性においては、「仕事や人間関係でストレスを感じること」と「アルコールを飲みすぎてしまうこと」が想定内の結果としてはっきり出ている。女性においては、次世代高齢者層・高齢者層ともに、「家族の世話や家族との関係でストレスを感じること」「根気がなくなり、飽きやすくなったこと」といったメンタル面で気がかりなことが挙がっている。

図表 26 自分の健康や病気で気がかりなこと



〈健康維持・改善のために日頃やっていること〉「ウォーキングや散歩」38%、「規則正しい生活」36%、「栄養バランスのよい食事」33%、「体重計、血圧計などで数値を測定」31%、「塩分控えめな食事」30%が上位にあがっている。これらに共通しているのは、すべて高齢者層が次世代高齢者層のスコアを上回っており、男性は約 20%程度の差が有り、女性は「規則正しい生活」と「栄養バランスのよい食事」においては、5%の差であるがそれ以外は男性同様に約 20%の差がある。明らかに、健康維持や改善のための日常努力は高齢者層が実践しており、次世代高齢者層に差をつけている。

3.8 情報

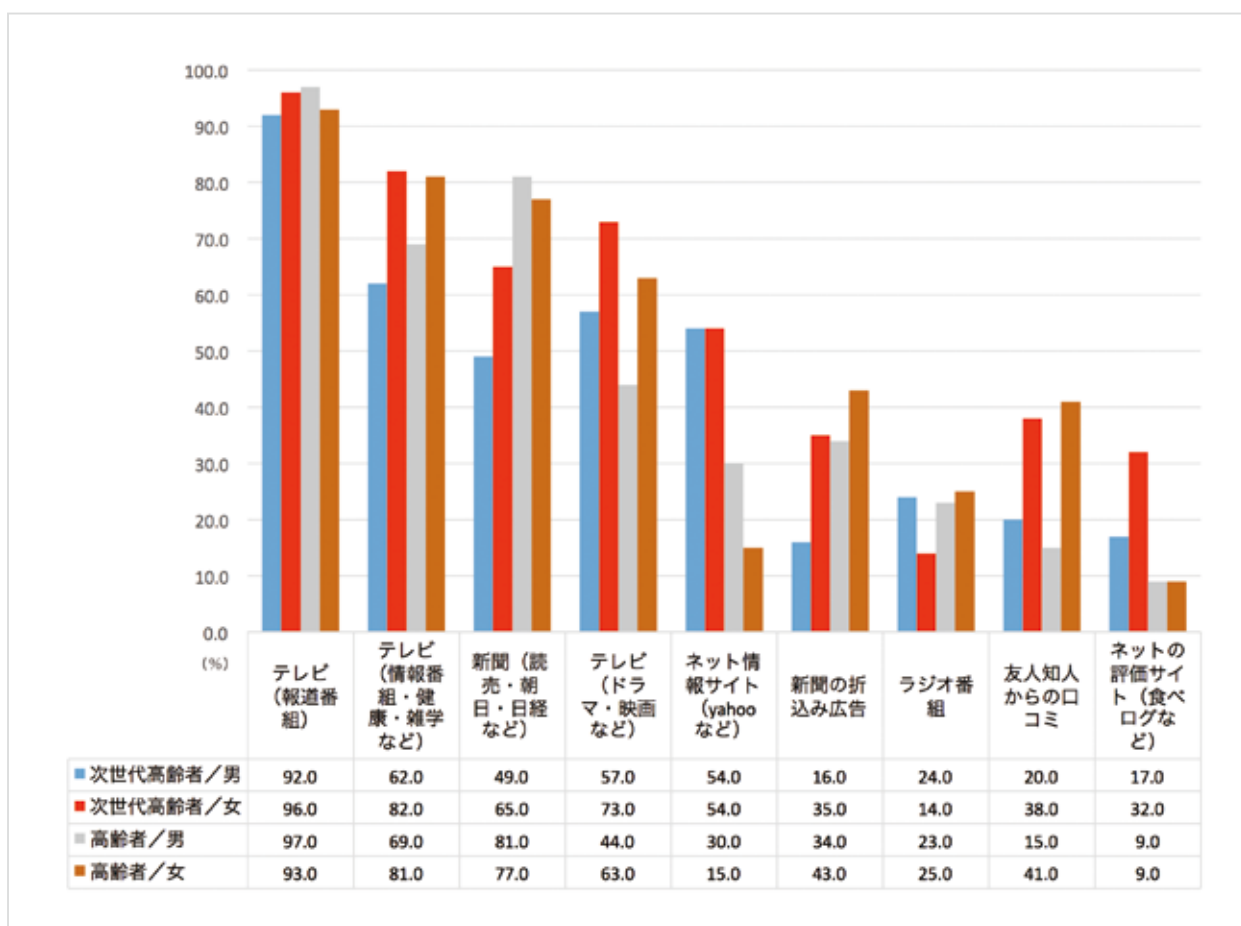
①日頃よく見聞きする情報メディア

〈女性がリードするメディア接触（図表 27 参照）〉日頃よく見聞きする情報メディアでは、性別、世代別にかかわらず「テレビ（報道番組）」と 90% 以上の人が回答している。テレビへの接触率は高く、「テレビ（情報番組・健康・雑学など）」が続いている。「テレビ（ドラマ・映画など）」は、以前から言われるように、女性の接触率が高い。

かつては、新聞は男性中心のイメージが形成されていたが、高齢者層の男性が最も高いスコアであるが、次世代高齢者層ではむしろ女性のスコアが高い。女性の社会進出とも無縁でないのだろう。

ネット情報サイトにおいては、リテラシーの関係か、次世代高齢者層が高齢者層より高いスコアとなっている。「新聞の折込み広告」「友人知人からの口コミ」においては、女性優位であり、次世代高齢者層の女性は「ネットの評価サイト」も上手く活用しているようだ。総じて女性が情報メディアをよく見聞きしているように見受けられる。特に次世代高齢者層の男性はメディア接触どころではないのだろうか。

図表 27 よく見聞きする情報メディア（抜粋）



②ネットのSNSでの情報発信

日頃「ネットのSNS（フェイスブック・ツイッター・ブログなど）」を情報メディアとしてよく見聞きしている人は全体 500 名中の 57 名とまだまだ少ない。そのうち、「よく発信する」と「時々発信する」人を合わせると約半数の 51% である。SNS を活用して老後の生活…という段階ではないようだ。

3.9 社会

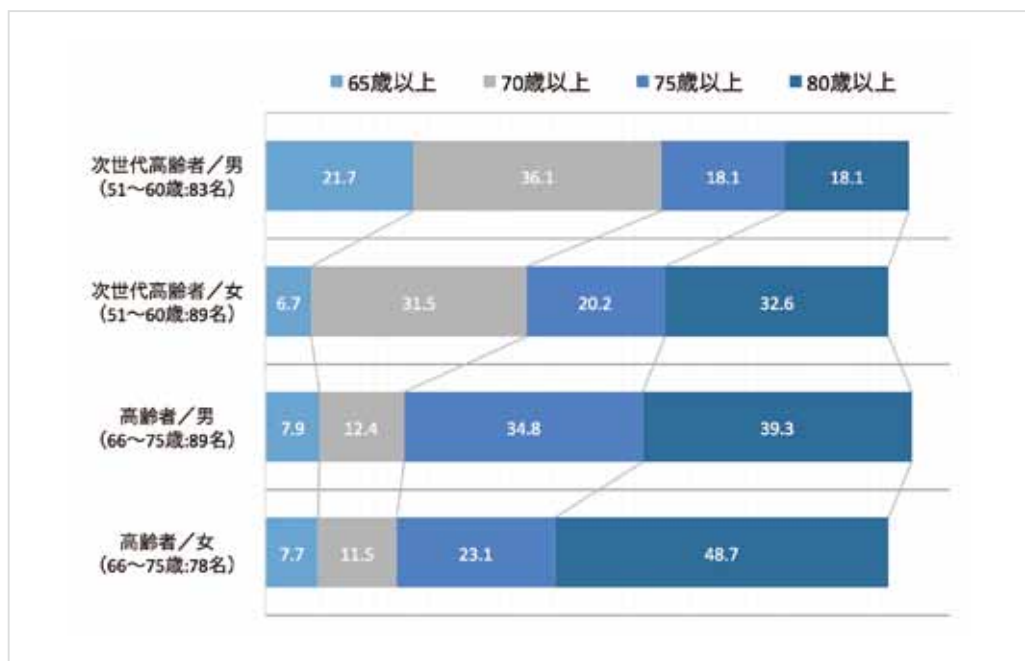
〈50代以上の世代間格差〉 全体で「あると思う」と回答している人が49%、「ややあると思う」が36%で、85%の人が「年代格差がある」と回答している。性別や世代別に意識の差はあまりない。

〈良かった世代（図表28参照）〉『世代間格差がある』と回答した人に、どの世代が良かった世代（優遇されている世代）かと質問したところ、分かりやすい関係性が見えてくる。

次世代高齢者層は「70歳以上」が30%を超えて中心である。但し、女性においては「80歳以上」が最も高いスコアである。一方で高齢者層は、「75歳以上」や「80歳以上」を良かった世代と考えている。こちらも女性においては、男性よりも「80歳以上」と答える比率が高い。

これらから、明らかに自分の世代を良かった世代であるという認識を回避する意識が働いている。更に女性が男性よりも高年齢を回答するのは、平均寿命が影響していると考えられる。現時点での良かった世代であるから、平均寿命は特に関係ないが、無意識に年齢を高く、遠いものとして位置づけたい心理が働くのではないだろうか。現時点で「80歳以上」は、まさに戦争体験者であり、戦後の混乱期も経験していることを考えると良かった世代と位置づけるのは無理が有る気がするが、このような理由から発想するものではなく、とにかく自分は良かった世代ではないのだという意識が働く人が多いということなのだろう。

図表28 「良かった世代」とは何歳以上であるのか（％）



3.10 老後

下記の〈「老後」に関する意識〉と〈「老後」に関する現状や今後の見通し〉については、第3部「老後の生き方の座標軸研究」において、その質問結果を活用して詳しい分析を行っているので、ここでは簡単に触れることとする。

〈「老後」に関する意識〉 全体では「自由な時間を楽しみたい」と回答している人が74%と最も多く、次いで「家族と楽しく暮らしたい」55%、「子どもの成長や孫との時間は楽しみ」41%と続く。

〈「老後」に関する現状や今後の見通し〉 全体で最も多かった回答は「頼りになるのはやはり妻・夫だと

思う」54%であり、そして「比較的よく会う楽しい仲間がいる」が45%「自分を必要とする家族がいる」44%と続く。

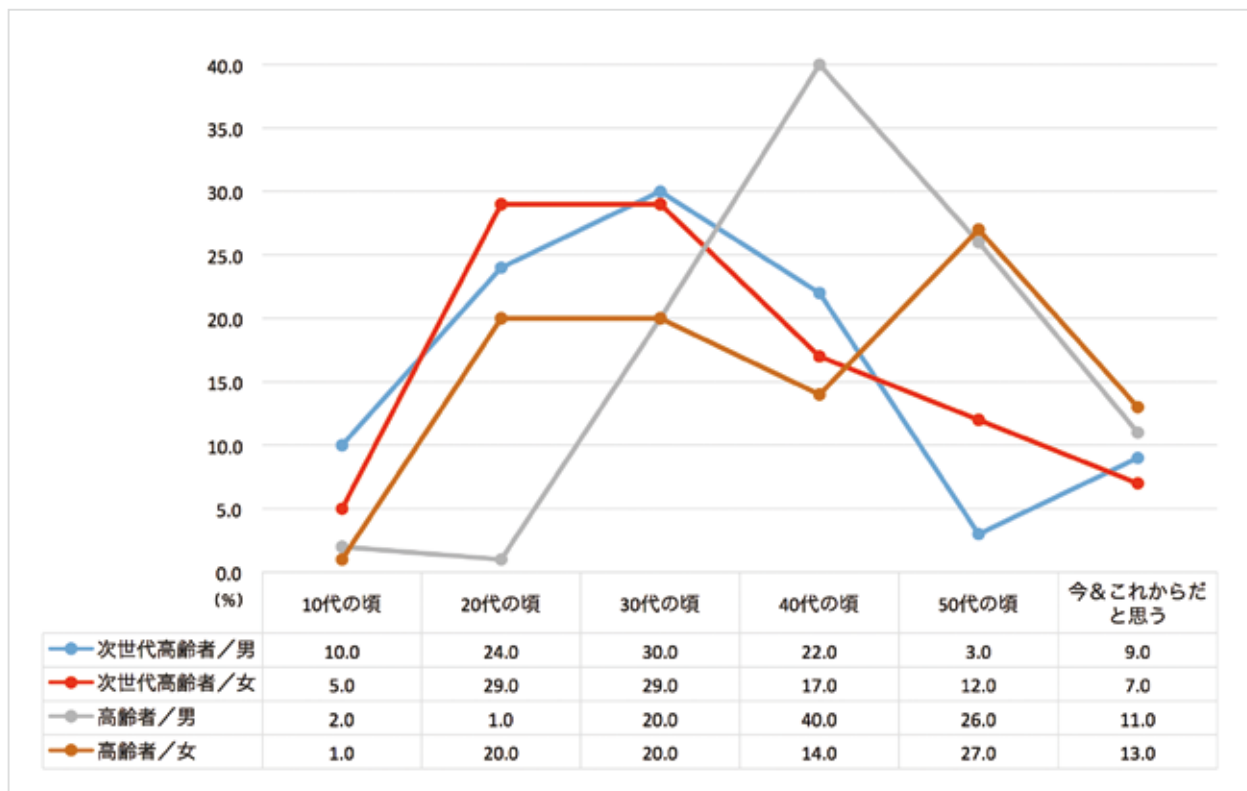
〈「高齢者」「老後」とは〉「高齢者」とは何歳からかを聞いてみたところ、次世代高齢者層の回答者は「70代前半から」と答えており、高齢者層の回答者は「70代後半」からと答えている。この傾向に男女の差はない。また、「高齢者」の生活状況における定義では、「自ら老いを自覚した時から」「生活する上で介護や補助を要する老人」が最も多い。この傾向にも男女間の差は見られない。

また、同様に「老後」の年齢と生活状況についても同様に聞いたところ、「高齢者」の定義と同様、年齢では「70代前半から」「70代後半から」が多く、生活状況でみると「自ら老いを自覚した時から」が最も多い。これに関しても男女差は見られない。この様に、「高齢者」と「老後」とでは概ね類似した意識をもっているようだが、年齢別に細分化して見た場合、60代男性だけは「定年に関わらず仕事を終えた人」の回答も多くなっている。「定年間近もしくは直後ならでは」、もしくは「仕事を中心に人生を送ってきた人ならでは」といったターニングポイントの意識とも受けとめることができる。

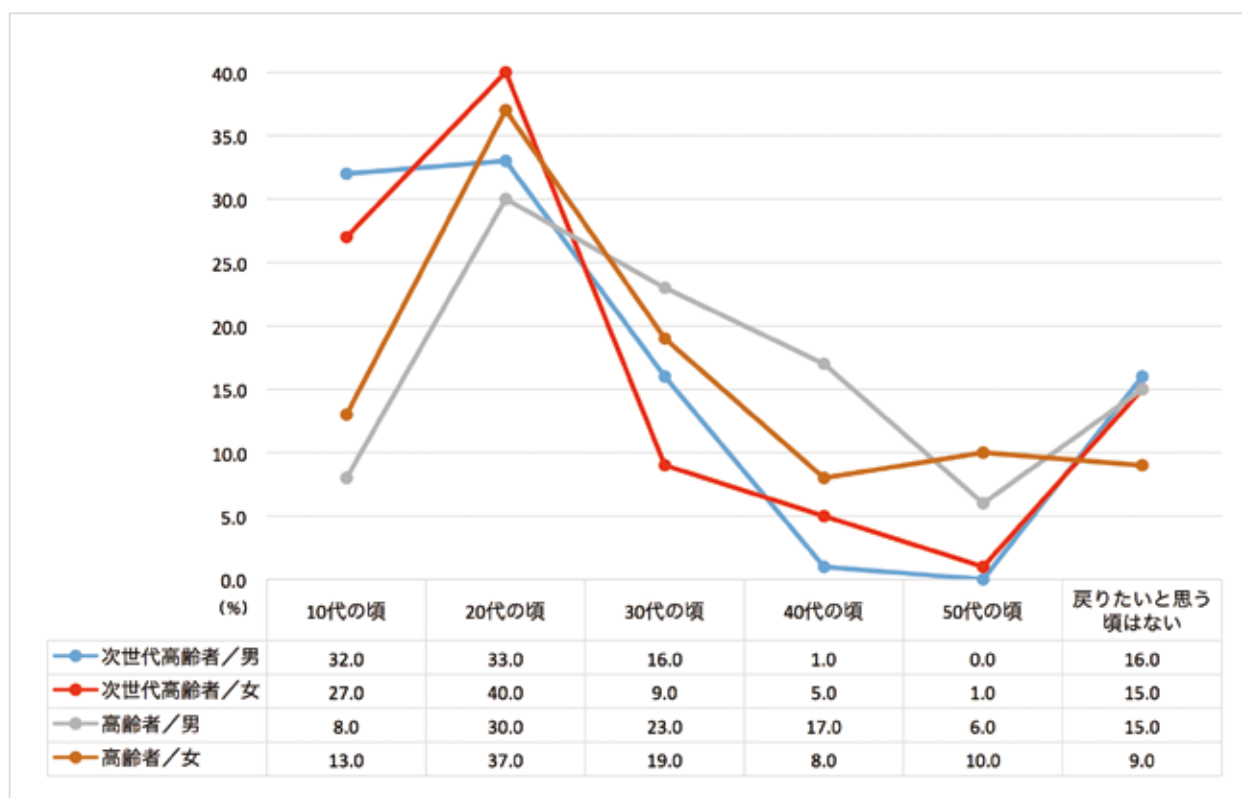
〈最も充実していた時代、戻りたいと思う頃（図表 29 & 30 参照）〉 高齢者層の男性は「40代・50代の頃」、女性は「50代と20代30代の頃」を最も充実していた時代ととらえている。次世代高齢者層は「20代・30代の頃」を男女共通で最も充実していた時代と回答している。高齢者層は現在66歳から75歳であり、50代に今の自分の礎を作ったといったことがあるのかもしれない。また、今よりもっと動けたという感覚や社会との関わりが強かったといった身近な充実を意識するのかもしれない。ただ、高齢者層の女性は次世代高齢者層の女性と同じく、子育て期の充実についても意識しているのではないかと類推される。

では次に「戻りたいと思う時期」であるが、性別・世代を問わず「20代に戻りたい」との回答が最も多い。次いで次世代高齢者層は自分が学生時代であった「10代に戻りたい」が多い。最も充実していた時代との相関は予想外に少ない。また、高齢者層にとっては30代よりも10代には戻りたくないというスコアになっており、次世代高齢者層との違いがここでも確認される。

図表 29 最も充実していた時代



図表 30 戻りたいと思う頃



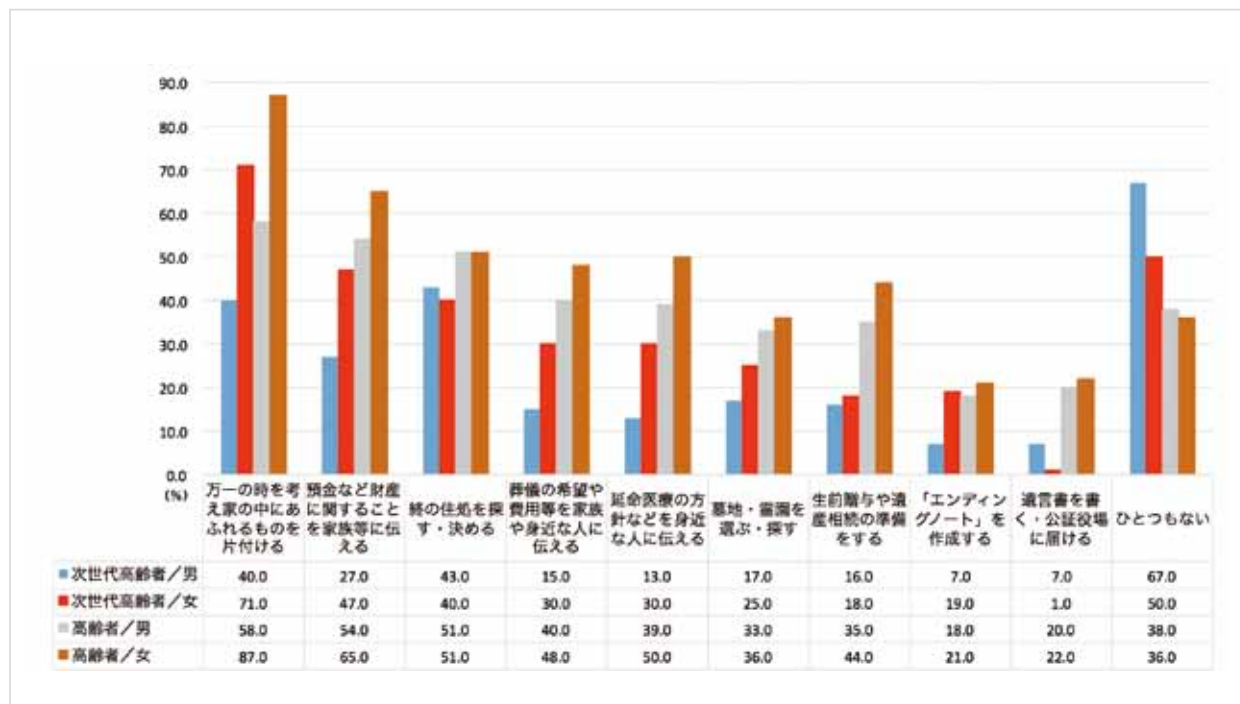
〈人生の節目〉 当然のことながら回答者の年齢が高くなるほど「節目を越えた」と回答する割合が多くなるが、男性の場合は60歳を境に増大する。定年をひとつの節目と捉えている人が多いようだ。女性の場合も同様の傾向が見受けられる。

次いで「節目を越えた人生の捉え方」を問うたところ、前問で節目の年齢を明らかにしているにもかかわらず、「節目などはなく今までどおり今後も続けていく」が32%で最も多く、次いで「できるかぎり健康であることや病気の克服以上は何も望まない」29%、「残された時間をただただ平穏に暮らしたい」22%と続き、何か新しいことに取り組み新しい人生のスタートをきるというより、現状維持志向が強いことが顕著に現れている。全体的に性別・世代別に大差はない。節目を『越える』という問いは、峠やピークを『越える』に繋がり、ポジティブな考えに繋がり難いのかもかもしれない。

〈「終活」について〉「終活」の意味まで知っている人が多いのは男性より女性。男性64%、女性83%で、世代の差はあまりない。男女差が大きい。次いで、「終活」のイメージを問うたが、「残された者のために大事なこと」76%が最も多く、次いで「自分のために大事なこと」37%と続く。これらを男女別にみると10ポイント以上の差が見られ、両項目とも男性よりも女性の方が高い。女性の方が年老いていくことに対し、自分と周囲との関係を冷静に見つめている様子が伺える。

〈生前の準備について（図表 31 参照）〉 全体では 65%が、「万一の時を考え家の中にあふれるもの、捨てられないものを片付ける」ことを考えたことがある。以降、「最後を迎える時の備えに預金など財産に関することを家族や身近な人に伝える」48%、「終の住処を探す・決める」46%と続く。世代別＆性別に見た場合、高齢者層の女性が全項目でスコアが高く、生前準備を意識している。男女差においては次世代高齢者層の中で男女を比較しても、明らかに女性の準備意識が高い。

図表 31 生前の準備



〈高齢者を「名づける言葉」「形容する言葉」〉 高齢者を名づける言葉として最も相応しい言葉は、「シニア世代」が 44%で最も高く、「シルバーエイジ」「高齢者」がそれぞれ 20%台で続いている。男女差を見ると、トップである「シニア世代」は男性 39%に対し、女性 49%と 10%の開きがある。また女性の場合は「高齢者」や「お年寄り」という言葉を敬遠し、逆に「熟年世代」「プラチナエイジ」の回答率が高くなっている。次にそれを形容する言葉であるが、全ての世代から支持されている言葉は、「いつまでも元気な」が 38%で最も高く、以降、「第二の人生を楽しむ・謳歌する」18%、「人生の手本となる」17%、「見識や知恵のある」16%、「いつまでも若々しい」15%と続く。男女差は小さいが、強いて掲げるならば「人生の手本となる」に関しては女性の方が 8 ポイント高い。

3.11 住まい

①現在の住まい

現在居住している住まいに関し、居住形態（選択肢 5：「持ち家／一戸建て」「持ち家／マンションなどの集合住宅」「賃貸住宅／一戸建て」「賃貸住宅／マンションなどの集合住宅」「社宅・官公舎」）、間取り（選択肢 4：「2DK・2LDK 以下」「3DK・3LDK」「4DK・4LDK」「5DK・5LDK 以上」）、居住開始時期（選択肢 8：「1959（S34）年以前」、←この間、5年間または 10年間刻み→、「2010（H22）年以降」）について調査対象者 500 人の実態を確認している。

〈居住形態〉「持ち家（一戸建て）」が 68%、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」が 19%、足し合わせると“持ち家比率”は 87%となる。

〈間取り〉「2DK・2LDK 以下」14%、「3DK・3LDK」35%、「4DK・4LDK」28%、「5DK・5LDK 以上」23%。

〈居住開始時期〉 居住開始時期は「1990年代（H2～11）から」26%をピークに、次に「1980年代（S55～64・H1）から」18%、「2000～2009年（H12～16）から」15%と続く。バブル崩壊後の土地・建物価格下落時、バブル期…と連動する。

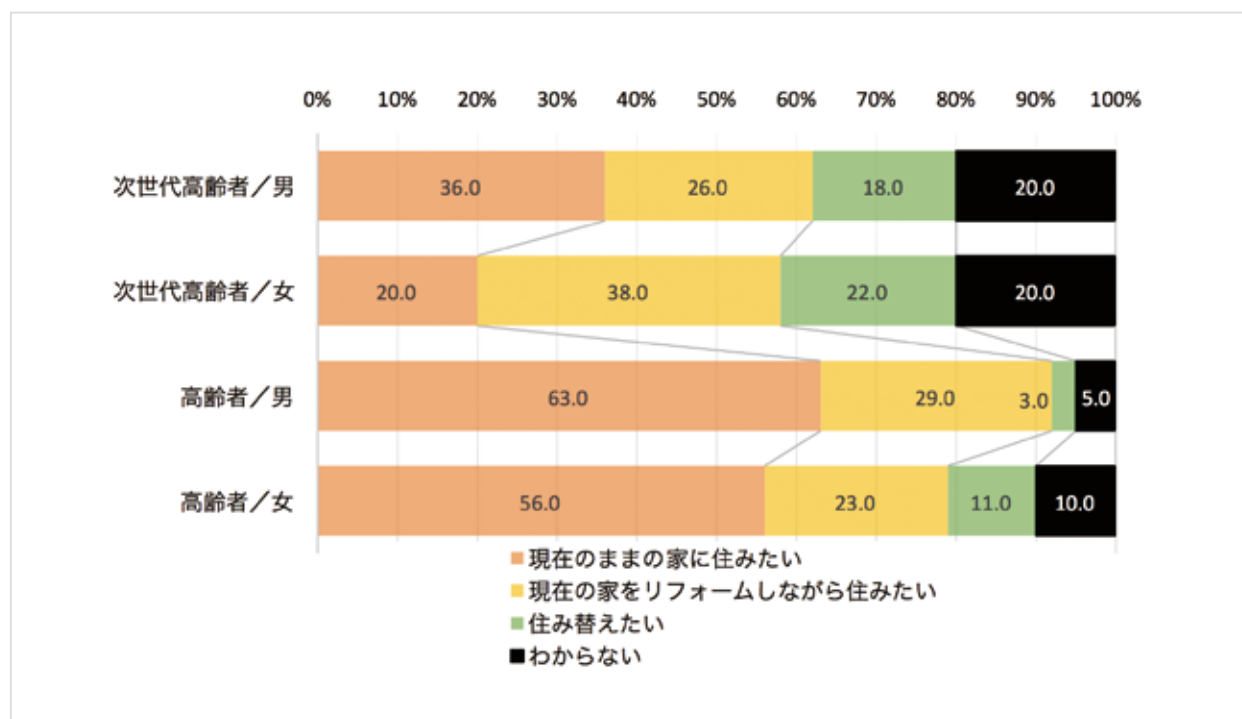
②老後の住まい

年齢を重ねるに連れて、住み替えを考えるのか否か、住み替えるとする、いつ、どんな住居を、どこに求めるのか？そして、どんな暮らしをしたいのか？を聞いた。

〈今後の住み替えについての考え方（図表 32 参照）〉 今後の住まいについての考え方について5つの選択肢「現在のままの家に住みたい」「現在の家をリフォームしながら住みたい」「一度は住み替えたい」「何度か住み替えたい」「わからない」を用意し回答してもらった。（下記図表 32 においては、「一度は住み替えたい」「何度か住み替えたい」を合算して「住み替えたい」としている）

全体的には「現在のままの家に住みたい」44%、「現在の家をリフォームしながら住みたい」28%で、現在の家に何らかの形で住み続けたい人が7割を超える。世代別にみると、高齢者層は「現在のままの家に住みたい」が高くなる。「現在の家をリフォームしながら住みたい」を足し合わせ、現在の家に何らかの形で住みたいと回答する人は男性90%、女性80%となる。次世代高齢者層においては「住み替えたい」が約20%、同様に「わからない」とする人も20%であり、まだ流動的な要素が残されていると考えられる。

図表 32 今後の住み替え意向



〈住み替え希望時期〉 住み替えたいと回答した人64名に、住み替え希望時期を5段階（「2・3年以内」「5年以内」「10年以内」「15年以内」「15年より先」）で聞いた。全体では「10年以内」が最も多かった（38%）。「15年以内」は16%、「15年より先」が6%となっており、2年～10年以内に住み替えを希望している人は80%近く存在する。男女別に見ると「10年以内」の割合は、男性の64%に対して女性は89%と25%上回っている。

〈希望する居住形態〉 500人全体に、今後希望する居住形態を4つの選択肢（「持ち家／一戸建て」「持ち家／集合住宅」「賃貸／一戸建て・集合住宅」「高齢者向け住宅・施設」）で回答を求めた。全体的に見ると、「持ち家／一戸建て」60%、「持ち家／集合住宅」23%、合計83%で、先に記した“現在の居住状況”と総じて比例している。

若干の差異であるが、“一戸建て”が8%減少、“集合住宅”が4%増加、合計で4%減少となった。

これは新たに「高齢者向け住宅・施設」（8%）という選択肢が加わったため、そこに移行していると推察される。また「高齢者向け住宅・施設」については男性（5%）より女性（11%）の方が2倍以上希望している。

〈希望する立地〉 今後自分が歳をとるに連れて住みたい立地条件を19の選択肢から選んでもらった。「買い物に便利なところ」55%、「駅に近いところ」43%、「病院や介護施設に近いところ」41%と続く。これらの項目は、男性より女性のスコアが高く、高齢者層のスコアが高い。

次の「子どもなど家族の住まいに近いところ」（38%）も女性のスコアが高く、男女差が21%と大きい（男性27%、女性48%）。逆に、女性より男性が上回るのは、「静かなところ」（男性28%、女性18%）、「自然や緑の多いところ」（男性22%、女性16%）、「趣味や遊びに便利なところ」（男性18%、女性12%）、「田舎暮らしができるところ」（男性10%、女性3%）となっており、女性は現実志向、対し男性はロマン志向が伺える。

〈住まいに求めること〉 住まいに求めることからどのような暮らしがしたいのかを探るため11の選択肢を用意した。「家族でくつろぐ時間や空間」が最も多く（59%）。女性は“安全”志向が高く、「段差がない、温度差がないなど安全に過ごせる」（男性：42%、女性：54%）、「防犯、防災の行き届いた」（男性：33%、女性44%）が上位にくる。

3.12 家計・経済状況

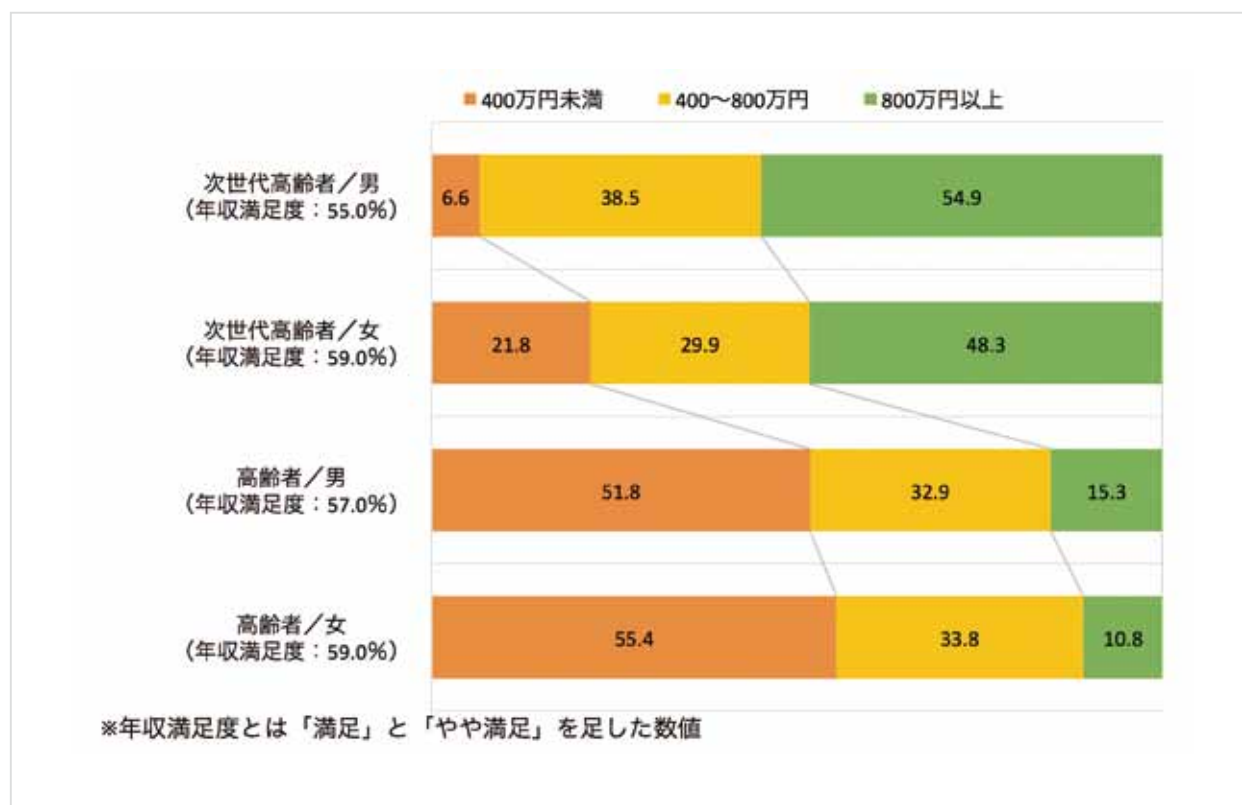
①世帯収入

〈世帯収入の種類〉 世帯収入の種類は、「勤務先からの定期的収入給料・賞与など」、「公的年金（国民年金・厚生年金など）」、「企業年金」の順で多い。世代別には次世代高齢者層が「勤務先からの定期的収入給料・賞与など」が90%以上、高齢者層は「公的年金（国民年金・厚生年金など）」が90%弱である。そして三つめとなる「企業年金」は、高齢者層の男性で35%、女性24%である。

〈世帯年収額と世帯年収の満足度（図表33参照）〉 世帯年収の回答を「400万円未満」、「400～800万円」、「800万円以上」の3段階にわけると、次世代高齢者層は「800万円以上」、高齢者層は「400万円未満」がそれぞれ最大のボリュームゾーンとなる。

世帯収入に対する満足度を4段階で聞き、「満足している」と「やや満足している」の二つを合算して、図表33の回答者属性の下に付記した。世帯年収額のボリュームゾーンは明らかな違いが見られるが、満足度は50%台後半でほぼ同じである。

図表 33 世帯年収の分布と満足度（％）



②支出

〈月間支出額〉月間支出額を「30万円未満」、「30万円台」、「40万円以上」の3段階にわけて整理したところ、高齢者層は「30万円未満」が50%強、次世代高齢者層は40%強でボリュームゾーンとなっている。前質問で「世帯年収」の減少に対して、満足度は下がらないという回答が得られていることから、収入の減少にあわせて、支出をコントロールしながら計画的に生活している様子がうかがえる。

〈収入と支出のバランス〉収入と支出のバランスは、「収入が支出を上回っている」約30%、「ほぼ収支同じ位」約40%、「支出が収入を上回っている」約20%、「わからない」約10%の構成比である。この標準的な形から、女性の回答では「分からない」が減り、高齢者層の回答では、「収入が支出を上回っている」が減った分、「ほぼ収支同じ位」が増えるといった状況である。また、「教育費」の増加も次世代高齢者層の特徴である。

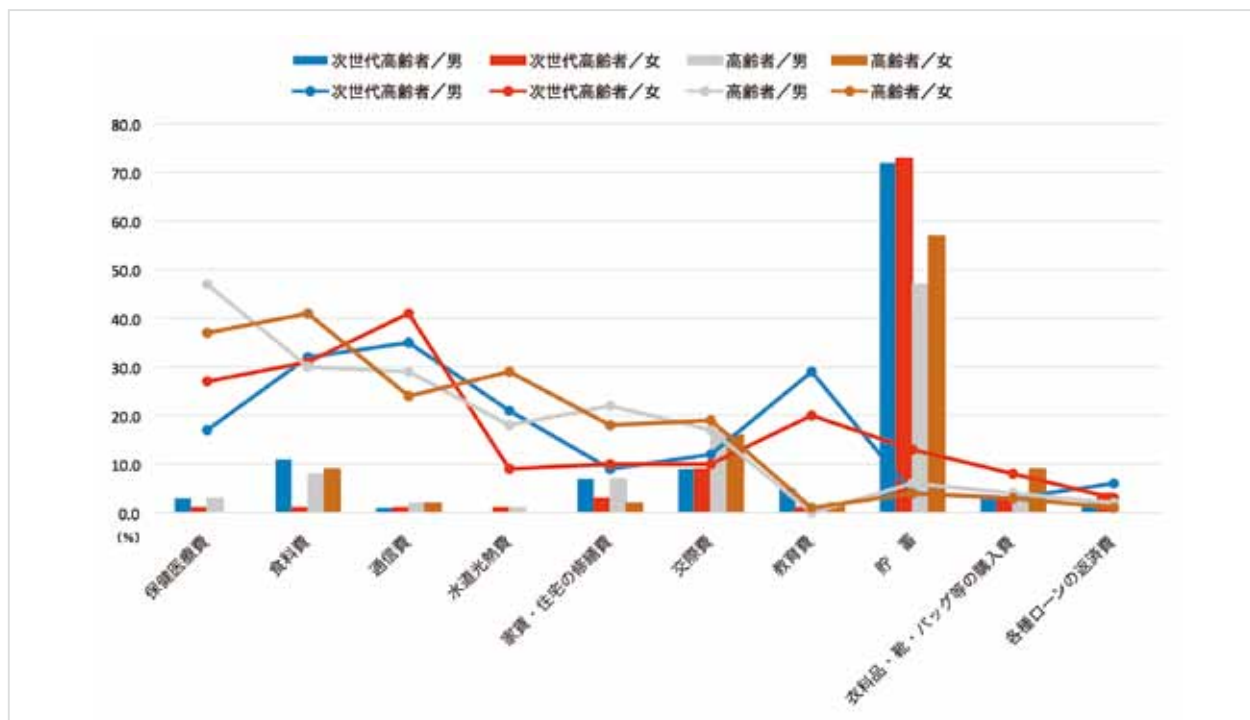
〈この1～2年で減った支出〉この1～2年で減った支出の上位の回答は、「貯蓄」、「衣料品・靴・バック等の購入費」と続く。「貯蓄」は性別年代別を問わず減っている。「衣料品・靴・バック等の購入費」は女性の方のスコアが高い。生活必需品として、日常的な購入や利用が余儀なくされるものではないことで支出削減の対象として挙がるのだろう。「教育費」は次世代高齢者層の女性で減ったスコアが大きい。恐らく、子供の学校卒業といったことが起因していると思われる。

〈この1～2年で増えた支出（図表 34 参照）〉「この1～2年で増えた支出」の上位回答は、「保険医療費」、「食料費」、「通信費」の3つ。高齢者層においては、「保険医療費」が最も支出が増えたと回答されている。次世代高齢者層においては、「通信費」が最も支出が増えたとされている。

〈今後重点的に増やしたい支出（図表 34 参照）〉 今後重点的に増やしたい支出では、60%以上が「貯蓄」と回答しており、男女ともに50代で数値が特に高く、これは老後の経済的な不安に対して金銭的な蓄えを充実させたいということだろう。

一方で図表 34 の中にあるように、「交際費」を増やしたいとする声もあり、図中にはないが、「趣味・娯楽費」「こづかい」も同類である。人生を楽しみたいという気持ちの現れで、特にその意向は男性の方が強く現れている。

図表 34 増えた支出（折れ線）と増やしたい支出（縦棒）



〈今後重点的に減らしたい支出〉 今後重点的に減らしたい支出の回答は、「通信費」、「水道光熱費」、「保険医療費」の順で高い。前述した「この1～2年で増えた支出」と相関している。増えた支出を少しでも減らしたいという気持ちが現れている。「保険医療費」を減らしたい人は男女とも高齢者層ほど多くなる。70歳未満は3割、70歳～74歳は2割、75歳以上の1割の医療費の一部負担（自己負担）割合は、入院や通院頻度が高くなる高齢者にとっては負担が重く切実な問題である。

③お金との付き合い方

お金との付き合い方は、「何か買う時は、買う余裕があるか必要か考えて買う」が70%で最も高く、性別、年代別の差はないと言ってよい。二番目に多い「貯蓄など資産作りや大きな消費は計画的に進める」の回答では、家庭内の大きな判断は男性が行なう家庭が多いのか、男性の方が高い。（男性27%、女性18%）

④世帯保有資産について

〈世帯保有資産の満足度〉 世帯保有資産の満足度を4段階評価で問い、「満足している」と「まあ満足している」の合算を『満足』に、「あまり満足していない」と「満足していない」の合算を『不満』として比較した結果、高齢者層の『満足』が次世代高齢者層を上回っている。『不満』について細かく年代でみ

ると、男性全体の答え 57%に対して、56～60歳では 72%と大きく跳ね上がっている。これは定年を目前に将来の老後の生活を真剣に考えはじめ、現実を目の当たりにした結果であると推察される。

〈世帯保有資産の種類〉「現金・普通預金」96%、「定期預金」63%と続く。男女別に見ると、「個人年金」は女性の方が高く（女性 28%、男性 18%）、その他の資産についての男女差は小さい。

〈世帯保有金融資産額〉「1,000万円～2,000万円未満」「2,000万円以上」それぞれ 21%で最も多い。1,000万円以上を合算すると 42%となっている。逆に 1,000万円未満（「1,000万円未満」＋「ほとんどない」）は 25%である。

また性別・世代別に見ると、次世代高齢者層の男性は 1,000万円以上は 30%に満たない。この年代を考えるとまだ学生の子供を養っている人も多く、退職金の給付前ということで金融資産額は少なくなっていると思われる。

〈世帯保有不動産資産額〉世帯保有不動産資産額の回答について、「ほとんどない」14%、「1,000万円未満」12%、「1,000万円～3,000万円未満」31%、「3,000万円～5,000万円未満」27%、「それ以上」17%となっており、本調査の調査対象エリアが東京 30km 圏在住者であること、持ち家比率が 87% と高いことから、保有不動産資産額は比較的高めの回答となっている。3,000万円以上の不動産資産を保有する人は 44%となる。

⑤住宅ローンの有無

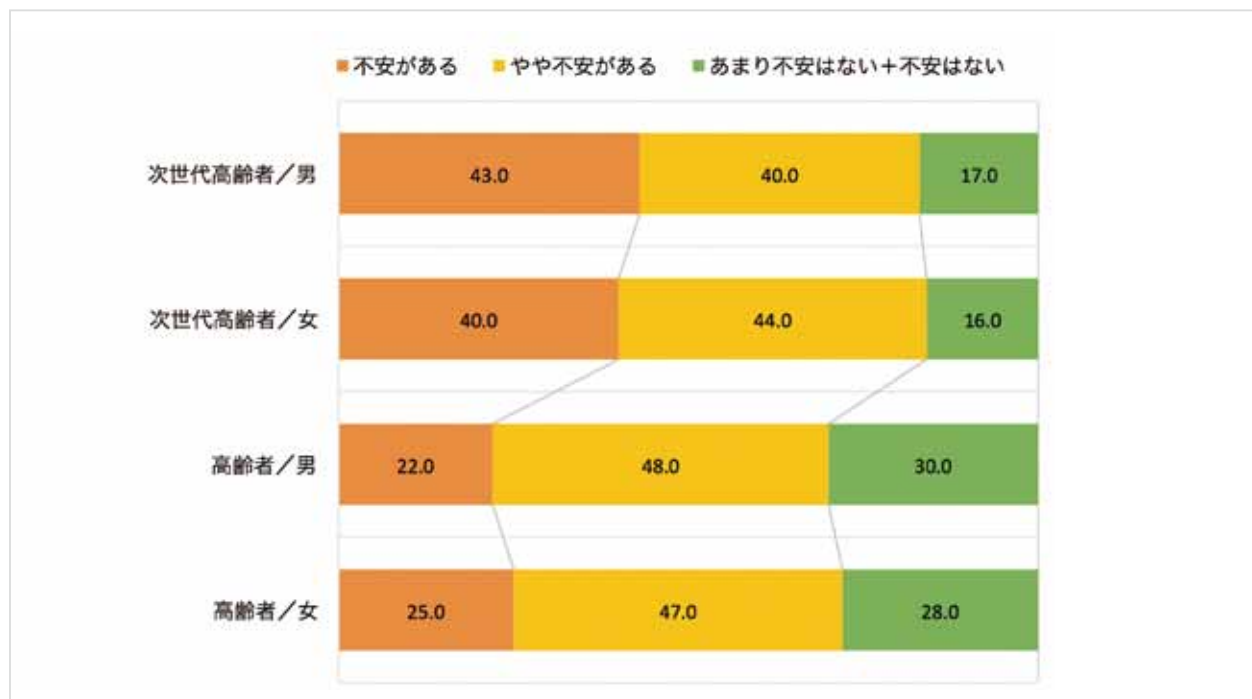
「住宅ローンがある」と回答した人は 28%で男女差はほぼない。世代別にみると、次世代高齢者層は 50%弱、高齢者層は 10%強がローン有りである。

⑥老後など「これからの人生の準備資金」について

〈不安の程度（図表 35 参照）〉不安の程度を 4 段階評価で回答を求めた。

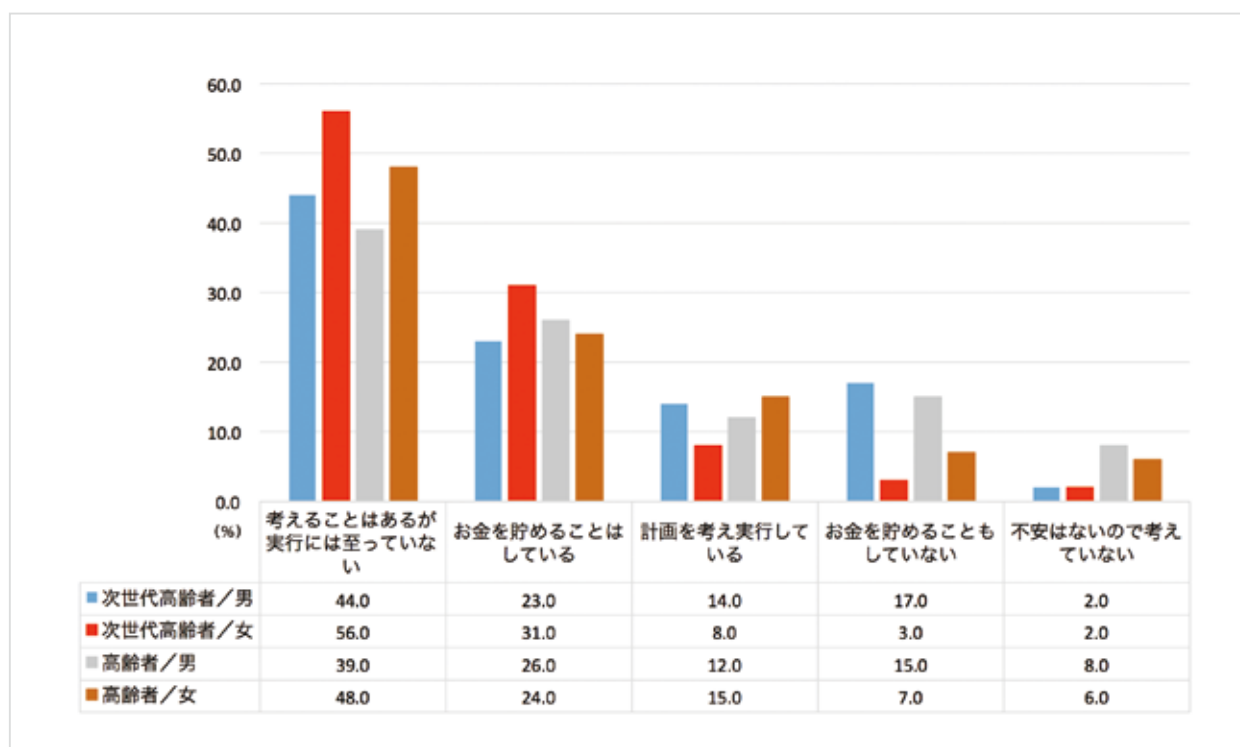
次世代高齢者層では、これからの人生の準備資金に「不安がある」「やや不安がある」の合計が男女とも約 80%である。高齢者層では、「不安がある」「やや不安がある」の合計が男女とも約 70%である。高齢者層の不安が減少している。老後のあり方が定まってきたことも大きいのではないと思われる。

図表 35 これからの準備資金についての不安（%）



〈お金を貯める計画や実行の状況（図表 36 参照）〉「考えることはあるが実行には至っていない」46%が、多数派となっており半数の人が実行には至っていない。何らかのアクションを展開しているということで、「計画を考え実行している」13%と計画的な人もいるが、「お金を貯めることはしている」26%のように、必要な額や計画といったことをなかなか立案できないというのが現実だと思われる。

図表 36 お金を貯める計画などの実行状況

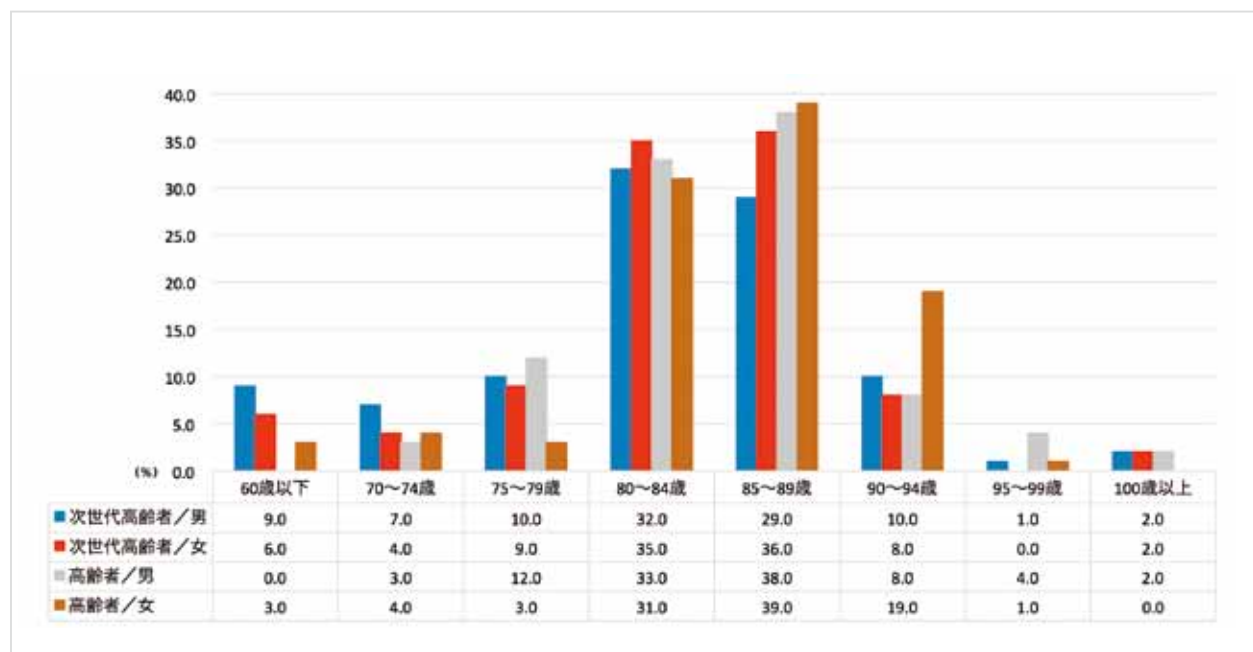


〈老後を意識してお金について考え始めた年齢〉 老後を意識してお金について考え始めた年齢は、男女差がなく、目立った転機となるような年齢（年代）がない。つまり、各人各様で異なるのか、何となく考え始めたために答えが明瞭にならないのかもしれない。とにかく回答は分散しており、当然であるが高齢者ほど、分散する年代が幅広くなる。

〈老後を意識してお金について考え始めた切掛け〉 老後を意識してお金について考え始めた切掛けをみると「年金に頼れないと思った時」が30%強でトップの回答となっている。その他の回答は平均して10%前後を示す回答が5つほど有り、若い頃からの意識、子育て終了時、勤め先の定年、家族や自身の病気などが挙がる。つまり、どれも個人にとっての出来事で、結果的に年齢が集中しない根拠に繋がっている。

〈老後の準備資金を想定する年齢（図表 37 参照）〉 老後の準備資金をいくつ位の年齢で想定するかについては、「85～89歳」が35%、「80～84歳」が34%で高い。また高齢者層の女性は「90～94歳」と答えた人が19%も存在する。まさに長寿国家日本を物語っている。

図表 37 老後の準備資金を想定する年齢



〈必要額の把握〉 老後の準備資金の必要額を「把握している」と回答した人は、「おおよそ把握している」を含めても全体で27%と3割にも満たない。次世代高齢者層は約20%と更に低くなる。年齢を重ねると「医療費」や「介護費用」など予測の難しい支出も多く出てくるので、収入が減少する不安も併せれば、必要額を正確に把握することは容易ではないようだ。

⑦「子どもの教育費」「住宅ローン」について

〈「子どもの教育費」がかりそうな（かかった）年齢〉「子どもの教育費」がかりそうな（かかった）年齢は、一般的な定年年齢の60歳を境目とし、「60歳以降もかかる（かかった）」と回答している人は全体で23%、男女別で、男性が32%、女性が14%である。女性の多くが配偶者よりも年齢が低いいためなのか、男性と比較して教育費の負担から解放される年齢が早いようだ。

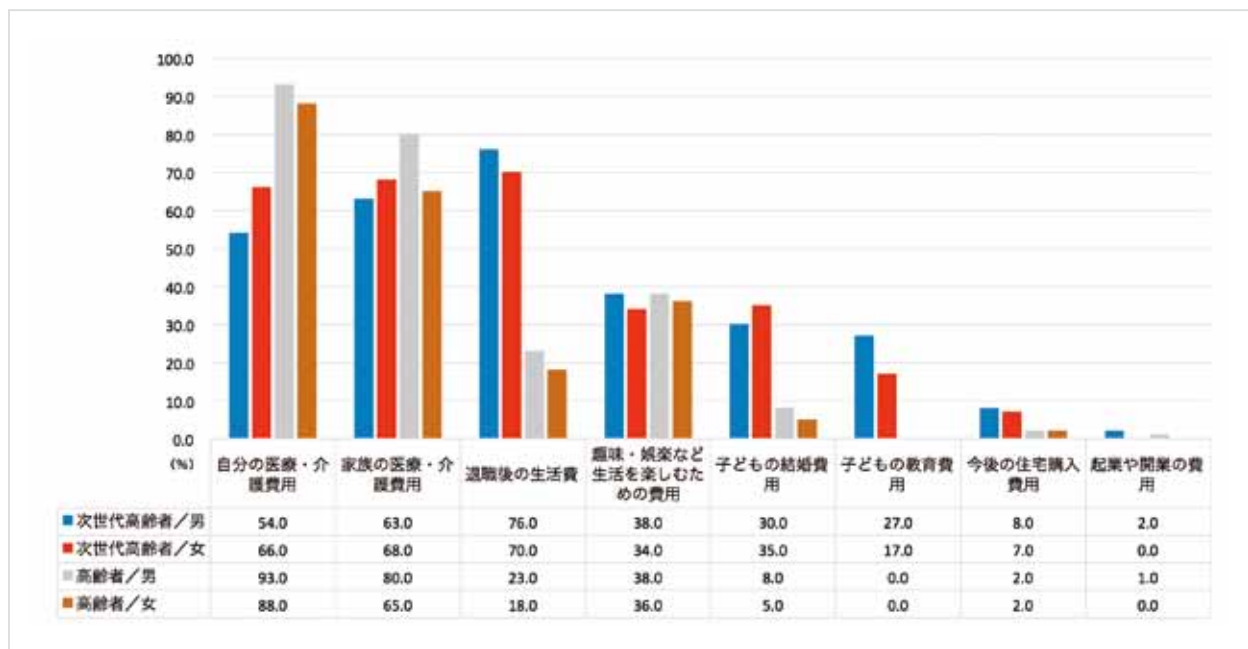
〈「住宅ローン」がかりそうな（かかった）年齢〉「住宅ローン」がかりそうな（かかっていた）年齢も、一般的な定年年齢の60歳を境目として、「60歳以降もかかる（かかった）」と回答している人は全体で60%、男女別では、男性が64%、女性が55%と、すべて半数を上回る。晩婚化による住宅購入年齢の高齢化や低金利による返済期間の長期化により、住宅ローンの完済年齢は高まっている。

⑧今後必要になると思う費用

〈医療・介護費用（図表38参照）〉今後必要になると思う費用は「自分の医療・介護費用」75%、「家族の医療・介護費用」68%、「退職後の生活費」48%の順となった。

次世代高齢者層では「退職後の生活費」が最も高く、高齢者層では「自分の医療・介護費用」、「家族の医療・介護費用」がスコアが高い。特徴的な回答として、「趣味・娯楽など生活を楽しむための費用」に関しては、高齢者層、次世代高齢者層ともに30%台の回答となっており、この費用が実際に使われることを大いに期待したい。

図表38 今後必要になると思う費用



4. 調査結果のまとめ

超高齢社会が益々加速するという問題意識を出発点に、ボリュームゾーンである団塊の世代が含まれる高齢者層（66歳～75歳）のみならず、次なる高齢者予備軍つまり次世代高齢者層（51歳～60歳）も対象に、その生活や老後に向けての意識などを調査した。その結果については既に述べてきたとおりである。

まとめにおいては、次世代高齢者層と高齢者層の間に存在する相違点や共通点を男女の違いも含め、注目していきたい。ポイントとしては、今後の高齢社会における問題点、危惧されることの整理を中心に記すこととする。言うまでもなく、高齢者においても生き方は可変な部分も沢山ある。問題点を認識することは次の準備へと繋がると考えている。

◆幸せのカタチ

今を幸せと感じている人、満足している人は多い。ただ、将来（老後）のこととなると、変化量の多いであろう次世代高齢者層において不安が大きくなる。その中にあって、幸せの感じ方（創り方）において女性が男性を圧倒しているという事実には何かヒントがあるかもしれない。

- 「日常生活に満足と回答する人」約80%、「幸せと感じている人」約90%である。今、現時点の評価は決して低くはない。
- 「自分の健康」「家庭・家族」「家計・経済状態」「人との交流」「趣味・楽しみ」「仕事」の6つの領域について満足と不安を聞いたところ、高齢者層の満足度は高く、不安度は低い。次世代高齢者層は満足度が低く、不安度が高い。客観的な事実としては、健康面、仕事面など加齢による様々なハードルは高齢者層の方が大きいことは間違いない。結局、次世代高齢者層は転換時期の不安、変化することへの不安、期待との相違による満足度の低下など、悩める次世代高齢者層の姿が感じ取れる。
- 「幸せを感じたとき」の男女比較を行った（世代差は大きくない）。日常生活の出来事から大きなイベントまで40項目を提示した。上位項目で女性が男性のスコアを上回る率がほぼ80%、そもそもの回答数（「幸せを感じたとき」の総数）において女性が男性を16%上回る。果たして女性の方が幸せの総量が多いのか、幸せの感じ方、創り方が上手なのか。

◆仕事の意味

「年金が足りない」「働き手が足りない」といった文脈だけで仕事を捉えると義務的なものになるが、実は「仕事」の持つ意味は、もっと多様でポジティブなものであるに違いない。

- 次世代高齢者層（男性98%・女性77%）、高齢者層（男性53%・女性30%）が現在、収入を伴う仕事をしている。同じ対象者で、『今後仕事を続けたい』と回答した人は、次世代高齢者層（男性99%・女性86%）、高齢者層（男性55%・女性37%）である。つまり、仕事を続けたいのである。
- 仕事をしたい理由は、「日常の生活費」が最も多い。これはお金を稼ぐという意味と同義的で当たり前過ぎる。続いて「健康や老化防止」「社会との繋がり」「規則正しい生活」「仕事を通じて人生の充実」「贅沢や遊びの資金」という回答が挙がる。老後を意識した時の本音はこちらに隠されている。

◆頼りになるのは妻

様々な行動場面で夫は妻との行動をより肯定的に評価しようとする傾向にあるが、妻はある意味冷静であり、広く社会との関係の中で夫との付き合い方をも方向付けている。妻が夫を頼っていたのは遠い昔のことのようだ。

- 既に妻は夫から頼りにされていること、それが自分が夫を頼りにしている以上のものであることを知っている。更に言えば、夫もその事実を知っている。つまり、自分が妻を頼りにしているほど、妻は自分を頼りにしていないことを。何歳からそうなのかは分からないが、50歳を過ぎれば、一家の中心、大黒柱は妻である。
- 介護の問題、非常にナーバスな問いであると思う。自分や配偶者そして親の介護について「在宅介護」と「施設介護」のどちらを選ぶかを聞いた。次世代高齢者層も高齢者層も、女性の答えは簡潔である。親も配偶者もそして自分も「施設介護」を選ぶ。その一方で男性は、高齢者層では自分も配偶者も「在宅介護」を選ぶ。次世代高齢者層では配偶者について「在宅介護」を選ぶ（因みに自分については僅差で「施設介護」）要するに女性はリアリストであり、老老介護の大変さも意識しての判断である。男性は現実逃避的であるのか、配偶者への依存性が強いのであろう。

◆友人関係

友人関係は50歳であろうが70歳であろうが変えられるものである。実際、高齢者層は60歳を過ぎて最も大切な友人を作っている人が約20%存在する。次世代高齢者層で注目したいのは、学生時代の友人との繋がりを大切にしている人が多く、恐らく今後時間的余裕が生まれたときに、その関係をどう良いものに出来るか、注目したいことの1つである。

- 付き合っている友人の中で最も大切な友人について聞いている。象徴的な結果として注目したい。まず、高齢者層の男性は、「仕事関係」が最も多く、次いで「地元」そして「趣味関係」となる。同じく高齢者層の女性は分散していて、「仕事関係」「地元」「趣味関係」に「子どもを通じての知り合い」が加わる。次世代高齢者の男性は「学生時代」が中心でこれに「仕事関係」が続く。同じく女性は最も多いのが「子どもを通じての知り合い」で、続いて「学生時代」「仕事関係」となる。
女性において「子どもを通じての知り合い」が多いのは助け合う関係の強さからか、子供の成長の後も長く続くようだ。次世代高齢者層に特徴的なのは、学生時代（小中高大すべて）が多いことである。
- 上記の結果と関係して、最も大切な友人との出会いの時期の回答が、次世代高齢者は学生時代ということで「10代」が多く、女性は子どもを通じての知り合いの影響で30代も多い。高齢者層は男性は仕事関係で苦勞を共にしたということか、20代が多い。女性は次世代高齢者同様に30代が多い。また、高齢者層は60代以降も多く、これは地元や趣味といったことが契機となっている。
- どのような人付き合いを望むかという問いについて、損得や立場や経歴といったものを排除する回答が多い。つまり、会社や組織といった今まで帰属していたものとは違うステージを求めているということのようだ。

◆老後という未来は見通せない

「何歳まで生きるかわからない」という大前提によって、老後が見通せなくなる。病気や介護の必要性も予測できない。いくら準備すれば良いかの答えがない。確かに未来は見通せない。

しかし、「80歳までの生活費を用意してください、医療・介護の費用は自治体が負担します」といった市が誕生したら、過疎化は一気に解消する？しかし、市の財政がパンクする？

制度として精巧に構築すれば、高齢者消費が活性化したり、新たな都市づくり（働き方や家族形成なども含む）がスムーズに進行できたり…、良いことも沢山期待できそうです。

- 「良かった世代とは何歳であるか」という問いに関して、予想通り、高齢者層は自分より上の世代を示す傾向があり、女性になると更に上、つまり自分からの距離を遠くおこうとする。女性は平均寿命が長いことから、男性よりも上の年齢を示す傾向にある。次世代高齢者層は自分の世代でないことは明らかと思いつつ、やはり女性の示す年齢が上である。この質問の結果そのものは重要とは思わないが、ことほど左様に老後のことは曖昧なものである。「良かった世代」とは過去について聞いているが、その回答ですら不明瞭になるのは、老後についての情報が充分でなく、あまり考えてこなかったことが原因であるのかもしれない。
- 「お金を貯める計画や実行の状況」ということを聞いている。当然、老後のためのお金の準備について聞いている。最も多い回答が「考えることはあるが実行には至っていない」で40%から50%前後である。男女差が多少あるが、女性が高いのはむしろ自省の念が強いと解釈できる。やはり難しい行動なのである。
- では「老後の準備資金をいくつ位の年齢で想定するか」という質問も行った。80歳台に回答が集中している。やはりここでも、高齢者層の女性は90歳台の前半の答えも多い。恐らく何歳まで生きるかという問いに等しい回答であると推察される。
- 「今後必要となる費用」に関しても聞いている。上位3つは「自分の医療・介護費用」「家族の医療・介護費用」「退職後の生活費」である。これらは、いくら必要であるかがわからない。人によってはゼロで済む人もいる。周到に準備していても破産する可能性もゼロではない。

第3部

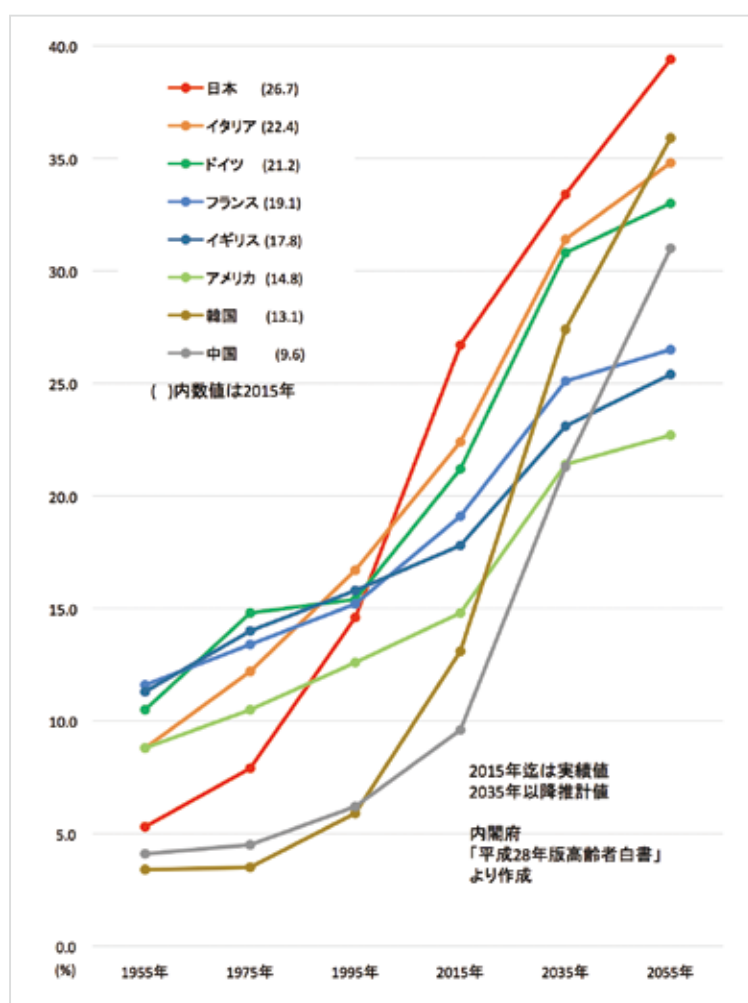
老後の生き方の座標軸研究

1. 問題と目的

1.1 高齢化、進行中

「高齢者」という言葉を見聞きしない日はない。我が国が世界で最も高齢化率が進んでいるので当然なのかもしれない。（図表 39 参照：総人口に対して 65 歳以上の高齢者人口が占める割合を高齢化率という）国連と世界保健機関（WHO）の定義によると、高齢化率が 7%を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えた社会を「高齢社会」、21%を超えた社会を「超高齢社会」と呼ぶ。日本は高齢化率 26.7%（2015年）と 2005 年以降、世界最高の高齢化率であり、推定値であるが 21 世紀半ばまでは世界最高であり続ける。

図表 39 主要国の高齢化率の推移



1.2 超高齢社会とは…

かつて長生きすることは、本人は勿論、家族、友人、社会からも幸せなこととして歓迎された。長寿国家として世界のトップクラスにある日本を、医療（制度）の充実や社会の成熟といったことと共に評価する声が始どであった。しかし、時は移り変わり、急激な高齢化によって、様々な問題が指摘されるようになる。全く別事象である“少子化”問題とセットにされて、看護、介護、年金…これらの負担を掛ける側と掛けられる側といった構造が高齢者問題として取り上げられる。健康寿命の延伸、老老介護、高齢者による自動車事故…、最近よく目にするこれらの言葉は、様々な取り組みや技術開発といったことを急ぐことなども含め、社会問題として扱われることが多い。更に地方都市における深刻な過疎化、

第一次産業従事者の超高齢化といった問題もある。労働力不足が叫ばれる中で、定年延長に関しても、「働けるだけ働くべき」という論調で語られることもあれば、「若者の職場を奪っている」という指摘もあり、高齢者の扱いは社会的弱者ではなく、むしろ加害者として扱われることによって、現代社会の被害者となりつつある感もある。超高齢社会が更に今後も進むことは間違いなく、これら歓迎すべきではない事実にも拍車が掛かることも避けられない。

1.3 高齢者？「ところであなたの年齢は？」

よく話題になるのでご存知の方も多いが、日本の国民的漫画「サザエさん」に登場するサザエさんの父親である「磯野波平」の年齢は54歳である。クイズになるくらいであるから、見た目より実年齢が若いという違和感がありつつ、視聴者にとっては良きおじいさん像、高齢者像のプロトタイプのひとつかもしれない。

2017年早々、日本老年学会、日本老年医学会から「高齢者は75歳から89歳と定義…」という発表がなされた。そもそも65歳以上との定義は医学的・生物学的に明確な根拠がないとのこと。ワーキンググループでの研究・議論の結果、[10～20年前と比較して加齢に伴う身体的機能変化の出現が5～10年遅延しており、「若返り」現象がみられています]と述べられている。参考までにご紹介すると、65歳～74歳は准高齢者、90歳以上は超高齢者と定義されており、先述の「磯野波平」の54歳は全く高齢者ではない。漫画連載開始が1946年、テレビアニメ化が1969年、時代が違う（平均寿命も違う）と言っても良いのかもしれない。

日本老年学会、日本老年医学会による提言のためのワーキンググループの報告書からは重要な示唆が得られる。報告書において、10～20年前の高齢者コホート（集団）と最近の高齢者コホートを健康度や社会貢献性など、様々な点で比較分析されており、その結果、異なるコホートと位置づけている。つまり、かつての高齢者と今の高齢者は異なるということ。この報告書内の提言においては「若返り」が見られるということである。他にも、暦年齢で「老いた人」と片付けることの意味の無さについても指摘されている。

1.4 「団塊の世代」という新たな高齢者像

前述したように「超高齢社会」は確かに急激な変化であり、社会的な問題が生じていることを否定することはできない。そして戦後日本の主役&象徴的存在、「団塊の世代」の高齢化を社会的な問題としてとらえることが増えてきている。社会のシステムやインフラといったものが団塊の世代の人口ボリュームに明らかに追いつけない。ベビーブーマー世代として、経済成長とともにあり、定年を迎えるにあたっては2007年問題、2012年問題、そして定年退職以降も消費においては主役として扱われることも多く、世に“シニア向け”という商品やビジネスがたくさん生まれている。言わば日本の戦後を支えてきた、団塊の世代。日本市場を牽引してきた存在、団塊の世代。その主役たる団塊の世代の高齢化という事実を、そのマイナス面ばかりにフォーカスすれば社会全体が益々疲弊してしまう。ここは視点を変えて、今までもそうであったように、時代を創ってきた団塊の世代に新たな高齢者像を創り出すという立脚点にたって、豊かな老後、魅力的な高齢者生活といったものに少しでも近づくことを考えたい。

団塊の世代はそのボリューム（ベビーブーマー世代）面だけではなく、ノジュール（nodule）つまり塊としての独自性、他とは異質な存在であるという特性の理解も必要かもしれない。ご存知の通り、「団塊の世代」は堺屋太一氏の1976年に出された同名の小説の中で使われた言葉であり、団塊の世代に関しては塊の大きさ（人口ボリューム）とともに独自性が指摘されている。

団塊の世代がユニークな存在であればあるほど、高齢者像の変化も大きいと考えられるが、その一方で「戦後の高齢者の普遍的な姿」といった特徴や影響力を持つものであるかどうかについての疑問も大きくなる。団塊の世代の次の世代、次世代の高齢者も同じような高齢者像を持つのかどうか、それについても考察したい。

1.5 高齢者の“生きがい”に注目

生きがいがあるということが重要であることは何も高齢者に限ったことではない。ただ、一般的に社会での活躍や子育てなどは、意識せずとも生きがいとして存在するということを我々は経験している。乱暴な言い方をすれば50歳ぐらいまでは、特に生きがいを意識しなくても生きがいのある日々を過ごしている。ただ、この前提が加齢によって、例えば仕事への関わりや家族との結びつきが薄れることで崩れてくる可能性があることも事実である。では、高齢者は何に生きがいを求めて生きていけるのか。

「高齢者の日常生活に関する意識調査結果（平成26年度）内閣府」（図表40）にはいくつかの生きがいに関して数値化されている。生きがいの選択肢は、生きがいを感じる時、その瞬間を意図的に強調しているようで、例えば「○○の存在」「自己実現的なもの」「夢」といった対象物を質問の回答選択肢にはしていない。いわば、生き方的な回答を敢えて排除することで、生きがいを「生活の中で（意識して）味わう時間」としてより具体化することで分かりやすくしている。結果はどれも納得できることであり、キーワードとして「趣味」「友人」「家族」「仕事」「奉仕」「啓発」などが浮かび上がってくる。60代、70代、80代と加齢によって、生きがいを味わう時間が明らかに減少する項目、あまり変化の無い項目など現時点での違いが明らかであるが、今後、社会環境の変化（就労や社会参加期間の伸長）、家族構成の変化（生涯未婚率上昇、単身世帯増）などの影響もあり、これらの数値及び年代の違いが今後も変化するであろうことは誰もが感じるところである。

図表40 「平成26年度 高齢者の日常生活に関する意識調査結果」（内閣府）
質問「どのような時に生きがいを感じるか」

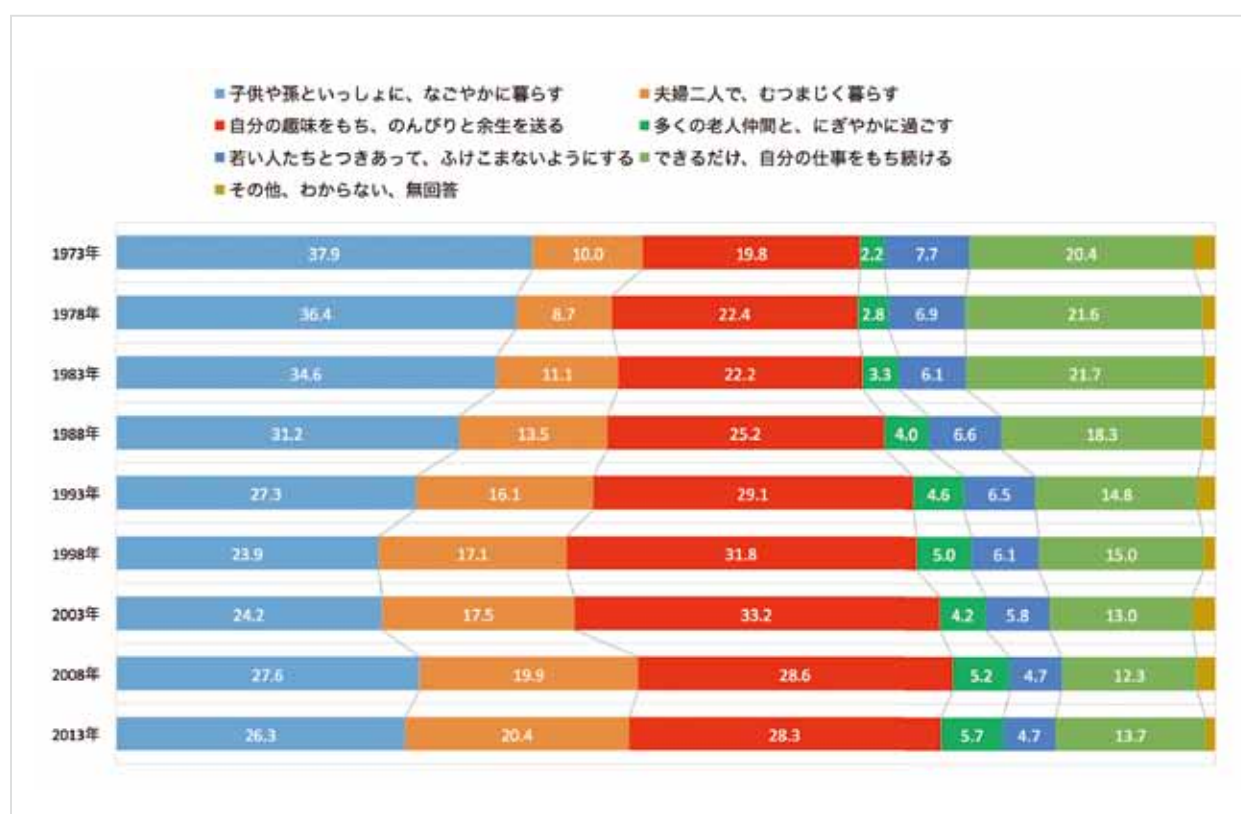


少し視点を変えて、生きがいという位置づけではないが、「老後の生き方」という視点での調査研究に目を向けたい。NHK放送文化研究所による『日本人の意識』調査がある。既に40年に亘り5年おきに個人面接法での調査が行われている。老後の生き方を調べるのは全体の中での1つのテーマに過ぎないが、40年の変遷が興味深い。40年間、選択肢を変えずに調査できることの先見性にも驚かされる。

この調査においては、調査対象者は高齢者に限定しているわけではなく、「日本人の意識」と銘打っているだけに、調査時点での16歳以上の対象者を人口分布で割り振っている。興味深いのは、「なごやか」「むつまじく」「のんびり」といった気持ちについての形容がなされており、そのことも含めて40年の推

移を感じる事が出来る。様々な解釈も可能であると思うが、「子供や孫といっしょに」といったことでは、核家族化や少子化といったこととの関係は無視できない。また、で生涯未婚率が上昇する一方であるにもかかわらず、「夫婦二人で」の老後を志向する率は伸びており、「老人仲間」の着実な伸びも含め、同じ時間を生きている仲間（その特別な存在が夫婦）を拠り所とする意識は強い。また、「趣味」と「仕事」という視点で2つのスコアの変遷をみると、明らかに仕事から趣味へと移行したとも解釈できるが、1973年当時においては趣味と仕事は境界線が引けたと考えられるが、2013年においては、例えば社会貢献的活動は、趣味的でもあり、仕事のでもあるというように境界線がなくなりつつあることも事実であり、加齢のみならず、時代変化の影響についても考慮して意識の推移をみる必要性があると思われる。

図表 41 日本人の意識（％）



注：調査の質問は「リストにはいろいろな老後の生き方がのっています。この中であなたはどれが最も望ましいと思いますか」という問いに対し、上記選択肢がリストとして提供されている。調査対象者は16歳以上で75歳以上のセルもあり、2013年は3070名の有効回答を得ている。上記調査結果は「現代日本人の意識構造 [第8版]」より引用し、図表を作成した。

1.6 “生きがい” 研究の難しさ、奥深さ

内閣府による生きがいに関する調査などをみてきたが、生きがいについて研究しようとして最初にぶつかる壁が、そもそも「生きがい」とは何かということである。英語訳もどこに焦点をあてるか次第で幾通りもの言葉がある。幸福感に近いものもあれば、生きる意味的なものも存在する。「はりあい」「やりがい」と言いかえようすると選択肢が増えるばかりである。文献をあたってみると多くの研究者によって引用されている中に、『生きがいについて』（神谷美恵子, 1966）がある。以下にご紹介したい。

生きがいということばの使いかたには、ふた通りある。この子は私の生きがいです、などという場合のように生きがいの源泉、または対象となるものを指すときと、生きがいを感じている精神状態を意味するときと、このふたつである。

神谷氏は生きがいを「生きがいの源泉や対象となるもの」と「生きがいを感じている精神状態」の2つに分けている。前者を「生きがい」、後者を「生きがい感」と呼んでいる。このことは以降の研究において非常に有意に機能している。ただ、それでも難しいのは神谷氏も述べているように、生きがいの対象や源泉が全く同じであっても、生きがい感を感じるかどうかは異なるということである。仕事からの解放が福音となる人もいれば、むしろ生きがいの消失になる人もいる。また、「仕事が生きがいです」と言っても、お金を得ることでの生活の安寧による生きがいを感じる人がいたり、無償の仕事で社会に役立つことで生きがいを感じる人がいたりすることはご存知の通りである。生きがいの対象や源泉が生きがい感と直結したり、規定したりできるとも限らない。今更ながら人生十人十色という印象を受けてしまう。

1.7 “既にある未来” がテーマ

高齢者の生きがいを考える上で重要なことは、既に現在おかれている環境や諸条件によって今後の老後の行き方に影響を与える様々な制約が生まれているということである。家庭、仕事、友人といった範囲だけではなく、例えば長年かけて形成された自らの性格によって悲観的、楽観的といったことも制約的に働くことがある。つまり、様々な制約との関係において生きがいや生き方追及といったことを考えなければならない。高齢者の生き方探しは自由度や選択肢の幅や伸びしろの大きい若者のそれとは明らかに異なるのである。

故に、高齢者の基本的属性（例えば家族形態、健康状態、仕事の有無など）を単純に確認すれば充分というものでもなく、例えば「配偶者とは仲よくやっていける」「病気とは上手く付き合える」といった生き方を方向付ける、影響力をもつ本人の認識が重要となる。それは老後の生き方に影響を与える現況、ある意味“既にある未来”とも言える。これらを出発点として調査確認したうえで、本当の未来（老後）に向かったの生き方、生きがいとの関係を明らかにできれば、高齢者の生きがい、老後の生き方が分かりやすくなる。未来に繋がる現状についての自己認識と、今後の生き方との関係を調べることを研究のテーマとしたい。

1.8 次世代高齢者の意味

そもそもの高齢者研究のきっかけが、団塊の世代が高齢者になる（なっている？）ということの社会的問題性な扱いに対しての疑問から出発している。そして、新たなスタンダードを作り続けたとも言える社会や市場の主役である団塊の世代によって、新たな老人像、老後の生き方、生きがいの形成といったことを確認できるかどうかということを研究のテーマとしたいということは既に述べたとおりである。そのためにも団塊の世代に固有の現象や特性といったものを検証する意味や、高齢者予備軍の老後に対する意識を探るといったことから、次世代（本研究では51歳から60歳）の高齢者についても、研究対象として対比させながら検証を行いたい。

先述した日本老年学会、日本老年医学会の2017年1月の発表によれば、75歳以上を高齢者としている。つまり、調査時点（2016年9月）で団塊の世代は高齢者とは言えない。次世代高齢者研究は高齢者としての団塊の世代とその次の世代との対比での研究を行うことを想定していたが、その団塊の世代ですら高齢者予備軍であるとも言える。つまり、団塊の世代は今も高齢者になる準備段階として、自らの生きがい探し、生きがい感充足に向けての準備が可能な時期であると解釈できる。結果的に本研究が団塊の世代にとっても、未来に向かったの準備を模索する一つの機会となるわけである。

1.9 本研究の目的

超高齢社会において、その存在のもたらすインパクトが大きい、団塊の世代を中心とする 70 歳前後（66 歳から 75 歳）の高齢者層と、まだ高齢者という自覚が無い世代、次世代高齢者層（51 歳から 60 歳）を対象に、老後に対する意識（生き方）を調査し、比較を行う。その前提として、現在自分の置かれている状況や今後にも影響すると思われる環境や諸条件についても確認し、それらの関係性についても考察を行う。

現状から今後の生き方をどう意識しているのかを調べることとなる。その結果、人生の晩年を生きていく上での何らかの視座、手掛かりに繋がるものを得たいと考えている。

生きがいに関する研究の深遠さ、幅広さを考えると、本研究も一つの試みとして、次なる研究へと繋がればと切望する次第である。



2. 研究方法

2.1 対象者及び調査の方法

本研究の元となるデータは「次世代高齢者調査」である。概要について再度紹介すると、東京 30km 圏に在住の 51 歳から 75 歳の男女を調査対象とした。標本抽出はエリアサンプリング、調査方法は訪問留置法にて実施。有効回収数は 500 名であり、男女構成比を半分とした。調査は 2016 年 10 月 28 日より 11 月 14 日にかけて実施した。

2.2 本研究の調査項目として利用した質問

①基本属性

年齢、未既婚、同居家族人数、学歴、就業状況についてたずねる質問項目

②現状と今後の見通し

老後の生き方を選択する際に影響を及ぼすと考えられる現状の要素（条件）を大きく 9 つのジャンルに分け、各ジャンルに 5 つの質問を用意した。そして、合計 45 の質問に、該当する / しないの二者択一で回答を求めた。（図表 42 参照）

9 つのジャンルは「1. 仕事」「2. 学び」「3. 趣味」「4. 配偶者」「5. 家族」「6. 友人」「7. 健康」「8. 経済」「9. 社会」とした。老後の生き方との関係性をみるための、現状認識、現状確認の質問項目と位置づけている。可能な限りジャンル間の重なりを避け、ジャンル内の質問に関しても同じテーマ内にあって、異なる対象となるような質問であることに留意した。

図表 42 「9つのジャンルと質問概要及び質問」

ジャンル	質問概要	質問	
仕事	現状の仕事継続のみならず、新規にも仕事をするという意識	1	生涯仕事を続ける／続けられる
		2	肩書や名刺に書けることが自分にある
		3	会社・組織・団体に定期的に行くことになる
		4	地域の仕事を続ける／始める
		5	頼まれて、すべきことがある
学び	活動として既に学ぶ機会を得ているもしくは検討している	6	社会人学校などで学びたい／学んでいる
		7	新たに取りたい資格がある／取る予定
		8	図書館などでいろいろ学ぶことが好き／学んでいる
		9	美術や芸術に時間を費やしたい／費やしている
		10	勉強会や研究の機会に参加したい／参加している
趣味	趣味に時間も費やし、たくさんのかことを得ている状況	11	大好きな趣味がある
		12	ずっと続けている趣味がある
		13	趣味を通じて知り合った仲間がいる
		14	新たに始めたいと思っている趣味がある
		15	趣味が多いほうだと思う
配偶者	配偶者との関係がよく、今後もその関係が続く	16	妻（夫）とは、これからも上手くやれると思う
		17	頼りになるのはやはり妻（夫）だと思う
		18	好きな人との時間をこれからも大事にする
		19	妻（夫）とは何でも話せる関係である
		20	妻（夫）とは共通の友人がいる
家族	期待する子や孫、サポートしてくれる家族の存在	21	将来が楽しみな子ども・孫がいる
		22	近くで世話してくれる親族がいる
		23	自分を必要とする家族がいる
		24	家族ぐるみで付き合う人たちがいる
		25	家族同然のペットがいる
友人	助け合える親友、楽しい仲間がいて今後も付き合い合える	26	親友と呼べる友人がいる
		27	比較的よく会う楽しい仲間がいる
		28	お互いに助け合える友人がいる
		29	継続的に旅行に行く仲間がいる
		30	学生時代からの友人がいる
健康	健康に自信があり、病気とも上手く付き合えると思っている	31	健康面には自信がある
		32	ある程度の病気やけがには備えているつもり
		33	家族も大きな病気はない
		34	病気とはうまく付き合っていけると思う
		35	すでに大病も経験したが何とかなっている
経済	老後に関しては経済的な備えもあり、特に困らないだろうと思っている	36	老後は経済的には困らないと思う
		37	老後の生活資金は充分
		38	老後の不測の事態に備えて蓄えている
		39	余裕はないが年金も含め困らないと思う
		40	経済的には何とかなると思っている
社会	社会的に受けいれられる、上手く交わっていく自己肯定感がある	41	誰とでも友達になれる自信がある
		42	友人はすぐにできるほうである
		43	人との出会いは楽しみである
		44	近所に仲間や友人がいる
		45	さまざまな機会に人をよく紹介される

③老後の意識

「老後」に関する意識について45の選択肢から該当するものを選択する形で回答を求めた。(図表43参照) 45の選択肢については、生きがい(の対象)や生きがい感に近いもの、信条や目標、取り組むことなどを網羅することに努めた。質問文として、老後に関する自己の思いを答えるように設定している。例えば、時間軸としての長いもの・短いもの、能動的なこと・受身なこと、など混在している。

図表 43 「老後」に関する意識 《45の選択肢》

-
- | | |
|----|---------------------------|
| 1 | 自由な時間を楽しみたい |
| 2 | 楽しみにしている計画がある |
| 3 | 新たな出会いや機会が楽しみである |
| 4 | 忙しさから解放されて自由にやりたい |
| 5 | 感動や刺激のある暮らしがしたい |
| 6 | 家族と楽しく暮らしたい |
| 7 | 子どもの成長や孫との時間は楽しみ |
| 8 | のんびり出来ることが幸せ |
| 9 | 夫婦の時間を楽しみたい |
| 10 | 今の生活の延長で楽しみたい |
| 11 | 仲間や友人と過ごす時間が楽しみ |
| 12 | 新たに友人を作ろうと思っている |
| 13 | 会合や集まりに呼ばれることはいやではない |
| 14 | 友人には恵まれているほうだ |
| 15 | 後輩や若者との交流は今後も続ける |
| 16 | 生涯、仕事を続ける |
| 17 | 頼まれたこと(役割・仕事)には応えたい |
| 18 | 年老いても役立てるのは幸せなこと |
| 19 | 幹事とか世話役をよく頼まれる |
| 20 | 期待されている間は頑張りたい |
| 21 | 高齢ゆえの活躍の場があると思っている |
| 22 | 新たな仕事や組織で活躍したい、活躍するつもりである |
| 23 | まだまだ若い人に負けないこともある |
| 24 | ボランティア活動など、人や社会の役に立ちたい |
| 25 | 世の中に貢献するのが高齢者の務め |
| 26 | 仕事や子育てが終わって自分の世界を楽しむ |
| 27 | 時間が出来たらやろうとしていたことがある |
| 28 | 挑戦し続けたい自分がいる |
| 29 | 昔の仲間と再会したり、再び親交を深める |
| 30 | 昔、出来なかった夢に取り組む |
| 31 | 健康づくりのために運動などを始める |
| 32 | 近所で友人を作るようにする |
| 33 | 時間を有効活用できるように何か始める |
| 34 | 身体のためにも散歩やジム通いをする |
| 35 | 新たな生活のスタイルを作りたい |
| 36 | 家族に迷惑をかけないように計画を練る |
| 37 | 健康維持に繋がることはできるだけやる |
| 38 | 一人でも暮らせるように準備する |
| 39 | 生活維持のための蓄えをして備える |
| 40 | 老後の生活などを家族で話し合う |
| 41 | 動けるうちは働くつもり |
| 42 | 今まで通り、特に変わったことはしない |
| 43 | 心配する暇があれば動くほうが好き |
| 44 | 将来のことはわからないから今日を頑張る |
| 45 | 人並みであればよい |
-

3. 結果と考察

3.1 基本属性

調査対象者（合計 500 名）から、51 歳から 60 歳（次世代高齢者層）200 名と、66 歳から 75 歳（団塊の世代を含む高齢者層）200 名を抽出し 2 つに分けて図表 44 に示す。性別は各々、男女半々（100 名ずつ）となるように調査設計して回収を行った。

配偶者に関しては、次世代高齢者層の内 92.0%が「配偶者がいる」と答え、離別や死別が 7.0%、未婚者が 1.0%である。一方、高齢者層は 82.0%が「配偶者がいる」と回答し、離別・死別が 17.0%と増加する。同居家族数は、次世代高齢者層が 4 人家族の世帯が 38.5%と最も多く、高齢者層においては 2 人家族世帯が 43.5%と最も多い。最終学歴においては、次世代高齢者層、高齢者層ともに高校卒が 40%前後と最も多く、それに 4 年生大学・大学院卒が続いている。中学卒は高齢者層が多く、次世代高齢者においては専門学校や短大卒が多く、4 年生大学・大学院卒と殆ど変わらない。

ついで、就業状況に関しては、次世代高齢者層は全体の 87.5%が就業している状態にある。その一方で、高齢者層は 41.5%が就業していると回答している。就業状況の違いは当然のこととして、存在する。

図表 44 対象者の属性

属性項目		比率	
		51歳～60歳（200名）	66歳～75歳（200名）
性別	男性	50.0	50.0
	女性	50.0	50.0
配偶者	配偶者がいる	92.0	82.0
	独身（離別・死別）	7.0	17.0
	独身（未婚）	1.0	1.0
同居家族人数	1人（単身）	3.0	10.5
	2人	16.5	43.5
	3人	24.5	21.0
	4人	38.5	9.5
	5人以上	17.5	15.5
最終学歴	中学卒	2.5	12.0
	高校卒	36.0	40.5
	専門学校・短大等*1	30.5	19.5
	4年生大学・大学院	31.0	28.0
就業状況収入を伴う仕事	就業している*2	87.5	41.5
	就業していない	12.5	58.5

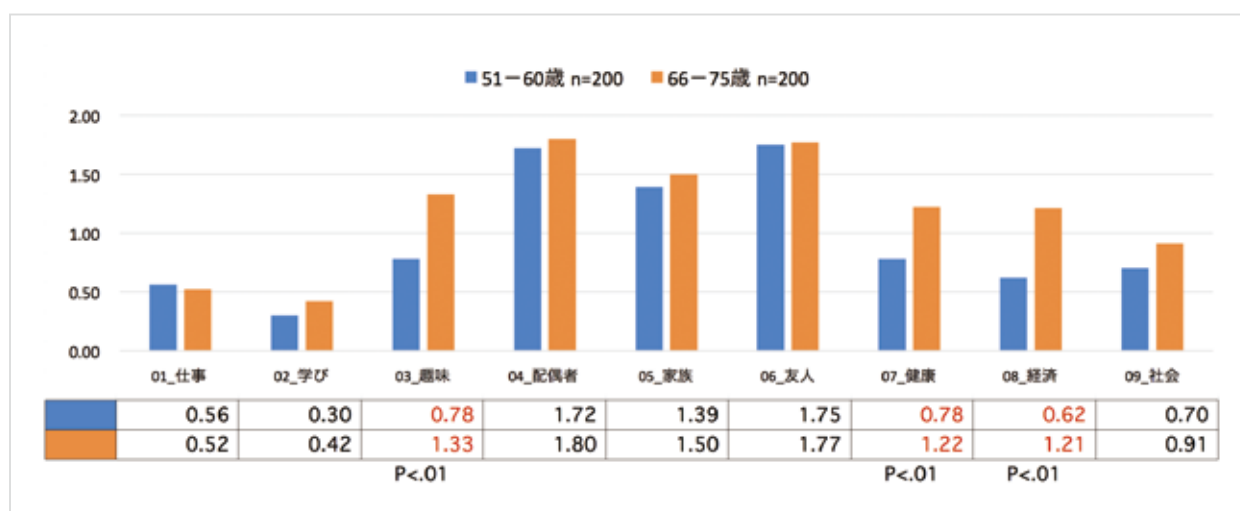
*1 「専門学校・短大等」は専修学校・高専を含む

*2 「就業している」は収入を伴う仕事への従事とし、就業形態は「正規社員、パート・アルバイト、役員・経営者・個人事業主」とした。

3.2 現状と今後に関する見通しの結果

先述した（2.2. ②現状と今後の見通し）ように、老後の生き方を選択する上で、現状と今後の見通しに着目して9つのジャンルを設定し、各5問評価得点の合計の平均値を求めた。各ジャンル内の質問は5つであり、全てに該当すると5点となり、全てに該当しなければ0点である。質問は全て現状と今後の見通しに対して該当する場合は、肯定的なものとなっているため、単純にスコアが高ければ肯定的な状況と認識していることとなる。高齢者層（66歳から75歳）のみならず次世代高齢者層（51歳から60歳）に注目したことが本研究の特徴であり、その観点から両者を比較した。（図表45参照）

図表45 現状と今後の見通しに関する評価得点



高齢者層と次世代高齢者層との評価得点を比較すると、「1. 仕事」以外は全て、高齢者層の得点が高いという結果が得られた。図表 45にあるように、2つの層は「3. 趣味」「7. 健康」「8. 経済」の3つのジャンルにおいて1%水準で有意な差が見られた。(t 検定を実施)

これらの得点結果から、いくつかの仮説が考えられる。既に高齢者生活に入る、もしくはその認識が高まることによって「自分のペースや生活スタイルが現実のものとなる。その結果、経済的にも健康的にも将来(老後全体)の予測ができる。そして不安が解消される」といったことがあるかもしれない。それとは逆に、次世代高齢者層には漠然とした「高齢者になることの不安(老後への不安)」があることが推測される。

また、「3. 趣味」における有意な差からは、高齢者層が趣味に取り組む時間や趣味探しの時間を既に手に入れているのに対し、次世代高齢者層は就業率も高く時間的に余裕がなく、実体化していないということが指摘できるであろう。

以上のように、高齢者層と次世代高齢者層を比較してみた場合、高齢者生活に入ることによって「趣味」の自己実現、「健康」「経済」の『何とかなる』という自信に近い意識が伺える。また、「配偶者」「家族」「友人」に関しては得点において2つの層に大きな違いがないことから、準備による違いや意識の変化が次世代高齢者層と高齢者層ぐらいの年齢差では起き難いのかかもしれない。50歳の頃には「配偶者」「家族」「友人」といった関係性は既に成立している、固定化していると言えるのかかもしれない。

やや飛躍しているかもしれない仮説として、以下も考えられる。66歳から75歳は、団塊の世代や戦中世代である。「戦後、日本の成長とともにある」と言っても良いかもしれないし、戦後日本を創造してきた(その洗礼を全身に浴びてきた)世代と言っても良いかもしれない。世代論的な見方をすれば、この世代が次世代高齢者層の世代よりも、楽観的、ポジティブシンキングといった印象を受けるのは、時代を切り開いてきた開拓者的なタフさ、もしくはその自負を持ち合わせていることが背景にあるのかかもしれない。

社会的な要因としては、年金の問題一つとっても、若い世代ほど現時点では将来展望が見えづらい。20代の人の老後はまだ考えるタイミングではないにせよ、50代ともなれば考える時期となる。その際に「逃げ切り世代」という言葉が当てはまるかどうか別にして、逃げ切れるかどうかといったことがあるとすれば、より高齢である方が有利と言える。このような要因も加味して考えるべきであることは間違いない。

3.3 老後に関する意識調査の結果

高齢者層と次世代高齢者層の各々に「老後の意識」に関する設問（45問）について主成分分析を行った。先述の『生きがい』と同様に、老後の意識（老後の生き方、信条、目標…）も様々であり、それらを主成分分析によって、整理してみようという試みである。

①高齢者層における老後意識

主成分分析の結果、因子を11とした（累積負荷量で50%を越えるところを目安とした）。因子の名称に関しては、やや冗長かもしれないが、どのような老後の生き方を志向しているかということを表すように心がけた。（図表46参照）

図表46 高齢者層（66歳～75歳）における老後の意識 主成分分析結果

66～75歳 n=200	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	因子7	因子8	因子9	因子10	因子11
主成分負荷量	NEWシニア スタイルの模索	仲間との交流 を楽しむ	夫婦・家族との 楽しい暮らし	楽しみな計画 や時間と期待	自由にのんびり 楽しむ	周囲の期待に 応え続けたい	実りある時間への 挑戦	生涯仕事を続 ける	迷惑を掛けず自 立して生きる	新たな出会い を楽しむ	夢を追い、 自己実現する
新たな生活のスタイルを作りたい	0.71	-0.03	0.04	-0.03	0.03	0.09	0.14	0.02	0.04	-0.08	-0.02
高齢ゆえの活躍の場があると思っている	0.70	0.14	0.07	0.27	0.11	0.06	0.07	-0.06	0.17	0.14	0.00
昔の仲間と再会したり、再び親交を深める	0.58	0.31	0.10	0.14	0.04	-0.06	0.02	0.07	0.07	0.09	0.32
近所で友人を作るようにする	0.40	0.20	0.15	-0.05	0.03	0.39	0.07	-0.23	-0.06	0.23	-0.04
世の中に貢献するのが高齢者の務め	0.39	0.30	0.17	0.02	0.14	0.25	0.31	0.27	0.01	-0.11	0.21
会合や集まりに呼ばれることはいやではない	0.19	0.76	0.04	-0.14	-0.04	0.12	-0.02	0.11	0.05	0.07	-0.05
後輩や若者との交流は今後も続ける	0.06	0.63	0.08	0.24	0.03	0.14	0.14	0.11	-0.11	0.07	-0.02
友人には恵まれているほうだ	0.01	0.63	0.10	0.19	0.16	0.08	0.17	0.09	0.11	0.05	0.09
仲間や友人と過ごす時間が楽しみ	0.13	0.48	0.04	0.31	0.03	0.07	0.08	-0.07	0.48	0.08	-0.03
家族と楽しく暮らしたい	0.11	0.06	0.73	0.09	-0.01	0.02	0.01	0.00	-0.09	0.08	-0.04
夫婦の時間を楽しみたい	0.09	0.07	0.64	0.01	0.11	0.16	0.14	-0.12	-0.23	0.06	-0.01
今の生活の延長で楽しみたい	0.04	0.06	0.63	-0.01	-0.06	0.13	-0.12	0.06	0.35	0.00	0.13
楽しみにしている計画がある	0.06	0.05	-0.08	0.68	0.07	-0.04	0.03	-0.08	0.06	0.11	0.29
期待されている間は頑張りたい	0.11	0.20	0.30	0.53	0.05	0.17	0.11	0.18	0.05	-0.02	-0.02
年老いても役立てるのは幸せなこと	0.17	0.22	0.07	0.49	-0.08	0.35	0.08	0.18	0.05	0.08	-0.06
子どもの成長や孫との時間は楽しみ	0.09	-0.04	0.17	0.34	0.23	0.19	-0.07	-0.23	-0.01	-0.11	0.03
忙しさから解放されて自由にやりたい	0.15	-0.05	-0.10	0.14	0.68	0.09	0.19	-0.05	0.01	-0.05	0.12
のんびり出来ることが幸せ	0.02	0.12	0.04	-0.02	0.63	-0.05	-0.16	-0.02	0.10	0.07	-0.13
自由な時間を楽しみたい	0.06	0.05	0.12	-0.13	0.53	0.31	0.01	-0.21	0.35	-0.06	0.08
仕事や子育てが終わって自分の世界を楽しむ	0.02	0.21	0.23	0.13	0.50	-0.21	0.14	0.11	-0.01	0.21	0.28
幹事とか世話役をよく頼まれる	0.07	0.19	0.08	0.10	0.04	0.75	0.11	0.07	-0.02	0.05	0.03
まだまだ若い人に負けないこともある	-0.11	0.03	0.28	0.16	0.13	0.47	-0.11	0.32	0.12	0.18	0.11
頼まれたこと（役割・仕事）には応えたい	0.25	0.11	0.00	0.36	-0.02	0.38	0.04	0.25	0.15	0.12	0.07
挑戦し続けたい自分がいる	0.09	0.21	-0.04	0.09	0.00	0.14	0.73	0.05	0.01	0.19	0.15
時間を有効活用できるように何か始める	0.19	0.05	0.09	-0.03	0.24	-0.09	0.62	0.02	0.12	-0.11	0.19
動けるうちは働くつもり	0.17	-0.03	0.03	0.02	-0.08	0.09	0.14	0.80	0.04	-0.03	-0.09
生涯、仕事を続ける	-0.14	0.28	-0.07	0.02	0.00	0.02	-0.06	0.78	-0.08	0.00	0.03
一人でも暮らせるように準備する	0.16	-0.03	-0.17	-0.07	0.14	0.05	0.01	0.00	0.69	-0.01	0.17
生活維持のための蓄えをして備える	0.12	0.01	0.13	0.28	-0.04	0.06	0.46	0.08	0.52	0.16	-0.02
家族に迷惑をかけないように計画を練る	-0.04	0.27	0.04	0.31	0.22	-0.29	0.11	-0.04	0.47	-0.07	0.11
新たな出会いや機会が楽しみである	0.21	-0.04	0.02	0.07	0.02	0.09	-0.04	-0.08	0.05	0.79	-0.04
新たに友人を作ろうと思っている	-0.13	0.28	0.14	0.05	0.01	0.11	0.22	0.07	-0.04	0.74	0.03
昔、出来なかった夢に取り組む	0.07	0.00	-0.03	0.05	0.00	0.01	0.11	-0.11	0.11	-0.04	0.80
時間が出来たらやろうとしていたことがある	0.05	-0.04	0.03	0.31	0.27	0.23	0.17	0.12	0.16	0.09	0.55
新たな仕事や組織で活躍したい、活躍するつもりである	0.31	0.07	0.15	0.35	0.08	-0.01	0.06	0.13	-0.09	-0.16	0.42
累積負荷量%	6.3	11.7	16.5	21.1	25.7	30.1	34.5	38.8	43.0	46.9	50.8

因子抽出法: 主成分分析

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

累積負荷量50%を目安として因子を設定。

11の因子は以下の通りである。

- 因子 1 NEW シニアスタイルの模索
- 因子 2 仲間との交流を楽しむ
- 因子 3 夫婦・家族との楽しい暮らし
- 因子 4 楽しみな計画や時間と期待
- 因子 5 自由にのんびり楽しむ
- 因子 6 周囲の期待に応え続けたい
- 因子 7 実りある時間への挑戦
- 因子 8 生涯仕事を続ける
- 因子 9 迷惑を掛けず自立して生きる
- 因子 10 新たな出会いを楽しむ
- 因子 11 夢を追い、自己実現する

これらの11の因子をその特性によってマトリクス分類を行った。(図表 47)

一つ目の分類の軸は、「継続的なこと（今を起点に続けること）」「新規に始めること（老後になって始める）」というタイミングを示す軸。後一つは、「自由／楽しさ追求」「使命感／実現欲求」という欲求の対象の違いを示す軸。当然、良いとか悪いといった分類でないことは言うまでもない。どこに位置するのか、自分に適するのは何か、老後の生き方の大まかな分類と考えられる。

図表 47 11 因子のマトリクス分類（高齢者層）

	継続的なこと	新規に始めること
自由／ 楽しさ追求	②仲間との交流を楽しむ ③夫婦・家族との楽しい暮らし ④楽しみな計画や時間と期待	⑤自由にのんびり楽しむ ⑩新たな出会いを楽しむ ⑪夢を追い、自己実現する
使命感／ 実現欲求	⑥周囲の期待に応え続けたい ⑧生涯仕事を続ける ⑨迷惑を掛けず自立して生きる	①NEWシニアスタイルの模索 ⑦実りある時間への挑戦

②次世代高齢者層における老後意識

次に次世代高齢者層を対象とした主成分分析を行い、その結果、因子を10とした（累積負荷量で50%を越えるところを目安とした）。（図表48参照）

図表48 次世代高齢者層（51歳～60歳）における老後の意識 主成分分析結果

51～60歳 n=200	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	因子7	因子8	因子9	因子10
主成分負荷量	新たな生活、 変化への挑戦	友人関係を大事に 生きる	高齢者として 貢献したい	老後は迷惑を 掛けない	夢を追い、 自己実現する	健康的で交流 のある暮らし	夫婦・家族との 楽しい暮らし	生涯仕事を 続ける	自由にのんびり 楽しむ	時間があるだろ うから頑張る
挑戦し続けたい自分がいる	0.75	0.12	0.18	0.04	0.11	0.05	0.03	0.21	0.03	0.00
新たに友人を作ろうと思っている	0.73	0.00	0.13	0.12	0.06	0.22	0.03	0.14	0.00	0.02
新たな出会いや機会が楽しみである	0.70	0.05	0.20	-0.01	0.26	0.06	0.06	0.12	0.07	0.08
感動や刺激のある暮らしがしたい	0.63	0.31	-0.07	0.01	-0.03	0.02	0.13	-0.09	0.05	0.28
会合や集まりに呼ばれることはいいやではない	0.46	0.43	0.07	0.05	0.06	0.24	0.20	-0.02	-0.05	-0.03
新たな仕事や組織で活躍したい、活躍するつもりである	0.45	-0.11	0.24	-0.01	0.06	-0.12	-0.01	0.28	0.12	0.25
友人には恵まれているほうだ	0.07	0.73	0.06	0.13	0.18	0.00	0.07	0.07	0.16	-0.01
仲間や友人と過ごす時間が楽しみ	0.06	0.70	0.13	0.14	0.19	0.07	0.03	0.20	-0.01	0.06
頼まれたこと（役割・仕事）には応えたい	0.26	0.57	0.34	-0.03	-0.06	0.06	0.01	0.05	-0.02	0.12
年長いても役立てるのは幸せなこと	0.12	0.46	0.36	0.23	-0.07	0.28	0.07	0.05	0.04	0.22
高齢者への活躍の場があるとと思っている	0.17	0.08	0.82	0.13	0.05	0.02	-0.04	0.03	0.07	-0.01
世の中に貢献するのが高齢者の務め	0.16	0.21	0.62	0.01	0.08	0.04	0.17	0.12	0.00	0.10
ボランティア活動など、人や社会の役に立ちたい	0.43	0.20	0.54	0.02	0.17	0.21	0.08	-0.20	0.01	0.00
健康維持に繋がることはできるだけやる	0.09	0.10	0.52	0.33	0.00	0.33	0.17	0.06	0.09	0.19
期待されている間は頑張りたい	0.12	0.23	0.45	0.13	-0.08	0.19	0.13	0.08	0.01	-0.13
生活維持のための蓄えをして備える	0.00	0.19	0.02	0.68	0.06	0.13	0.14	0.13	0.03	0.17
老後の生活などを家族で話し合う	0.07	-0.01	0.13	0.67	0.30	-0.03	0.25	0.11	0.12	0.10
家族に迷惑をかけないように計画を練る	-0.05	0.07	0.23	0.63	0.14	-0.01	-0.03	-0.09	0.06	0.01
一人でも暮らせるように準備する	0.22	0.15	-0.01	0.58	-0.07	0.28	-0.30	-0.07	0.14	-0.02
昔、出来なかった夢に取り組む	0.11	0.04	0.02	-0.02	0.76	0.20	-0.01	0.00	-0.02	0.08
楽しみにしている計画がある	0.13	0.10	0.00	0.31	0.65	-0.15	0.11	-0.17	-0.05	-0.15
時間が出来たらやろうとしていたことがある	0.09	0.13	0.04	0.13	0.63	-0.05	0.11	0.13	0.22	0.12
新たな生活のスタイルを作りたい	0.19	0.18	0.21	0.17	0.43	0.18	0.11	-0.04	-0.05	0.14
まだまだ若い人に負けないこともある	0.27	-0.10	0.25	-0.05	0.35	0.12	0.08	0.24	0.21	0.31
健康づくりのために運動などを始める	0.09	-0.05	0.14	0.28	-0.03	0.67	0.16	0.14	0.08	0.17
昔の仲間と再会したり、再び親交を深める	0.17	0.21	0.11	-0.15	0.20	0.64	0.00	0.09	0.15	-0.01
身体のためにも散歩やジム通いをする	0.34	0.17	0.13	0.11	0.07	0.54	0.15	-0.07	0.17	0.03
夫婦の時間を楽しみたい	-0.05	0.07	0.06	0.19	0.11	0.08	0.72	0.02	-0.05	0.01
家族と楽しく暮らしたい	0.08	0.00	0.05	0.00	-0.01	0.05	0.72	0.02	0.13	-0.11
子どもの成長や孫との時間は楽しみ	0.21	0.09	0.06	-0.04	0.06	0.08	0.70	-0.04	0.04	0.19
生涯、仕事を続ける	0.18	0.07	-0.04	-0.05	0.04	0.13	-0.17	0.73	-0.12	-0.03
動けるうちは働くつもり	0.07	0.16	0.07	0.16	-0.07	-0.02	0.18	0.73	-0.02	0.11
後輩や若者との交流は今後続ける	0.31	0.31	0.14	-0.06	0.20	0.12	0.05	0.45	0.11	-0.09
自由な時間を楽しみたい	0.16	0.19	-0.07	0.02	0.01	0.01	0.09	-0.07	0.70	-0.04
のんびり出来ることが幸せ	0.03	-0.13	-0.02	0.27	-0.07	0.09	0.09	-0.02	0.60	0.12
忙しきから解放されて自由にやりたい	-0.07	0.00	0.20	0.04	0.18	0.21	-0.06	-0.02	0.59	-0.10
時間を有効活用できるように何か始める	0.16	-0.03	0.04	0.22	0.22	0.31	0.07	0.01	-0.03	0.60
将来のことはわからないから今日を頑張る	0.15	0.37	-0.04	0.14	-0.13	-0.10	-0.04	0.08	-0.05	0.55
仕事や子育てが終わって自分の世界を楽しむ	0.05	0.15	0.27	0.02	0.14	0.06	0.03	-0.04	0.47	0.49
累積負荷量%	7.7	13.7	19.7	25.3	30.6	35.3	39.9	44.0	47.9	51.7

因子抽出法: 主成分分析

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

累積負荷量50%を目安として因子を設定。

10の因子は以下の通りである。

- 因子 1 新たな生活、変化への挑戦
- 因子 2 友人関係を大事に生きる
- 因子 3 高齢者として貢献したい
- 因子 4 老後は迷惑を掛けない
- 因子 5 夢を追い、自己実現する
- 因子 6 健康的で交流のある暮らし
- 因子 7 夫婦・家族との楽しい暮らし
- 因子 8 生涯仕事を続ける
- 因子 9 自由にのんびり楽しむ
- 因子 10 時間があるだろうから頑張る

これらの10の因子を高齢者層と同様にその特性によってマトリクス分類を行った。(図表 49)
分類の軸は図表 47 と同じである。

因子の名称をご覧いただいて分かるように、高齢者層の因子と同様のものもあれば、異なるものもある。次世代高齢者層にとって、老後がまだ曖昧なものであるということも手伝って、総じて分類する上で明解なものではない。例えば、下記のマトリクス分類で言えば、「因子 6_ 健康的で交流のある暮らし」は交流を楽しむよりも健康でなければならないという使命感が強く、表の中の下の分類に入れてもよいかと判断に苦しんだ。また、象徴的な因子名として「因子 10_ 時間があるだろうから頑張る」というものがあり、『老後は時間がありそうだから何かしなくては…』といった意識を表しており、自己実現の中身自体がまだ見えていないという状況を感じ取れる。

図表 49 10 因子のマトリクス分類（次世代高齢者層）

	継続的なこと	新規に始めること
自由／ 楽しさ追求	②友人関係を大事に生きる ⑦夫婦・家族との楽しい暮らし	⑤夢を追い、自己実現する ⑥健康的で交流のある暮らし ⑨自由にのんびり楽しむ
使命感／ 実現欲求	④老後は迷惑を掛けない ⑧生涯仕事を続ける	①新たな生活、変化への挑戦 ③高齢者として貢献したい ⑩時間があるだろうから頑張る

3. 4 高齢者層と次世代高齢者層との因子比較

高齢者層で 11 因子、次世代高齢者層で 10 因子、老後意識を主成分分析した結果である。2 つのグループに共通の因子、異なる因子といった比較をすることで、高齢者層と次世代高齢者層について考察してみたい。(図表 50 参照)

図表 50 高齢者層と次世代高齢者層の老後意識の因子比較

	高齢者層《66-75歳》		次世代高齢者層《51-60歳》
共通因子	因子3_夫婦・家族との楽しい暮らし	=	因子7_夫婦・家族との楽しい暮らし
	因子5_自由にのんびり楽しむ	=	因子9_自由にのんびり楽しむ
	因子8_生涯仕事を続ける	=	因子8_生涯仕事を続ける
	因子11_夢を追い、自己実現する	=	因子5_夢を追い、自己実現する
ほぼ 共通因子	因子1_NEWシニアスタイルの模索	≒	因子1_新たな生活、変化への挑戦
	因子2_仲間との交流を楽しむ	≒	因子2_友人関係を大事に生きる
	因子9_迷惑を掛けず自立して生きる	≒	因子4_老後は迷惑を掛けない
高齢者層 固有因子	因子4_楽しみな計画や時間と期待		
	因子6_周囲の期待に応え続けたい		
	因子7_実りある時間への挑戦		
	因子10_新たな出会いが楽しみ		
次世代 高齢者層 固有因子			因子3_高齢者として貢献したい
			因子6_健康的で交流のある暮らし
			因子10_時間があるだろうから頑張る

【共通因子】 高齢者層と次世代高齢者層に共通してみられる因子

「夫婦・家族との楽しい暮らし」「自由にのんびり楽しむ」「生涯仕事を続ける」「夢を追い、自己実現する」以上、4 つが存在する。高齢者層でも次世代高齢者層でも共通しているということは、普遍的な老後意識であると考えられる。これら普遍的 4 因子を更に整理すると、以下のように考えられる。

「夫婦・家族との楽しい暮らし」 → 家族を基盤に生きる
「生涯仕事を続ける」 → 仕事が自分の証明
「自由にのんびり楽しむ」 → 自由と解放を楽しむ
「夢を追ひ、自己実現する」 → 見果てぬ夢の追求

【ほぼ共通因子】 両者にほぼ同じ形で共通してみられるが少し異なっている因子

「NEW シニアスタイルの模索」 ≡ 「新たな生活、変化への挑戦」

「仲間との交流を楽しむ」 ≡ 「友人関係を大事に生きる」

「迷惑を掛けず自立して生きる」 ≡ 「老後は迷惑を掛けない」

高齢者層（左）と次世代高齢者層（右）との違いは、次世代高齢者層の因子には、模索的、手探り的な要素が入り、老後への準備といったスタンスが感じ取れる。この違いは、まさに年齢の違いが表出していると考えられるので、この3つを“ほぼ共通因子”とした。これら3つの老後意識を整理すると以下のように言えそうだ。

「NEW シニアスタイルの模索」 ≡ 「新たな生活、変化への挑戦」 → 新生活スタイル探し

「仲間との交流を楽しむ」 ≡ 「友人関係を大事に生きる」 → 友人関係が基盤

「迷惑を掛けず自立して生きる」 ≡ 「老後は迷惑を掛けない」 → 周囲への配慮と美学

【高齢者層固有因子】 高齢者層だけにみられる因子

「楽しい計画や時間と期待」「周囲の期待に応え続けたい」「実りある時間への挑戦」

「新たな出会いが楽しみ」

以上4つが高齢者層だけに明確に出てくる因子である。これらは既に始まっている老後生活の中から出てきている。共通しているのは、自己肯定的な状況から、その事実を拡張していく意志が感じられるということだ。老後の生活も軌道にのって、前向きな意識となって表れると言ってよいだろう。

【次世代高齢者層固有因子】 次世代高齢者層だけにみられる因子

「高齢者として貢献したい」「健康的で交流のある暮らし」「時間があるだろうから頑張る」

高齢者層と違って次世代高齢者層の因子は、夢や肯定的な未来をあまり感じさせないものが多い。曖昧な未来、不安定な未来に対しての最大の自己防衛的な老後意識が表出しているという、主観が入り過ぎかもしれないが、そういった状況が高齢者層との比較において伝わってくる。

3.5 「現状と今後の見通し」と「老後意識」との関係

「現状と今後の見通し」を出発点として「老後意識」との関係を分析すべく、相関をマトリクスにして記した。

①高齢者層における「現状と今後の見通し」と「老後意識」との関係

「現状と今後の見通し」について、9つのジャンルを選出するにあたって、当然老後意識に影響を与えそうな現状（将来見通し）を選んでおり、その結果、図表 51にあるように老後意識とダイレクトに結びつくものもある。例えば、「1. 仕事」と「因子 8_ 生涯仕事を続ける」との相関は見られ、同様に「4. 配偶者」と「因子 3_ 夫婦・家族との楽しい暮らし」との関係など、明解な関係性を持つ。他にいくつか興味深い点を紹介したい。

「2. 学び」と「3. 趣味」は、ともに強い相関が因子との関係においては無い。ただ、「2. 学び」が「因子 1_NEW シニアスタイルの模索」や「因子 7_ 実りある時間への挑戦」との相関がやや高く、一方で「3. 趣味」は「因子 4_ 楽しみな計画や時間と期待」「因子 10_ 新たな出会いを楽しむ」との相関がやや高い。つまり、『学び』は挑戦であり、『趣味』は娯楽といった意味性が推察される。そして、共に「因子 11_ 夢を追い、自己実現する」という因子との相関が比較的高い。つまり、挑戦であっても娯楽であっても自己実現という共通要素があるということだろう。「6. 友人」と「因子 2_ 仲間との交流を楽しむ」との相関の高さは分かりやすい。この因子 2 との関係においては、「5. 家族」も相関が比較的高い。高齢者層においては家族との関係が肯定的であると仲間との交流に繋がる、つまり交流する人やその機会が多いことが推察される。同様に「9. 社会」も相関がみられる。この社会とは、人に受け入れられる方であるといった自己肯定の高さを示しており、「因子 2_ 仲間との交流を楽しむ」との相関の高さは容易に想像がつく。「8. 経済」は意味としては、お金には困らないだろうという現状や将来の見通しであるが、これだけでは特に強い老後意識の因子との結びつきはない。重要なことであることは間違い無いが、老後の生き方を直接的に規定するものではないと考えられる。

図表 51 9つのジャンルと因子間の相関 《高齢者層》

66-75歳 n=200	1.仕事	2.学び	3.趣味	4.配偶者	5.家族	6.友人	7.健康	8.経済	9.社会
因子1_NEWシニアスタイルの模索	0.10	0.24	-0.02	0.11	0.12	0.11	0.09	0.19	0.01
因子2_仲間との交流を楽しむ	0.27	0.06	0.11	0.09	0.32	0.55	0.29	0.22	0.46
因子3_夫婦・家族との楽しい暮らし	-0.03	0.01	0.05	0.50	0.16	0.05	0.22	0.23	0.04
因子4_楽しみな計画や時間と期待	0.01	0.18	0.27	0.04	0.25	0.23	0.13	0.09	0.15
因子5_自由にのんびり楽しむ	-0.04	0.07	0.14	0.15	0.23	0.15	0.32	0.18	0.10
因子6_周囲の期待に応え続けたい	0.29	0.01	0.06	0.09	0.20	0.08	0.08	0.08	0.23
因子7_実りある時間への挑戦	0.12	0.22	0.06	0.12	0.17	0.24	0.20	0.17	0.07
因子8_生涯仕事を続ける	0.41	-0.02	-0.02	-0.15	0.06	0.00	0.09	-0.05	0.02
因子9_迷惑を掛けず自立して生きる	0.04	0.14	0.14	-0.12	0.07	0.17	0.11	0.17	0.13
因子10_新たな出会いを楽しむ	-0.01	0.06	0.20	0.21	0.16	0.14	0.16	0.05	0.30
因子11_夢を追い、自己実現する	-0.07	0.28	0.27	0.07	0.17	0.11	-0.03	0.09	-0.01
相関0.3以上				0.4以上	赤文字				

②次世代高齢者層における「現状と今後の見通し」と「老後意識」との関係

高齢者と同様に、次世代高齢者においても、「現状と今後の見通し」と「老後意識」との相関関係を図表にて示した。（図表 52 参照）以下に興味深い点を紹介したい。

次世代高齢者層、つまり 50 歳を過ぎて 60 歳になろうという年齢においては、配偶者、家族、友人といった具体的な人との関係性（友人においても親友以上となるだろう）は、ほぼ出来上がっているようで、「因子 2. 友人関係を大事に生きる」「因子 7. 夫婦・家族との楽しい暮らし」との相関が高い。これは、高齢者層でも同様であったが、次世代高齢者層においても既に同様の傾向であり、つまり、人間関係を基盤とする老後意識は比較的早い段階、少なくとも 50 代ぐらいから完成されていると思われる。

「9. 社会」つまり、社会的に受け入れられるという自己肯定感のある人は、その相互作用の対象となる友人との関係性を重要と考えるのが必然なのであろう。従って、「因子 2. 友人関係を大事に生きる」と相関が高い。

興味深いのは、「1. 仕事」との相関が最も高いのが「因子 3_ 高齢者として貢献したい」であって「因子 8_ 生涯仕事を続ける」ではないということ。殆どが現役で働いている次世代高齢者層にとって、現時点で仕事に対する肯定感は、老後においては社会への貢献意識との結びつきが強い。

「2. 学び」「3. 趣味」は次世代高齢者層においては、高齢者層のような挑戦と娯楽といった違いは認めにくい。つまり、両者ともに「因子 1_ 新たな生活、変化への挑戦」との相関が高く、共に現状からの挑戦（つまり現状は余り取り組めていない）的な意味合いが強いようだ。

「7. 健康」「8. 経済」は共に老後意識との強い相関があまりみられない。共に「因子 4_ 老後は迷惑を掛けない」が最も高い数値であり、お金と健康がすべての基盤として重要視されていることは間違いのない、老後の生き方を強く方向付けるものではないようだ。

図表 52 9つのジャンルと因子間の相関 《次世代高齢者層》

51-60歳 n=200	1.仕事	2.学び	3.趣味	4.配偶者	5.家族	6.友人	7.健康	8.経済	9.社会
因子1_新たな生活、変化への挑戦	0.29	0.35	0.30	-0.02	0.10	0.04	0.13	0.02	0.27
因子2_友人関係を大事に生きる	0.20	0.15	0.24	0.07	0.32	0.59	0.11	0.15	0.35
因子3_高齢者として貢献したい	0.38	0.20	0.04	0.11	0.13	0.20	0.16	0.21	0.20
因子4_老後は迷惑を掛けない	0.11	0.07	0.16	0.17	0.08	0.07	0.17	0.28	0.04
因子5_夢を追い、自己実現する	0.18	0.22	0.25	0.16	0.13	0.17	0.03	0.08	0.21
因子6_健康的で交流のある暮らし	0.01	-0.01	-0.02	0.07	0.07	0.18	0.12	0.10	0.07
因子7_夫婦・家族との楽しい暮らし	0.03	0.13	0.05	0.56	0.38	0.01	0.12	0.16	0.07
因子8_生涯仕事を続ける	0.25	0.08	0.10	0.02	-0.04	0.11	0.08	-0.01	0.09
因子9_自由にのんびり楽しむ	0.02	0.14	0.06	-0.01	0.10	0.08	0.16	0.06	0.01
因子10_時間があるだろうから頑張る	-0.03	0.12	0.05	0.09	0.09	0.04	0.09	0.08	0.22
	相関0.3以上			0.4以上		赤文字			

4. 全体的考察

4.1 まとめ

「老後の生き方の座標軸」という大きなテーマに取り組み、重視したポイントである2つを再確認したい。

- ・次世代高齢者層に注目することで団塊の世代と戦中派世代からなる高齢者層との比較を試みた。
- ・現状（今後の見通しも含む）についての意識を起点として老後（老後の生き方）意識との関係性をみた。

現状と今後の見通しにおいて、高齢者層は次世代高齢者層よりも総じて肯定的であった。実はこの結果は想定外であった。次世代高齢者層より一回り以上年上である高齢者層が、現状認識において全般的に肯定的であるとは想定していなかった。

調査は事実を教えてくれるが、結果についての因果関係を明らかに出来る情報は残念ながら容易には教えてくれない。推論を繰り返すことになるが、既に述べたように世代としての「団塊・戦中派」の開拓者的強さがあるのかもしれない。また、次世代高齢者層は卒業間近の学生や引退前の現役のスポーツ選手に似ているのかもしれない。次なる世界へと進むこと、新たな生活を始めることへの不安、それがいつなのか、出来れば来ない方が良くといった精神状態の中にあるのかもしれない。言うまでもなく、次世代高齢者層が卒業間近の時期だとすれば、高齢者層は新たな生活が始まったばかりの時期かもしれない。

そして、年金問題に代表される社会的背景も勿論無視できない。しばらくの間、日本の超高齢社会は続く。次世代高齢者層の現状意識が否定的であるという事実が、今後続くのかは大きな課題である。

次に老後意識について、主成分分析を行い因子を策定した。

まず、因子を2つの軸で整理した。

「継続的なこと」「新規に始めること」の軸と、「自由/楽しさ追求」「使命感/実現欲求」の軸である。配偶者、家族、友人といった人間関係によるものが「継続的なこと」の範疇に入り、新たに目的対象を模索するものは「新規に始めること」の範疇に入る。もう一方の軸である、「楽しさ追求」か「使命感」かは、対象となるものや精神的態度や性向との関係で振り分けられると言えそうだ。

続いて、高齢者層と次世代高齢者層に共通する因子、共通しない因子などの整理も行った。

配偶者、家族、友人といった関係を重視して老後を生きていくということにおいては、高齢者層も次世代高齢者層も同様に因子の出現がみられた。50年以上生きてきて、人間関係は既に方向付けられているようである。老後を迎えたからといって、急に人間関係を構築することの難しさを示している。また、高齢者層に固有の因子は既に老後をスタートさせてその生活を堪能している因子が出てきたのに対し、次世代高齢者層に固有の因子は、まさに老後に備える感じ、もしくはその老後に対して逡巡している感じが読み取れた。

現状（今後の見通しも含む）についての意識（9つのジャンル）を起点として、老後（老後の生き方）意識（主成分分析の結果得られた因子）との相関関係をみた。

人間関係（「配偶者」「家族」「友人」）は、高齢者層、次世代高齢者層ともに、相関がみられ、現状において、良好な関係を築けていれば、それを意識して老後を生きていくという道筋は既に50代からみられる普遍的なものと解釈した。次世代高齢者層は「趣味」や「学び」といったことにおいては、これから取り組むべきものとして位置づけられ、高齢者層においては「趣味」は娯楽として、「学び」は挑戦という位置づけで老後の生き方として意識されているという違いがみられた。「仕事」については、次世代高齢者層は社会貢献の意味合いが強く、高齢者層においては生涯続けることという因子との関係が強く、自分自身の存在を規定するといった意識がありそうだ。「健康」「経済」はすべての基盤であるらしく、

特に老後意識の因子との強い相関はなく、高齢者層において「健康」が「自由にのんびり楽しむ」という因子との相関が高いただけであった。

以上、本研究の目的にも記したように、人生の晩年における視座の獲得やその手掛かりとなったかどうか。我々の研究はこれからも続く。今後、少しでも世の中の役に立てればと思うとともに、様々なご意見、ご感想をいただければ、研究に携わったものとして、これほど嬉しいことはない。

4.2 本研究の問題点と課題

本研究において「現状や今後の見通し」について9つのジャンルや老後意識の質問選択肢については、ハイレイフ研究所内での議論を経て設定した。特に予備調査であるとか、先行研究における調査、質問項目の研究といった手続きを丁寧に踏んでいないが、トライアルということで、調査を実施し、その結果から考察、類推等を重ねた。その意味において丁寧に欠ける手続きであったと思う。勿論、様々な研究者、過去の研究実績を無視しようといった意図は一切なく、今後改善していきたい。

一方で、今回の研究は学術研究ではないこともあり、大胆な推察、もの言いをさせてもらった。まずは、興味の赴くままに研究した、レポートを作成したということである。今後は、公益性を鑑みながら提言性を重視し、少しでも広く役に立てる研究となればと思う次第である。

また、様々な有益な研究論文や統計データに出会えたことで非常に充実した時間となった。研究論文以外にも、新聞記事や小説にいたるまで、「老後」「シニア」「生きがい」といった言葉に相当敏感になったと振り返ることもできる。

先行研究においては、研究対象者は健常者以外にも及んでいる。それは「生きがい」の持つ意味の深さ、広さを感じさせるものである。本研究、本調査は自ら質問紙に回答できる人という条件のもとに行っている。恐らくこの点は調査におけるバイアスとなっている。高齢者であれば調査に回答するだけでも作業として容易ではない。つまり、調査に答えていただける人は体調の良い人といったことになる。この点に関しては今後も同様の調査であれば避けられないことであり、対象者を限定しているという前提となる。

《引用文献》

内閣府,2016,『平成 28 年版高齢社会白書』日経印刷

日本老年学会・日本老年医学会,2017,『「高齢者に関する定義検討ワーキンググループ」報告書』日本老年学会・日本老年医学会

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）,2015,『高齢者の日常生活に関する意識調査結果（平成 26 年版）』 <http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h26/sougou/zentai/index.html>

NHK 放送文化研究所,2015,『現代日本人の意識構造 [第 8 版]』NHK 出版

神谷美恵子,2004,『生きがいについて』（神谷美恵子コレクション）みすず書房 ※初版は 1966 年

第4部

時層研究

～次世代シニアの楽しみの行方を探る～

1. 報告にあたって

「次世代高齢者研究」の一環として、本研究では次世代高齢者の「楽しみ」に焦点を当てた報告をする。「人生の楽しみ」は多岐にわたる、ここでの「楽しみ」とは、主に「趣味・遊び・嗜好」の領域を指し示す。報告にあたり、その前提となる問題意識、考えの枠組み、データ収集と分析の視点、報告のスタンスを明示する。

（１）問題意識

『次世代高齢者の、これからの（楽しみ）の特徴は何か。それは現在の高齢者と異なるものか』

今回、研究全体の基礎データを取得するために「次世代高齢者調査」を実施、51歳から75歳男女の意識と行動を調べ、性別・年齢階層別に集計する中で、次世代高齢者層と位置づけた50代と高齢者層の60代後半以降を対比し差をみてきた。この中でわかる差は自ずと「年代」の違いによるものと「世代」の違いによるものとが混在している。「年代」と「世代」の違いをここであらためて確認すると、

- 「年代」＝年齢が近い人たちの集団。50代、60代等、同じ年代でも加齢により人が変わっていく。
- 「世代」＝生まれた時期が近い人たちの集団。団塊世代など、その年代が変わっても人は変わらない。と整理できる。今の次世代高齢者が高齢者となったときの楽しみが何かを類推する際、「年をとれば今の高齢者のように変わる」ものと「年をとっても変わらないもの」に分けて特徴を知る必要がある。「年をとっても変わらないと思われる」世代特徴や、「時代の影響」を受けて今の高齢者とは変わらざるを得ない楽しみ方の側面などに目を向けながら推量することで、問題意識にアプローチしたい。

（２）考えの枠組み

『多岐にわたる人生の楽しみの中で、趣味・遊び・嗜好、の領域に注目して掘り下げる』

「楽しみ」の中で「趣味・遊び・嗜好」の領域に注目することに、なぜ意味があるか仮説をたてた。一つめは、人生の後半戦で存在感を増す領域ではないかということ、二つめは、「趣味・遊び・嗜好」の領域の充実、人との交流を広げる契機となったり、学習意欲の向上が健康へつながったり、生きがいへ昇華される、などの要素を持っていること、三つめは、「仕事」や「家族」といった領域よりも自由度が高く、はじめる、やめる、かえる、といったことが容易で誰にも開かれた領域であること、に意味を見出した。多くの就労者が60歳で定年を迎え、その後も年金支給年齢の引き上げなどを受け、引き続き何らかの仕事をし、65歳の年金受給年齢になってもなお仕事を続ける人は多く存在する。「定年、リタイア、ありあまる余暇」と短絡できる時代ではないが、高齢者の趣味、運動、娯楽、旅行などに振り向ける「人生後半戦」の時間の総量は無視できないものがあると思われる。

（３）データ収集と分析の視点

『世代の共通体験・楽しみ你的生活史（時層）・培われた価値観などから今後の楽しみ在り方を考察』

次世代高齢者調査の対象者500人に対して、過去を振り返って「楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと」を①ファッション、ブランド、スタイル ②エンターテインメント（音楽・芸能・映画・テレビ番組・ラジオ番組・雑誌） ③趣味、娯楽、スポーツ、旅行 ④食べ物、飲み物、食事、飲食店 ⑤街、ショップ、施設の5カテゴリーについて10代から現在に至る時期ごとに記入してもらった。この調査結果を軸に、次世代高齢者調査の楽しみに関する質問、二次データを交え、どのよ

うな時代環境を生きてきたか、積み重ねてきた楽しみの生活史、そこから垣間見える価値観などを整理し、次世代高齢者のこれからの楽しみについて推測する。

（４）提言

『考察のスタンス：語りかける相手は生活者。よりよき人生の後半戦を生きようとする人への提言』

研究報告書第４部は、次世代高齢者の方々、生活者の方々に読んでいただき、自らのこれからの人生をよりよく生きる上での何かのヒントや気づきになればとの考えで報告をする。「アッ、ワカル」、「ナルホドネ」、「チガウトオモウ」、「ムシロコウスベキデハナイカ」、「ヤッテミヨウ」、「コレカラガタノシミダ」など、この報告が人生の一助となれば幸いである。

〈報告の流れ〉

- 「楽しみを感じて行う行動の現在～次世代シニアと現在形シニア～」(次世代高齢者調査より)
- 「世代でとらえる次世代シニアと現在形シニア」(生きてきた時代と世代の特徴の二次データウォッチ)
- 「好きと楽しい、の生活史。「時層」にみる両者の同質・異質」(次世代高齢者調査・時層自由回答より～「好きと楽しい、n1の動きの中から見えてくる楽しみの時層」(次世代高齢者調査・同上)
- 「この先１０年と、現在に至るまでの、楽しみ行動を支える環境」(次世代高齢者調査より今後)
- 考察 楽しみのカタチ・好きこそ人生の糧 次世代シニアへ向けた「楽しみ」のキーワード(まとめ)

2. 楽しみを感じて行う行動の現在～次世代シニアと現在形シニア～

本章では「次世代高齢者調査」の「楽しみ」に関する調査結果を元に考察する。調査概要については第2部を参照。また、次世代高齢者層、高齢者層としていた対象者の呼称を第4部では以下の呼称を使用する。また、両者の中間に位置する世代を分析の対象として扱う場合も合わせて表記した。

● 51歳～60歳 「次世代シニア」

新人類世代・ポパイ J J 世代といわれる層 10年後には約半分がいわゆる高齢者層になる人たち

● 66歳～75歳 「現在形シニア」

団塊の世代・戦中生まれ世代といわれる層 10年後には後期高齢者に区分される層になる人たち

○ 61歳～65歳 「ハザマシニア」 ポスト団塊世代、シラケ世代といわれる層 多くが定年を迎えた

(1) 「現在、楽しみを感じて行っていること、今後行いたいこと」のギャップから読み解く楽しみの今後

①様々な楽しみをひとつの週上に乗せ行動率をみる

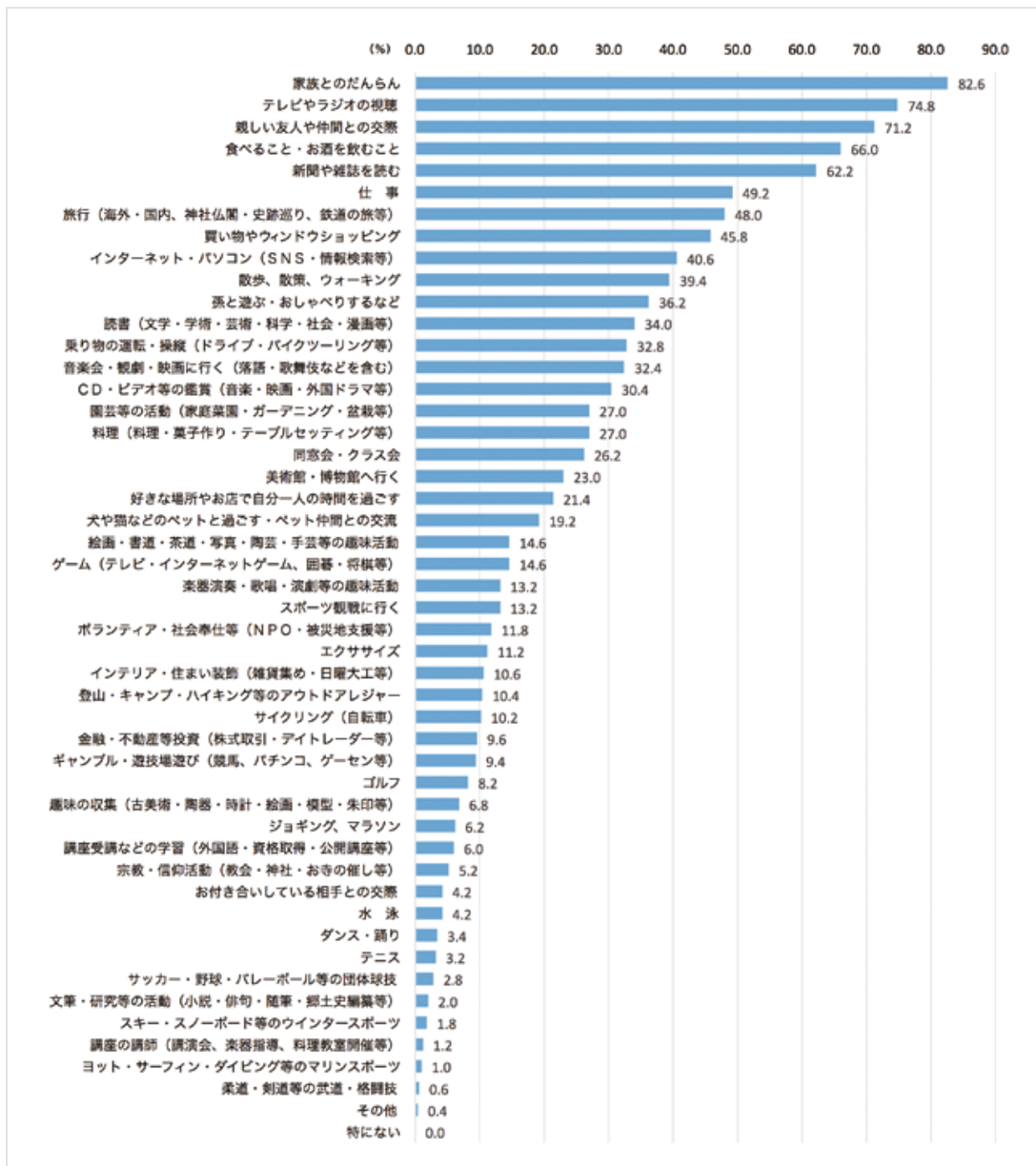
「次世代高齢者調査」の楽しみについての質問では、「楽しみを感じて行っていること」を、まず大きくとらえるために、趣味などにとどまることなく、家族との団欒や人との交流、仕事、資産運用など選択肢を広げる中で47項目から現在行っていることや、今後（も）行いたいことの回答を得た。以下、その分類と項目を示す。

◆家族団欒（・家族とのだんらん・孫と遊ぶ おしゃべりをする）◆友人交流（・親しい友人や仲間との交際・お付き合いしている相手との交際・同窓会 クラス会）◆飲食（・食えることお酒を飲むこと）◆買物散歩（・好きな場所やお店で自分ひとりの時間を過ごす・犬や猫などのペットと過ごす・買物やウィンドウショッピング・散歩 散策 ウォーキング）◆四媒体（・テレビやラジオの視聴・新聞や雑誌を読む）◆スポーツ（・ジョギング マラソン・水泳・テニス・ゴルフ・サッカー 野球 バレーボールなどの団体球技・スキー スノーボードなどのウィンタースポーツ・ヨット サーフィン ダイビングなどのマリンスポーツ・柔道 剣道などの武道 格闘技・エクササイズ・ダンス 踊り）◆登山アウトドア（・登山 キャンプ ハイキング 釣りなどのアウトドアレジャー）◆乗り物運転（・サイクリング・乗り物の運転操縦）◆旅行（・海外 国内 神社仏閣巡り 史跡巡り 鉄道の旅など）◆文化創作技能習熟（・楽器演奏 歌唱 演劇など・絵画 書道 茶道華道 写真 陶芸 手芸 模型など・文筆研究など・園芸・料理・インテリア 住まい装飾）◆文化鑑賞スポーツ観戦（・スポーツ観戦・音楽会 観劇 映画・美術館博物館）◆遊戯（・ゲーム・ギャンブル）◆趣味の収集 ◆教養 信仰 社会（・講座・講師・信仰・ボランティア活動）◆読書 音楽 ネット（・CDビデオ鑑賞・読書・ネットPC）◆仕事（・仕事）

まず俯瞰する意味で 51 歳から 75 歳までの男女全体（n500）の行動率を図表 53 に示す。

こうしてみると楽しみを感じて行っている行動として率が高いのは「家族とのだんらん」や「親しい友人や仲間と交際」が目立つ。普段気楽にできるということもあるが、楽しみは人にあり、と感じさせる。

図表 53 楽しみを感じて現在行っていること



②次世代シニアと現在形シニアの楽しみの現在

次世代シニアと現在形シニア各男女の「現在楽しいと感じて行っていること」を率の高いものからランキングした。まず男性の年代間の比較をする。

上位にランクされた行動のうち、次世代シニアが顕著に高いのが「仕事」であり、その他「食べること・お酒を飲むこと」「インターネット・パソコン」など現在形シニアとの差が大きい項目を見ると、「仕事とその周辺に楽しみを見出す」傾向をうかがわせる。一方で現在形シニアが相対的に高いのは「新聞や雑誌を読む」「孫と遊ぶ」「散歩・散策・ウォーキング」など、身近な楽しみが目立つ。「親しい友人や仲間との交際」「同窓会」などが高いのは、仕事外交流がやや活発化する表れと推察される。とはいえ現在形シニアでも「仕事」は40%と決して低くはない。高齢の就業者は今後、増えていくと思われる。「楽しみを感じて」仕事をすることは、心身の健康面からみても、ますます重要度を増すことが想定される。

図表 54 楽しみの比較表 (男性) ※単位は%

次世代シニア・男性		現在形シニア・男性	
51歳～60歳		66歳～75歳	
1	家族とのだんらん	86	家族とのだんらん
2	食べること・お酒を飲むこと	74	テレビやラジオの視聴
3	仕事	68	親しい友人や仲間との交際
4	テレビやラジオの視聴	66	食べること・お酒を飲むこと
5	親しい友人や仲間との交際	57	新聞や雑誌を読む
6	インターネット・パソコン (SNS・情報収集等)	53	孫と遊ぶ・おしゃべりする
7	新聞や雑誌を読む	52	散歩・散策・ウォーキング
8	乗物の運転・操縦	49	旅行 (海外・国内・神社仏閣史跡めぐり等)
9	旅行 (海外・国内・神社仏閣史跡めぐり等)	43	乗物の運転・操縦
10	読書 (文学・学術・芸術・科学・漫画等)	37	仕事
11	散歩・散策・ウォーキング	32	インターネット・パソコン (SNS・情報収集等)
12	買物やウィンドウショッピング	31	同窓会・クラス会
13	C D・ビデオなどの鑑賞	31	園芸などの活動
14	音楽会・演劇・映画に行く	26	買物やウィンドウショッピング
15	同窓会・クラス会	25	読書 (文学・学術・芸術・科学・漫画等)

同様に女性を年代間で比較してみる。

次世代シニアが顕著に高いのは男性同様に「仕事」。その他では「買物やショッピング」「食べること・お酒を飲むこと」「音楽会・演劇・映画に行く」など。現在形シニアが相対的に高いのは「孫と遊ぶ」、その他、「園芸」やランキング外では「楽器演奏・歌唱・演劇など趣味活動」が高くなっている（現在形シニア 25%・次世代シニア 10%）。ただし現在形シニアが次世代シニアを上回る項目は上位行動においては意外と少ないこともこの表から見受けられる。

ここで高齢期の楽しみのあり方を考えるとき、気になるのが男女の傾向の違いである。

第一に挙げられるのが「親しい友人や仲間との交際」を楽しんでいる人は女性の方が多い。次世代シニアで女性が+ 26ポイント、現在形シニアでも女性が+ 17ポイントとなっている。

第二に挙げられるのが、仕事周りに楽しみを見出す様子がうかがえる次世代シニア男性に対して女性の場合、「音楽会や演劇、映画」など、すでに先々につながる楽しみ、行く場所を得ているということ。第三には「料理」という日常の家事、生活技術も楽しみとしてあげている点である。男性は、『将来を見据えた楽しみ』や『新たな交流の獲得』を意識し準備することがより求められるのではないかと考えさせられる。

図表 55 楽しみの比較表（女性） ※単位は%

	次世代シニア・女性		現在形シニア・女性	
	51歳～60歳		66歳～75歳	
1	親しい友人や仲間との交際	83	親しい友人や仲間との交際	83
2	家族とのだんらん	82	テレビやラジオの視聴	80
3	テレビやラジオの視聴	80	家族とのだんらん	78
4	買物やウィンドウショッピング	73	新聞や雑誌を読む	69
5	食べること・お酒を飲むこと	71	食べること・お酒を飲むこと	58
6	仕事	66	孫と遊ぶ・おしゃべりする	57
7	新聞や雑誌を読む	64	買物やウィンドウショッピング	52
8	音楽会・演劇・映画に行く	52	旅行（海外・国内・神社仏閣史跡めぐり等）	50
9	インターネット・パソコン（SNS・情報収集等）	51	散歩・散策・ウォーキング	40
10	旅行（海外・国内・神社仏閣史跡めぐり等）	49	読書（文学・学術・芸術・科学・漫画等）	40
11	料理	47	音楽会・演劇・映画に行く	39
12	C D・ビデオなどの鑑賞	40	園芸などの活動	37
13	読書（文学・学術・芸術・科学・漫画等）	39	料理	33
14	散歩・散策・ウォーキング	34	美術館・博物館へ行く	29
15	美術館・博物館へ行く	34	C D・ビデオなどの鑑賞	27

(2) シニアの「楽しみ」～今後の広がりと縮み

それぞれの年代の「現在の楽しみ行動」が解明できたが。では、次世代シニアと現在形シニアの今後の楽しみはどこへ向かうのであろうか。

次世代高齢者調査では「現在楽しいと感じて行っていること」と同一選択肢を用いて「今後（も）行いたいこと」を聞いている。その「現在と今後意向の差」という心の動きから、この問いにアプローチした。また、「楽しみ」の内容については選択肢を分類にまとめ、その累計値を用いて分析した。スポーツ系や文化創作技能習熟系の楽しみは、選択肢において分野を細分化しているため大きな傾向を掴む狙いで分類としてまとめた。分類構成については図表 56 の「楽しみ群」を参照。

図表 56 の表側は性・年代別には「①現在行っている」、「②今後（も）行いたい」の 2 つとその差である「②－①」の 3 つの欄を設け、表頭には「楽しみ群」とそれを構成する「楽しみ群の中の選択肢」とその群に含まれる選択肢の数を記している（単位は%、選択肢数が複数であるため、100%を超えるものもある）。また、欄中において①と②の差に関して大きいものには色付け。この表から対象層ごとの特徴を読み取り、その気持ちに分け入ることを試みた。

図表 56 楽しみ現在の現在と今後 〈「楽しみ」～今後の広がりと縮み〉

楽しみ群		家族団楽	友人・交流	買物・散歩	スポーツ	登山・アウトドア	旅行	文化創作・技能習熟	文化鑑賞・スポーツ観戦	社会・教養・信仰	仕事	飲食	四媒体	読書・音楽・ネット	運転・ドライブ
楽しみ群の中の選択肢 ※数が多い場合は主なものを記載		家族団楽・孫と遊ぶ	同窓会 友人仲間・恋人・	好きな場所・犬猫・買物・散歩	ジョギング・ゴルフ・エクササイズ他	登山・アウトドア	国内国外旅行	料理・他 演奏・絵画・文章・	美術館・他 スポーツ・音楽会・	講座・信仰・ボランティア	仕事	食へること お酒を飲むこと	新聞雑誌 テレビラジオ・	読書・ネット ビデオCD・	乗り物運転・ドライブ・ツーリング
各群に入る選択肢数		2	3	4	10	1	1	6	3	4	1	1	2	3	2
男 51-60歳	①現在行っている	105	83	101	53	14	43	58	59	20	68	74	118	121	63
	②今後（も）行いたい	102	92	104	70	21	49	68	68	25	58	66	99	106	58
	②-①	-3	9	3	17	7	6	10	9	5	-10	-8	-19	-15	-5
男 66-75歳	①現在行っている	137	107	108	45	14	49	80	49	18	40	64	138	86	48
	②今後（も）行いたい	122	109	92	47	19	57	77	67	18	33	51	104	88	43
	②-①	-15	2	-16	2	5	8	-3	18	0	-7	-13	-34	2	-5
女 51-60歳	①現在行っている	97	112	157	34	6	49	111	103	29	66	71	144	130	32
	②今後（も）行いたい	99	115	155	62	11	60	131	114	36	53	68	116	128	27
	②-①	2	3	-2	28	5	11	20	11	7	-13	-3	-28	-2	-5
女 66-75歳	①現在行っている	135	110	131	40	8	50	135	78	28	23	58	149	87	25
	②今後（も）行いたい	117	105	108	41	10	54	116	78	27	16	50	93	76	19
	②-①	-18	-5	-23	1	2	4	-19	0	-1	-7	-8	-56	-11	-6

◎色の意味
 【②－①】の結果 → 10%以上、今後の意向がアップ（上回る）
 同性の年代比較結果 → 同じ項目で同性の年代比較（51-60歳 vs 66-75歳）で10%以上スコアが上回る
 10%以上、今後の意向がダウン

【次世代シニア（51-60歳）】

●男性 人生後半戦へ向けて「続く楽しみ」発掘・再編

・今後の意向（今後（も）行いたい）が現在行動（現在行っている）を大きく上回っている楽しみ群は、「スポーツ」「文化 創作 技能習熟」、「文化鑑賞 スポーツ観戦」であり、共通して〈学習性〉と〈継続性〉のある楽しみを広げたいと思っていると推測される。それは、繰り返し行うことで出来なかったことが出来るようになる、競技や芸術を繰り返し観ることで目利きになる、など小さな達成感を積み重ねながら継続できる楽しみを求めることなのかもしれない。仕事に追われ時間に追われ、続けられ

なかった創作、やりたかったけど出来ないままだったスポーツなどを含め、自らの続く楽しみを発掘し楽しみへ振り向ける時間を再編していく、そんな意識の萌芽も期待させる。

- ・「友人 交流」の楽しみを広げたいと思っている。つきあいの再開・再編欲求もうかがわせている。
- ・一方で楽しみの対象として「家族団欒」や「仕事」の存在が相対的に縮小している。
- ・「四媒体」（マスメディア視聴閲読）や「読書 音楽 ネット」など日常の延長にあるものや受動的楽しみも縮小している。

●女性 人生後半戦の楽しみ確立、さらなる広げに意欲

- ・今後の意向が現在行動を大きく上回っている項目は男性の次世代シニアとほぼ同傾向にあるが、より高い意向率を示している。意向率から現在率を減じた差も大きい。今の楽しみ基盤を持ちつつ、さらに楽しみを広げる意欲をうかがわせる。
- ・「家族団欒」や「買物」についてはほぼ現状維持、「四媒体」（マスメディア視聴閲読）は男性同様やや縮み傾向にある。

【現在形シニア（66-75歳）】

●男性 仕事離れ・家族離れで、外界の眺めを楽しむスタイル模索

- ・今後の意向が現在行動を大きく上回っているのが「文化鑑賞 スポーツ観戦」。「旅行」もやや増加。一方で「買物 散歩」は意向率が下回る。これは〈目的を持った外出〉〈文化や景観などの価値ある眺め・コト〉に触れたいという思いの表れと推察される。健康寿命も気になる年代、動けるうちに外に出て充実した時間を過ごしたいという気持ちも想像できる。
- ・「友人 交流」や「スポーツ」「読書 音楽 ネット」は現状維持。
- ・「四媒体」が大きく縮小し、「飲食」「家族団欒」も縮小している。飲食については興味が減るか、満たされているためか両面が考えられる。孫が大きくなり小さい頃のように遊ばなくなる、同居者が減るなどが家族団欒の気持ちを縮ませているのかもしれない。「四媒体」が大きく縮むのは何故か。そもそもテレビなど生活の中に馴染みすぎて意向（≒積極的に楽しみを広げたい）という言葉がなじまないということも考えられる。彼らにとって積極的な意味を見出せるコンテンツが何かを模索すること、もこれからのメディアの課題かもしれない。

●女性 家族減、体力減の中、その先の人生を思い描く

- ・すでにやりたい楽しみは享受しているということなのか、彼女たちにとっての今後の意向が顕著に広がる分野は見当たらない。「旅行」は続けたい分野になっている。
- ・「家族団欒」と「文化 創造 技能習熟」「買物 散歩」が縮みをみせている。配偶者や家族との死別（その予感）、体力減の中、次の生活への準備期を向かえ、思い描く女性の姿を感じさせる。

■まとめ 次世代シニアのこれからの楽しみ設計

「家族団欒」という楽しみが大切なものであるにせよ、高齢期を迎えると子供の独立や配偶者との死別など家族環境も変わっていく。「仕事」は続けるにしてもその位置づけも変わり、人間関係の再構築も必要となる。「楽しみ」を何に求めるか、「楽しみ」から何が生まれるか、がますます大切になる時期ではなからうか。これからの人生に必要な楽しみは、刹那ではなく学びがあり飽きずに続けられ、行為を巡って生きがいや人との新たなつながりが芽生える、そんな楽しみではなからうか。

3. 世代でとらえる次世代シニアと現在形シニア

前項では、「次世代高齢者調査」を元に次世代シニアと現在形シニアの楽しみの今とこれからをみてきた。この結果から見てくる両者の相違は、どちらかというところ「年代」差によるものと考えられる。1項で提示した問題意識、「次世代高齢者の、これからの（楽しみ）の特徴は何か。それは現在の高齢者と異なるものか」に迫るには「世代」からの視点で両者を見る必要がある。そこで第4部第3章では、次世代シニアと現在形シニアを「世代」としてとらえ、両者の世代の特徴、生きてきた時代背景の違いなどを、先行資料や一般情報を交えて分析する。なお次世代シニア、現在形シニアは「次世代高齢者調査」の年齢階層区分に基づき定義するものとする（年齢は調査実施の2016年基準）。

・次世代シニア、現在形シニア各層を5歳刻みで前後半にわけ、以下それぞれ世代の特徴をみていく。

①誕生年（西暦・年号）ほか ②同世代に入る著名人*注 ③既存世代論（呼称・特徴など）

④成長過程での時代背景（中心年齢で追う世の中の出来事／社会・経済・流行・新商品など）年代区分は誕生期・10代・20代・30代・40代・50代（60代・70代） ⑤世代の特記事項

*注：「生まれ年」基準は、共有体験重視の観点から同年4月～翌年3月生まれの学年基準による。（例1960年生れは1960年4月-1961年3月生れ）同世代著名人はインターネット検索により抽出。

なお、世代が違っても同じ時代の出来事の記述は重複するが、それぞれの世代の当時の年齢に鑑み楽しみなどに影響を与えたと思えるものを「主観的」にピックアップし他をカットするなど、異なる部分も存在する。

（1）次世代シニア（51～60歳・1956年～1965年生まれ）

■次世代シニア前半（51～55歳・中心年齢53歳）

①誕生年 1961年（昭和36年）～1965年（昭和40年） 中心年1963年（昭和38年）
・1963年生れの場合 → 10代 1973年～1982年 20代 1983年～1992年
30代 1993年～2002年 40代 2003年～2012年
50代 2013年～

②著名人 1965年 / 林修・奥田民生・小泉今日子・さくらももこ・吉田美和 1964年 / 三木谷浩史・小山薫堂・佐藤可士和・吉本ばなな・恩田陸・薬師丸ひろ子 1963年 / 池井戸潤・松本人志・工藤公康・出川哲朗・真矢みき 1962年 / 茂木健一郎・平田オリザ・是枝裕和・松重豊 1961年 / 三谷幸喜・村上隆・栗山英樹・松田聖子・城戸真亜子

③既存世代論 ・新人類世代 広義は1961年～1970年生れ 狭義は1961年～1965年*

④成長過程での時代背景（世の中の出来事／社会・経済・流行・新商品など）

※中心年齢を軸に〈誕生期〉**高度経済成長期に誕生。**

（1961～1965年）1960年池田内閣所得倍増計画の閣議決定、60年安保、流通革命、ダッコちゃん、1963年「鉄腕アトム」放送開始、1964年東京オリンピック開催、その後1965年から70年まで続くいざなぎ景気を経て1970年大阪万博開催。1971年カップヌードル発売、マクドナルド開店。TVスター誕生開始。

●1961年には今日の長寿大国の礎となる「国民皆保険制度」が確立した。

〈10代〉 **共通一次試験開始の時期に10代。**

〈20・30代〉バブル期を20代で謳歌、デフレ下での30代。

〈40・50代〉リーマンショック、東日本大震災の中での40代、人口減少社会で迎える中での50代

■次世代シニア後半（56～60歳・中心年齢58歳）

- 90

文雄・孫正義・みうらじゅん・大竹しのぶ・石川さゆり 1956年 / 豊田章男・石波茂・泉麻人・長渕剛・妹島和世・柴門ふみ

③既存世代論 ・ポパイ J J 世代 1952年～1960年生れ＊（博報堂新しい大人文化研究所命名）

・しらけ世代 1950年～1964年生れ＊＊

・ポスト団塊世代 1951年～1958年生れ＊＊＊ 1950年～1955年＊＊＊＊ など

④成長過程での時代背景（世の中の出来事／社会・経済・流行・新商品など）

※中心年齢を軸に〈誕生期〉高度経済成長期に誕生。

（1956～1960年）1956年政府宣言「もはや戦後ではない」・神武景気、1958年東京タワー完成、日清チキンラーメン発売、1959年皇太子ご成婚、「おかあさんといっしょ」、週刊少年サンデー、少年マガジン創刊、1960年池田内閣所得倍増計画の閣議決定、60年安保。その後子供期に1964年東京オリンピック、1966年ビートルズ来日、「ウルトラマン」シリーズ放送開始、グループサウンズ、「笑点」放送開始、1967年リカちゃん人形登場など体験。

〈10代〉 マクドナルド、カップヌードル、セブンイレブン、新・食文化が彩る10代。

（1968～1977年頃）1968年大学紛争、3億円事件、ボンカレー、週刊少年ジャンプ創刊、1969年アポロ月面着陸成功、「8時だヨ！全員集合」放送開始、1970年大阪万博、「モーレツからビューティフルへ」「ディスカバージャパン」、雑誌アンアン創刊、1971年マクドナルド開店、カップヌードル発売、ボウリングブーム、1972年沖縄返還、浅間山荘事件、1973年石油危機、セブンイレブン開店、1975年雑誌 J J 創刊、1976年ロッキード事件、「限りなく透明に近いブルー」、雑誌ポパイ創刊、映画「犬神家の一族」、1977年ピンクレディ登場、円高不況企業倒産過去最高。

〈20・30代〉 ジャパン A S ナンバー 1・バブル消費・バブル崩壊・阪神淡路を体験した20代30代。

（1978～1997年頃）1978年スターウォーズ上映、サザンオールスターズ登場、スペースインベーダー、ディスコ、1979年日本的経営評価の著「ジャパンアズナンバーワン」ヒット、ウォークマン販売、1980年漫才ブーム、松田聖子青い珊瑚礁、とらばーゆ、1981年「オレたちひょうきん族」開始、1983年東京ディズニーランド開園、積み木くずし、ファミリーコンピュータ発売、「ふぞろいの林檎たち」放映、ホイチョイ「見栄講座」ヒット1984年マイケルジャクソン「スリラー」ヒット、浅田彰「構造と力」、80年代DCブランドブーム、1985年プラザ合意、バックトゥザフューチャー、スーパーマリオ、金妻ブーム、おニャン子クラブ、1986年チェルノブイリ原発事故、男女雇用機会均等法、1987年バブル経済、DINKS 消費、「ノルウェーの森」、「私をスキーに連れてって」、1988年カラオケボックス、リクルート事件、1989年昭和から平成へ◆1991年バブル崩壊、失われた20年へ、ジュリアナ東京、「東京ラブストーリー」、1993年 J リーグ発足、1995年阪神淡路大震災、オウム事件、生産年齢人口ピーク・以後減少、小室ファミリー・ドリカム・ミスチルヒット連発、1996年携帯電話 PHS 普及加速、1997年世界同時株安、金融破綻山一証券廃業、「踊る大捜査線」、「タイタニック」「失楽園」。

〈40・50代〉 デフレ経済下での40代、超高齢社会50代

（1998年頃～）1998年就職氷河期、貸し渋り、1999年 EU ユーロ導入、2000年介護保険制度施行、2002年ゆとり教育開始、2003年個人情報保護法成立、イラク戦争、地デジ放送開始、六本木ヒルズ、「世界にひとつだけの花」、2004年振り込め詐欺、アテネオリンピック、2005年「ALWAYS 三丁目の夕日」、ちょいワルおやじ、2006年ライブドア事件、2007年消えた年金記録問題、団塊世代定年を迎える、超高齢社会（高齢者21.5%に）◆2008年リーマンショックで世界同時不況、 아이폰 発売、2009年派遣切り、2011年

東日本大震災、2012年第二次安倍内閣、2013年高齢者雇用安定法改正、「半沢直樹」ヒット、2015年インバウンドで国内市場活性化 2016年国勢調査初の人口減少

■次世代シニア・世代的特記事項（1956年～1965年生まれ）

- ①次世代シニア 50代前後半とも高度経済成長期に生まれ、その親たちが高度経済成長を支えていた。
- ②誕生期には既に民放テレビも開局、東京オリンピック開催でその普及率も高まりテレビとともに育った世代でもある。テレビ番組も特撮もの、お笑いもの、アニメなど分野が広がり、仮面ライダー、笑点など今日になお続くものにも子供の頃から接し、その楽しみを子供世代へと引き継いでる。
- ③ 50代前半層は子供の頃、後半層は10代の頃にファストフードを体験、カップヌードルを始め新しい食文化の洗礼を受けた。50代前半層は共通一次試験開始前後に受験期を迎えている。この頃、音楽や映画の米国における巨大産業化の波も受け、「エンターテインメント」が分野を超えて広がりを見せていた。歌謡曲だ、ロックだ、といった従来の硬直した区分も意味をなさなくなり、ボーダレスに好き嫌いで選別することが増えていったのもこの頃の彼らが牽引した感性といえる。
- ④ 50代後半層は20代から30代前半頃を、世界に冠たる日本型経営「ジャパナイズナンバーワン」の時期から、バブル期で過ごし、50代前半層も20代をバブル期で過ごし、多様に楽しみを広げていく。ビートたけしに代表される新しいタイプのお笑いをいち早く受け入れ、文化に昇華したのも彼らではないだろうか。その後、バブルは崩壊し失われた20年と呼ばれる時代を過ごす中、消費が多様化し、ブランドも飛躍的に増える中で若い時期に選択眼を養うことができた世代、ユーミンなどに象徴される洗練された街の暮らしが体現できる人たちともいえよう。また、男女雇用機会均等法で総合職の女性が増えるとともに女性のライフコースが多様化した世代でもあり、洒落たレストランのみならず居酒屋など女性同士で酒を嗜む光景もこの世代が牽引していたように思える。現在形シニアの現役時代と比べると女性の社会進出が進んでいることも、次世代シニアを考える上で大きな差といえよう。
- ⑤リーマンショックの頃に40代後半から50代前半の時期を迎え、団塊が定年、年金給付年齢が遠のき、無縁社会、単身社会など超高齢社会に関わる情報をシャワーのように浴び、親の介護も始まる年齢になった。これから高齢期を迎えた後の仕事、家族、楽しみ、それを支えるお金と健康などについて前の世代よりも早くから考えざるを得ない世代ともいえる。「定年後、仕事をするか余生を楽しむか」という旧文脈な悩みを抱える暇もなく、当分は楽しみと仕事を両立させる人生設計が標準となる世代ではなかろうか。高齢期に入った団塊世代は、良き先達と反面教師の両側面を合わせ持つ。上の世代を冷静に見ながら、自らの足元を見つめ、持ち前の選択眼で未来の楽しみを今から計画、実行することが期待できる。

(2) 現在形シニア (66～75歳・1941年～1950年生まれ)

■現在形シニア前半 (66～70歳・中心年齢68歳)

- ①誕生年 1946年(昭和21年)～1950年(昭和25年) 中心年1948年(昭和23年)
・1948年生れの場合 → 10代 1958年～1967年 20代 1968年～1977年
30代 1978年～1987年 40代 1988年～1997年
50代 1998年～2007年 60代 2008年～2016年
- ②著名人 1950年/池上彰・中沢新一・内田樹・坂東玉三郎・八代亜紀 1949年/テリー伊藤・
武田鉄矢・矢沢永吉・松本隆・残間里江子・萩尾望都 1948年/柳井正・村上春樹・井上
陽水・上野千鶴子 1947年/寺島実郎・橋本治・荒俣宏・細野晴臣・森山良子・たかの友
梨 1946年/ビートたけし・吉田拓郎・栗原はるみ・中尾ミエ
- ③既存世代論 ・団塊の世代 広義は1947年～1951年生れ 狭義は1947年～1949年
・従って1946年はその前の世代となる
- ④成長過程での時代背景(世の中の出来事/社会・経済・流行・新商品など)

※中心年齢を軸に〈誕生期〉平和条約締結に至る戦後復興期に誕生。

(1946～1950年) 1946年日本国憲法公布、米国緊急援助物資到着、女性参加初の総選挙 1947年6・3制導入、憲法施行、「東京ブギウギ」、1948年イスラエル建国、映画「酔いどれ天使」、1949年湯川秀樹ノーベル賞受賞「青い山脈」1950年朝鮮戦争 警察予備軍設立 レッドパージ本格化、ブレザージャケット。翌1951年、日本はサンフランシスコ平和条約締結。国際法上の連合国軍との戦争状態が終結。同年、「第1回紅白歌合戦」(ラジオ)、1954年第1回モーターショー、サブリナパンツ、「ゴジラ」公開、1955年高度経済成長期突入へと続く。

〈10代〉 高度経済成長と若者文化萌芽の時期に10代。

(1958～1967年頃) 1956年政府宣言「もはや戦後ではない」、日本登山隊マナスル登頂、登山ブーム契機に、1958年東京タワー完成、長嶋茂雄三振デビュー、日清チキンラーメン、ホンダスーパーカブ 1959年皇太子ご成婚、第1回レコード大賞、1960年60年安保、1961年国民皆保険制度、「上を向いて歩こう」ヒット、1962年「スカッとさわやかコカコーラ」CM開始、キューバ危機、1963年ケネディ大統領暗殺、1964年東京オリンピック開催、切手収集ブーム、みゆき族流行、平凡パンチ創刊、1965年いざなぎ景気、エレキギターブーム、映画「網走番外地」、1966年ザ・ビートルズ来日、日本の総人口1億人突破、新三種の神器3C時代、1967年グループサウンズ、ミニスカート、フーテン族流行、成田闘争、少年ジャンプ創刊。

〈20・30代〉 大学紛争、反体制から生活人・企業人への20代、バブル経済へ向かう時期に30代。

(1968～1987年頃) 1968年パリ五月革命、世界各地で若者の異議申し立て、日本も大学紛争激化、3億円事件、1969年新宿西口フォークゲリラ、アポロ11号人類初の月着陸、1970年大阪万博開催、赤軍派日航機よど号ハイジャック、ディスカバージャパン、「男は黙ってサッポロビール」、1971年カップヌードル発売、アンノン族流行、団塊ジュニア生れる(～82年)、1972年あさま山荘事件、スカイラインCM「ケンとメリー」ヒット、「ゴッドファーザー」公開、1973年ベトナム和平調印、「神田川」ヒット、石油危機、1974年戦後初マイナス成長、「氷の世界」ヒット、「砂の器」、長嶋茂雄引退、1975年第一回世界女性会議、この頃、団塊世代結婚出産、1977年ロッキード事件、1977年円高不況・企業倒

産最高◆1978年成田空港開港、1979年ウォークマン発売、ジャパンアズナンバーワン、1980年家庭内暴力社会問題化、1981年北の国から、「不思議大好き」1983年東京ディズニーランド開園、ファミリーコンピュータ発売、1984年グリコ森永事件、タカラ缶チューハイ発売、1985年ブラザ合意、ハンディカム、金妻ブーム、1986年男女雇用機会均等法、1987年バブル経済、アサヒスーパードライ発売、国鉄民営化。

〈40・50代〉バブル経済から「失われた20年」の間に社会や消費を動かす中心の年代を生きる。

(1988～2007年頃)1988年リクルート事件、カラオケボックス、1989年昭和から平成へ、天安門事件、ベルリンの壁崩壊、東証株価最高値記録、1990年ローリングストーンズ初来日、大学入試センター試験開始、1991年ソ連消滅、バブル崩壊、失われた20年へ、1993年細川連立内閣誕生、就職氷河期へ向かう(～2005年)1995年阪神淡路大震災、オウム事件、生産年齢人口ピーク・以後減少、1997年世界同時株安、金融破綻◆1999年頃学級崩壊社会問題に、2000年介護保険制度施行、相次ぐ凶行「切れる17歳」、2001年小泉内閣、9.11テロ、2002年ゆとり教育、インターネットADSLで急速普及、メジャーでイチロー新人王、2003年個人情報保護法成立、イラク戦争、地デジ放送開始、冬ソナブーム、2004年振り込め詐欺、2005年クールビズスタート、2006年ライブドア事件、2007年消えた年金記録問題、団塊世代定年を迎える(2007年問題)、超高齢社会(高齢者率21.5%に)。

〈60代〉超高齢社会の主役に躍り出た60代。

(2008年頃～)2008年リーマンショックで世界同時不況、映画「おくりびと」2009年民主党政権、2010年「無縁社会」「断捨離」、2011年東日本大震災、2012年第二次安倍内閣、2013年半沢直樹ヒット、2015年インバウンドで国内市場活性化 2016年国勢調査で初の人口減少。

■現在形シニア後半(71～75歳・中心年齢73歳)

- ①誕生年 1941年(昭和16年)～1945年(昭和20年) 中心年1943年(昭和18年)
・1943年生れの場合 → 10代 1953年～1962年 20代 1963年～1972年
30代 1973年～1982年 40代 1983年～1992年
50代 1993年～2002年 60代 2003年～2012年
70代 2013年～
- ②著名人 1945年/タモリ・池澤夏樹・宇崎竜童・見城美枝子・富司純子・樋口久子 1944年/田勢康弘・佐高信・釜本邦茂・吉永小百合・落合恵子 1943年/藤原新也・関口宏・加藤登紀子・野間佐和子 1942年/小沢一郎・大前研一・松本幸四郎・川久保玲・樹木希林 1941年/小泉純一郎・安藤忠雄・萩本欽一・白石加代子
- ③既存世代論 ・戦中生れ世代 1941年～1946年
・焼け跡世代 1935年～1946年** 1935年～1939年***
- ④成長過程での時代背景(世の中の出来事/社会・経済・流行・新商品など)
※中心年齢を軸に〈誕生期〉太平洋戦争・戦中期に誕生。
1941真珠湾攻撃・太平洋戦争へ、日劇「歌う李香蘭」大盛況、国民学校・言論統制強化、1942年東条英機内閣下で翼賛選挙、1943年兵力不足で学徒出陣、敵性音楽禁止、映画「無法松の一生」、1944年学童疎開、特高警察言論弾圧、1945年広島・長崎に原爆投下、敗戦、GHQによる占領開始、1946年日本国憲法公布、米国緊急援助物資到着、女性参加初の総選挙 1947年6・3制導入、憲法施行、東京ブギウギ、1949年湯川秀樹ノーベル賞受

賞 青い山脈、1950年朝鮮戦争 警察予備軍設立 レッドパーズ本格化・・・1951年サンフランシスコ平和条約締結で戦争状態終結、1952年映画「風と共に去りぬ」「第三の男」、「君の名は」。

〈10代〉 **高度経済成長、ALLWAYS 三丁目の夕日の時代を10代で生きる。**

(1953～62頃) 1953年三種の神器、NHKテレビ本放送開始 1954年ビキニ環礁水爆実験、映画「七人の侍」、街頭テレビ(力道山)、第一回モーターショー、サブリナパンツ、1955年政治55年体制、1956年政府宣言「もはや戦後ではない」、「太陽の季節」。1958年東京タワー完成、長嶋茂雄三振デビュー、プレスリー「ハートブレイクホテル」、ロカビリーブーム、1959年皇太子ご成婚、1960年60年安保、煙草ハイライト発売 1961年国民皆保険制度、「上を向いて歩こう」ヒット、1962年「スカッとさわやかコカコーラ」CM開始、キューバ危機。1963年ケネディ大統領暗殺。

〈20・30代〉 **高度経済成長期を支えた20代。 石油危機、マイナス成長を体験した30代。**

(1963～1982年頃) 1963年ケネディ大統領暗殺、1964年東京オリンピック開催、切手収集ブーム、みゆき族流行、平凡パンチ創刊、1965年いざなぎ景気、エレキギターブーム、映画「網走番外地」、米軍北爆開始、1966年中国共産党文化大革命、ザ・ビートルズ来日、日本の総人口1億人突破、新三種の神器3C時代、1967年グループサウンズ、フーテン族流行、1968年パリ五月革命、大学紛争激化、3億円事件、1969年日本初の公害白書、アポロ11号人類初の月面着陸、1970年大阪万博開催、赤軍派日航機よど号ハイジャック、ディスカバリージャパン、三島由紀夫自決、1971年多摩ニュータウン入居開始、1972年あさま山荘事件◆1973年ベトナム和平調印、石油危機、ハイセイコーブーム、シルバーシート登場、1974年戦後初マイナス成長、ルバン島で元日本兵発見「砂の器」、長嶋茂雄選手引退、1976年ロッキード事件、1977年円高不況・企業倒産最高、1978年成田空港開港、1979年ジャパニーズナンバーワン、1980年家庭内暴力社会問題化。1981年「北の国から」「ルビーの指輪」。

〈40・50代〉 **バブル経済前夜からバブル崩壊に至る40代、インターネット普及へ向かう50代。**

(1983～2002年頃) 1983年東京ディズニーランド開園、NHK朝ドラ「おしん」、1984年グリコ森永事件、1985年プラザ合意、電電公社・専売公社民営化、ハンディカム、1986年男女雇用機会均等法、社会党土井たか子委員長誕生、1987年バブル経済、アサヒスーパードライ発売、国鉄民営化。1988年リクルート事件、1989年天安門事件、ベルリンの壁崩壊、東証株価最高値記録、1991年ソ連消滅、バブル崩壊、失われた20年へ◆1993年細川連立内閣誕生、就職氷河期、1994年高齢社会へ、1995年阪神淡路大震災、オウム事件、生産年齢人口ピーク・以後減少、1997年世界同時株安、金融破綻、1999年東京都知事に石原慎太郎、2000年介護保険制度施行、相次ぐ凶行「切れる17歳」、2001年小泉内閣、9.11テロ、2002年ゆとり教育、インターネット急速普及。

〈60・70代〉 **高齢者(65歳以上)になった頃から超高齢社会始まる。**

(2003年頃～) 2003年個人情報保護法成立、イラク戦争、地デジ放送開始、2004年振り込め詐欺、2005年クールビズスタート、2006年ライブドア事件、2007年消えた年金記録問題、団塊の2007年問題、超高齢社会(高齢者率21.5%に) 2008年リーマンショックで世界同時不況、後期高齢者医療制度、映画「おくりびと」 2009年民主党政権、2010年「無縁社会」「断捨離」、2011年東日本大震災、2012年第二次安倍内閣◆2013年富士山世界文化遺産に、2014年集団的自衛権行使容認を閣議決定、2015年インバウンドで国内市場活性化、ふるさと納税 2016年国勢調査で初の人口減少。

■ 現在形シニア・世代的特記事項（1941年～1950年生まれ）

- ① 現在形シニア 70代前半の人たちは太平洋戦争下で生れ、戦後の混乱を幼児期に体験している。明治、大正から戦前生れの親のもとに育ったのでその価値観も引き継いでいると考えられる。60代後半層はほぼ団塊世代＝ベビーブーマーと重なる。戦後世代とはいえ、サンフランシスコ講和条約以前の連合軍占領（国際法上は戦争状態）時期、戦後復興期に生れており、「戦争を知ってる子供たち」ともいえる。アメリカ文化への憧れや信奉には、占領下で生れ育った影響もうかがえる。
- ② 70代前半層は戦後 10代の頃、外国人レスラーをやっつける力道山、プレスリー人気に端を発するロカビリーや長嶋茂雄に熱狂、その後プロ野球ナイター中継を娯楽の主役に押し上げる視聴者になる。そして高度経済成長期を 20代、30代の社会人として支えていく。60代後半層は高度経済成長期を 10代から 20代前半頃に過ごした。エレキブーム、ビートルズの来日、世界各地で起きた若者の異議申し立てと同期同調するかのように大学闘争の時期を過ごす（大学進学率は未だ低かったが存在感が大きかった）。卒業後は就職。後半層の築いた成長を引き継ぎ企業人として多くの人が生きていく。70代前半層も含め、若い頃に熱中した登山を今でも楽しんでいる。恋愛結婚で核家族を築いた最初の世代、友達親子を志向した最初の世代、人口が多いことから競争心が強い世代ともいわれる。日常、彼らと接していて面白いと感じるのは「団塊世代」に属していることを「気に入っている」人が多いということである。自己主張、意義付けを大事にする姿も個性というより同質性を感じる。ほかの世代に対するこれも競争心なのであろうか。
- ③ 70代前半層はバブル経済前夜からバブル崩壊に至る時期を働き盛り、企業を中心ともいえる 40代で過ごし、その後の就職氷河期、金融破綻、世界同時株安の時代に経営層として困難な舵取りを担う年頃となる。60代後半層は 2000年代に 50代となり、インターネットの出現による産業、娯楽、社交分野の激変の中で定年期を迎える。2000年代に入り女性たちは韓流ブームを牽引しました。親から子へ、周囲へと好みの輪（仲間）をどんどん広げていった。
- ④ 2007年、超高齢社会となった時期に現在形シニアの中心年齢は 62 歳。この年に団塊の世代が多く定年を迎えた。この頃より元気な高齢者像が話題となり、活動的で楽しみを謳歌するシニア像が取り上げられ、消費が増えることが期待される一方、単身者の増大、孤独死、高齢者の生活保護増加など光と影が浮き彫りになっていく。これから後期高齢者年齢を迎える現在形シニアは、楽しみを維持する上でも健康寿命が気になる年代に差し掛かっている。

※参考文献・記事

世代論名称・年齢範囲等：＊世代論の教科書（阪本節郎・原田曜平著）＊＊「世代」の正体（長山靖生著）＊＊＊ JMA リサーチ道場（サイト） ＊ ＊ ＊ ＊ @コフス（サイト）
時代の出来事・流行：時代とともに振り返る自分史ノート（幻冬舎） 年代流行（サイト） 他

4. 好きと楽しい、の生活史。「時層」にみる両者の同質・異質

本章では、再び「次世代高齢者調査」を元に、次世代シニアと現在形シニアの特徴を見ていく。第1部3節の「データ収集と分析の視点」にも記載した内容をまず再確認する。調査対象者の500人に対して、過去を振り返ってもらい、「楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと」を①ファッション、ブランド、スタイル ②エンターテインメント ③趣味、娯楽、スポーツ、旅行 ④食べ物、飲み物、食事、飲食店 ⑤街、ショッピング、施設の5カテゴリーについて、「10代」「20・30代」「40・50代」「60代・70代」四つの時代に分け、現在に至る年代まで自由回答形式で記入してもらった。

狙いは「世代の共通体験・楽しみの生活史、そこから培われた価値観などから次世代シニアの今後の楽しみの在り方を考察する」ことにある。「楽しみの生活史」は『時層』と名づけた。時の流れとともに堆積してできた地層の中には土砂のほか、化石や様々な生物の痕跡がある。かつてショーンコネリーが出演していたサントリーウイスキー（クレスト12年）のCMコピーに「時は流れない。それは積み重なる。」というものがあったが、人が積み重ねる「時の層」は、その人を形作り、その中に現在、未来につながる楽しみの原石が潜んでいる、といった意味合いで名づけた。ここでも、現在形シニアと対比しながら次世代シニアを探る。詳細については、巻末の作表、一覧表を参照。

（1）好きと楽しい、の生活史

調査対象者に5つの「楽しみ・好き」カテゴリーの生活史を追って記入してもらった。まず初めに年代・世代を超えたところで（つまり51歳～75歳男女）頻出したワードを分析する。ワードはテキストマイニングによって抽出したものを使用。次に、「ファッション」「エンタメ」「趣味・スポーツ」の3カテゴリーについてみていく。（詳細は後述）※図表57は、自由回答形式の調査票サンプル。

図表57 次世代高齢者調査・自由回答票サンプル… 参考資料もご覧ください

◎ あなたの人生を振り返って、下にあげた5つのジャンルについて「楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと」を自由にお答えください。
 (注1) なるべく短い文章や単語で簡潔にご記入ください。
 (注2) 全ての欄を埋める必要はありません。印象的なことだけをその印象的だったジャンルの年代の欄にご記入いただければ結構です。
 (注3) ご記入いただいたこの用紙は、調査後送られた「調査生活や今後の生活に関するアンケート」と一緒に後日の集計にお送りください。

年代	10代の頃	20代～30代の頃	40代～50代の頃	60代～70代の頃
ファッション ブランド スタイル	セーター ジーンズ	パーカー サングラス ミチコ・ジュンコ	ユニクロ 3枚着	
エンターテインメント 音楽、芸術、映画 テレビ番組、ラジオ番組 雑誌、他	お笑い全盛期 ビートルズ うわのちやん	松田聖子 ザ・ベストテン お笑い芸人さん達	エンタの神様 がきっか(笑っていいね!)	
趣味、娯楽 スポーツ、旅行	釣り(1月) スキー バレーボール	釣り(海釣り) 自転車	釣り(海釣り) 家族旅行(温泉)	
食べ物、飲み物 食事、飲食店	ラーメン 鶏肉	カレー、パスタ もつ焼き スナック(飲み屋)	第3のビール、ハイボール レバ刺 食べ放題の店	
街、ショッピング、施設	ゲームセンター デパート(新橋)	ゲームセンター デパート(新橋)	新橋駅コリアナ コストコ	

①カテゴリー別頻出ワードにみる「好き、と楽しい」

以下、カテゴリー、出現ワード、最頻出現期、男女傾向について上位5 + αのワードを紹介する。出現期については、回答者の現年齢・生れ年から逆算して整理した。記憶や印象に強く残っているもの、生活に浸透していたもの列伝といってもよい。ブランドその他の固有名詞は特に時代や世代を感じさせるものとして赤字表記した。(詳細の集計は巻末資料参照)

〈ファッションブランド・スタイル〉

●ブランド

1. 「**ユニクロ**」 2000年代・1990年代 男≒女
2. 「**VAN**」 1960年代 男 > 女
3. 「**ルイ・ヴィトン**」 1980年代 女 > 男
4. 「**JUN**」 1960年代 男 > 女
5. 「**バーバリー**」 1970～2000年代 男 > 女
6. 「**ラルフローレン**」 1970年代～2000年代 男≒女
7. 「**ラコステ**」 1970年代 男 > 女

●スタイル

1. 「**アイビー**」 1960年代・1950年代 男 > 女
2. 「**ジーンズ**」 1960年代・1970年代 男 > 女
3. 「**ミニスカート**」 1960年代 女
4. 「**ハマトラ**」 1970年代 女 > 男
5. 「**スーツ**」 1980年代 男
6. 「**カジュアル**」 1960年代～ 男≒女
7. 「**パンタロン**」 1960年代 女

〈エンターテインメント（音楽・芸能・映画・テレビ番組・ラジオ番組・雑誌他）〉

●テレビ

1. 「**テレビ**」 1960年代～2000年代 男≒女
2. 「**ザ・ベストテン、音楽番組**」 1970年代 男≒女
3. 「**お笑い番組・オレたちひょうきん族**」 1970年～1990年 男 > 女
4. 「**韓国ドラマ**」 1990年代～2000年代 女 > 男
5. 「**ドラマ番組**」 1970年代～1990年代 女≒男

●その他

1. 「**映画**」 1950年代～1980年代 女≒男
2. 「**ビートルズ**」 1960年代・1970年代 男≒女
3. 「**フォークソング**」 1960年代・1970年代 男≒女
4. 「**オールナイトニッポン**」 1960年代・1970年代
5. 「**グループサウンズ**」 1960年代 女 > 男
6. 「**ラジオ**」 1950年代・1960年代・2000年代 男 > 女
7. 「**サザンオールスターズ**」 1970年代～1990年代 男≒女

〈趣味・娯楽・スポーツ・旅行〉

●スポーツ

1. 「**スキー**」 1960年代～1980年代 男≒女
2. 「**ゴルフ**」 1960年代～2000年代 男 > 女
3. 「**テニス**」 1960年代～1980年代 女 > 男
4. 「**ボウリング**」 1960年代・1970年代 男≒女
5. 「**水泳**」 1960年代・1970年代 男≒女

●旅行

1. 「**海外旅行**」 1970年代・1980年代・2000年代 女 > 男
2. 「**旅行**」 1970年代～2000年代 男≒女
3. 「**国内旅行**」 1960年代～2000年代 男≒女
4. 「**家族旅行**」 1970年代～1990年代 男≒女
5. 「**海外旅行・ハワイ**」 1980年代・2000年代 女 > 男
6. 「**温泉旅行**」 2000年代 男≒女

●その他

1. 「**ドライブ**」 1960年代～1980年代 男 > 女
2. 「**釣り**」 1960年代～2000年代 男
3. 「**カラオケ**」 1980年代・2000年代 男≒女
4. 「**登山**」 1960年代 男≒女
5. 「**読書**」 1960年代～男≒女

〈食べ物・飲み物・食事・飲食店〉

●食べ物

1. 「和食」1980年代～2000年代 男≒女
2. 「ラーメン」1960年代～1980年代 男＞女
3. 「寿司」1960年代・1980年代・2000年代 男≒女
4. 「お菓子・スイーツ」1950年代～1970年代 女＞男
5. 「肉料理・焼肉」1960年代・1980年代・2000年代 男＞女

●飲み物

1. 「ビール」1960年代～1980年代 男＞女
2. 「コーヒー」1960年代～1980年代・2000年代 女＞男
3. 「ワイン」1990年代・2000年代 男＞女
4. 「お酒」1960年代～2000年代 男＞女
5. 「ウイスキー」1960年代・1980年代 男＞女

●飲食店・食事

1. 「ファミリーレストラン」1970年代・1980年代 女≒男
2. 「居酒屋」1970年代～2000年代 男＞女
3. 「友人との食事」1980年代・2000年代 女
4. 「回転寿司」1990年代・2000年代 男≒女
5. 「マクドナルド」1970年代 男≒女

〈街・ショップ・施設〉

●街

1. 「銀座」1960年代～1990年代 女≒男
2. 「新宿」1960年代・1970年代 男≒女
3. 「渋谷」1960年代・1970年代 女≒男
4. 「原宿」1970年代 女
5. 「池袋」1970年代 男≒女

●ショップ・施設

1. 「デパート」1960年代 女≒男
2. 「アウトレットモール」1990年代・2000年代 女＞男
3. 「東京ディズニーランド」1970年代・1980年代 女≒男
4. 「ショッピングモール」1980年代・2000年代 女≒男
5. 「ららぽーと」1990年代 女

②ファッションブランド・スタイル

視点は、男性、女性それぞれに世代間でどのような傾向の異なりまたは類似があるのかの比較である。

男女別に、5歳刻みで特徴的な内容を抽出したのが図表 58。上段の銘柄例、スタイル例は総合的に出現が目立つもの、下段が10代、20・30代等、個別の時期に目立つものを記載。

この表から「次世代シニア（51-55歳＋56-60歳）」と「現在形シニア（66-70歳＋71-75歳）」を比較する。（以下、文中では「次世代」「現在形」と略す。）

「次世代シニア」と「現在形シニア」の比較

〈男性篇〉

「次世代」は若い頃からのトラディショナル、スポーツブランド愛用の流れでバブル時期にはデザイナーズ、海外高級ブランドを好み、楽しんできた。近年においてはファストファッションが主流となっているが、アウトドア系等、海外のブランドも楽しんでいる。若い頃から、中年期、今日に至るまで多様なブランドに触れていき傾向が伺える。上の「ハザマシニア（61-65歳）」は、「現在形」より「次世代」に近い傾向を明らかに示している。

それに対して「現在形」は、70代前半層は戦後復興期を過ごした影響か「服には関心がない」とした人が相対的に多く見受けられる。トラッドのこざいな着こなしの影響を受けながら、最近では実質本位で紳士服量販店やファストファッションを好んでいるようである。60代後半層は、よりトラディショナルやジーンズファッションへの愛着が感じられるが、次世代層のように多様なブランドを受け入れた時期を通過せず、一気にファストファッションにシフトした感がある。

図表 58 ファッション（男性）

「人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと」「ファッション・ブランド・スタイル」より抜粋【男性編】

		10代	20代・30代	40代・50代	60代・70代
51-55歳	出現銘柄数	54銘柄★★★★☆			
	銘柄例	VAN アディダス プーマ リーバイス ポロ ラルフローレン ポールスミス ブルックスブラザース エディバウアー ユニクロ GAP			
	スタイル例	トラディショナル アイビー ニュートラ ハマトラ サーファー マリン デザイナーズ スポーツ ファストファッション			
51-55歳		70年代・80年代前半	80年代～0年代前半	0年代～10年代前半	
	出現銘柄数	44銘柄★★★★☆			
	銘柄例	VAN JUN リーバイス エドウィン ポートハウス シップス DOMON ラルフローレン フィラ ラコステ バーバリー ユニクロ GAP			
51-55歳	スタイル例	トラディショナル アイビー コンチネンタル ヨーロピアン ニュートラ ハマトラ サーファー アメカジ イタリアン ファストファッション			
		60年代後半・70年代	70年代後半～90年代	90年代後半～10年代前半	
	出現銘柄数	45銘柄★★★★☆			
51-55歳	銘柄例	VAN JUN リーバイス DOMON ケント バーバリー アクアスキュータム バリス ポールスチュアート アルマーニ ユニクロ GU			
	スタイル例	トラディショナル アイビー コンチネンタル 海外高級ブランド ウェスタン ジーンズ クールビズ ファストファッション			
		60年代・70年代前半	70年代～90年代前半	90年代～10年代前半	2011年～2016年
51-55歳	出現銘柄数	16銘柄★★☆☆			
	銘柄例	VAN JUN ユニクロ バーバリー クロコダイル アーノルドパーマー アイビー ジーンズ ラッパズボン クールビズ ファストファッション 登山用品			
	スタイル例	50年代後半・60年代	60年代後半～80年代	80年代後半～0年代	0年代後半～2016年
51-55歳		VAN JUN ジーンズなど アイビー まったく気にしない	VAN JUN バーバリー アイビー トラディショナル	ユニクロ バーバリー クロコダイル ファストファッション クールビズ	ユニクロ クロコダイル しまむらなど ジーンズ 登山用品など
	出現銘柄数	17銘柄★★☆☆			
	銘柄例	関心ない ラコステ VAN ミラシオン ディオール ユニクロ 青山 アオキ イオン			
51-55歳	スタイル例	マンボスタイル Gパン ポロシャツ スラックス ジャンパー			
		50年代・60年代前半	60年代～80年代前半	80年代～0年代前半	0年代～2016年
	出現銘柄数	17銘柄★★☆☆			
51-55歳	銘柄例	関心なし マンボスタイル Gパン			
	スタイル例	50年代・60年代前半	60年代～80年代前半	80年代～0年代前半	0年代～2016年
		関心なし マンボスタイル Gパン	ラコステ VAN JUN Gパン アイビー ポロシャツなど	ミラシオン ディオール 青山 アオキ スーツ スラックス チノパンなど	ユニクロ イオン ミラシオンなどブレザー ポロシャツ チノパンなど

〈女性篇〉

「次世代」は若い頃、J J 創刊が前後した時期にハマトラの流行を体験した。服だけでなくユーミンの音楽やテニス、リゾートなど洗練された都会の文化を一体のものとして楽しんできた。DCブランドを経てバブル時期にはボディコンも楽しんできた。母親になった女性も若いファッションを楽しんでいる。日常生活では男性同様ファストファッションが主流、通販、海外高級ブランドも活用、着こなしを楽しんでいる。上の「ハザマシニア（61-65歳）」は、男性同様やや次世代に近い印象を感じさせる。

「現在形」の女性は男性と違い、着ることを楽しんできた様子が伺える。70代前半層の若い頃は、百貨店は豊かさやおしゃれの象徴的存在だったのであろう。またサブリナパンツなど映画がモードに影響

を与えた時代を通過してきている。面白いのは近年の記載の中で「フラダンス着」などが一部で出現している。趣味と一体で装いを楽しむ姿が浮かぶ。60代後半層は、ミニスカートや主張する女性のファッションを楽しんだことに特徴がありそうだ。ファストファッションは他の層と同様に愛用している。また、パンツスタイルも好みのものである。

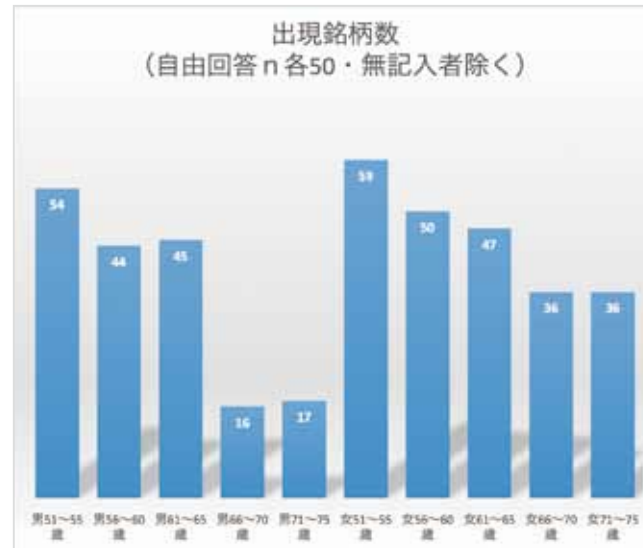
図表 59 ファッション(女性)

「人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと「ファッション・ブランド・スタイル」より抜粋【女性編】

		10代	20代・30代	40代・50代	60代・70代
51-55歳	出現銘柄数	59銘柄★★★★★☆☆			
	銘柄例	ルイヴィトン グッチ ラルフローレン メルローズ シャネル マックスマラ ブルックスブラザース リーガル ユニクロ ZARA GU			
	スタイル例	ハマトラ トラッド カジュアル ハイブランド DCブランド コンサバ エlegant ファストファッション 体型カバー			
51-55歳		70年代・80年代前半	80年代～0年代前半	0年代～10年代前半	
		コムサ ニコル ピンクハウス など ハマトラ DCブランドなど	ルイヴィトン グッチ ラルフローレンなど DCブランドハイブランド ボディコンなど	ユニクロ ラルフローレン GUなど ファ ストファッション パンツ 体型カバー	
	出現銘柄数	50銘柄★★★★★			
51-55歳	銘柄例	VAN ROPE ミハマ BIGI コムサデモード バーバリー フクソー ジュンコシマダ ラルフローレン ルイヴィトン 23区 ユニクロ 無印良品 ハマトラ ニュー トラ アイビー ミニスカート サーフアー DCブランド モノトーン コンサバ ジーンズ ファストファッション 通販			
	スタイル例				
		60年代後半・70年代	70年代後半～90年代	90年代後半～10年代前半	
		VAN ミハマ BIGI フクソー など ハマトラ ニュートラ ミニスカートなど	コムサ ROPE ジュンコシマダなど ハマトラ DC モノトーン ジーンズなど	23区 ラルフローレン ユニクロ など ファストファッション 通販など	
51-55歳	出現銘柄数	47銘柄★★★★★☆☆			
	銘柄例	ルイヴィトン グッチ カルディエ ワールド 東京スタイル ユニクロ プラダ ソニアリキエル ファミリア ユナイテッドアローズ チュニック ミニスカート ジーンズ スポーツ系 アイビー ハマトラ パンツスタイル 自然素材 楽なスタイル			
	スタイル例				
51-55歳		60年代・70年代前半	70年代～90年代前半	90年代～10年代前半	2011年～2016年
		CABIN VAN ルイヴィトン伊勢丹など ミニスカート ジーンズ アイビーなど	フェンディ グッチ ルイヴィトン など ミニスカート カジュアル ボディコンなど	ルイヴィトン ユニクロ グッチ など パンツスタイル ファストファッション	ユナイテッドアローズ チュニック など パンツ 楽なスタイル 通販など
	出現銘柄数	36銘柄★★★★★☆☆			
51-55歳	銘柄例	コムデギャルソン ディオール ピエールカルダン マンシング クロコダイル イナバヨシエ イッセイ 自由区 ユニクロ GAP タルボット ミニスカート パンタロン アイビー ミリタリールック パンツスタイル ロングパンツ ロングスカート			
	スタイル例				
		50年代後半・60年代	60年代後半～80年代	80年代後半～0年代	0年代後半～2016年
		コムデギャルソン Pカルダン 三愛など ミニスカートなど	ディオール イトキン レリアン など パンタロン ミニスカートなど	イッセイ 自由区 イナバヨシエ など ロングパンツ スカートなど	ユニクロ クロコダイル しまむらなど ジーンズ 登山用品など
51-55歳	出現銘柄数	36銘柄★★★★★☆☆			
	銘柄例	グッチ ルイヴィトン エルメス ワールド サンローラン 鳥居ユキ 三愛 三越・伊勢丹 ワールド ユニクロ セリーヌ ミニスカート パンタロン トラッド サプリナ ボーイッシュ エlegant キュロット 普通 フラダンス・カラオケ着			
	スタイル例				
51-55歳		50年代・60年代前半	60年代～80年代前半	80年代～0年代前半	0年代～2016年
		三愛 伊勢丹 三越 パーマー など サプリナ ボーイッシュ トラッドなど	サンローラン カルダン 鳥居ユキなど ミニスカート パンタロン ワンピースなど	グッチ ルイヴィトン エルメス など シンプル エlegant キュロットなど	ワールド ユニクロ セリーヌ 自由区 など 普通のもの フラダンス着など
	出現銘柄数				

ここで、特に男性における銘柄出現数の比較から特筆すべき事柄を紹介する。
〈銘柄出現数から見てくること〉

図表 60 性・年齢階層別ファッション出現銘柄数



図表 60 は、回答の出現銘柄数を性別・5 歳刻み年齢別に集計した結果である。男女ともに最も若い 50 代前半の銘柄出現数が多く、上の年代になると少なくなる。加齢に伴い想起する銘柄が減るようにも解釈できるが、男性の 66 歳以上が挙げた銘柄数の顕著な少なさに着目した。65 歳以下と断層ともいえる落差がある。「次世代高齢者調査」では「着るもの、ファッションに対する意識・態度」も調査しているが、その選択肢のうち『自分が着るものは自分が選んで買う』と回答した男性は、「次世代」58%に対して「現在形」は 42% にとどまった。加齢とともに服に対する興味が薄れるという年代起因の考え方も否定できないが、それにしても銘柄出現数の落差が大きい。このことから「次世代男性は高齢になっても着るものは自分で選び、楽しむ。その選択は前の世代よりも多様なものとなる」と推測する。その根拠となる世代要因仮説は下記のとおりである。

（世代要因）1. 「次世代」が多感な時を過ごした 20 歳前後の頃には団塊世代が体験した政治の季節は過ぎ、服をふくめて身近な生活を楽しむことに関心が向いていた。2. ライフスタイル誌・カタログ誌が多数出版され、そこで提唱される多様な服や文化を男女問わず受容した（ちなみにこの頃から服装雑誌 1 頁当たりの写真点数は飛躍的に増えた）。3. 団塊世代にはジーンズや I V Y・トラッドへの嗜好が認められるものの画一的で選択の幅も小さい（但しジーンズなど下の世代が継承した要素も見逃ない）。4. その上の世代を含め、戦後の貧困や戦前文化の名残りも存在し、男の服への関心は低かった。5. また、年を重ねても若い頃に培った好みの影響は大きい。

以上の根拠に基づき次世代シニアの着る楽しみの今後を推測した。

③エンターテインメント／趣味・娯楽・スポーツ・旅行

「次世代シニア」と「現在形シニア」の比較

ここからは、エンターテインメントと趣味・娯楽・スポーツ・旅行について触れて行くが、カテゴリーを横断的に俯瞰しながら分析する。それぞれのカテゴリーが関連しあって楽しみを形成している側面や、横（加齢）の流れにも目を向けてみる。

〈男性篇〉

図表 61 「男性の世代別・時層 M A P（次世代高齢者調査より）」

年代	分野	10代	20代・30代	40代・50代	60代・70代
時代		1970年代・80年代前半	1980年代～2000年代前半	2000年代・2010年代前半	2010年代後半
50代前半・男性 1965 (S40) -1961 (S36)	ファッション・ブランド・スタイル	アディダス ブーマ リーバイス ニュートラ サーファー	ボロ ラルフローレン ポールスミス ブルックスブラザーズ トラディショナル 海外高級ブランド DC ブランド	ユニクロ GAP エディバウアー サカゼン ファストファッション クロコダイル 新素材/新機能	
	エンターテインメント	オレたちひょうきん族 ザ・ベストテン オールナイトニッポン	サザンオールスターズ 松任谷由実 松田聖子 オレたちひょうきん族 お笑い番組 おにゃんこクラブ	20代の頃聴いた曲 ジブリやCGの映画 お笑い番組（エンタの神様・吉本新喜劇・笑点 など）	
	趣味・娯楽・スポーツ・旅行	野球 テニス スキー バイク 釣り インベーターゲーム	クルマ ゴルフ スキー テニス アウトドア 海外旅行 国内旅行 魚釣り Jリーグ観戦 楽器演奏	クルマ サイクリング ウォーキング ゴルフ バイク 海外旅行 国内旅行 温泉 魚釣り カラ オケ	
	食べ物・飲み物・食事・飲食店	マクドナルド コカコーラ 餃子 カップヌードル 吉野家 炭酸飲料	居酒屋 ファミレス ショットバー 回転寿司 ビール ラーメン 焼肉 焼酎 バーボン	居酒屋 立ち飲み サイゼリヤ スターバックス 回転寿司 ラーメン ビール ハイボール ワイン	
	街・ショッピング・施設	渋谷 新宿 伊勢佐木町 ボウリング場 ゲームセンター	渋谷 新宿 銀座 デイズニールランド ファミリーレストラン スポーツクラブ	アウトレットモール デイズニール USJ ホームセンター イケア コストコ ショッピングモール	
時代		1960年代後半・70年代	1970年代後半～90年代	1990年代後半～2010年代前半	2010年代後半
50代後半・男性 1960 (S35) -1956 (S31)	ファッション・ブランド・スタイル	VAN JUN シーズンズ スポーツ アイビー ヨーロピアン バンタロン	VAN JUN バーバリー DOMON トラディショナル 海外ブランド アメリ カンカジュアル	ユニクロ GAP ビームス シップス ファストファッション ボタンダウン	
	エンターテインメント	ビートルズ フォークソング オールナイトニッポン 全員集合	サザンオールスターズ ニューミュージック サタディナイトフィーバー ひあ ポパイ	サザンオールスターズ ジャズ K-POP お笑い番組（とんねるず他） 大河ドラマ YOUTUBE	
	趣味・娯楽・スポーツ・旅行	サッカー スキー バasketボール クルマ バイク ツーリング 野球	クルマ バイク ツーリング ゴルフ キャンプ タイピング	食歩歩き 街歩き スキー 釣り ゴルフ 国内旅行 神社仏閣巡り ランニング	
	食べ物・飲み物・食事・飲食店	マクドナルド コーラ 肉料理 カップヌードル ラーメン	居酒屋 ファミレス イタリア料理 アジ ア料理 ビール ワイン ファストフード ティラミス	回転寿司 居酒屋 ファミレス 夫婦で居 酒屋 王将 コーヒー ワイン 焼酎 和食	
	街・ショッピング・施設	吉祥寺 新宿 渋谷 デパート 中野ブロードウェイ	銀座 新宿 渋谷 神保町 デイズニールランド アウトレットモール	アウトレットモール ショッピングモール ヒルズ ミッドタウン ドンキホーテ イケア	
時代		1960年代・70年代前半	1970年代～90年代前半	1990年代・2010年代前半	2010年代後半
60代前半・男性 1955 (S30) -1951 (S26)	ファッション・ブランド・スタイル	VAN JUN ベルボトムシーズンズ トラッド コンチネンタル	バーバリー イッセイミヤケ ケント ラコステ トラッド カジュアル 海外高級ブランド 三峰	バビス バーバリー アルマーニ カジュアル トラッド リーバイスシーズンズ	ユニクロ GU バリー リーバイスシーズンズ カジュアル ファストファッション
	エンターテインメント	ビートルズ グループサウンズ ラジオ深夜放送 平凡パンチ	スターウオーズ オレたちひょうきん族 タモリ たけし さんま フォークソング ニューミュージック ポパイ	お笑い番組（笑点など） 旅行番組 テレビ・DVDで映画 ミュージカル・歌舞伎	旅行番組 クイズ番組 パラエディ 大河 ドラマ スマホ 3D映画
	趣味・娯楽・スポーツ・旅行	ボウリング ギター スキー バイク 写真 オーディオ	クルマ バイク ゴルフ 家族旅行 ギター 国内旅行 海外旅行 ゲーム オーディオ	ゴルフ テニス 家族旅行（国内・海外） アウトドア ウォーキング 温泉旅行	ウォーキング ゴルフ 温泉旅行 コンサート 美術館
	食べ物・飲み物・食事・飲食店	ラーメン コカコーラ そばや カツ丼	マクドナルド 居酒屋 スナック（店） ウイスキー ビール カラオケ	ビール 日本酒 ワイン 飲み会 回転寿司 イタリアン 台湾料理	ビール 日本酒 ワイン 和食 寿司 魚 家族で外食
	街・ショッピング・施設	渋谷 ボウリング場 デパート 豊島園	新宿 銀座 吉祥寺 横浜 ファッションビル ホームセンター ス ポーツセンター	大型ショッピングセンター アウトレット モール 渋谷 銀座 池袋	大型ショッピングセンター 地元スーパーに週1夫婦で
時代		1950年代後半・60年代	1960年代後半～80年代	1980年代後半～2000年代	2000年代後半・2010年代後半
60代後半・男性 1950 (S25) -1946 (S21)	ファッション・ブランド・スタイル	VAN JUN シーズンズ アイビー まったく気にしない	VAN JUN バーバリー アイビー トラディショナル シーズンズ	ユニクロ バーバリー クロコダイル ファストファッション クールビズ	ユニクロ クロコダイル しまむら シーズンズ 登山用品
	エンターテインメント	深夜放送 オールナイトニッポン 少年漫画誌 映画 ビートルズ	映画（寅さんシリーズ・やくざ・アクション・マックイーン） 野球中継 ラジオ深夜放送 小説	大河ドラマ 演歌 落語 ゴルフ・野球中 継 映画（アクション・サスペンス・SF）	朝ドラ 大河ドラマ 旅番組 グルメ番組 相棒 歴史番組 野球中継 読書 YouTubeで 昔の曲
	趣味・娯楽・スポーツ・旅行	バスケット バレーボール 魚釣り 鉄道 野球 ボウリング	登山 釣り 野球 模型 放浪旅行 鉄道 国内旅行 海外旅行 カメラ	釣り 園芸 ハイキング ゴルフ スポー ツ観戦 鉄道 カラオケ 国内旅行 海外旅行	登山 ハイキング ゴルフ 模型 釣り 鉄道 ウォーキング 夫婦旅行
	食べ物・飲み物・食事・飲食店	コカコーラ カレー ラーメン イタリア・洋食店	デニーズ スカイラーク 不二家レストラ ン 肉類・肉食 喫茶店 ビール 居酒屋 キャバレー	ファミリーレストラン スナック 居酒屋 回転寿司 焼肉 うどん そば ラーメン	居酒屋 回転寿司 スナック うどん そば 日本料理
	街・ショッピング・施設	渋谷 新宿 銀座 繁華街 野球場	渋谷 新宿 銀座 上野アメ横 新橋 新宿ビットイン 高円寺 高層ビル	銀座 新橋 新宿 神田 日本橋 ショッピングセンター 明治座	ショッピングセンター ホームセンター カインズ アウトレットパーク 図書館 登山用品店
時代		1950年代・60年代前半	1960年代～80年代前半	1980年代～2000年代前半	2000年代～2010年代後半
70代前半・男性 1945 (S20) -1941 (S16)	ファッション・ブランド・スタイル	マンボスタイル Gパン 学生服 関心なし	ラコステ VAN JUN Gパン アイビー ポロシャツ Gパン スーツ	ミラシオン ディオール 青山 アオキ スーツ スラックス チノパン ポケット チーフ	ユニクロ イオン ミラシオン プレーザ ポロシャツ チノパン
	エンターテインメント	ラジオ（野球・演歌・赤胴鈴乃助） 時代劇 プロレス中継	映画（日活・東映・やくざ・西部劇・ハリ ウッド・プレスリー・裕次郎） テレビ（野球・プロレス中継） ロック ムード歌謡曲	歌謡曲 大河ドラマ 時代劇 大沢悠里のゆうゆうワイド	演歌・歌謡番組 大河ドラマ 笑点 DVD鑑 賞 はぐれ刑事 読書 野球中継 大沢悠里
	趣味・娯楽・スポーツ・旅行	野球 登山 サイクリング スキー 蝶々収集 鉄道模型 一人旅	登山 スキー 釣り プロレス・野球・相 撲観戦 競馬 ゴルフ 音楽鑑賞 国内旅行	釣り 野球観戦 ゴルフ 国内旅行 海外旅 行 カラオケ 散歩 一人旅	国内旅行 夫婦旅行 園芸・ガーデニング カラオケ 麻雀 ウォーキング
	食べ物・飲み物・食事・飲食店	コカコーラ サイダー バヤリース デパート大食堂 鰯肉 さつまいも	コーラ 酒 ビール ウイスキー めし屋 とんかつ	ビール お酒 回転寿司 ファミレス 焼肉 肉	ファミレス 和食 一杯飲み屋 ビール 好きなものを少しだけ
	街・ショッピング・施設	商店街 緑日 百貨店 渋谷 マーケット	新宿 銀座 上野 ショッピング デパート 東京タワー	ショッピングセンター ホームセンター デパート 六本木 カインズ フィットネス	地元駅前・商店街 コンビニ 図書館 スカイツリー

《エンターテインメント》

「次世代」から「現在形」の60代後半まで共通するのが10代の頃のラジオ深夜放送、とりわけ「オールナイトニッポン」の存在である。「オールナイトニッポンゴールド」と称し彼らの聴取を狙ったパーソナリティ出演番組があるのもうなずける。

今はインターネット・SNSが深夜ラジオに近い役割を果たしているものと推察されるが、「次世代」が好み、楽しんだものとして特徴的なのがテレビのお笑い番組、特に「オレたちひょうきん族」の存在である。この番組が放送開始された1980年代初頭は様々な若者文化やサブカルチャーが開花した。野田秀樹などの小劇場でも新たな感覚の笑いが溢れていた。共通するのは速射砲のような言葉の応酬であり、時代の共有体験を基盤とした知的な要素とドタバタやアドリブ感覚が混在している点である。どちらも底にある「仲間意識」が受け入れられた要素である（まさに「ともだちの輪」）。「次世代」が大学生の頃は同好会が活発だったことや、議論（対話）より談笑（会話）を好むことも無縁ではなかろう。また、「笑い」を一段下に見ることなく、その批評性や可能性を受け入れた世代ともいえる。彼らに受け入れられているサザンオールスターズが歌詞に笑いと叙情を共存させていることにも共通する不変の世代感覚を感じさせる。「笑い」「仲間とつるむ楽しさ」が重要な要素といえる。「現在形」に目を向けると、60代前半のハザマ世代も含めた「ビートルズ」が共通体験になっている。その財布を狙い(?)毎年のようにボックスセットがリリースされ、決して過去のものにならない楽しみを受容している。「現在形」で目立つのは寅さんやヤクザものなどの「映画」である。それが大河ドラマ視聴やサスペンスもの、専門チャンネルなどで観る時代劇へとつながっている様子がうかがえる。近年では旅番組やグルメ番組もぐっと存在感を増している。

《趣味・娯楽・スポーツ・旅行 他》

「次世代」は若い頃からテニス、スキー、クルマのドライブやバイクのツーリングに親しんできた。20・30代の頃に家族とキャンプなどのアウトドア、ディスコ、海外旅行、40・50代ではゴルフ、カラオケ、食べ歩きや街歩きなどが目に付く。神社仏閣巡りを始めた人もいる。釣りは若い頃からずっと続けている人も多いようであり、ドライブの楽しみは技術の進化により身体機能の衰えを補うことで持続できそうである。楽器演奏などは若い頃の思い、時間と金に余裕ができることから復活するケースが多く見受けられる。「現在形」に目を向けると登山、ハイキング、釣り、園芸など自然に親しむ趣味の継続が確認される。世代を問わず旅行は海外などから国内、温泉、街歩きなど身近なところへ向かう層と、世界遺産などのテーマを追いかけ海外旅行に頻繁にでかける層、いずれも存在している。

〈女性篇〉

図表 62 「女性の世代別・時層 MAP (次世代高齢者調査より)」

年代	分野	10代	20代・30代	40代・50代	60代・70代
時代		1970年代・80年代前半	1980年代～2000年代前半	2000年代・2010年代前半	2010年代後半
50代前半・女性 1965 (S40) -1961 (S36)	ファッション・ブランド・スタイル	ピンクハウス ミルク ハマトラ アイビー DCブランド	ルイヴィトン グッチ ラルフローレン ブルックスブラザーズ DCブランド ハイブランド ボディコン	ユニクロ ラルフローレン GU ZARA ファストファッション パンツスタイル 体型カバー	
	エンターテインメント	サザン ユーミン クイーン JJ ザ・ベストテン オールナイトニッポン	ユーミン チェッカーズ サザン 山下達郎 アンアン たまひよ トレンディドラマ ジブリ ディズニー お母さんといっしょ	ジャニーズ サザン 福山雅治 韓流 冬のソナタ 海外ドラマ 行ってQ STORY ライブ (コンサート)	
	趣味・娯楽・スポーツ・旅行	テニス スキー ペンション 国内・海外旅行	スキー テニス 国内・海外旅行 温泉 家族旅行	国内・海外旅行 バス旅行 テニス カーデニング ジャニーズライブ へ娘と一緒に	
	食べ物・飲み物・食事・飲食店	マクドナルド ファストフード ファミレス 甘いもの	イタリアン・イタメシ パスタ・ティラミス ファミレス サイゼリヤ ビヤガーデン 食べ歩き	ランチバイキング ディナーバイキング タイ・韓国料理 スターバックス 回転寿司 イタリアン	
	街・ショップ・施設	ラフォーレ原宿 竹下通り 渋谷 ディズニーランド 新宿	渋谷 新宿 銀座 六本木 町田 ディズニーランド ららぽーと 大型 ショッピングセンター カラオケ	アウトレットモール ららぽーと コスト コ ルミネ 新宿 渋谷 銀座 二子玉川 自由が丘	

図表 62 「女性の世代別・時層 MAP (次世代高齢者調査より)」 つづき

時代	1960年代後半・70年代	1970年代後半～90年代	1990年代後半～2010年代前半	2010年代後半
50代後半・女性 1960 (S35) -1956 (S31)	ファッション・ブランド・スタイル VAN ミハミ BIGI フクソー ハマトラ ニュートラ ミニスカート	コムサデモード ROPE ジェンコシマダ ハマトラ DCブランド モノトーンファッショ ン ジーンズ	ユニクロ 23区 ラルフローレン セオリー カジュアル ファストファッション テレ ビ通販	
	エンターテインメント ビートルズ グループサウンズ 小さな恋のメロディ MCシスター	サザン コーミン ニューミュージック 山口百恵 松田聖子	サザン ミスチル ドリカム ゆず タイ タニック 美術展	
	趣味・娯楽・スポーツ・旅行 ボウリング ディスコ ダンス スキー サーフィン	テニス ゴルフ 海外旅行 (ハワイ・ロス) 家族旅行 ダイビング キャンプ ティス ニールランド	海外旅行 夫婦旅行 デニス スキー 登山 ティズニールシー	
	食べ物・飲み物・食事・飲食店 ピザ シェイクーズ マクドナルド アイス チョコレート	イタリアン・フレンチ・焼肉・中華・和 食・回転寿司 美味しいケーキ屋 ファミレス 居酒屋 お酒	韓国料理 イタリアン 回転寿司 居酒屋 バル ビール ワイン 家ごはん 夫婦で外食	
	街・ショッピング・施設 横浜元町 新宿 原宿 渋谷 ディスコ ライブハウス 駅ビル	渋谷 池袋 六本木 銀座 ディズニールランド 109 自宅周辺 児童施設	銀座 新宿 (新百合ヶ丘・吉祥寺・北千住) アウトレットモール ららぽーと レイクタウン	
時代	1960年代・70年代前半	1970年代～90年代前半	1990年代・2010年代前半	2010年代後半
60代前半・女性 1955 (S30) -1951 (S26)	ファッション・ブランド・スタイル CABIN VAN ヴィトン 厚底靴 ミニスカート ジーンズ アイビー	フェンディ グッチ ルイヴィトン ソバージュ ミニスカート カジュアル ボディコン マ キシスカート	ルイヴィトン グッチ ユニクロ プラダ パンツスタイル ファストファッション	コナйтеッドアローズ チュニック ユニクロ パンツスタイル 楽なスタイル 通信販売
	エンターテインメント ビートルズ グループサウンズ ラジオ深夜放送 アンアンノンノ	ソウル カーペンターズ キャロルキング 中島みゆき トトロ	マイケルジャクソン 韓流ドラマ ハリー ポッター 千と千尋	クラシック 韓流ドラマ サスペンストラ マ お笑い・バラエティ番組
	趣味・娯楽・スポーツ・旅行 ボウリング ローラースケート ダンスパーティー 国内旅行	テニス ゴルフ スキー 家族旅行 国内旅行 海外旅行 ファミコン・イン ヘーダー	テニス 国内旅行 海外旅行 (広域) エアロビダンス ジム	国内旅行 (箱根・伊豆近郊)・温泉旅行 夫婦旅行
	食べ物・飲み物・食事・飲食店 喫茶店 ナポリタン ピザ フルーツバーラー	ファミリーレストラン イタリアン ジェラート カルボナーラ 手打ちうどん 炉端焼き 赤ひょうたん	ワイン バイクン グッチファミリーレスト ラン 回転寿司 和食 焼肉 パンナコッタ	健康食 (亜麻仁油・塩分・チアシード・玄 米食・青魚) 食べ歩き 洒落たお店でランチ くら寿 司・スシロー
	街・ショッピング・施設 渋谷 原宿 新宿 横浜 デパート バリコ 日劇	銀座 新宿 渋谷 デパート バリコ ディズニールランド ディスカウント	銀座 新宿 渋谷 (吉祥寺・二子玉川・ 台場・船橋) アウトレットモール 伊勢丹 コストコ イケア 道の駅	銀座 渋谷 池袋 浅草橋・日本橋 アウトレットモール ショッピングセン ター 商店街
時代	1950年代後半・60年代	1960年代後半～80年代	1980年代後半～2000年代	2000年代後半・2010年代後半
60代後半・女性 1950 (S25) -1946 (S21)	ファッション・ブランド・スタイル コムデギャルソン カルダン 三愛 ミニスカート	ディオール イトキン レリアン バンタロン ミニスカート クロエのコート	イッセイミヤケ イナバヨシエ 自由区 無印良品	ユニクロ GAP セリーヌ 流行にとらわ れない・追わない
	エンターテインメント ビートルズ グループサウンズ 米国ホームドラマ 洋画	フォークソング ニューミュージック テ レビの音楽番組 ディスコ カラオケ クロワッサン 吉田 照美 浅間山荘事件	ロングパンツ スカート カラオケ ライブハウス 韓流ドラマ 米 国映画 サスペンストラ マ テレビで洋画 クロ ワッサン 永六輔	ロングスカート パンツスタイル コンサート 歌番組 旅番組 クイズ番組
	趣味・娯楽・スポーツ・旅行 テニス バレーボール ボウリング 読書 刺繍 合唱	登山 スキー 海・山 ボウリング テ ニス 映画 読書 着付け 社交ダンス 国内 旅行	デニス ゴルフ 国内旅行 海外旅行 夫 婦旅行 バスツアー スポーツジム 美味しいもの 巡り	国内旅行 温泉旅行 バスツアー 家庭 菜園 歌舞伎 美術鑑賞 寺社巡り フラダンス ホットヨガ
	食べ物・飲み物・食事・飲食店 お茶ノ水ジロー ビザバイ インスタントラーメン ケーキ	トッポスのカレー 赤ひょうたん 焼肉 キャンディ チキンバスケット コークハイ	バイクン (ランチ・ケーキ) 回転寿司 寿 司 ワイン 日本茶 紅茶 食べ歩き	ホテルバイクン 回転寿司 寿司 和食 友人と贅沢コースランチ 夫婦の外食
	街・ショッピング・施設 銀座 渋谷 新宿 デパート	銀座・並木通り 新宿 六本木 デパート・伊勢丹 駅ビル	銀座 (目黒・日本橋・上野・立川・・) ショッピングセンター デパート・デバ 地下 銀座アンテナショップ	銀座 デパート巡り アウトレットモール 美術館・上野 地元図書館
時代	1950年代・60年代前半	1960年代～80年代前半	1980年代～2000年代前半	2000年代～2010年代後半
70代前半・女性 1945 (S20) -1941 (S16)	ファッション・ブランド・スタイル 親の手作り 三愛 三越 サブリナ ボーイッシュ トラッド	サンローラン ピエールカルダン 鳥居 ミニスカート バンタロン ワンピース	グッチ ルイヴィトン エルメス シンブル エレガント キュロット 社交 ダンス着	ワールド セリーヌ ユニクロ 自由区 普通のもの フラダンス着
	エンターテインメント プレスリー 美空ひばり ラジオ番組 少女クラブ	グループサウンズ ジャズ ザ・ピーナッツ サウンドオブミュージック 洋画 労音	大河ドラマ おしん 歌謡曲 家族でテレビ 婦人公論 生活情報誌	韓流ドラマ テレビ (映画・健康・旅行・ 音楽・・)
	趣味・娯楽・スポーツ・旅行 バレーボール アイススケート 生け花 旅行 琴 書道	デニス ボウリング 遊園地 年1回の家族旅行 一泊旅行 社内旅行	テニス 海外旅行 国内旅行 東京散歩 カラオケ 東京散歩 ストレッチ体操 ダンス	温泉旅行 近郊旅行 食社会 カラオケ 趣味サークル 社交ダンス
	食べ物・飲み物・食事・飲食店 デパートのお好み食堂 カレー コーヒー チョコレート	カレー 寿司 お好み焼き あんみつ 銀座・銀ブラ デパート ウィンドウショッピング	ランチ食べ歩き バイクン 中華料理 コーヒー ワイン 居酒屋 スナック	仲間との外食 夫婦の外食 寿司 和食 うなぎ
	街・ショッピング・施設 銀座 デパート・日本橋 歌声喫茶 駅前商店街	銀座 銀座 銀座 浅草仲見世 ボウリング場 屋上ビアガーデン	銀座 デパート・デバ地下 ソニープラザ 船橋ヘルスセンター サンシャインシティ	ららぽーと レイクタウン 地元商店 ヤフー・アマゾン

《エンターテインメント》

「次世代」女性が楽しんだエンターテインメントを男性と比べるとアーティスト、ジャンル名など音楽系の想起が多く見受けられる。「ユーミン」「サザンオールスターズ」などに50代後半では「ミスチル」「ドリカム」「松田聖子」などが、50代前半では「チェッカーズ」「ジャニーズ系」「福山雅治」などが加わる。テレビでは「ふぞろいの林檎たち」やトレンディドラマ、近年では韓国ドラマ、通販番組も楽しみの対象です。20・30代に子育て期を過ごした人にとっては子供向け番組も挙がっている。また、これも男性より多い傾向だが、「宝塚」などミュージカルや近年では「美術展」など文化芸術分野に楽しみを求めている。

街に出ている。近年、美術展に行列ができることが多かったが、「現在形」を含め、女性が目立つ。「現在形」の女性をみても、「プレスリー」「ビートルズ」「グループサウンズ」からフォークソング、歌謡曲、演歌まで、音楽の楽しみが時代を追って登場している。「次世代」が愛好する音楽は下の世代とも好みを共有し今なおチャート入りする「現役感」のあるアーティストが多く、「現在形」には「懐メロ感」がある。「次世代」の方が若いから当然、と一概には言えない時代の断層を感じる。「現在形」男性同様に映画やドラマも好まれているが、洋画、韓国ドラマ、サスペンスものなどが好みの主流となっている。

《趣味・娯楽・スポーツ・旅行 他》

女性の趣味・娯楽については、「食べ物～飲食店」、「街・ショッピング～」と一体で分析してみる。前項では「文化芸術分野に楽しみを求めて街に出ている」と報告したのと同様に、食やショッピングを求めて街に出ている印象が強いからである。「次世代」については、若い頃のテニス、スキー、ペンションといったリゾートを連想させる遊びに始まり、20代・30代の家族旅行、キャンプ・BBQ、ディズニーランドと続き、40・50代でもテニスを続けている姿が浮かぶ。また「ジャニーズライブを娘と一緒に」や「夫婦で外食」「友人と贅沢ランチ」という表現が目立つ。「誰と何をするのが好き・楽しい」といった時間消費の文脈を男性よりも強く持っている。それぞれの時代に豊富な外食体験を有し、街は横浜元町→渋谷→銀座といった流れを感じさせる。「現在形」女性も時間消費の文脈は同様である。趣味で目立つのがストレッチ体操、ヨガ、フラなどのダンスなど、無理なく美容健康によいことはもとより仲間づくりや発表の楽しみを得る趣味のサークルへの参加、バイキングランチなど友人との美味しいもの巡り。「次世代」女性の将来にも共通項が見いだせそうなどころか豊富なグルメ体験をベースにさらに広がりをみせると思われる。

（２）n1の動きの中から見えてくる楽しみの時層

「次世代高齢者調査」のアンケート回答（例えば生活満足度や幸福度・家族・仕事などの背景・老後感）と「楽しかったこと、好きだったことの自由回答」の個票に戻り一人を取り上げ、読み込むことで何がその人の人生観を形成しているか掘り下げることを今後の課題として考える。次世代シニアや我々がこれからを考えるヒントの鉱脈を見出すために（次世代シニア男性 次世代シニア女性 現在形シニア男性 現在形シニア女性 各層から抽出）。ここでは、「趣味・娯楽・スポーツ・旅行」の項でみられる「楽しみの時層」の類型を提示するにとどめる。

「楽しみの時層」類型

- ・若い頃（10代又は20・30代）から今に至るまで、同じ「楽しみ」を続けている【続く楽しみ】パターン
- ・若い頃（同上）にやっていたがやめてしまい、また最近のはじめる【楽しみ再開】パターン
- ・40代以降に始めて、今も続けている【後半の続く楽しみ】パターン
- ・以前はやっていなかったが最近になってはじめた【新たな楽しみ発見】パターン
- ・関わり方に進化がみられる（例：するから教える、へ）【楽しみ進化】パターン
- ・関わり方に変化がみられる（例：映画を街から家で、演奏楽器が変わる）【楽しみ変化】パターン
- ・今はやっていない【思い出またはこれから再開の芽】パターン

5. 考察 楽しみのカタチ・好きこそ人生の糧

(1) この先 10 年と現在に至るまでの、楽しみ行動を支える環境

ここまで「楽しみを感じて行う行動の現在」、「世代でとらえる次世代シニアと現在形シニア」、「好きと楽しいの生活史・時層にみる両者の同質・異質」と流れを追ってきた。10年後の次世代シニア層は、61歳から70歳になるが、ここでは、再度「次世代高齢者調査」結果に立ち返り、社会の動きも織り込みながら次世代シニアのこれからを推察する。なお「10年後」は厳密な意味ではなく、「この先の近い将来」という括りで捉えている。

なお項目内「■(参考) この先の社会の変化」は、今後想定されている関連の社会動向を下記参考の一部を抜粋、編集して作成した。

* 野村総合研究所「NRI 未来年表 2017～2100」カッコ内出所名含む ** 河合雅司著「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」カッコ内出所名含む ・それ以外は官公庁等出所名のみ表記

① 将来推計人口にみる次世代シニア 10 年後の位置

図表 63 は日本の年齢区分別将来推計人口（25 年、30 年数値・国立社会保障・人口問題研究所）で、2016 年の次世代シニアは未だ生産年齢人口（15 歳～59 歳）に概ね入る。将来数値の橙色に色づけした枠が、ちょうど現在の「次世代シニア」に該当する。

図表 63 人口の移動

年齢区分別将来推計人口（万人）			
	2016年	2025年	2030年
0～14歳	1,578	1,407	1,321
15～59歳	6,840	6,398	6,039
60～64歳	816	772	836
65～69歳	1,028	716	747
70～74歳	741	781	681
75歳以上	1,691	2,180	2,288
総人口	12,693	12,254	11,913

2016年は総務省人口推計

2025年・30年は「日本の将来推計人口（H29年推計）」

図表 64の構成比をみると、次世代シニア層は高齢率が 30% となる 2025年には 60代、2030年には 65歳から 74歳の前期高齢者となる。65歳以上の高齢者に占める次世代シニアの比率は 38%で約 3人に 1人。ちなみに団塊世代（広義）が 2016年に占める割合は約 3割。次世代シニアは年齢幅が 2倍あるので単純比較はできないが高齢者像において存在感を示す層となる。現状で見る限り前期高齢者の要介護、要支援認定率は低く、自立して生活できる人が多数を占める。次世代シニアは楽しくも限りの将来に向けて準備の時を迎えている。

図表 64 構成比率の推移

	2016年	2025年	2030年
a.65歳以上高齢者の総人口比率	27.3%	30.0%	31.2%
b.次世代シニアの高齢者内比率	—	16.1%	38.4%
c.次世代シニアの60歳以上内比率	—	33.4%	31.4%
d.（2016年団塊世代*の高齢者内率）	29.7%		

■（参考）この先の社会の変化

2019年・総世帯数がピークに（5,307万世帯）（国立社会保障・人口問題研究所 IPSS）＊

2020年・すべての都道府県で人口が減少（IPSS）＊・東京オリンピック開催年・日本人国内旅行消費額 2兆円、スポーツ市場規模 10兆円に（日本再興戦略）＊

2021年度・日本の名目 GDP 600兆円を実現（ニッポン一億総活躍プラン）＊

2025年・高齢化率 30%に（前頁参照）団塊の世代がすべて 75歳以上に（厚労省）＊

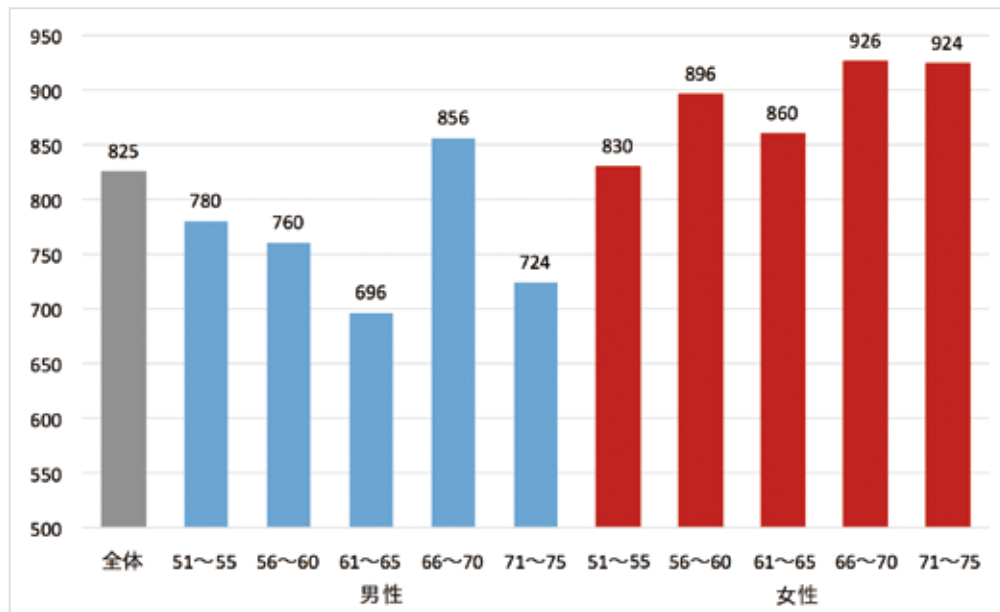
2025年までに 文化 GDP が 18兆円（GDP 比 3%）に拡大（日本再興戦略）＊

②次世代シニア・これからの楽しみ行動を支えるために（次世代高齢者調査より）

a. 気になる 60代前半男性の幸せの凹み

この 1年間で幸せを感じたのはどのようなときか、あてはまるものを 39項目のリストからすべて選んでもらい個々のスコアをたしあげた累積ポイントを性別・年齢階層別に集計した結果が図表 65である。男性より女性が高く、年齢は下より上の方がやや高い傾向がある中で、男性の 60代前半のハザマ世代が谷のように低い傾向がみられる。定年を迎えて間もないこの時期、再就職による収入減や人間関係の変化などセカンドライフの入り口で戸惑う年代的要因がうかがえる。この時期を乗り越える上でも、「楽しみ」を構想する上でも老後の生活へ向けた準備を少しでも早く始めることが肝要である（お金、仕事、健康、家族などの生活基盤）。

図表 65 幸せ累積ポイント



b. 次世代シニア・将来の生活基盤に関する意識のサマリー（注釈なき場合は男女共通）

お金

- 老後を意識してお金について考え始めた時期は 50 代前半以前に集中しており、現在形シニアよりかなり早い。先を行く世代と異なり、年金には頼れないと思ったことも考えるきっかけを早めている。
 - だが老後の準備資金のおおよその必要額を把握していると思う人は 2 割前後にとどまる。
 - これからの人生の準備資金に不安があるのは 4 割、やや、を含めると 8 割以上が不安を感じている。
- ⇒意識と具体的な理解や行動に未だ乖離があることも、さらに不安を助長していると思える結果である。

■（参考）この先の社会の変化

2017 年度・年金の受給資格期間が 25 年から 10 年に短縮（厚労省）・厚生年金保険料率が 18.3%、国民年金保険料が 16,900 円 / 月に引上げ（厚労省）＊

2019 年度・消費税率 10% に引上げ（IPSS）

2025 年度・会社員 1 人当たりの保険料（労使合計）が年収の約 3 割へ（厚労省）＊

2025 年度・男性の厚生年金の受給が 65 歳からに全面的に引き上げ（厚労省）＊

仕事

- 収入を伴う仕事をしたいのは 65 歳以下までが半数弱を占め、働ける限り 70 歳以上は約 4 割。
- 一方、現在形シニアのうち、仕事をしたのは 65 歳以下までという人は 3 人に 1 人とどまる。
- 生活費・将来の生活資金を得る以外の仕事を続ける理由は、健康と若さを維持し、社会とのつながりをもち続けて充実した人生を過ごしたいため。
- ⇒高齢者雇用促進、相続税増税、年金支給時期や額に関する今後の不透明感がある中で、現実的には 65 歳でリタイアという希望の実現は薄らぐのではなかろうか。しかしながら、仕事の仕方は変わっていくと思われる。

■（参考）この先の社会の変化

2018 年度・「教育訓練支援給付金」制度終了（厚労省）＊

2019 年・農林水産物・食品の輸出額が 1 兆円規模に拡大（農林水産業・地域の活力創造本部）

2020年・労働力人口が6,589万人に減少、うち65歳以上が12.2%（厚労省）＊

2030年までに・労働力人口が900万人減少（2013年比）し、5,683万人に（内閣府）＊

家族

- 家事を頻繁にする男性は少なく、女性が家事の多くを担っているのが次世代、現在形両シニアの現実（配偶者あり世帯）。
 - 配偶者間において夫が妻を頼りに感じているほどには、妻は夫を頼りに感じていない。
 - 配偶者間で「これから先の生活」について話し合うことがたまにでもある夫婦は半数弱。
 - 家族に関する心配事で最も多いのは親の健康状態や病気のこと。
- ⇒家事を含めた夫婦や家族のこれからの関係において男性は意識と行動の転換を求められている。離婚、死別の可能性もある中で「家事を楽しむ」女性の視点にも見習うべきところがある。配偶者間で夫ほどには妻は相手のことを頼りにしていないことは謙虚に自覚したほうがよさそうである。

■（参考）この先の社会の変化

2019年度までに・学童保育の定員を約30万人分増加（厚労省）＊

2020年・女性の50歳以上人口（3,248万8,000人）が0～49歳人口を追い抜く（社人研）＊＊

・新設住宅着工数が約79万戸に減少＊

2021年・団塊ジュニア世代の先頭（1971年生まれ）が50代に＊＊

2022年・団塊世代の先頭である1947年生まれが75歳になる～ひとり暮らし女性増える頃＊＊

2023年・世帯数減少と総住宅数の増加に伴って空き家数は約1,400万戸、空き家率21.1%に上昇＊

2035年・生涯未婚率が男性で約3割、女性で約2割に達する（厚労省）＊

・ひとり暮らし世帯が37.2%に。夫婦と子供世帯は23.3%に減る（社人研）＊＊

健康

- 健康状態が良い＋まあ良いと感じる人は男性で3人に1人、女性で約4割。男性は現在形シニアより低く女性は反対に高い。
 - 男性が健康や病気でできがかりなことは仕事や人間関係のストレスと疲れやすさ・体力の衰えと物忘れ。ストレス以外は現在形シニアも同様。女性は疲れやすさ・体力の衰え。現在形シニアは物忘れと健康寿命。
 - 健康維持・改善のために日頃行っていることは次世代シニアより現在形シニアの方が多い。男性ではウォーキング・散歩、規則正しい生活、和食中心食生活。女性では腸内環境によい食物摂取、数値測定、塩分控えめな食事の差が目立つ。
- ⇒現役世代ゆえの忙しさと、切実感の相対的乏しさの両面が現在形シニアほどに健康維持改善行動の低さにつながっている。健康寿命という言葉が自分ごとにはなっていないが遠い先の話ではないことを考え始めるべきかもしれない。

■（参考）この先の社会の変化

2018年度・国民健康保険の運営を市町村から都道府県へ移管（厚労省）＊

2020年度・総合診療専門医の認定開始（厚労省）＊

2025年度・介護給付費は2013年比2.2倍の21兆円に（厚労省）＊

2030年・再生治療の国内市場規模が1兆円に（経産省）・平均寿命 女性88.72歳、男性82.39歳に（国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口29年推計からの推計結果）

2050年・平均寿命女性90.40歳、男性84.02歳（同上）

ここまで、「お金」「仕事」「家族」「健康」をみてきたが、その他、人付き合いと老後意識についても

「楽しみ」との関係をにらみながら調査結果の一部を紹介する。

人付き合い

- 特に大切な友人グループは男性の場合、職場関係仕事関係と高校時代の友人、現在形シニアになると地域や地元で知り合った人と趣味・習い事を通じて知り合った人がぐっと増える。女性の場合、子供を通じて知り合った友人が加わる（いわゆるママとも）。
- ひとづきあいで現在形シニアが次世代シニア以上にこころがけているのは「損得なしの付き合い」と「人の話によく耳を傾ける」こと。

⇒シニアになると好きな事、住む処を共有する人との出会いから新たな交流が始まる。こころがけていることは人づきあいの永遠のテーマある。

老後意識

- 老後に関する現状や今後の見通しで、次世代シニアが現在形シニアより高いのは「学生時代からの友人がいる」（男女）、「生涯仕事を続ける」（女性）。逆に現在形シニアで高いのは「余裕はないが年金含めて困らない」「趣味を通じて知り合った仲間がいる」「ある程度病気やけがには備えている」など。男では「頼りになるのはやはり妻」、女では「近所の仲間や友人がいる」。
- 「高齢者とは何歳からか」次世代シニアは70代前半から、現在形シニアは70代後半からと思っている
- 「充実していた時代」を振り返ると男女とも20代30代、現在形シニアは40代・50代。
- 「戻りたい」となると10代20代、現在形シニアは20代30代。

⇒充実していた時代と戻りたい時代は微妙に異なる。もし戻れるとしたら何をするのか、戻らなくても、そこからこれからの楽しみの原石が見つかるかもしれない。

「次世代高齢者のこれからの『楽しみ』の特徴は何か。それは現在の高齢者と異なるものか」という問題意識を掲げて、ここまでみてきたが、異なる側面、同じ側面の両面あるのは当然のこととして、前者は主に「世代」と環境要因としての「時代」に、後者は「年代」的なものによるものが中心であると整理できる。また、女性から男性が学ぶ要素、現在シニアから学ぶ要素もあった。

この後、(2)では「次世代のこれからの楽しみの特徴を形成する要素」を整理したうえで、(3)では、次世代シニアのこれからの楽しみの特徴をキーワードとともに考察する。

(2) 「次世代シニアのこれからの楽しみの特徴」を形成する要素

■「時代」

- ・次世代シニアが全て高齢者層になったとき自分たちの2倍の高齢者が上にいる時代を生きる。平均寿命も現在より伸びる。さらなる長寿化時代の進展で、従来とは異なる人生設計を思い描く必要が出ている。つまり「楽しみ」を何に求めるかも含め「老後発想」から「人生後半戦発想」への転換が求められる。

⇒老後発想より長い尺度で自らの「楽しみ」を設計する、生活分野横断的に自らの楽しみの柱を考える。

- ・社会保障制度や年金支給の不透明感、相続税増税、一億総活躍社会等の政策推進、高齢者雇用促進環境整備などの流れの中で、家計的必要も含め、当分は「仕事をするかリタイアするか」ではなく「どのような仕事の仕方を選ぶか（就業時間、中断・再開も含め）」が選択の中心となる。

⇒仕事の位置を考える（楽しみを見出すか・楽しみの資源と割り切るか）、時間配分を考える。

- ・高齢者の一人暮らし世帯がさらに増える。現在二人以上世帯でも配偶者との死別などで高齢になって単身を経験する人たちも増える。孤立化しないためにも人との交流や相互の支えあいは重要となっていく。役職や立場、名刺は捨てる。

⇒楽しみを通じて家族以外、職場以外の交流を深める、一人暮らしの技術習得も楽しみと考える。

- ・自動運転などの技術の進歩、ICT技術などの進化は、外出する楽しみを支援するなど様々な変化をもたらす。

■「世代」

- ・次世代シニア層は、介護保険制度施行、年金受給年齢引上げなど社会保障負担やその将来に関わる出来事を当事者として通過するとともに超高齢社会を巡る様々な情報に接触する中で50代を向かえ、過ごしている。おのずと老後の備えや生活を意識し始めたのは現在形シニアより早い。

⇒意識を早く具体的な行動や準備に移す。（お金のこと、家族のこと、楽しみのこと…）

- ・戦後の高度成長期に生まれ、ジャパンアズナンバーワンといわれた時代、バブル時代に若い大人の時期を過ごし消費においても多様な選択肢の中から自分が好きなものを選ぶ選択眼を養ってきた世代。サブカルチャーやオタク文化などにも親和性を持つ世代。洗練された都会的暮らしや文化に無理なく溶け込み楽しむことを知っている世代。「お笑い」の文化を育てた世代。

⇒洗練された感性と選択眼、横つながりの力を集約して楽しみを深める。

⇒豊富な楽しみの時層から、これからの楽しみの原石を発掘する。

- ・女性も男女雇用機会均等法の元、仕事、子育て、結婚などにおいてライフコースが広がった世代、女性の社会進出で、女性との新たな関わり方を受容していった世代。ただ有配偶の場合、家事分担まではできていない世代。

⇒男性は女性に学ぶ。暮らしの技術を身につけ自立する。

■「年代」

- ・身体の衰え、病気、介護、健康寿命などきがかかりな事が加齢とともに増えていくことに変わりはない。
- ・世代により、その内容は異なるものの若い頃の楽しみを年代を超えて続ける人、若い頃の楽しみを復活させる人がいることには変わりはない。

(3) 次世代シニア・その楽しみのこれからを巡る提言（キーワード）

第4部ではここまで、次世代高齢者調査結果（以下、調査）から導き出した「楽しみを感じて行う行動の現在～次世代シニアと現在形シニア～」、それぞれの世代が生まれ育った時代の出来事や共通体験に着目した「世代でとらえる次世代シニアと現在形シニア」、調査自由回答「楽しみの自分史」を読み解い

た「好きと楽しい、の生活史『時層』にみる両者の同質・異質」、そして5(1)では生活分野別にみた調査結果とこの先の社会の変化を整理した「この先の10年と、現在に至るまでの、楽しみの行動を支える環境」、前節では「次世代シニアのこれからの楽しみの特徴を形成する要素」を時代、年代、世代といった観点からみてきた。

最後にここまでのまとめを兼ねて、次世代シニアの楽しみのこれからへ向けた提言をキーワードとしてまとめる。

1. 老後の準備 から「人生後半戦の準備」へ

次世代シニアは現在形シニアより年齢的に早くから老後の備えについて考え始めていること、不安も大きいことを述べた。無理もない話で生活資金の準備といっても平均寿命を目安にすれば「長生きリスク」に突き当たる、健康寿命を現在の平均で考えると10年そこそこ意外と短い。また昔のように定年すればリタイアというわけでもなく、仕事をどんなスタイルで続けるか、趣味をライフワークにするには、これから初婚で家庭を築きたい、学校で勉強したいなど、ライフコースもサイクルも様々である。もはや老後とはいえない。準備をしたら「人生の後半戦の準備」である。ここでの主たるテーマの「楽しみ」を計画するにしても、生活資源をどう調達しどう配分して楽しみに当てるか、と課題はたくさんあるが、固苦しく考えても答えは風に舞うばかり。大雑把でも、できるだけ早くから（未だなら今から）楽しみながら計画することが肝要となる。そうすれば特に男性は先行する世代に見られるような60代前半の凹みも和らぐ。エンディングノートも大事であるが、その前に「50代で始めるスターティングノート」を書くべきと考える。

2. ワークライフバランスからライフワークバランスへ

シニアにとっても仕事と生活の調和（ワークライフバランス）は、切実な問題である。安定した仕事につけず経済的に自立できない、仕事に追われ健康を害するといった問題は多々生じている。であるから、このような言葉遊びは慎むべきかもしれないが、それでもここに掲げたのは、シニア層は「収入を伴う仕事」とともに「不確実な自らの人生の後半戦を実りあるものにする」というワークがあるからだ。どんなに成功しても死ぬときに不幸を感じたらそれは切ないものがある。ライフワークという言葉が重たければ「今日はいいい時間を過ごした」「今日は面白い人に出会った」「一年前には出来なかったことがこの年でできるようになった」などの小さな「楽しかった」を積み重ね味わう気持ちをもつだけでも何かが変わるかもしれない。

3. 学びのある「続く楽しみ」の種を植えよう

文化芸術、スポーツ、創作、社会活動。分野に関わらず学習性と継続性のある楽しみを広げたいと思う人は多い。仕事に代わる小さな達成感の積み重ねが、心の芽となり幹となり実りある後半戦の人生を彩ることになるかもしれない。最大の実りは、楽しみでつながる新たな人づきあいが育まれることである。それも老若男女、人の幸せは人との関係がもたらす要素がとても大きい。そして立場や損得と無縁に人が出会う貴重なきっかけは、「好み」にある。そして次世代シニアは「好き」でつながるのが得意な世代である。だからこそ好きでつながる「好縁社会」をつくるリーダーとしての存在意義は大きい。

4. アクティブからソフィスティケートへ

団塊世代を中心に活動的で元気な新しいシニア像が築かれた。健康補助食品の広告に登場する有名人も若々しく元気そうである。健康であること、元気であることは、だれも否定できない大事な要素である。

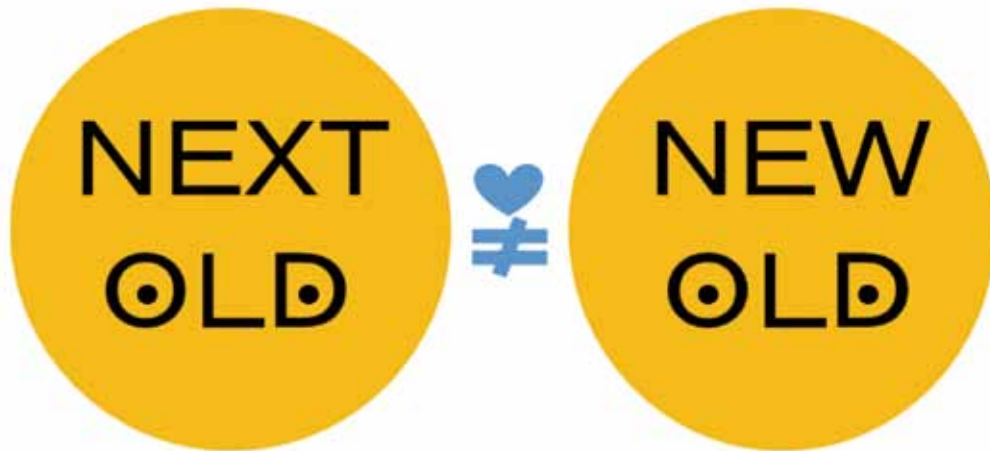
では「若さ」はどうか。もちろん魅力的なことである。特に団塊世代は若者文化をリードした自負もあるせいか若さに大きな価値観をおいているように感じる。その土台の上になつて、次世代シニアは「洗練された老いの文化」を目指してはどうであろうか。ちなみに江戸時代には今でいう老後のことを積極的で前向きに「老い入れ」といったそうである。日本永代蔵の中にも「老いの楽しみ早く知るべし」という一節がある。(江戸時代・老いの文化 立川昭二／NHKラジオ深夜便より)。次世代シニアの世代特徴の若い頃より培われてきた選択眼、多様なものから自分にあったものを選ぶ目利きのセンス、都会的な洗練された文化との親和性、「ちょうどいい」「いい加減(塩梅)」を愛でて無理はしない老成した文化。年を重ねた次世代シニアが新たな高齢者文化の担い手になり日本を元気にしてくれる日が来ることを期待したい。

5. 静かな生活、穏やかな人間、確かな人生

最後は「静かな生活、穏やかな人間(じんかんと読む)、確かな人生」。長寿社会、超高齢社会、人口減少社会、それは暗くもなければことさら明るくもない、人の営みと時の積み重ねの中で立ち現れた社会である。確かなことは「不確実」であること。私たち日本人は東日本大震災を経験し既に6年以上の時間が経過している。あのとき感じた「たとえ退屈で生きがいすら感じない日々のいとなみが、どれだけかけがえのないものだったか、失ってはじめて知るのだ」という感覚を「後半の人生」を生きるにあたっても忘れずにいたいということである。楽しみ探しに疲れる、とか楽しみがないことを憂う、という求めすぎは人を不幸にする。静かな日常を淡々と力強く生きるだけでも充分「楽しい」という心のありようが「静かな生活」、違いを認め合い好みが違う人をことさら非難したり、現役時代に地位ある立場にあった人が無視する他人に威張ったり、電車の中で声を荒げたりすれば、どんな楽しい場もだいなし。年をとるほどに意識したいのが「穏やかな人間(ジンカン)」です。

最後の「確かな人生」、少し視点は変わるが、配偶者を持つ家事をしない男性は多い。ひとり暮らしに備えて生活技術を身につけるためにも、配偶者に頼られるためにも、日々の家事に勤しみ、家事を趣味に昇華させてはどうであろうか。生活の足元で「確かな人生」の礎を築き、楽しさ溢れる人生の後半戦を歩む、それもひとつのあり方だと思う。

6. 違いを超えて共に楽しみを分かち合う



次世代シニアと現在形シニアをここまで対比してきたが、今後も寄り添うように年を重ねていく中で、大事なことは他者としての違いを理解し、認め合い、今後の人生の楽しみを分かち合うことである。「最近の若いもんは」も「いい年をして」といった慣用句もそれに続く言葉はポジティブでありたい。そんな思いをまずはマークにしてみた。「NEXT OLD」は次世代シニア、「NEW OLD」は元気な現在形シニア。真ん中の≠はお互いの違い、その上のハートは認め合い共生しあう気持ちを表している。いやな現在形シニアもいれば、ふざけた次世代シニアがいると感ずることもあるでしょうが、時に先達として、時に反面教師として上の世代は存在し、良いものは継承し、改めるべきは塗り替えていく。多数派であることに奢らず甘えず、その先のニッポンの楽しみを育んでいきたいものである。

もちろん若い世代との交歓も大事な要素。世代間格差、世代間利害の不一致が、ぶつかりあいを生む社会であってはいけない。世界が宗教、民族、文化の違いといった多様性を乗り越え共生へと向かうべきなのと同様に超高齢化によって縦に伸び、時に分断を生みかねない世代間の理解と共感、自然に任せているだけでは得られない。感情におぼれることもあってはならない。急速な超高齢化と人口減の中に在る日本を課題先進国といわれることがよくあるが、もし世界に模範を示すとしたら、それは和と楽を尊ぶ日本が「寛大先進国」となることかもしれない。それを主導するのは国でも他の誰かでもない次世代シニアであり現在形シニアひとりひとりでありたい。そして楽しさと生きる感動を分かち合うニッポンへ。

第5部

総括

～ 2016年度研究まとめ～

《本年度研究のまとめ》

2016年度研究の詳細については、第2部から第4部を参照いただきたい。ここでは、各研究の分析アプローチの特徴とその結果の要約を記すこととする。

①次世代高齢者の生活意識と実態

《分析の特徴》

次世代高齢者層とは高齢者の準備段階にある集団と言っても良い。一方、高齢者層には団塊の世代が含まれることで、まさに高齢化社会の中心的存在となる集団である。この2つの集団の相違点と共通点を男女差も含め、丁寧に比較して考察した。ジャンルは、(1)生活時間・生活行動 (2)生活全般 (3)仕事 (4)家族・家庭 (5)人付き合い (6)楽しみ (7)健康 (8)情報 (9)社会 (10)老後 (11)住まい (12)家計・経済状況の12個である。

《結果の要約》

まず高齢者層が老後生活に入り込んでいるかと言うと、そうも言えず、次世代高齢者層と同様に老後準備といった側面もある。従って、より長距離を走ることになる次世代高齢者層は不安と躊躇いが随所に現れてくる。特に環境(仕事や子や親との関係)も変わりつつある段階であり、その点では高齢者層が安定しているが故の自信や割り切りも感じられた。

また、男女差や夫婦間の関係についても示唆が得られた。女性はより厳しい現実を直視するとともに、その一方で楽しみ方を多く持ち、コミュニケーションも丁寧に幅広く、その結果、友人との繋がりも強い。一方、次世代高齢者層においても高齢者層においても男性は、妻への依存度が高い。意識面は勿論、行動面においても、血縁者との関係(介護対応も含む)、終活的取り組みなど、取り組みの度合いは夫を上回る。また、様々なジャンルにおいて、夫が妻との関係性を肯定的、実態より過大評価する傾向にあるのに対し、妻は冷静であり、夫以外の家族や友人との関係なども含む視野の中で夫との関係性をみているといった状況が感じ取れた。

②老後の生き方の座標軸研究

《分析の特徴》

次世代高齢者層と高齢者層の現状に関する認識(「仕事」「学び」「趣味」「配偶者」「家族」「友人」「健康」「経済」「社会」の9つとした)を出発点に、老後の生き方について45の選択肢から選ぶことで、老後という将来に繋がる現在との関係(座標)を研究した。

例えば、「仕事」に大いなる自信があれば、それを軸とした将来図(老後)を志向するのではないかという仮説が根底にある。従って、これらの相関をみることで、こういったジャンルを早い段階から良いものにすれば、こういった老後を選べるという関係性を解こうとする試みである。

《結果の要約》

まず、最初の驚きは、次世代高齢者層より高齢者層の現状認識が全体的に肯定的であったということである。「趣味」「健康」「経済」の3つのジャンルにおいては、有意な差があり、高齢者層がポジティブであった。「趣味」については、仕事中心の次世代高齢者層より、高齢者層は時間的にも余裕があることが大きな要因ではあるが、そもそも趣味への取り組む態度にも差が有ることは間違いない。また、「健康」「経済」に関しては、加齢や仕事をしていないことから、現状は次世代高齢者層が有利なはずであるが、高齢者層は『老後も何とかかなりそうだ』という自信が出てきている。つまり、実態よりも不安が先行するのが、「健康」「経済」であると言える。

次に老後(の生き方)意識の因子を求めて、次世代高齢者層と高齢者層で比較している。共通して出てくる因子(の特徴)として、「夫婦・家族」「自由・のんびり」「生涯仕事」「夢・自己実現」「NEW スタ

イル構築」「友人・仲間」「迷惑掛けない」という7つがある。これらは両者共通に出てくる。

次に各々にだけ、特徴的に出てくる因子について述べると、高齢者層に固有の因子は、肯定的な老後意識ばかり（4つ）である。ところが次世代高齢者層については、「社会貢献」「健康第一」「とにかく頑張る」という老後意識（3つ）である。第2部の調査結果からの指摘もそうであるが、次世代高齢者層はより不安な環境の中で老後を模索しているのではないだろうか。

最後に現状認識と老後意識との相関について述べたい。現状認識のジャンルにおいて、「経済」がある。これは簡潔に言えば『経済的には困らないだろう』という現状認識である。お金が全てではないが、経済面での不安は第2部でも相当指摘されたところである。ところがこのジャンルと結びつく（相関の高い）老後の生き方意識の因子は無かった。高齢者層、次世代高齢者層ともにそうである。つまり、経済的な不安解消は大きなメリットであるが、だからと言って生き方を規定するものではない（繋がりが無い）ということである。言われてみれば納得できる結果でもある。実はこれに最も近いのが、「健康」である。恐らく健康でなくなることは最大の損失かもしれない。しかし、健康であることが老後の生き方を方向づけるというものではないということである。

③時層研究（次世代シニアの楽しみの行方を探る）

《分析の特徴》

次世代高齢者層の楽しみに焦点を当てた研究である。その中でも「趣味・遊び・嗜好」を取り扱う。これらは家族や仕事といったジャンルより、明らかに自由度が高く可変であり、役に立ちやすいジャンルである。調査は次世代高齢者調査の対象者500人に対して、過去を振り返って「楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと」を各々の10代から現在に至る時期ごとにフリーアンサーで記入してもらった。更に次世代高齢者調査の楽しみに関する質問や外部データを参考とし、考察を行い、そこから6つの提言というスタイルで終えている。

《結果の要約》

①老後の準備から「人生後半戦の準備」へ

老後の準備意識は長生きリスクへの対応に追われる。精神的にポジティブになり難い状況である。エンドに向けてではなく、後半戦のスタートとして位置づけるべきである。

②ワークライフバランスからライフワークバランスへ

仕事の概念を変えることで、ライフワークバランスへと移行できる。収入を伴う仕事オンリーを捨てて、人生の後半戦を実りあるものにするワークを行うという意識への転換が必要である。

③学びのある「続く楽しみ」の種を植えよう

学びが実は楽しいということを実感できる年齢であるからこそ、学ばなければではなく、好きだから学ぶという意識の変革によって、好きで繋がる友人関係や社会を創出する。

④アクティブからソフィスティケートへ

次世代シニアだから作り出せる、新たな高齢者文化。江戸時代には老いの楽しみなど、無理はしない老成した文化を愛でるという意識があった。次世代シニアが日本を元気にしていく。

⑤静かな生活、穏やかな人間（じんかん）、確かな人生

楽しみ探しに疲れる、挑戦疲れなど、求めすぎれば不幸になる。震災などで気づかされる、平穏さの幸せ。例えば日々の家事に勤しみ、趣味にしても良いかもしれない。確かな人生から幸せは得られるものである。

⑥違いを超えて共に楽しみを分かち合う

シニアで一括りされても60歳と90歳は30歳も違う。超高齢社会は実は様々な違いが前提の社会。その時、和と楽を尊ぶ我が日本は、課題先進国ではなく、『寛大先進国』として楽しみを分かち合える。

参考資料

～〔時層 MAP〕～

時層 MAP とは…、97頁の図表 57の回答（500名分）をもとに作成したものです。
※巻末の『世代別・時層 MAP』『分野別・時層 MAP』も参照ください。

◎ あなたの人生を振り返って、下にあげた5つのジャンルについて「楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと」を自由に書き込んでください。

（注1）なるべく短い文章や単語で書き込んで記入ください。

（注2）全ての欄を埋める必要はありません。印象的なことだけでもその印象的だったジャンルの年代の欄に記入いただければ結構です。

（注3）ご記入いただいたこの情報は、調査に使った『音楽生活や年代の生活に関するアンケート』と一緒に集約の書にお送りさせていただきます。

ジャンル	年代	10代の頃	20代～30代の頃	40代～50代の頃	60代～70代の頃
ファッションブランド スタイル		ユニクロ	パルティス	ユニクロ	
		ユニクロ	ユニクロ	ユニクロ	
			ユニクロ		
エンターテインメント 音楽、芸術、映画、テレビ番組、ラジオ番組 雑誌、他		お笑い タレント全集 ビートルズ	お笑い ザ・ベストテン	お笑い タレント全集 ビートルズ	
		お笑い タレント全集 ビートルズ	お笑い ザ・ベストテン	お笑い タレント全集 ビートルズ	
		お笑い タレント全集 ビートルズ	お笑い ザ・ベストテン	お笑い タレント全集 ビートルズ	
趣味、娯楽 スポーツ、旅行		釣り（海釣り）	釣り（海釣り）	釣り（海釣り）	
		釣り（海釣り）	釣り（海釣り）	釣り（海釣り）	
		釣り（海釣り）	釣り（海釣り）	釣り（海釣り）	
食べ物、飲み物 食事、飲食店		ラーメン	ラーメン	ラーメン	
		ラーメン	ラーメン	ラーメン	
		ラーメン	ラーメン	ラーメン	
車、ショップ、施設		ゲームセンター	ゲームセンター	ゲームセンター	
		ゲームセンター	ゲームセンター	ゲームセンター	
		ゲームセンター	ゲームセンター	ゲームセンター	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【ファッション・ブランド・スタイル】

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
50代前半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代	-
50代前半・男性	アイビー	アイビー	何も無い	
		ラルフローレン ケント		
		ブルックスブラザーズ ボールズミス	パタゴニア	
		スーツ	ブレザー	
	VAN		ユニクロ	
	JUN	Jプレス リーバイス ポロ	バーニーズニューヨーク ポロ	
	ビームス	LLビーン	ユニクロ GAP エディバウアー	
		トラディショナル VAN JUN	アクアスキュータム バーバリー	
	一番気になっていた時代			
	アディダス プーマ	リーバイス シップス ポロ	ユニクロ	
	ヒッピー	トラッド アウトドア	デザイナーズブランド	
	ジャンセン	LEE	サカゼン	
	18歳まで学ラン故、無頓着	知人のいるレナウンのバーゲン	ユニクロ	
	ニュートラ ジー جان	パーソンズ フィッチェ ミチコ ジュンコ	ユニクロ ライトオン	
	VAN アイビールック	ボールズミス	ボールスチュアート	
	アディダス プーマ ポプソン リーバ イス アシックス	ニューヨーカー トラッド リーガル ハルタ	チャンピオン アディダス	
		サーフブランド	ラルフローレン	
		マクレガー	シンブルライフ クロコダイル	
	ミリタリー	ミリタリー	ユニクロ	
			ユニクロでほとんど済む	
	VAN	ニューヨーカー ベネトン	ブルックスブラザーズ エディバウアー	
	VAN			
			ダウンジャケット 新素材の汗をかいても機能性があるもの	
	ナイキ	ディオール アクアスキュータム	バーバリー	
	デザイナーズブランド			
	VAN EDWINのジーンズ	セーターを肩や腰にまいていた マリン ファッション	ユニクロ エディバウアー	
	ハマトラ		ブランドの洋服	
		クイックシルバー ノースフェイス BURTON		
	アイビールック ポートハウス チノパン	VAN ラコステ ディオール	スーツ ユニクロ しまむら	
	こだわった	そこそここだわった	あまりこだわらなくなった	
	スポーツウエア	ビジネススーツ	ゴルフウエア	
	オニツカタイガー ナイキ	ナイキ		
	サーファーファッション	ルイヴィトン グッチの鞆・ベルト 時 計はオメガ	ユニクロファッション	
	ジャージ	ルイヴィトン		
	こだわりなし	トラッド系 ラルフローレン ブルック スブラザーズ Jプレス	ファストファッション ユニクロ GU GAP	
		DCブランド	ユニクロ	
	カジュアルなスタイルが好き	同左 ブランドに興味なし	同左 ブランドに興味なし	
	パンタロン Gジャン スタジャン	ブルゾン カーゴパンツ	カーゴパンツ	
50代後半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～1990年代	2000年代～2010年代	-
50代後半・男性			ユニクロ GAP	
	ふつう	アバンギャルド	ふつう	
	JUN VAN パンタロン	竹の子族 ニュートラ ハマトラ 渋谷109	コギャル ルーズソックス ガングロ	
	トラッド コンチネンタル IVY	ジーンズ		
	アイビー VAN ケント コンバース	アメリカンカジュアル リーバイス ラ コステ	クラシコ イタリアンスーツ ルチアー ノバルベラ エドワードグリーン	ブラックストリート リックオーウェンス ACF
	アイビー ウェスタン		年相応	
	アイビー	色々	奥様まかせ	
	Gパン シャツ ツナギ	色柄のあるもの Gパン→チノパン	長くもつのでブランドものをよく買う	
	バーゲン買い			
		JUN	ユニクロ	
	アイビールック	ニュートラ	ジーンズ 作業服	
	ジーンズ アイビー エドウィン リーバイス	ジーンズ ニュートラ	ジーンズ 革ジャン	
	細身のパンツ		コロニア エディバウアー ユニクロ	
	高校では制服ボタン リーゼント	ウェスタンシャツ ブーツカット	帽子をかぶるようになった	
	ジーンズ	ジーンズ ボタンダウン	チノパン ボタンダウン ダウンジャケット	チノパン ボタンダウン
	50'Sスタイル ヨーロピアン	ヨーロピアン スーツ		

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【ファッション・ブランド・スタイル】 つづき

50代後半・男性	VAN ラコステ マンシング	DOMON JUN VAN	ユニクロ GAP GU	
	アイビールック	アウトドア	アウトドア カジュアル	
	学生服	アイビースタイル	スーツ	
	シンプルライフ	民族衣装 カジュアル	カジュアル ゆったりしたもの	
	アイビールック	ニュートラ サーフアー	トラッド	
	プレイボーイ VAN	バーバリー ラルフローレン	ビームス シップス フレッドペリー	
	エドウィン LEE	ブランドなし	トミーフィリフィガー Tomm	
	アイビー VAN コンチ パキー	アメカジ サーフアー イタリアン ラルフローレン ラコステ フィラ タッキーニ ルイヴィトン GAP	ユニクロ GAP アメリカンイーグル アバクロ イオングループ	
	友人と流行を追っていた		家族に相談しながら決めている	
	マンシング アーノルドパーマー	ケント VAN	ドルチェ ハッシュバピー	バリー カルバンクライン
	お金が無いのでできない	近くにお洒落な店がなく関心無し	現在も関心無し	
	エドウィン JUN VAN			
60代前半年代目安		1960年代～1970年代	1970年代～1990年代	1990年代～2010年代
				2010年代
60代前半・男性		トラッド系		
	VAN アイビー	マンシング	ユニクロ	
	特に無し	DOMON	ナイキ チャンピオン	ナイキ
		GAP	パナナリパブリック	ユニクロ
	JUN VAN	たかきゅう 三峰	ディオール フェラガモ	アバクロ ビームス
		アイビーファッション	ボディコン	
	トラッド VAN JUN		ユニクロ	
	気にならなかった	会社勤めネクタイやシャツを気にした	気にしなくなる 清潔感のあるもの	赤や黄、オレンジの明るいものスタンダードなもの買わなくなった
	ブランドこだわり無し カジュアル	平日スーツ 休日カジュアル		定年後はカジュアル着で職場へ 休日はジャージ
			ラルフローレン	
	JUN		ユニクロ	ユニクロ
	JUN VAN世代	バーバリー AQ	子育ての為、お留守になる	20代30代に戻る
			ユニクロ	
		カジュアル	カジュアル	カジュアル
	VAN			
		ラコステ バーバリー	マンシング ジャックニクラウス	
		リーバイスジーンズ	リーバイスジーンズ	リーバイスジーンズ
		LANVINのスーツ サンローランの靴などブランド物を買うのが好き	アルマーニ ブラダ フェラガモ バーバリーのネクタイ集めが好き ブランドスーツを選ぶのが好き	バーバリー・ブラックレーベルのコートが好き
	DOMON コンチネンタル IVY	コンチネンタル	トラッド	ウエスタン
	パンタロン 長髪	3ピーススーツ イッセイミヤケ	パピス	カジュアル
		バーバリー		
			ユニクロ	
	VAN JUN LEE LEVIS BIGJOHN TAC	FENDI renoma RayBan	ROREX Cartier	ユニクロ GU
	学生服	暖色系スーツ	ダーク系スーツ	ジーパン カジュアル
			ユニクロ	ユニクロ
	IVYスタイル (VAN)	VAN Gパン	スウェット	スウェット
	VAN JUN アイビー 長髪	Jプレス ニューヨークー ルイヴィトン	ボールスチュアート ポッテガヴェネタ バーバリー パピス	ポッテガヴェネタ バリー
	アイビー	ラコステ JUN	ゴルフウエア	ゴルフウエア
		トラッド ケント リーガル		
		トラッド ケント		
	Gパン ラッパズボン			
		流行にとらわれずGパンにTシャツ	流行にとらわれずGパンにTシャツ	流行にとらわれずGパンにTシャツ
	VAN JUN		ユニクロ	
60代後半年代目安		1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代
				2010年代
60代後半・男性		VAN	スーツ ネクタイ	ベスト
	IVY	IVY	IVY	IVY
	アイビー	アーノルドパーマー ゴールドンベア	クロコダイル ユニクロ	クロコダイル サンヨー
	まったく気にしない	社会人になり少々気にするだけ	まったく気にしない	まったく気にしない
	アイビー			
		JUN VAN	バーバリー	
	VAN JUN EDWIN	ジーパン トレーナー 紳士服量販店	ユニクロ ファストファッション クールビズ	GU チノパン しまむら

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【ファッション・ブランド・スタイル】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
60代後半・男性	Tシャツ ジーンズ	Tシャツ ジーンズ ボトム	OTTO	ストレッチの効いたもの
	アイビー			
			ユニクロ	
		VAN JUN	ダーバン	ユニクロ
	VAN JUN			ブラック&ホワイト
	アイビー	コンチネンタル		年相応
	新しい普段着を着たかった	ジーンズが好きでよく着た	体重が増えたので楽に着られるもの	体重が平均になり好きなジーンズを外出以外着用
				ユニクロ
	VAN ジーンズ	アスコットタイ ジーンズ	紺ブレ ジーンズ	ジーンズ スニーカー
		VANジャケットスタイルに憧れ		
		アイビー		
	ラッパズボン			
		カルバンクライン パーバリー		
		アイビースタイル		
				登山用品
			スポーツウエア ナイキ	
		流行は追わずシンプルでノーマル	流行は追わずシンプルでノーマル	流行は追わずシンプルでノーマル
	カラーシャツ	ユニクロ	クールビズ	クロコダイルの衣服
	運動部に所属してた為興味なかった	海外を放浪してた為興味なし	妻の指示でしか衣類は買わず	今もって同左
		オーダーメイドのスーツで会社へ	オーダーメイドのスーツで会社へ	安くて穴がなければよい
	アイビースタイル	トラディショナル	スポーツウエア ゴルフウエア	
	VAN		バーバリー	
		ブランド物のスーツ 鞆に憧れ		
			高額で永年着られるもの	
			ユニクロ	
70代前半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代
70代前半・男性	マンボスタイルが多い		スーツを多く着る	
	Gパン ポロシャツ	Gパン ポロシャツ	スラックス ポロシャツ プレザー	スラックス ポロシャツ プレザー
	無関心	ジーニング ポロシャツ	ジーニング スーツ	イオン ユニクロ
		ブランド物少々	ブランドにはこだわらない	ブランド物は使用していない
	半ズボン 丸首シャツ	背広で歩く ジーパン	背広 ネクタイ姿 チノパン	チノパン ポロシャツ
	アイビー	Gパン ジャージ	ベスト ジャンパー プレザー	プレザー
		アイビールック	ニュートラファッション	
		ジーパン	ユニクロ	
			アクアスキュータム ミラシオン マンシング ナイキ	バーバリー ミラシオン
	学生服 ジーパンが主たるスタイル	大学時代はプレザー 就職後は既製服 スーツ 有名ブランド知らず	中年になり体型変化で既製服からオーダーメイドへ	退職後の外出はジャケットプレザー バーバリーコート ダーバンズーツ
		カラージーンズ トレンチコート		
	親の用意したもの	登山用品	結婚して変わる	あまり気にしない
		ラコステ		
		ジーンズ デパートでスーツ	スーツ専門店 アオキ 青山	ユニクロ
	関心薄くお洒落した記憶なし	仕事の必要からスーツに関心	仕事の必要からスーツに関心	退職でファッションに興味なし
	マンボズボン リーゼント Gパン	VAN JUN GIカット	自分に合ったもの 妻や娘が選ぶ	
			クリスチャンディオール ダーバン グッチ ルイヴィトン	フィールドドリーム
		マンボズボン ネッカチーフ アイビールック	ラコステ トレンチコート	ユニクロ
			背広 ネクタイ ポケットチーフ カフス	
		外国ブランド	外国ブランド	
	アイビールック	カジュアル ジーンズ スーツ	スタジャン スーツ	ユニクロ
		外国ブランド	外国ブランド	
	アイビールック	カジュアル ジーンズ スーツ	スタジャン スーツ	ユニクロ
	スーツ	バンタロン	革ジャン	
	ある物、入手出来る物で間に合わせ	ジーパン	スーツ使い切る	新しい服が少なくなる
		アイビー	ブランド品 ジーンズ	ユニクロ
50代前半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代	-
50代前半・女性			マクレガー シンプルライフ	
	コムサデモード ニコル ピンクハウス		ユニクロ しまむら	
	ハマトラ	DCブランド		
		DCブランド ヨーガンレール	BEAMS ノートエシロンス	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【ファッション・ブランド・スタイル】 つづき

50代前半・女性	MCシスターに出ているようなアメリカン カジュアル	トラッド ラルフローレン ブルックスブラザーズ ユニクロ	ユニクロ ポールスチュアート ビームス	
		ノーマカマリ タイトスカート		
	offshore ラルフローレン リーガル シューズ	ラルフローレン ニューヨークー ポー ルスチュアート ブルックスブラザーズ リーガル	無印良品 ラルフローレン トミーズ SAYA (靴) リーガルシューズ ナイキ リーガル	
	ハマトラ サーフアーファッション			
	DCブランド	ハイブランド (シャネル ヴィトン グッチ プラダ) ZARA バナナリパ ブリック	ハイブランド (エルメス シャネル) セオリー マックスマール アンタイトル	
	アイビー ジーンズ	ハマトラ	ユニクロ	
	トラッドスタイル (ハマトラ)	ルイヴィトン等の靴や靴		
	ハマトラ (Cabinなど) フレアース カート (原宿など)	DCブランド ボディコンシャス 肩パッ ド入りスーツ	カジュアル ユニクロ ラルフローレン	
	原宿ファッション	アメカジ		
	10代後半DCブランドが流行したが学生 でお金が無く購入できず	収入を得るようになったらDCブランド は衰退しファッションに浪費しなかった	加齢とともに体重増加で着られるものが 限られてきた	
	ピンク系ファッション			
		グッチ		
	カラージーンズ	デザイナーズブランド (ビギ メルロー ス カンサイ) トラッド	ユニクロ	
	ハマトラファッション	ハマトラファッション	グローバルワーク ZARA GAP GUユ ニクロ earth	
	アイビー ローファー	ミハマ キタムラ リズ		
	ミルク ハマトラ	ルイヴィトン グッチ Gショックピン キー&ダイヤモンド エル フェンディ シャネル シビラ	シビラ ユニクロ チュニック	
			機能性 パンツスタイル	
	ショートヘアでミニスカートやキュロッ トにローヒールが多くボシェットを愛用	20代はロングヘアでコンサバにハイヒ ール 30代ではスカート派でエレガント	軽い素材のカジュアルファッション 細身のパンツスタイル	
	ぶりっ子	コンサバ		
	無頓着	スポーティスタイル 家族優先	最低限 ラコステ	
		少しだけバブル期を経験		
	デザイナーズブランド ハマトラ		ユニクロ GU H&M などのファスト ファッション	
	タータンチェック	ハマトラ サーフアー	ユニクロ セレクトショップ	
	ワンピース	スーツ タイトスカート ジーパン	パンツ	
		23区 ルイヴィトン	ウール100%	
			ユニクロ	
			スタジオクリップ ローリーズファーム ユニクロ DOクラッセ	
	ハマトラ			
	トラッド	バブルファッション		
	カジュアルファッション	ボディコン等、バブルファッション	動きやすいファッション	
	流行の服を買っていた	流行の服を買っていた	長く着られるシンプルなもの	
	DCブランドに目覚めた	バーゲンを楽しみに買物した		
	ピンクハウス DCブランド	しまむら	ZARA ユニクロ	
		シャネル ディオール		
	親の意見や親の買ってくれたもの	流行を気にしながら友人に影響を受け好 きなものを選んだ	母になり子育てしながら動きやすいも の、体型をカバーできるもの	
	ハマトラ	ボッシュ フェーラルビーズ アトリエ サブ ルイヴィトン		
50代後半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～1990年代	2000年代～2010年代	-
50代後半・女性		デザイナーズブランド		
	トラッド	ハマトラ JJ デザイナーズブランド ジュンコシマダ	ジュンコシマダ ヨシエイナバ スナオ ポールスミス ケイタマルヤマ	
			テレビ通販のブランド	
		イタリア		
		黒い洋服が20代では主流だった		
	コーチ	ワンピース スーツが多い		
			ナチュラルビューティ	
	アイビースタイル VAN JUN	ビギ 4℃ モノトーン	アンタイトル 23区 スポーツ	
		オンワード	セオリー コムサ	セオリー 自由区
	ハマトラ ミハマ マミーナ	ポールスチュアート HIYOSHIYA		
	ミニスカート	ミニスカート	ハイヒール	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【ファッション・ブランド・スタイル】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
50代後半・女性	ビギ ケンゾー ミルク	コムサデモード コムデギャルソン バレンザボー	インゲボルグ 23区 ラルフローレン	銀座マギー ZARA
	ミハマの靴 ハイソックス ハマトラ サーファールック	ボディコン 肩パット付服 髪型はソ バージュ		
	トラッド	ハマトラ ルイヴィトン バーバリー		
			決まって見に行く靴屋がある	
	ハマカジ ハマトラ			
	原宿竹下通り マンボズボン ニュート ラ テクノスタイル	ニコル パンツ Gパン モノトーン	パンツ しまむら 近くの駅ビル	
	ビバユー ヒストリックグラマー	ROPE ワールド		
	キャビン			
		ジーンズにTシャツ	ジーンズにボロシャツ	体型に合った服を探す
		ピンクハウス	カネコイサオ	
	アイビールック リーガルの靴			
	アイビースタイル	20代OL時代はニュートラ 30代子育て 中はアメリカンカジュアル	年齢とは関係なくアメリカンカジュアル	今後もアメリカンカジュアル
	ハマトラ ニュートラ	髪型ソバージュ コンサバ系ファッション		
	BIGI コムサ		ユニクロ	
		海外ブランド	ローラアシュレイ	
	アイビールック ロックンロール			
	ハマトラ	JJスタイル 子育て中は気にせず	ブランドにはこだわらないこだわらず自 分に合う服 靴はワコール	
	ポートランド	ポートランド 元町フクゾー	フクゾー ユニクロ	
	VAN アイビールック パンタロン ミ ニスカート	コンサバ	ボロ ラルフローレン ヴィトン ユニ クロ	
	ミニスカート	ハマトラ		
	ミニスカート	ハマトラ	カジュアル	
	親が用意した服を着ていた	普段着はジーパン Tシャツ	スカートよりパンツが好き ゆったりと した服が好み	
			ZARA ユニクロ 通販	
	マミーナ かわいい系	マミーナ		
	ニュートラッド リセ	JUN ROPE	無印良品	
		紺のブレザーとデニムの組み合わせ	トレーナーとスカートの組み合わせ カットソーとスカートの組み合わせ	
	フクゾー ニュートラ	キタムラ ミハマ	バーバリー	
60代前半年代目安	1960年代～1970年代	1970年代～1990年代	1990年代～2010年代	2010年代
60代前半・女性	CABIN EDWIN ベストやジーンズを 着る毎日	「クレーージュ」グッズを集めるためセー ルをはしごしていた	「しまむら」ファッションを楽しんで いた	お気に入りのブティックで高品質の洋服 を買うようになった
	洋服のデザインや色にこだわっていた	シンプルなデザインを好んでいた	スカート、特にギャザースカートが好き だった	スカートよりパンツを着るようになった
	ミニスカート	カジュアル フランシスコ ジルボーの デザイン等	個性的な	個性的な M&KYOKOのニット
	ルイヴィトン	ボディコン		
	ミニスカート			
		ミニスカート パンタロン		
		東京スタイルでよく買っていた		
	アイビースタイル			
		ジャケットのロングトルソにパンタロン		
			ユナイテッドアローズ 同グリーンラベ ル パンツスタイルが多い	ユナイテッドアローズ 同グリーンラベ ル GAP パンツスタイル
	10代後半は重ね着ファッションを好んで 着ていた	髪型はソバージュ	ジーパンが多かった	現在は年齢問わず自分が着たいものを着 ている
	バーバリー	フェンディ グッチ	ルイヴィトン ユニクロ	ユニクロ
	ノーブランド スポーツ系	ノーブランド スポーツ系	ノーブランド テレビ通販 着物	
	手作りのセーター	ミニスカート	バレンザボー 東京スタイル	チュニック ゴムのスパッツ
	とにかくいろんなファッション	フルタイムの仕事スーツが多かった	ユニクロ	ユニクロ
			ユニクロ	
	気にしていなかった	気にしていなかった	楽な服 ユニクロ ヨーカドー	楽な服 ユニクロ ヨーカドー
		ブランド品を給料で自由に買った		
	ホットパンツ ツイギーみたいなミニで ゴーゴー	子育て トレーナー ジーパン姿	ロングスカート マダムスタイル	リラックススタイル
		ブランド物でお洒落していた	PTAの役員をする事が多く、ファッショ ンを気にしていた	
	アイビーファッション ローファー シューズ	ロベルタ セリーヌなど	エルメス グッチ	帽子

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【ファッション・ブランド・スタイル】 つづき

60代前半・女性		マキシスカート	パンツスタイル	
	VAN 伊勢丹ディーンエイジ向け			
		ハマトラ		
	小遣いが少なく貯金して服を買った			
	適度に流行り物 編み上げのロングブーツ 上げ底靴 パンタロン	聖子ちゃんカット ソバージュ デパートブランドの洋服	花柄の洋服 ジーンズスタイル	殆どパンツスタイル 自然素材の服 Doclasse 無印 ユニクロ
	VAN JUN	ハマトラファッション	ヴィトン プラダ グッチ	ヴィトン カルティエ
		ハマトラ ミニスカート	コーチ パーバリー	プラダ
			DRUGSTORE'S(ショップ) でよく買っていた	
	洋服を買うのが好きだった			
	ソニアリキエル ミニスカート ポプヘア	マキシ アンクルブーツ パンタロン ファミリア ヴィダルサスーン ミキハウス	ユニクロ しまむら チュニック	スカパン チュニック
		子供の入学式出席のため洋裁をした		動きやすく楽なスタイルがよい
	ミニスカート	キュロットスカート	パンツルック	
	ミニスカート 厚底の靴	ケミカルウオッシュジーンズ	ルイヴィトンのバッグと財布収集	通販
	カジュアルな服	家庭的な服	落ち着いた服	あまり興味が無い
	アイビー룩	ワールドにはまる		
	ミニスカート			
	エドウィンジーンズ ミニスカート ホットパンツ	ハマトラ		
		タムラ		
	デパートでの買物	洋裁 装苑 ポーグの本		
	ミニスカート	ルイヴィトン ジバンシイ カルティエ ラルフローレン	ピエールカルダン ユニクロ ナイキ アディダス シャネル エルメス ルイヴィトン	オーソドックスで良質な素材 エトロ
60代後半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2010年代
60代後半・女性		ミニ ミリタリー룩 パンタロン Aライン	無印良品	ユニクロ
	コムデギャルソン	コムデギャルソン		
	マンシングウェア	ミニスカート ディオール	ルイヴィトン	古着
		ミニスカート		
		ミニスカートにロングブーツ		
	ミニスカートが流行していた			
	制服	イトキン		ユニクロ
	ズボン	ミニスカート	ロングパンツ	細めパンツ
	凄く欲しい物は親に買ってもらう	ブランドは大人っぽく ランパン レリアン 他		Tシャツのいいものを買う(シリーズ ベルサーチ ディオールなど) バッグをクロコに変えた
	ミニスカート	パンタロン	スーツ ロングスカート	ニット ワンピース
	ラコステ マンシング トロイブロスなどボロシャツを上野アメ横買い ビエールカルダンも好き	ロベのパンツスーツ クロエのコートが好き ディオールのエナメルの靴は夫のお気に入り	セオリー デ・ブレ マックスマラー 仕事でスーツが多かった	ブランドは拘らない 外出着はデパートで高額でも気に入れば 普段着は量販 GAP ユニクロ ザラ等
	オーダーのお出掛け服を着るのが楽しかった	ウインドウショッピング	バーゲンセールで掘り出し物を見つけたに着けていた	沢山の洋服の中から組み合わせて着るのが楽しい
	何でも着ていた	メルヘンチックなものが多かったスカートが主でパンツははかない	50代後半でパンツが多くなった 自由区23区 アンタイトル	大人可愛い服 ドウ格拉斯セルディア
	あまりこだわらず個性的なもの	ゴルフウェア マンシング パーマークロコダイル		着物 リメイク
	田舎育ちのため知らなかった			
	ジーパン	パンツスーツ ジーパン	ジーパン	ジーパン
		着物が好きで出かけるとき着た	着物が好きで出かけるとき着た	働きやすい洋服
	ツイギー ミニスカート	ミニスカート パンタロン	ブランド品にあまり関心なかった	流行にとらわれない
		ミニスカート流行すぐロングスカートが流行		
	ミニスカート	ミニスカート 肩パット入りスーツ	イッセイミヤケ イナバヨシエ	イッセイミヤケ ヨーガンレール
	個性的な服を着ていた 18歳 短パンで足を長くみせる	個性的なおしゃれ 30代簡単で楽なもの	楽な服	場に応じて 人の着ていないものが好き 流行は追わない
			バッグ(ディオール フェンディ)	
	ミニスカート	スーツを愛用	気に入った店に定期的に洋服を買いに行く パンツスタイル	本当に似合う服が少しあればよいのでダンスの中をスッパリさせよう
	浜っこのため、ハマトラ アイビー	ハマトラ アイビー	トラッドスタイル	トラッド
		ミニスカート パンタロン パンプス	パンプス	ロングスカート スニーカー
	高校時代は10歳上の姉がデザインして作った服を、毎日楽しんでいた		友人が経営するブティックで洋服を選んでもらい買物した事を思い出す	母の日には子供からバッグをプレゼントしてもらいとてもうれしかった
		裾が広がっているパンタロン		

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【ファッション・ブランド・スタイル】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
60代後半・女性		ミニスカート	タルボット パンタロン 肩パット	ブランドものは買わない
	ミニスカート パンタロン	マキシースタイル		
			ユニクロ 無印良品 天然素材	ユニクロ 無印良品 天然素材
			ワールド	ワールド
	ミニスカート 三愛	パンタロン スミノ マミーナ	スーツ カジュアル	パンツスタイルが多い
70代前半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代
70代前半・女性	ハッピーバートン サブリナパンツ	デパートの特売衣料	服はユニクロ	服はユニクロ
		高価なものには手がでないが少しの流行を取り入れて楽しんだ	ブランド物は買えないので自分に見合ったものを探した	今ある服がまだ活躍しているのが気に入った物を見つけては購入し楽しむ
	関心がなかった	働くことで大変だった	働くことで大変だった	今もあまり関心がない
	制服を着て過ごすことが多かった	アパレルで仕事していたため流行を意識したファッションが多かった	シンプルで流行をあまり気にせず永く着れるものを身に付けていた	なるべく顔の色が明るく見えるような服の色を気にしている
	自作で楽しんだ	イージーオーダーが百貨店で始まりその後ブランド物が賑やかに出た	仕事をしていたので自分なりに楽しんだ	高価だったものなど捨てるに捨てられない どうして片付けましょう
	アーノルドバーマー トラッド	ラコステ YSL カジュアル	フェラガモ グッチ ルイヴィトン キタムラ カジュアル エレガント	ワールド 自由区 セリーヌ ラシット レスポードサック パーバリー カジュアル
	家族が多く貧しい時代で生きていくだけで大変だった	ミニスカートが流行った		
	ミニスカート	ミニスカート	社交ダンス着	フラダンス着 カラオケ着
		ミニスカート ラップズボン		
	母の教え（安物買いの銭失い）	母の教え（見えないところにお洒落しなさい）	良いと思えば高くても安くても買う人からはブランド好きと思われ	
	銀座三愛 鈴や ミニスカート	鳥居ユキ ビエールカルダン	ワールド マンシング ヴィトン	EVEY アマカ
	紳士服職人の父が作ったセーラー服	ミニスカート パンタロン		
	ごく平凡なもの	一般的なもの	目立たないもの	普通のもの
	高級既製服登場 母親の手作り	ミニスカートが主婦にまで広まった 高級ブティック ラビース 馬里邑 芦田淳など	ロングスカート ジャケット	年齢に合うものを見つけたのが困難 外国ブランドは高すぎる
	興味なし	興味なし		ワールド アニエスBが好き
	親の手作り 手編みのセーター	ミニスカートが流行っていた	手作りの子育てエプロンがもっぱらのお洒落！	日頃コーディネートというものに程遠い着こなし
	姉や母の作った服	マンボズボンを流行で買ってもらう	活動的実用的な服	ブランド物はなし 安いもののみ
	ボーイッシュ	ボーイッシュ	地味な色が好き	
		スカート ワンピース	ズボン	ズボン
	皆で作ったオーバーを着て卒業旅行に行った思い出			
			コーチ	
	洋服を習い大学のダンスパーティ用に自分でドレスを作った	子育てに夢中でファッションを楽しむ余裕はなかった		服装のコーディネート アクセサリーの組み合わせに気をつける
	子供の頃は母の手作りが全て 10代後半からすこしづつ今の好みが決まりつつあったかな	子育て真っ最中 パーゲンセール専門ブランド品が世に出てきた 20代でツイッギーのミニスカート流行	服を多く購入 自分独自のファッションに挑戦して楽しむ 宝石類も買い飾ることが楽しかった	体型が変わりL版になる 経済的余裕ができ贅沢できる
	あまり考えたことがなかった	ミニスカートが流行っていた お洒落が楽しかった	子育てでなりふりかまわず アルバイトの収入でやっと買えるように	流行にとらわれず必要な服を大事に着ている ○I○Iのリサイクルに100着以上放出
	マンボズボン	アイビー ミニスカート	ルイヴィトン グッチ プラダ	タケオキクチ
	ツイッギーのミニスカート	ミニスカート コルクのサンダル	クルクルパーマ	ダウンの軽いコート
				キプリングのバッグ
	三越 伊勢丹 西武百貨店で母と買物	ハナエモリ（仕事を辞め洋裁学校を卒業しアトリエで働く）	エレッセ プリンス ウイルソン テニスに夢中	エルメス ルイヴィトン ミキモト少し高いものを手に入れる
	もんぺ	短いスカート		スラックスのみ
	田舎育ちで興味なし	会社に入り周りに眼が点	子育て真っ最中でいっぱいいっぱい	
		ヒッピー ミニスカート		
	フレアスカート	Gパン	キュロット ガウチョパンツ	スパッツ
			エルメス グッチ	
			ジーンズ	
		自分で作っていた	自分で作るかデパートで買っていた	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【エンターテインメント（音楽・映画・テレビ・ラジオ他）】

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
50代前半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代	-
50代前半・男性	洋楽	洋楽	洋楽	
	東京都交響楽団演奏会 海外ドラマ（奥様は魔女・パイオニックジュニア） 推理小説（横溝正史）	海外オケの演奏会 映画（シャイニング・フルメタルジャケット）日本映画（黒沢明 市川崑）	映画（スタンリーキューブリック）日本美術展覧会（サントリー美術館根津美術館）	
	松田聖子 オールナイトニッポン アバ井上陽水 かぐや姫	オレたちひょうきん族 松任谷由実 クラシック	時代劇	
	オールナイトニッポン ザベストテン 平凡 明星 プレイボーイ	ディスコ	日本映画	
	ビートルズ	ジャズ	ジャズ	
	オレたちひょうきん族 ブルースリー ロッキー	東京ディズニーランド ユーミン サザン		
	マッドマックス オレたちひょうきん族 オールナイトニッポン	漫画「課長・島耕作」		
	毎日音楽を聴いていた	毎日音楽を聴いていた	20代の頃聴いた音楽を今も懐かしく聴いている	
	オールナイトニッポン フォークソング	サザンオールスターズ 松任谷由実	NHKのど自慢	
	ビートルズ	ロック POPEYE ブルータス		
	ピンクレディ キャンディーズ 平凡 少年ジャンプ	おにゃんこクラブ サザンオールスターズ 松田聖子	サザンオールスターズ 松任谷由実	
	歌謡曲 ニューミュージック アニメ	スポーツ観戦（プロ野球Jリーグ）	スポーツ観戦変わらず	
	8時だよ全員集合 ピンクレディ うわさのチャネル	松田聖子 ザベストテン オレたちひょうきん族	エンタの神様 カキつか（笑ってはいけない）	
	ユーミン オフコース オールナイトニッポン 吉本新喜劇	ボビー・コールドウエル ジョージデューク 吉本新喜劇	吉本新喜劇	
	いかりや長介 サザンオールスターズ ザベストテン ゴジラ ガメラ オールナイトニッポン 全員集合	大橋巨泉 ロッキー ひょうきん族	北野武 君の名は Jウエーブ NHK健康雑誌	
	サザンオールスターズ ドラマ「ふぞろいの林檎たち」	子供と漫画や映画を観る		
		雑誌ファイン	雑誌サファリ	
	古典落語	スペースオペラ	東アジアの映画	
	歌番組（ザベストテン等） 深夜ラジオ（オールナイトニッポン）	トレンディドラマ		
	サイモン&ガーファンクル ゴジラ	ホビージャパン		
	青春学園ものドラマ		CGの映画	
	深夜ラジオ	スターウオーズ	ジブリ映画	
	KISS キーーン セイヤング オールナイトニッポン	お笑い		
	吹奏楽 ジャズバンドの演奏	ジャズバンドの演奏	ジャズバンドの演奏	
	フュージョン ロック		ジャズ	
	ひょうきん族	洋楽（ディスコミュージック等）	時代劇 CSの洋楽番組	
	パニック映画（ジョーズ・エアポート75 エクソシスト） ザベストテン	ニューミュージック さんまのまんま	森山直太郎	
			アーティストのライブ鑑賞	
			笑点 鉄腕DASH!	
	スターウオーズ			
	オールナイトニッポン 寅さん スターウオーズ	オールナイトニッポン 笑っていいとも インディジョーンズ	お笑い 相棒 ハリーポッター	
	NHKラジオ 民放深夜放送	FMラジオ	民放AMラジオ	
	ソウルミュージック ディスコ音楽	ディスコ音楽をよく聴いた		
	ザベストテン 少年ジャンプ	三宅裕二のヤングバラダイス		
	オールナイトニッポン			
	ラジオ深夜放送（ヤングタウン・オールナイトニッポン） アニメ	お笑い番組全般 PC雑誌 漫画誌	お笑い番組全般 ドラマ グルメ旅番組 YOUTUBE（音楽お笑い） 旅雑誌 ネットラジオ	
	中森明菜 ザベストテン	ダイアンレイン ロードショー	チョンジヒョン	
	オールナイトニッポン GORO 平凡パンチ キャンディーズ引退	オールナイトフジ タやけニヤンニヤン	韓国ドラマ「アクシデントカップル」 MacFAN アサヒカメラ 自転車雑誌	
	スターウオーズ スーパーマン 11PM	歌番組 釣り番組	サバイバルもの 料理番組	
50代後半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～1990年代	2000年代～2010年代	-
50代後半・男性	ビートルズ	ビートルズ サザンオールスターズ	ビートルズ ジャズ	
	テレビを観ない	テレビを観ない	テレビ大好き	
	あしたのジョー スター誕生 意地悪ばあさん インベーダーゲーム 南沙織 小柳ルミ子 天地真理	銀座NOW クイズダービー ザベストテン ピンクレディ 松田聖子 中森明菜 おにゃんこクラブ	料理の鉄人 冬のソナタ とんねるずの生ダラ	
		ニューミュージック ポップス		

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【エンターテインメント（音楽・映画・テレビ・ラジオ他）】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
50代後半・男性		ヌーベルヴァーク 小津安二郎 ジャズ	ジャズ	ドクターX
	歌番組		女子スポーツ競技観戦	
	オールナイトニッポン セイヤング		大河ドラマ 朝ドラ	
	アメリカンニューシネマ（卒業・明日に向かって撃て） ボーイズライフ 平凡パンチ	スターウオーズ レイダース 音楽はAOR	ライブコンサート	70年代の音楽洋楽 NHK大河ドラマ
	ドリフターズ 全員集合	サタディナイトフィーバー	文化放送	
	歌			
		お笑い系テレビ	お笑い系テレビ	
	レコード買い	レコード買い		
	アイドルの歌を聴く	映画を観る	スポーツ・お笑いテレビを観る	
	ソウルミュージック ロック	サザンオールスターズ	シンゴジラ	
	ラジオ深夜放送（バックインミュージック・オールナイトニッポン）	ニューミュージック レンタルビデオで映画を観る	テレビのニュース番組	
	オールナイトニッポン セイヤングバイクの本	アメリカンポップス バックトゥザフューチャー ドラゴンボール	ドラマ 推理小説 地図	
	ビートルズ カーペンターズ	寅さん映画は必ず観た アメリカングラフィティ（大好きです）	サザンオールスターズ EXILE	
	フォークソング	フォークソング ニューミュージック 和製ポップス	ZARD ニューミュージック 和製ポップス	ZARD
	ロック Jポップ ドラマ	ロック ドラマ	ドラマ	
	8時だよ全員集合 テレビジョッキー 太陽にほえろ	SF映画 アクション映画 バラエティ番組	柏原よしえ 中森明菜 キャンディーズ	
	AM・FMラジオ イージーリスニング	FMラジオ音楽放送 イージーリスニング	インターネット YOUTUBE 自然紀行番組 FM音楽番組	
	フォークソング 深夜放送 少年ジャンプ マガジン サンデー	ニューミュージック 子供向けドラマやアニメ		
	お笑い番組 歌番組	ドラマ バラエティ	名作映画	
	セイヤング オールナイトニッポン	Jウエーブ クラシック	Jウエーブ クラシック	
	フォークソング ヤンタン オールナイトニッポン	フォークソング		
	アイアンメイデン	キッス	アイアンメイデン	
	オールナイトニッポン セイヤング フォークコンサート 11PM 巨人の星 ロミオとジュリエット	サザンオールスターズ 杏里 ユーミン 夢のカリフォルニア サタディナイトフィーバー ホットドッグプレス POPEYE	エレクトロニカルジャズ エンヤ ジュラシックパーク ドラえもん 日経プラス10 ゴルフ雑誌	
	ラジオでポップス番組を聴いた	オールナイト映画 音楽番組		
	キャンディーズ ドリフ		中山美穂 お笑い番組	
			テレビでの映画鑑賞が増えた	
	ゲバゲバ90分	クイズダービー 木枯らし紋次郎	からくりTV	寺子屋 健康カプセル
	映画が好きで一人でも観に行く	忙しかったが映画だけは観にいく	自分の時間が出来て好きな映画をよく観る	
	ビートルズ 夜のヒットスタジオ オールナイトニッポン	プリンセスプリンセス SHOW-YA CD ウォークマン通勤時に	K-POP（少女時代）	
	中3トリオ 巨人の星 空手バカ一代 平凡	ポップス 演歌 ワンピース 青春の門坂の上の雲 ひあ		
	時代劇番組をよく観た	歌謡曲をよく聴いた	DVDで自宅で映画鑑賞	
60代前半年代目安	1960年代～1970年代	1970年代～1990年代	1990年代～2010年代	2010年代
60代前半・男性	ラジオの深夜放送	スターウオーズ	ハリーポッター	3D映画
		浜田省吾 フォークソング		
	深夜のDJ	オレたちひょうきん族	ボワロのシリーズ	となりのシムラ
		テレビ・ラジオの歌 録音		
	平凡パンチ プレイボーイ	メンズクラブ	Xファイル 世界遺産 世界の旅番組	世界遺産 世界の旅番組
	西部劇			
	三本立て名画座映画館に洋画を観に行くひあ	VHSにテレビ番組を録画し後で観るのが楽しかった	DVDレンタルで映画を観るようになった	
	ビートルズ		ジャズ	
	ビートルズ			
		劇団四季	劇団四季	
	深夜放送 ギターを弾く	スターウオーズが凄かった	DVDで映画を観ることが多くなるお笑い番組を良く観る	テレビの楽しい番組や旅行番組をよく観ている
		フォークソング		
	映画は洋画・邦画を幅広く観た 音楽は歌謡曲・洋楽を多く聴いた テレビよりラジオを好んだ	ニューミュージック・フォーク・ビートルズを好む 映画は邦画中心	ニューミュージック・邦楽中心ラジオよりテレビ中心になる	テレビで報道番組・バラエティ番組を中心に観る
	ビートルズ	グループサウンズ		
	いちご白書			真田丸
			お笑い番組	
	ボサノヴァ・ジャズファン 11PM セイヤング バックインミュージック オールナイトニッポン			TVはあまり観ない 昔のCD（レコード）を聴く

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【エンターテインメント（音楽・映画・テレビ・ラジオ他）】 つづき

60代前半・男性	ビートルズ グループサウンズ	タモリ たけし さんま		
	テレビの歌番組をよく観た	仕事中日ラジオを聴き、帰宅後はテレビドラマの再放送を観た	テレビで映画を観る	テレビで映画を観る
	ジャズを聴き始めた	ジャズを沢山聴いた	日本のジャズミュージシャンと知り合った	
	プロ野球中継（ラジオ）			クイズ番組
	ビートルズ	シンガーソングライター	笑点	笑点
	吉本新喜劇を小さい頃から観ていた	フーテンの寅さんを観ていた	高校生になった息子と007シリーズを観た	
		レコードやCDを集めるのが好きだった	音楽番組を楽しみにしていた iPodで音楽を聴くのが好き	大河ドラマが好き 懐かしのメロディ番組も好き
	麻丘めぐみ スタイリステックス	それいけ歌謡曲 カートップ	高橋真梨子 島津亜矢 演歌	高橋真梨子 島津亜矢
	グループサウンズ フォークソング	アパなどの洋楽 ディスコサウンド 雑誌はPOPEYE	雑誌はレオン	雑誌はダイヤモンドZAI
		クイーン ビートルズ おれたちひょうきん族		
			大型ショッピングセンターでの映画鑑賞	
	平凡パンチ ボーイズライフ 少年サンデー 少年マガジン 深夜放送007映画	ニューミュージックマガジン 朝日ジャーナル ザベストテン	文春 レコードコレクターズ 映画ダイハード	スマホ ポケモンGO
	小椋佳 ピンキーとキラーズ	高橋真梨子 ダークダックス		
	グループサウンズ（テンプタース）	井上陽水	井上陽水	スウェット
	フォークソング オールナイトニッポン	ジャズ ブルーノート ビットインクラシック	歌舞伎 狂言 ミュージカル ライブハウス（六本木Z コットンクラブ スウィートベジル）	歌舞伎 ミュージカル オペラ
	フォークソング	ロックバンド	テレビゲーム	
	青春ドラマ			
	ビートルズ ベンチャーズ 雑誌プレイボーイ	ゴッドファーザー タワーリングインフェルノ	ゴルフ番組 レッスン番組 ゴルフ朝日	ゴルフ番組 書斎のゴルフ
	ラジオ深夜放送 週刊マンガ誌			
		フォークソング ディスコミュージック		
	映画七人の侍 ラジオ深夜放送 百科事典	洋画（テレビで）		
			韓国ドラマ 時代劇 読書	韓国ドラマ 時代劇 読書
	ビートルズ フォークソング	ムード歌謡		
		歌番組		
60代後半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2010年代
60代後半・男性		洋画	スポーツ番組全般	ゴルフ番組
			詩吟	
	深夜放送			
	高三の時「小川宏ショー」出演			三陸鉄道釜石駅に鉄道同好会旅行中鶴瓶番組に出演
	カーグラフィック モーターマガジン 60年代アメリカンポップス	カーグラフィック モーターマガジン	カーグラフィック オートバイ モーターマガジン	カーグラフィック BIGマシーン モーターマガジン
	マンガ	映画	ディズニeland 向ヶ丘遊園地	大沢有里の放送
	007シリーズ	燃えよドラゴン		
	少年ジャンプ マガジン 若大将シリーズグループサウンズ	寅さんシリーズ 歌番組 フォークソングポピュラー音楽	アニメ SFアクション映画 ゴジラ 救命棟24	朝ドラ NHK JIN（仁） YOUTUBEで昔の曲を聴く
	本	映画		ワールドミュージック
	フォークソング		演歌 落語を聴く	
		洋画 歴史雑誌	ノンフィクションのテレビ番組	
	石原裕次郎映画	石原裕次郎映画		
	オールナイトニッポン	昨日の続きはまた明日	テレビはゴルフ番組・競馬番組	テレビは旅・グルメ・歴史番組
	ブリット	スターウォーズ		
	映画（洋画） 米国テレビドラマ 読書	映画（邦画・洋画） 日本のテレビドラマ話の特集	映画 読書 日本のテレビドラマ	映画 読書 日本のテレビドラマ
	テレビよりラジオ マンガ週刊誌月刊誌	小説 映画（洋画）	テレビ 映画 小説	小説 ラジオ
				音楽を聴きに行く
	Jポップ 洋楽	スペクタクル 洋楽	ノンフィクション	歴史物
		学生時代音楽サークルで演奏に没頭していたのでテレビ音楽番組の公開録画によく行った		
		漫画「釣りバカ日誌」他 NHK大河ドラマ	NHK大河ドラマ 相棒 科捜研の女	NHK大河ドラマ 朝の連続ドラマ 相棒 ドクターX しゅくり先生
		深夜番組（ジェットストリーム）	サスペンス映画 音楽番組	演歌 韓国ドラマ
	プロレス 相撲 週刊少年ジャンプ	ヤクザ映画 野球中継		
	少年サンデー・マガジン ローハイド	30代、子供が小学2年のときまでテレビのない生活をした		新春歌舞伎
		ウエスタン映画	アクション映画	スパイ映画
	西部劇	洋画	007シリーズ	
		クラシックレコードを買い集め聴く独身の頃よく映画館に通った	ジャズのCDを買ってよく聴く 50代からはテレビの情報番組	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【エンターテインメント（音楽・映画・テレビ・ラジオ他）】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
60代後半・男性	クラシック ジャズ	ジャズ クラシック		
	フォークソングをよく聴いた	フォークミュージックを好んだ		
		野球中継	野球中継	野球中継
		スティーブマックイーン映画		株式情報を聴く
	日本映画 流行歌	子供と子供番組を観る	演劇鑑賞	コーラス鑑賞
	クラシックギター フラメンコギターに熱中	クラシックギター フラメンコギターに熱中	同左 テレビはスポーツ番組	夜の知らない芸人番組は拒否して好きなドラマをビデオで観る
	ビートルズ 深夜放送 プレイボーイ 平凡		週刊ジャンプ	
	モスラ キングコング	ラジオ日本の深夜放送	ゴルフ観戦 プロ野球観戦	ゴルフ観戦 プロ野球観戦
	小説やジャズにはまっていた	小説やジャズにはまっていた	小説やジャズにはまっていた	
	やくざ映画	洋画 アクションもの	洋画 アクションもの	
	ビートルズ	ミュージカル		
	クラシック	クラシック 歌謡曲	歌謡曲	歌謡曲
	ビートルズに夢中			
		通勤時に携帯ラジオを楽しむ		常時ラジオを持ち歩く
	ラジオ番組ビリーバック テレビ番組プロレス中継 雑誌少年サンデーマガジン	テレビ 大河ドラマ 11PM 雑誌 ミリタリーマガジン モーターマガジン他自動車雑誌	テレビ 朝ドラ 大河ドラマ ゴルフ中継 レッスン番組 雑誌 週刊バーゴルフ ゴルフダイジェスト	テレビ 朝ドラ 大河ドラマ 歴史ヒストリア
70代前半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代
70代前半・男性	映画 テレビ番組	テレビ番組	テレビ番組（野球）	テレビ番組（野球）
	ポップス	ボールモリーア 映画 旅行読売	歌謡曲 旅行読売	演歌 旅行読売
	プロレス 野球中継 3本立て映画	長嶋		パソコン
	時代劇映画	映画 軽音楽		
				テレビは音楽・スポーツ系番組
	ラジオで野球 ラジオで演歌	テレビ 映画 ビデオ プレイボーイ	CD DVD鑑賞 週刊現代 文春	CD DVD鑑賞
		日活 東映 西郷輝彦 橋幸夫		映画（洋画・邦画）
	時代劇映画	寄席		
		テレビ ラジオ	音楽 テレビ ラジオ	競馬
		ビートルズ ベンチャーズ フォークソング		
	野球中継	野球中継	野球中継 大沢悠里ゆうゆうワイド	野球中継 大沢悠里ゆうゆうワイド
			笑点	笑点 真田丸
	裕次郎&小林旭の映画 プロレス・野球中継 歌番組	テレビ主体の生活 所帯を持ち自分の時間も経済的余裕もなかった	テレビ主体の娯楽	
		音楽 テレビ 映画		
		テレビ 音楽	カラオケ 映画をよく観る	テレビをよく観る
		日本フィルハーモニーの定期会員に		時代劇
	10代後半は毎週映画館通い			
	オーケストラ 青春映画	ジャズコンサート 任侠映画 登山に関する本	演歌のコンサート ドキュメンタリー映画	行かない・観ない 競馬雑誌
		オールナイトニッポン		
	ラジオ・雑誌で「赤胴鈴之助」 テレビプロレス中継	テレビ プロ野球中継	テレビ 大河ドラマ	テレビ 大河ドラマ
	早くからテレビが家にあり長時間テレビ漬けの習慣	いち早くビデオデッキを購入し録画したテレビ番組を週末観て楽しむ	テレビや録画したものを観る時間も無いほど忙しかった	HDがこれまでに以上に便利のためいっそう効率よくテレビを楽しめる
	チャンバラ 西部劇 シェーン アラン ラッド 落語（志生）	プレスリーに夢中 西部劇アラモ砦 ベンハー ケネディ暗殺（TVで）	読書 大沢悠里	
		ハリウッド映画 ヨーロッパ映画	宇宙戦艦ヤマト 銀河鉄道999 スターウォーズ 雑誌ニュートン	笑点 歌謡番組 大河ドラマ 自然ドキュメンタリー旅物 世界不思議発見 雑誌ニュートン
	ラジオ	石原裕次郎 渡哲也 エデンの東	吉永小百合 欽ドン シクラメンのかほり	
		格闘技（プロレス・ボクシング）		
	洋楽全般	洋楽全般	洋楽 クラシック	洋楽 クラシック オペラ
			はぐれ刑事	はぐれ刑事
	音楽	レコード会社	レコード会社	
			歌謡曲	
	ロック	ロック ムード歌謡 歌謡曲		
	映画	テレビ（ニュース スポーツ中継特に野球ゴルフ）	同左 テレビ（時代物）	同左 テレビ（時代物）
		黒部の太陽		
	三橋美智也 美空ひばり	石原裕次郎 藤圭子	ジュディオング	
	映画の時代	テレビの時代	活字に傾く	読書が中心
			相撲番組 時代劇 テレビドラマ	相撲番組 時代劇 テレビドラマ
	白黒テレビでカ道山のプロレス放送子供同土メンコ こま回し	プロレス放送 月に一度の映画	プロ野球放送	プロ野球放送

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【エンターテインメント（音楽・映画・テレビ・ラジオ他）】 つづき

70代前半・男性		西部劇が好き	西部劇が好き	時代劇が好き
	野球・スポーツ全般	野球・スポーツ全般	ゴルフ テニス 野球 サッカー 相撲バレーボール	相撲 サッカー バレーボール
	演歌 NHK大河ドラマ開始	007シリーズ 西部劇 寅さんシリーズ	釣りバカシリーズ	CG画像
50代前半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代	-
50代前半・女性	中学2年のとき、テレビで観た宝塚のペルバラに感動しすっかりファンになる	チェッカーズのファンになる 宝塚も同様	韓国ドラマ「冬のソナタ」で韓流ドラマファンになる	
	向田邦子ドラマ クイズダービー ザベストテン ニッポン放送	山田太一ドラマ サザンオールスターズ 松任谷由実 中島みゆき オフコース	福山雅治 藤山直美の舞台 TBSラジオ	
	サザンオールスターズ ツイスト ビートルズ	チェッカーズ ビートルズ ひとつ屋根の下	ビートルズ ボルノグラフィティ	
	ザベストテン 文化放送ミスDJ オールナイトフジ 雑誌JJ	Hanako アンアン ノンノ たまごクラブ ひよこクラブ アンパンマン	あまちゃん	
	チューリップ	山下達郎 SF ミステリー		
	ラジオ番組 不二家ポップスベストテン オールナイトニッポン アメリカ映画 欧米のロックポップス	日本のポップス 大瀧詠一 ユーミン（子供と） アンパンマン ジブリ ディズニー	エンヤ ワンダイレクション コールドプレイ 韓国ドラマ	
			10代の娘とジャニーズアイドルのコンサート 映画雑誌	
	セブンティーン等ファッション雑誌	オレンジページ 料理本	料理番組 ニュース番組 女性向けファッション雑誌	
	JJ ユーミン		お笑いを観に行く	
	ディスコ（六本木・渋谷） JJ	ライブ ブルーノート VERY	ライブ ビルボード（六本木） STORY 家庭画報	
	深夜放送（ニッポン放送） アンアン ノンノ アリス さだまさし	浜田省吾 婦人公論	浮世絵	
	ノンノ アンアン ザベストテン 夜のヒットスタジオなど音楽番組	JJ Cancam クラッシー ベストヒット USA 洋楽 お母さんといっしょ	marisol HERS WOWOWの洋画・アメリカドラマ	
	ザベストテン オールナイトニッポン ジャニーズ	子供向け教育テレビ	観劇	
	ファンだった俳優が自殺、テレビの中の世界を一步引いた目で観る様になった	連続ドラマが見ごたえがあった	テレビがつまらなくなった	
	ドラマ・音楽番組を観る雑誌を見る	ドラマ・音楽番組を観る		
	よくラジオを聴いていた	コンサート	コンサート	
	ザベストテン オールナイトニッポン ニュースミュージック	トレンディドラマ	韓ドラ バンド（シド・FTISLAND）	
	オールナイトニッポン JJ セブンティーン	MORE オレンジページ ESSE	ジャニーズ	
	8時だよ全員集合 ひょうきん族 ザベストテン 雑誌セブンティーン	ハリーポッター NHK子供番組 お母さんといっしょ 仮面ライダー戦隊もの セーラームーン	ウォーキングデット ER ヒーローズ 世界の果てまでいってQ! さんま御殿 DVD邦画洋画	
	笑点 オールナイトニッポン フォークソング ギターバンド演奏かぐや姫 風 中島みゆき	ユーミン オフコース 山下達郎	FM東京 大河ドラマ ドキュメント	
	オードリーヘッパーン 中森明菜 チェッカーズ ユーミン Lazy ザベストテン アンアン	チェッカーズ 中森明菜 松田聖子 SMAP JJ Cancam トムクルーズ	機関車トーマス NHKあさいち NHK朝ドラ	
	オールナイトニッポン 英語・ロシア語講座	アンアン 恋愛ドラマ	テレビ（フィギュアスケート・ワイドショー）	
	アイドル ライブ	トレンディドラマ 海外ドラマ	海外ドラマ	
	テレビ中心 歌番組やアニメ	余裕なし ドラマ	録画含めテレビ中心 ライブ	
		ライブ（マイケルジャクソン・ユーミン）映画（インディジョーンズ）	ライブ（サザンオールスターズ）	
	ベイシティローラーズ	ジャニーズ ジブリ映画	K-POP	
	ユーミン サザンオールスターズ クイーン ビリージョエル 雑誌ノンノ 映画ET	笑っていいとも ターミネーター アンアン	アメトーク Mart	
	サザンオールスターズ ザベストテン	タイタニック	ヒルクライム ライブ	
		ダンス	ミュージカル鑑賞	
			Youは何しにニッポンへ	
	エースを狙え ジェットストリーム アカサクリスティ アニメ 山口百恵 松田聖子	ノンノ アンアン	JIN（仁） 冬のソナタ 美しき日々	
	映画トップガン ベイシティローラーズ クイーン Kiss		韓流スターのライブに行く	
	テレビ音楽番組 お笑い番組 コンサート	コンサート テレビ トレンディドラマ	コンサート	
	ライブ 映画鑑賞 ラジオの深夜番組を聴く	テレビ 映画 子供と観に行った	ライブ 映画	
			雑誌ESSEを定期購読	
		テレビドラマ	テレビドラマ	
	ラジオ（ヤングタウン） 明星 平凡 歌謡曲 ザベストテン	ドラマ「東京ラブストーリー」「愛していると言ってくれ」「愛と青春の旅立ち」	ドラマ「相棒」	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【エンターテインメント（音楽・映画・テレビ・ラジオ他）】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
50代前半・女性	コンサートに友人と行く	コンサートに友人と行く	韓流ドラマにはまる DVD借りまくる	
	洋楽 角川映画 雑誌マーガレット チャンピオン	ディズニー ジブリ	邦楽	
	ライブハウスやラジオ公開番組に毎週 行っていた			
	谷村新司 アリス	赤川次郎 マレーシア旅行	ハリーポッター	
	雑誌好き アイドルの歌を良く聴く	テレビを観るのが好き 色々な分野を観た	好きなものを選んで観たり聴いたりするよ うになった	
	ノンノ セブンティーン 平凡 明星 サザン ユーミン ツイスト ザベストテン	WITH サザン ユーミン ひょうきん族 ザベストテン	サザンオールスターズ	
50代後半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～1990年代	2000年代～2010年代	-
50代後半・女性	歌舞伎 ノンノ		海外ドラマ「ダウントンアビー」 NHK 「あさいち」	
	ロック（邦楽・洋楽） ロッキンオン セブンティーン 平凡 明星 サウンド ストリート	ロック（邦楽・洋楽） ロッキンオン サウンドストリート	ロック（邦楽・洋楽） 韓国ドラマ 子育 て中	
	MCシスター JJ	JJ サザンオールスターズ 森山良子	エクラ STORY 森山直太郎 サザン オールスターズ ゆず	
	音楽 芸能		テレビ通販番組	
	アンアン ノンノ			
	少女マンガに夢中だった		NHK再放送の「ビバリーヒルズ青春白 書」の大ファンで大好きだった	
	セイヤング ヤングオーオー	漫画スラムダンク	K-1	
	舟木一夫 ワイルドワウンズ	山口百恵	浜崎あゆみ	藤原紀香
	ロック グループサウンズ ティーンルッ ク セブンティーン	ディスコ ディズニールランド	美術館巡り（Ex琳派）	
	JJ アンアン ノンノ アメリカングラ フィティ	モア サザンオールスターズ	STORY	
	明星 平凡をよく見た 歌謡曲 フォーク ソングをよくレコードで			
	ビートルズ リババイル映画	映画	オーケストラ鑑賞 ライブ鑑賞	
	荒井由実 中島みゆき アンアン ノンノ 犬神家の一族 ある愛の詩	長渕剛 松山千春 松任谷由実 サザン オールスターズ ジョーズ ET ロッ キー グリース	サザンオールスターズ 斉藤和義 マイケ ルジャクソン 矢来園 タイタニック	すぎもとまさと 後妻業の女
	映画「小さな恋のメロディ」「ボセイドン アドベンチャー」フォーリーブス ラブラ ブショー	山口百恵 夜のヒットスタジオ	尾崎豊	
		ツイスト		
	テレビのクイズ番組に出た事がある	映画をよく見に行った		
	セイヤング 兄の影響でビートルズ		韓流ドラマを沢山観てる	
	グループサウンズ	風とともに去りぬ ローマの休日 ペルサ イユのばら エースを狙え	ライオンキングを観た コンサートに行く ようになった	ロクヨン（64）映画も本も良かった
	ノンノ アンアン ディスコも曲 オール ナイトフジ エクソシスト 小さな恋のメ ロディ	週刊女性 女性自身 歌謡曲	韓流ドラマ 週刊女性 女性自身	
	セブンティーン オールナイトニッポン セイヤング アリス	MORE		
	エルビスプレスリー フォークソング グ ループサウンズ			
	宝塚歌劇団	宝塚歌劇団		
	ビートルズ		クラシック	
	小中学校ではグループサウンズと歌謡曲高校 以降はソウル等ディスコミュージック			
	ジェットストリーム（FM） スター誕生	アンアン ノンノ等ファッション誌		
	テレビの歌番組（ザベストテン等） テレビドラマ 8時だよ全員集合	テレビドラマ 不揃いのリングたち	テレビドラマ 映画（邦画） ラジオ番 組（ニッポン放送）	
	たのきんトリオ 新御三家 山口百恵 「赤いシリーズ」	中森明菜 松田聖子 トレンディドラマ	ミスチル サザンオールスターズ	
		映画 スターウォーズなど	韓流ドラマ 福山雅治コンサート	
	フォークソング（アリス かぐや姫サイ モンとガーファンクル）ロックンロール （矢沢永吉）			
	ラジオ深夜放送 セブンティーン JJ	ニューミュージック クラシック 出産 後は子供向け番組	健康特集 ミセス向け雑誌	
			相棒	
	オールナイトニッポン 明星	フォークソング	韓流ドラマや雑誌をみて楽しむ	
	フォークソング		ラジオ深夜便 朝ドラあまちゃん	
	御三家（郷ひろみ 西城秀樹 野口五郎）	SMAP（30代後半の頃）	ゴスペラース ドリカム	
			ボランティアでの楽器の演奏	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【エンターテインメント（音楽・映画・テレビ・ラジオ他）】 つづき

50代後半・女性	お相撲さん 野口五郎 ビートルズ	お相撲さん	向井理 木村拓哉	
	家族と一緒によくテレビを観ていた	友達と学校帰りに映画を観に行った	家事の合間にテレビを観る 雑誌も時々買う	
	歌謡曲	ミュージカル 一人芝居など鑑賞	テレビ（ドラマ・お笑い）	
	フォークソング ノンノ	フォークソング オレンジページ	美術展 コンサート	コンサート 美術展
	仕事が忙しくてあまり観ていない		韓国ドラマ 韓流コンサート	
	フォークソング MCシスター	フォークソング	レディスデイの映画鑑賞	
	テレビドラマと歌番組が好きだった	少年隊を好きになる ミュージカル舞台鑑賞	ミュージカル・舞台鑑賞	
	ユーミン 別冊マーガレット	ユーミン 山口百恵シリーズ映画		
	オールナイトニッポン	アンアン 朝日ジャーナル ひよこクラブ	リンネル ノジュール	
	ユーミン サザン さだまさし	ユーミン サザン さだまさし	嵐 松岡修造	
60代前半年代目安	1960年代～1970年代	1970年代～1990年代	1990年代～2010年代	2010年代
60代前半・女性	好きなアイドルに会うためテレビ番組の収録に何度も足を運んだ			
				サスペンスドラマ
	音楽ではモダンジャズが好きになる映画館には月3回は行った	モダンジャズが相変わらず好き	音楽はCDで、映画はレンタルして家で観た	音楽はクラシックを好んで聴く テレビはサスペンス
	ビートルズ グループサウンズ	井上陽水 さだまさし 小椋佳 五輪真弓 加藤登紀子	朝ドラ 韓国歴史ドラマ	朝ドラ 韓国歴史ドラマ
	フォークソング オールナイトニッポン ビートルズ	カーペンターズ 中島みゆき アンアン ノンノ	タイタニック マイケルジャクソン	
	スパイダース	テレビ「金曜日の妻たちへ」		
	GSブーム ビートルズ来日 平凡 明星	ディスコブーム謡歌 仕事帰りに赤坂・六本木で朝まで過ごした		お笑いブーム テレビでバラエティを観るのが面白くて楽しい
	グループサウンズ ビートルズ JAZZラジオの深夜放送	JAZZ喫茶 ラジオ深夜放送 市民運動に参加		
	本を読むこと	本をよく読む	本をよく読む ナンプレ（数独）	本をよく読む ナンプレ（数独）
	小さい頃美空ひばりの歌をよく歌う	ビートルズ		
	グループサウンズ フォークソング	フォークソング		
	ビートルズのレコード	ファッション雑誌アンアン	主婦と生活社	
			韓国ドラマ	韓国ドラマ
			韓流ドラマ	
	ザ・タイガースが好きでテレビを観たり雑誌の切り抜きを集めていた	子供が小さい頃は幼児番組ばかり観ていた	あるロックバンドが好きでライブに行ったり雑誌を集めたり楽しかった	孫と一緒に子供番組を観る事が多い
	グループサウンズ オールナイトニッポン			
	映画（ディズニー・北の国から） TV（朝ドラ） ノンノ	映画（黄さんシリーズ・ディズニージャズ（吉田照美）雑誌（女性セブン アンアン ノンノ）		テレビ・ラジオ（健康・食事など）雑誌（健康・家庭菜園系）
	フォークソング 東映映画	テレビ 歌番組 スポーツ番組 高校大学プロの野球観戦	韓国ドラマ スポーツ番組	連続テレビ小説 スポーツ番組
	セプティーン 歌謡曲	ビートルズ	芝居 サスペンス	芝居
	ステイビーワンダー ビートルズ	ドリフ 欽どこ	テレビのお笑い番組 2時間ドラマの殺人事件物が好き	テレビのお笑い番組 推理サスペンスが多い
	サウンドオブミュージック	クラシック音楽 フランス映画		
	近所の家のカラーテレビに感動 東京オリンピックをテレビで観た	007シリーズ ヘルサイユのぼら		
			自営業の為毎日ラジオ番組を聴いた	
	郷ひろみのファン 吉田拓郎は青春 アンアン ノンノ	映画鑑賞にはまる		テレビの情報番組にはまる
	グループサウンズ（オックス ザ・タイガース）	歌番組	韓国ドラマ	韓国ドラマ
			劇団四季	
	ナポレオンソロ	アンアン ノンノ	相棒	
	ザ・タイガース	沢田研二	沢田研二	沢田研二
	グループサウンズ フォークソングアンアン ノンノ ラジオ深夜放送	シカゴ、キャロルキング、サンタナ イエス ラジオの音楽番組	キースジャレット ビルエヴァンス映画「エターナルサンシャイン」	ジャズ フェュージョン 山下達郎サンデーBOOK（FM）ぶらぶら美術館 美の巨人たち
	シャボン玉ホリデー	ラジオ「ジェットストリーム」		
	グループサウンズ			
	映画をよく観た			
	セイヤング オールナイトニッポン グループサウンズ	金八先生 SMAP ソウルミュージック イーグルス クラプトン	ハリーポッター デスノート	ピコ太郎 スマホ ラインスタンプ
				時代劇 サスペンスドラマ
	グループサウンズ ナポレオンソロ	グループサウンズ		
	野口五郎 グループサウンズ		花の雑誌	韓流ドラマ
	フォークソング	子供と楽しむアニメ	音楽（コンサート）	CDやラジオを聴く
	初めて買ったレコードはビーター オールナイトニッポン	夜のヒットスタジオ		バラエティ番組をよく観る
		五木ひろしファンクラブに入りリサイタルなどへよく行った	フィギュアスケートをテレビで観るのが好き	フィギュアスケートをテレビで観たりアイスショーを観に行くのが好き

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【エンターテインメント（音楽・映画・テレビ・ラジオ他）】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
60代前半・女性	クールファイブが好きだった 歌番組をよく観ていた			
	グループサウンズ ビートルズ ローリングストーンズ	ニューミュージック スターウォーズ	歌舞伎 宝塚歌劇団	
	ユーミン			
	太陽にほえろ 俳優座劇場 ラジオ深夜放送	寺尾聡「ルビーの指輪」 となりのトトロ 天空のラピュタ 007	ごくせん 007 千と千尋の神隠し ハリーポッター	君の名は ハドソン川の奇跡 Hey!Say!JUMP
60代後半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2010年代
60代後半・女性	ゴジラ 戦争と平和 山と溪谷 パパは何でも知っている ララミー牧場 米国ホームドラマのボナンザ	メリーポピンズ グレートレース グループサウンズ アンアン ノノ	オーメン エクソシスト	youは何しにニッポンへ サンデーモーニング ぶらり途中下車の旅
	ミュージカル	ミュージカル 歌舞伎	ミュージカル	ミュージカル
		ビートルズ モンキーズ	カラオケ ライブハウス スタートレック	中国歴史ドラマ
		新宿御苑で友人と成人式記念撮影	島倉千代子ショー 北島三郎ショー	映画 北の国から
			雑誌クロワッサン	
	グループサウンズ 風とともに去りぬ	フォークソング アイドル歌手		
	映画チケットを入手し月1回は観る			
	雑誌マーガレット	歌番組	美術館巡り ラジオ（永六輔）	
	学生街の喫茶店		映画によく通う	テレビの料理番組
			忙しくて外出できずテレビドラマが楽しかった	忙しくてテレビ位しか楽しみがない
	テレビと映画はずっと好き 事件物サスペンスの番組が好き	宝塚歌劇団 松アキラが好きだった	宝塚で一番はショーのノバボサノバ愛華みれが好き	宝塚歌劇団
	ビートルズ	カーペンターズ エルビスプレスリー NHKきょうの料理	ジェットストリーム（FM）暮らしの手帖 趣味の園芸 栗原はるみ	大沢悠里（ラジオ） ゆうゆう 毎日が発見
	テンバタース スパイダース 野球観戦とラグビー観戦	ディスコ（六本木カンタベリーハウス）雑誌「面白半分」「話の特集」唐十郎の紅テント劇場	多忙な生活の中でこれといった記憶が無い	ジャンルを問わず情報収集
	グループサウンズの影響でBFがバンド結成 ビートルズの来日に興奮	ユーミン		
	流行のコンサートや映画を観ること	テレビ中心だけど好きだった アンアンの本をよく読む	テレビで洋画を観るのが好き	朝ドラ・旅行番組を観るのが好き
	グループサウンズ 風とともに去りぬ 美智子様ご成婚	宝塚歌劇団 東映映画	歌謡曲	演歌 歌謡曲 美空ひばり
	日活映画 ブロレス中継 平凡 明星	ニューミュージック	サスペンスドラマ	歌謡曲 コンサート 料理雑誌 旅番組
	ラジオとテレビが全て大好き 今でも	ラジオとテレビが全て大好き 今でも	5人の男子の親、夫の死のため忙しかった	自由に生きている
	洋画 フォークソング	フォークソング グループサウンズ 吉田照美のデルデルワイド 太陽にほえろ	カラオケ ハリーポッター	
	日劇や浅草国際に芸能人を観に行く	歌番組 洋画	ホームドラマ 時代劇	カラオケ番組 韓流ドラマ
			サスペンスドラマ	韓国ドラマ
	舟木一夫	五木ひろし		
	日劇ウエスタンカーニバル 西部劇	日劇ウエスタンカーニバル 西部劇		
	グループサウンズ 演歌	歌番組 クロワッサン（雑誌）	クイズ番組 健康に関する本	ミステリー番組
				新婚さんいらっしゃい
	アイドル歌手 ビートルズ	フォークソング		
	ラジオで映画音楽・ジャズ・ポップスなど洋楽をよく聴く テレビでは米国と日本のホームドラマを観た	洋画 オペラ鑑賞	米国映画 テレビのサスペンス	クラシックやブラスバンドのコンサートラジオでの語学学習
			韓国ドラマ「宮廷女官チャングムの誓い」	映画「フィレンツェメディチ家の至宝ウフィツィ美術館」「マイインターン」などテレビ朝ドラ 料理番組
		ドラマ	韓流	
	正月番組の芸能人かくし芸大会はとても楽しかった	テレビの音楽番組		近隣に映画館のある大商業施設ができたので映画をよく観るようになるオペラやシャンソンも聴きに行く
	クレイジーキャッツ ザピーナッツ	ジャズ ニューミュージック	映画鑑賞（洋画のみ）	スポーツ番組
		フォークソング 吉田拓郎 イルカ 西郷輝彦 舟木一夫		歌番組 クイズ番組
	テレビ（シャボン玉ホリデー） 洋画番組 音楽番組 読書	音楽 読書	読書	テレビ番組（サスペンス）
		洋楽 洋画	洋画	さわやか自然百景 趣味の園芸 鉄腕DASH 相棒
	友達と観た洋画「西部開拓史（グレゴリーベック）」が今でも脳裏に残っている	夏休みに子供二人を連れてマンガを観に映画館に行った	一時、テレビ番組で韓国ドラマを観るのが好きだった	義姉と二人で八代亜紀のコンサートに行ったのがとても楽しかった
	ビートルズ	森山良子	イーグルス	ニュース番組 ラジオ深夜便（音楽）
			テレビ番組の韓国ドラマ	
	アンアン	カラオケ	カラオケ	カラオケ
	フォークソング全般	テレビ野生の王国 ガッチャマン	必殺仕事人 なんでも鑑定団 テレビで中国語 雑誌ダヴィンチ	和風総本家 相棒 テレビで中国語格闘技
		レコードを聴く	CDを聴く 電子オルガンを習う	電子オルガンの演奏 コンサート

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【エンターテインメント（音楽・映画・テレビ・ラジオ他）】 つづき

60代後半・女性			韓国のドラマ	韓国のドラマ
	洋画	洋画	テレビ番組で洋画 コンサート	テレビ番組で洋画
	西部劇 ロカビリー 雑誌映画の友	フォークソング		
	東京オリンピック 高校三年生 愛と死をみつめて 上を向いて歩こう	美智子様ご成婚 三徳円事件 アポロ着陸 浅間山荘事件	昭和から平成へ	三陸地震 熊本地震 鳥取地震
			家で仕事をしながら文化放送を聴く	家で仕事をしながら文化放送を聴く
70代前半・目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代
70代前半・女性	映画鑑賞 ラジオ深夜放送	映画鑑賞（ミュージカル）	映画鑑賞（美録物・歴史物）	映画鑑賞（娯楽物）
				クラシックコンサート 演劇鑑賞
	ラジオを聴いたり読書をしたり	仕事仲間と映画を観た 労音の音楽会に行った	クラシック等のコンサートに行った	テレビの健康番組を観るのが好き
	学校で友達とワイワイおしゃべり			テレビを観るのが好き
	音楽 映画	映画をよく観に行く		
	テレビ番組 ラジオ番組 軽音楽 特にアメリカンポップス	この時代は仕事と子育てで娯楽的なものは何もできなかった	この時代は仕事と子育てで娯楽的なものは何もできなかった	テレビ映画鑑賞 音楽鑑賞
	ラジオの時代	恋愛結婚・子育て始まる 歌舞伎や映画えお友人と観た	演劇鑑賞 テレビは野球中継	演劇・テレビ・美術鑑賞
	後楽園 クラシック音楽	洋画（ローマの休日・風とともに去りぬ・007シリーズ・氷点） ファッション雑誌	ディズニーランド 007シリーズハリポッターシリーズ	韓流ドラマ 海外旅行
	ラジオ	東京オリンピック 野球	カラオケ 映画	カラオケ フラダンス
	時代劇鑑賞	グループサウンズ		
	歩いてすぐの映画館に行った	仕事をしながらラジオの音楽とトークを聴くのが楽しかった 好きな曲のレコードを買った	家族でテレビを観るのが楽しい（子供向けアニメや大河ドラマ）	友人と寄席・芝居・観劇に行く
		宝塚劇場 歌舞伎座 家庭画報	美術館 家庭画報	美術館 宝塚のテレビ 家庭画報
	エルビスプレスリー	エルビスプレスリー 洋画	映画 落語	映画 落語
	高校友人と映画館へ洋画を観に行く			
	平凡パンチ ザ・タイガース ウエストサイドストーリー			
		音楽の楽曲 日本民謡 ジャズ		テレビ（渡る世間は鬼ばかり・笑点）を観る ラジオ人生相談を聴く
	連続ラジオ番組 少女クラブ	コンサート		
		歌謡曲	歌謡曲 演歌	
	映画・風とともに去りぬ 歌舞伎 新宿コマ芸術座 美術館巡り オークストラ鑑賞	映画ドラえもん 8時だよ全員集合 イレブンPM 大河ドラマ	映画ジャルウィダンス ポリショイパレー津軽三味線 大河ドラマ 婦人公論 旅行読売	昼はラジオ大沢悠里 八代亜紀、細川たかしのディナーショー 歴史街道
	日活映画をよく観に行く（石原裕次郎・小林旭）	会社が忙しく休日は休養		夏目漱石のドラマ
	歌声喫茶			
	若大将シリーズの映画 プレスリーの映画音楽	ベニーグッドマン グレンミラーの音楽		
	ラジオと雑誌	テレビ 映画 雑誌	テレビ 劇場 雑誌	テレビ 雑誌 地域の行事
	美空ひばり一筋 一人が好き		タンゴ ジャズ	
		家族の面倒でどこへも行かない	家族の面倒でどこへも行かない	
	当時の人気歌手に夢中になる			
		映画鑑賞	音楽鑑賞	
	宝塚歌劇や日劇に通う		健康志向のためのセミナーなどに参加	サブリを研究
		石原裕次郎 太陽にほえろ	ズームイン朝	ペンヨンジュン
	美空ひばりのファン	東京オリンピック カ道山		相撲
	子供の頃、雑誌「それいゆ」を買ってもらった 小中高と学校で映画を観に行った もっぱらラジオで連続物を聴いた	ステレオ購入で多ジャンル音楽鑑賞 テレビはくだらない娯楽番組	読書の時間ができ生涯一番読んだ 半年単位の生涯学習を色々受講 葛飾女性史小冊子の自主出版	テレビがくだらなく感じる クラシック音楽にのめりこむ
	ラジオから流れる歌謡曲をよく聴く雑誌は毎月出る少女クラブを買ってもらった笛吹き童子を観に行った	多種多様な音楽を楽しんだ	テレビが楽しかった	自宅にすることが多いのでテレビは友達
	日劇ウエスタンカーニバル	ツイッギー		
		ザ・ピーナッツ		福山雅治 所ジョージの笑ってこらえて
	りぼん 少女ブック 装苑	サウンドオブミュージック ビートルズ	ディスコ アポロ11号	
	女学生の友 平凡 明星 御三家（橋幸夫・舟木一夫・西郷輝彦）	週刊誌	生活情報誌	韓流ドラマにはまる
		洋画		フジ子ヘミング ラカンパネッラ
	白黒テレビが我が家に来る	ナベサダ 日野皓正 新宿ピットイン 田園コロシアム ビートルズ	BOSE（音質のよさに満足）	YOUTUBE
	暮らしの手帖	映画		
		山口百恵 天地真理 白い巨塔	おしん	白い影 JIN
	アジャパー ブギウギ	トニー谷 ゴジラ	無責任時代 ひょうきん族 タッキー&翼	ピコ太郎 砂の器
			歌舞伎	
	ラジオ	映画	テレビ	カラオケ テレビ
		日活・東映映画		
			月刊太陽 吉村昭の小説	
				好きな歌手のコンサートに行った

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【趣味・娯楽・スポーツ・旅行】

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
50代前半代目安	1970年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代	-
50代前半・男性		バチンコ	バチンコ	
		卓球	卓球 旅行 日帰りスバ	
	クラシック音楽演奏（ピアノ） 能楽鑑賞 家族旅行（新潟）	海外旅行（アメリカ欧州シンガポール7カ国） スキー（白馬） 楽器演奏（オーケストラ）	ウォーキング（街歩き） ジョギング ピアノ演奏 能楽鑑賞	
	卓球 釣り	卓球 ゴルフ 映画	卓球 読書 映画	
	ハンドボール	スキー	スポーツジム	
	アイスホッケー サッカー スキー	アイスホッケー	インラインホッケー	
	柔道 ボクシング スキー クルマ	スキー バイク クルマ アウトドア ダイビング キャンプ 旅行（ハワイ・タヒチ）	スキー 釣り クルマ バイク	
	バイク	ヨット スキー 水上スキー	サイクリング 釣り	
	インベーダーゲーム テニス 卓球麻雀	バチンコ 麻雀	カラオケ	
	クルマ 飛行機に興味	クルマが好きでよく遠出	今でもクルマが好き	
	野球 水泳	ドライブ スキー カラオケ	カラオケ	
	ギター	バイク	自転車	
	柔道 野球観戦	ザウスでスキー スポーツクラブ	野球観戦 スポーツクラブ	
	ドライブ スキー	旅行	ソフトボール	
	ディスコ サーフィン	サーフィン ハワイ旅行 ゴルフ	サーフィン	
	魚釣り（川釣り） オートバイ バレーボール	魚釣り（海釣り） 自動車	魚釣り（海釣り） 温泉家族旅行	
	水泳 テニス スキー	テニス ゴルフ 釣り スキー	釣り	
	サッカー 野球 読書 修学旅行	ゴルフ サッカー 野球 テニス ダーツ ビリヤード 新婚旅行	ウォーキング 温泉日帰り旅行	
	野球 麻雀 ボーリング 車で旅行	ゴルフを始めた 大学卒業旅行 経営コンサルタントの勉強開始		
	水泳	ゴルフ	子供の柔道試合観戦	
			海外旅行	
	鄙びた温泉旅行	鄙びた温泉旅行	未知の海外への旅行	
	野球部活	サッカー（Jリーグ） カラオケ		
	ツーリング 柔道 釣り ブラモデル	ツーリング 登山 キャンプ ドライブ ボーリング 油絵 PC	家庭菜園 ドライブ	
	バイクのツーリング	自動車でのドライブ	ペットの犬	
	スイミング	グライダー飛行 スイミング	海外旅行 サイクリング	
	バレーボール バスケットボール スキー	スキー ゴルフ		
		スキー 鈴鹿サーキットでバイクレース	トライアスロン(大会に出た)	
	テニス	エレキギター ボウリング	オートバイ イタリア旅行	
	バイク クルマ	クルマ ドライブ	温泉旅行 ゴルフ	
	テニス ボウリング ブロック崩しインベーダーゲーム	テニス スキー 海外旅行（東南アジア） 国内旅行（沖縄・北海道等）	プロ野球観戦 読書	
	ボウリング	アウトドア（キャンプ・スキー）		
	ビリヤード サッカー バンド	海外・国内旅行 スノーボード		
		北海道旅行 ゴルフ	バチンコ	
	野球 テニス 卓球 日帰り旅行	ディスコ スキー 海外旅行	国内旅行 バレーボール ゴルフ	
	野球 サッカー ウォークマン	スポーツ観戦 プロ野球・Jリーグ	スポーツ観戦 バチンコ	
	NHKラジオ 民放深夜放送	FMラジオ	民放AMラジオ	
	野球など	野球など	あまりスポーツしていない	
	バスケットボール 卓球	スキー ウインドサーフィ テニス	スキー 釣り ゴルフ	
	野球 陸上	マラソン スキー ゴルフ	マラソン ゴルフ	
	サーフィン スキー	サーフィン スキー		
	バイク		バイクで走る ハワイ旅行	
	バレーボール		温泉	
	テニス	バイクツーリング	ゴルフ	
	野球観戦 テニス ボウリング ビリヤード パソコンゲーム	テニス ゴルフ ボウリング サッカー観戦（Jリーグ・海外サッカー） パソコン ミニ四駆 バチンコ	家庭菜園 カラオケ バイクツーリング（温泉・B級グルメ） ネットゲーム	
	旅行	旅行	海外旅行	
	ディスコ 卓球 ボウリング	写真撮影 自作パソコン カメラレンズ ドラクエ バイオハザード	クロスバイクでのポタリング クロスバイクのメンテナンス 散歩しながら写真撮影	
	渓流釣り バスケットボール バトミントン	バトミントン 卓球 渓流釣り 海釣り	海釣り ワカサギ釣り 家庭菜園	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【趣味・娯楽・スポーツ・旅行】 つづき

50代後半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～1990年代	2000年代～2010年代	-
50代後半・男性	写真 読書	オーディオ	オーディオ 読書	
	水泳 バレーボール ボウリング 海水浴 (御宿) 北の富士 輪島 北の湖	スカイライン いすゞピアッツァ ソアラ 麻雀 卓球 ファミコン	モーニング娘 野球/イチロー・松井 ゴルフ フ/石川・松山 高橋尚子 田村亮子 オートバイ	
	サッカー 野球	ドライブ テレビでスポーツ鑑賞	マンガ	
	野球 スキー	野球 スキー 国内旅行 (沖縄・四国・北海道・青森・山形・佐渡)	街歩き	
		陶芸 美術館	美術館	
	麻雀 サッカー	麻雀 スキー	麻雀 太鼓	
	スキー テニス サーフィン ヨット オートバイ 麻雀 パチンコ	スキー キャンプ ゴルフ 麻雀 パチンコ	キャンプ ペット	
	サッカー サーフィン	スキー ハワイ レンタルビデオ 外車	サッカーコーチ 旅行 (ニューヨーク・ミラノ・フィレンツェ) PC	サッカー観戦 テレビの紀行番組 ペットの猫
	空手道 野球 ウェイトトレーニング	ウェイトトレーニング パワーリフティング	ウェイトトレーニング ボディビルディング	
	バスケットボール 野球		バス旅行 ロードバイク	
	バスケットボールを部活6年夢中で	ドライブ・キャンプによくでかけた	大学時代の友人と定期的にテニス	
	野球が好きで甲子園を目指す			
	野球 ゴルフ	野球 ゴルフ 釣り	野球 釣り 釣り旅行	
	ツーリング	相撲	ゲーム 相撲	
		釣り	釣り	
		ゴルフ キャンプ		
	スキー グループ旅行	友人とゴルフ	息子とゴルフ	
	バイク750CC	ジェットスキー 船	神社 寺廻り	
	バスケットボール 陸上競技	海外一人旅 家族旅行 ゴルフ ペット	家族旅行 ペット	
	ラグビー 空手	スキューバダイビング キャンプ	食べ歩き 日曜大工	
	ドライブ	スキー ドライブ キャンプ 旅行	キャンピングカーでの旅行	
	バンドのバイト ディスコ	ゴルフ クルマの運転	ギターをかう 海外旅行にいけるようになる スクーターバイク	
	切手収集 バイク	クルマ 旅行	競馬 旅行	競馬
	クルマ	クルマ ダイビング	サッカー観戦	
	バイク バスケット 切手収集	バイク クルマ デザイナーズブランド	クルマ パチスロ パチンコ ミニカーコレクション	
	テニス スイミング バイクツーリング 楽器演奏 読書	スキー スイミング ヨット バイク ツーリング 楽器演奏	スイミング バイクツーリング 旅行 楽器演奏 読書	
	野球	ゴルフ 野球 スキー ドライブ	ゴルフ スキー ドライブ	
	サッカー ラグビー 麻雀	スキューバダイビング 海外旅行 観劇 国内一人旅 家族旅行	スポーツ観戦 観劇 チェロ演奏 サイクリング	
	ツーリング	ゴルフ		
	ボーリング 釣り 登山	ゴルフ 釣り 登山	登山	
	卓球 テニス			
	バイク スキー	バイク スキー	バイク スキー	
	花札 将棋 レコード スキー スケート パチンコ ラジコン プラモデル ディスコ	ディスコ ダーツ ビリヤード ボウリング ゴルフ 釣り 絵 旅行 (アメリカ・ハワイ・イタリア・シンガポール・グアム)	ヨガ 岩盤浴 ゴルフ スパ ふるさと 旅行 ドライブ 温泉 食べ歩き 映画 ジム	
	ラグビー	麻雀	旅行	
	模型	ゴルフ オーディオ 車 ドライブ	映画	
		サイクリングで旅をした	車で遠隔地へ旅行した	
	読書 麻雀	読書 麻雀	読書	
		野球		
	スキー	スキー ゴルフ	なし	なし
	ゲームセンターによく行った	草野球に参加していた		
	部活で野球	なし	なし	なし
	映画	マハラジャ パチンコ ゴルフ	ハワイ旅行	散歩 ハワイ旅行
	部活で野球に夢中	野球・ゴルフ・ボウリング・スキーと多くのスポーツをやり楽しかった	年齢とともにゴルフだけになったが新たにマラソンを始めている	
	小学校から20歳までサッカー	20歳からテニスを始め仕事仲間と週3回位プレイ	テニスは40代まで (転職で時間が折り返わず)	
	修学旅行 切手貨幣収集 ボウリング	観光名所巡り 海外旅行 観劇 スキー スケート ゴルフ	神社仏閣巡り 食べ歩き ゴルフ ジョギング	
	白浜温泉に家族旅行 テニス	鉄道模型	海外旅行	
		旅行	キャンプ	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【趣味・娯楽・スポーツ・旅行】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
60代前半年代目安	1960年代～1970年代	1970年代～1990年代	1990年代～2010年代	2010年代
60代前半・男性	オーディオ機器 レコード鑑賞 自転車	オーディオ機器 レコード鑑賞 海外旅行 ドライブ テニス	ステンドグラス教室 テニス	ステンドグラス教室 ストレッチ教室
	フィギュアスケート オーディオ	フィギュアスケート 車 バイク ファミコン	フィギュアスケート 車 バイク コンピューター	フィギュアスケート コンピューター
		ディスコ	武道(杖道・少林寺) スカッシュ	スカッシュ
	ジョギング	スキー LA旅行	ゴルフ 家族ハワイ旅行	温泉旅行
	ツーリング 車で旅行 ギター演奏	全県国内旅行 ドライブ 寺院や風景写真撮影 ギター演奏	なし	ハイキング 登山 写真撮影 御朱印集め
	ギター	ロック コンサート鑑賞	ロック 海外旅行	ギター コンサート鑑賞 海外旅行
	卓球	野球 カラオケ	野球	
		バイク 温泉		
	オートバイで友達とツーリング	クルマが好きでドライブに行った	家族旅行に行くようになった BBQなどアウトドアで過ごす時間多い	
	バイクでツーリング 国内旅行		リターンライダー	
	野球	野球 釣り	釣り	箱根旅行
	日本拳法 プロレス	ゴルフ	ゴルフ	
	剣道 機械いじりが好きだった	車をいじるのが好きで車やバイクを買って乗り回した 会社も日産に	ジョギングを10年近くしていたが脚を悪くしてウォーキングに変えた	ウォーキング 温泉にたまに行くのが嬉しい
	野球			
	スポーツはしない 旅行は日帰りか一泊程度 映画や音楽の視聴が好き	プロ野球のテレビ観戦を好む	推理小説を数多く読む	テレビ中心 時々CDで音楽を聴く
		エレキギター スキー	釣り ゴルフ アウトドア	アウトドア
	写真	北海道旅行 九州旅行 ビデオ		真田丸
	テニス 登山	テニス	ゴルフ	
	スキー	友人と旅行	ゴルフ	
	模型製作(ライフワーク) ドライブ キャンプ	模型製作(ライフワーク)	模型製作(ライフワーク)	模型製作(ライフワーク) 海外旅行など少し長い期間の旅行
			国内旅行	
		ゴルフを始めた	頻繁に旅行に行くようになった ポイントバケーション会員になった	頻繁に旅行に行く ポイントバケーション会員
	アメリカンフットボール	アメリカ赴任 アメリカジャズ旅行	多数のアメリカ出張でアメリカ放浪	
	サッカー			
	ボウリング 水泳	パチンコ	家族と海外旅行・北海道旅行	なし
	ボウリング	ゴルフ 油絵	ゴルフ 美術館	ゴルフ 美術館
		家族旅行(年1度3世代で)	家族旅行(子供が結婚するまで年1度位)	
	東北や三重など家族で行った旅行が楽しかった	会社のボウリングクラブが楽しかった 社内旅行や出張で海外に行ったのも楽しかった 独身のときはゴルフに熱中していた	子供との家族旅行が楽しかった 車でドライブするのが好き	妻とバス旅行に行くのが好き
	車 カスタム 野球	車 カスタム 野球 バスケット	車 カスタム 野球 犬	車 カスタム 犬
	水泳	野球 インバーダーゲーム パチンコ	海外旅行 海外カジノ ゴルフ	家庭菜園
	テニス	テニス スキー	テニス	テニス
	友人と夏のキャンプ 冬のスキー旅行	家族旅行 ゴルフ	家族旅行 釣り	夫婦での旅行 昔の友人との旅行
	水泳 洋楽 ビートルズ	スケートボード オーディオ ギター・ベース・バンド ルービックキューブ	サイクリング ミラノ旅行	ウォーキング
	オートバイ ボーリング バレーボール	オートバイ ボーリング 草野球	ドライブ 旅行 ウォーキング	ドライブ 旅行 ウォーキング
			ゴルフ	ゴルフ
			ゴルフ	ゴルフ
	プラモデル作り バスケットボール		ミニカー モデルガン	ミニカー モデルガン
	カメラ(写真撮影) 一人旅	ダイビング テニス 海外スキー 豊島園 海外旅行(一人旅)	テニス ゴルフ 海外家族旅行	ゴルフ テニス サッカー観戦
	友人との夏旅行	テニス 家族旅行	テニス	
		海外旅行	パソコン	
	野球 ボウリング	野球 ドライブ ゴルフ	ゴルフ 温泉旅行	ゴルフ 温泉旅行
		ビンテージオーディオリペア アマチュア無線 レコード鑑賞	ビンテージオーディオリペア 真空管ラジオ作成 レコード鑑賞	ビンテージオーディオリペア
	バトミントン	ギター	なし	なし
	スキー スケート バイク	スケート 車 少年野球	温泉旅行	温泉旅行
		ジープに乗りキャンプ	月2回のドライブ	
	山登り	山登り	ゴルフ 競馬 新幹線に乗ること	競馬
	スキー ボウリング	スキー ボウリング ディスコ	スキューバダイビング ランニング	スキューバダイビング ランニング

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【趣味・娯楽・スポーツ・旅行】 つづき

60代前半・男性		ゴルフ ドライブ 釣り		
60代後半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2010年代
60代後半・男性		テニス	ゴルフ	ゴルフ
		ゴルフ	城巡り	社交ダンス
	マラソン	マラソン	マラソン 読書	マラソン 読書
	スキー	スキー	スキー	
	昭和39年品川にて開業前の新幹線に高校同級生と試乗	京急電車ファンクラブ（列車・ダイヤ・列車編成・運用・車両を主体に調査試乗）	京急同趣会の加入し趣味活動中 鉄道誌に掲載	鉄道同好会（シニア）加入し活動中年2回夫婦で温泉旅行
		釣りが楽しかった	海水魚を飼うのが楽しかった	日曜大工が楽しい
	車 スキー	車 スキー ゴルフ	車 スキー オートバイ 国内旅行ソフトボール	車 スキー オートバイ 国内旅行ソフトボール
			趣味の園芸に力を入れていた	趣味の園芸に夢中
	オートバイ	麻雀 北海道旅行	家族旅行	夫婦で旅行
	韓国旅行	アメリカ旅行	ハワイ旅行	イタリア旅行
	自転車競技 体操競技 切手収集	車 バイクツーリング ラジコンボート・飛行機 ギター	アマチュア無線 テレビゲーム サッカーJリーグ	バイク 車でドライブ
	写真	写真旅行	写真	ダンス
		週3・4回/バトミントン	週3・4回/バトミントン	週1・2回/バトミントン
	バスケット	レーサー スキー		ゲートボール 吹き矢
		登山 海釣り	海釣り	海釣り
	ボウリング	ドライブ 歌声喫茶	麻雀 カラオケ	カラオケ
	卓球	ゴルフ	ゴルフ 海外旅行 競馬	競馬 旅行
	スキー バトミントン	ゴルフ バトミントン	バトミントン ゴルフ	バトミントン ゴルフ
	バスケットボール バレーボール 卓球 麻雀	ボウリング ビリヤード ゴルフ 麻雀	ゴルフ	ウォーキング インターネット
	魚釣り	魚釣り 山登り	魚釣り	魚釣り
			旅行	趣味のカラオケ
	柔道 水泳 魚釣り	魚釣り 旅行 スキー	魚釣り 野球 ドライブ 旅行	魚釣り 野球 ドライブ 旅行
	少年野球に参加し毎週末にするのが好きだった	春と秋の年2回古都の旅行をするのが楽しかった	毎月職場の仲間と2泊3日の温泉旅行に行き仕事の疲れを癒す	
	12歳よりハイキング 15歳よりケイビング（洞窟探検） 18歳よりダイビングを開始	山岳会に入り岩釣り・雪山など25歳までケイビング・ダイビング	ハイキング	ハイキング 登山 冬山
		夫婦旅行 家族でスキー ゴルフを始める	ゴルフ	コナミスポーツで水中歩行や水泳
	バレーボール	野球 ゴルフ	ゴルフ	温泉 旅行
	軟式テニス	一泊二日の小旅行	軟式テニス ゴルフ 麻雀	軟式テニス
	バレーボール カメラ	スキー カメラDPE バレーボール	海外旅行	海外旅行
		水泳	ゴルフ	ゴルフ
		登山（南アルプス 3千m級の山にテントをしょって出かける）		登山（食事つきの山小屋に泊まる）
	野球	プロ野球	プロ野球	
		学生の頃はテニスや野球を仲間と楽しむ国内外色々な場所へ旅行	仕事関係の旅行で全国・海外へ行き見聞を広めた 50代からウォーキング	引き続き調査を兼ねて国内外旅行 ウォーキング 筋トレ
	スキー 10代後半から将棋	クレ－射撃 模型製作	模型製作	模型製作
	アマチュア無線 読書	サッカー観戦 プログラミング	テニス プログラミング 海外旅行サッカー観戦	プログラミング テニス
		友人との年3回位の国内旅行	職場仲間と横立て年1回の国内旅行	
		ギター	ギター	ギター
		オートバイが好きで乗っていた	自転車が好きで乗っていた	
	野球をする事	野球をする事	海外旅行 野球を観る事	ゴルフを観る事 やる事 国内小旅行 街歩き
	野球部・バスケット部所属	海外を放浪旅行	妻と共に旅行	妻と共に旅行
	スキー 富士急ハイランド ボウリング		ボウリング	ボウリング
	釣り ボウリング 野球	釣り	ゴルフ 釣り	ゴルフ
	10代後半からスキーが好きで雪が待ち遠しい日々だった	スキーが好きで雪が待ち遠しい日々だった	家族旅行 週末スキー	
		ゴルフ	ゴルフ	ミリタリープラモデル
	スケート ボウリング オリンピック	ゴルフ	海外旅行 ゴルフ	ゴルフ
	野球	野球 バチンコ	野球 バチンコ	なし
	ピアノ 野球	エレクトーン 野球	釣り 野球 温泉旅行	釣り 温泉旅行
	クラブ活動 国内周遊 麻雀 スキー スケート	ゴルフ 麻雀	ゴルフ	海外旅行 木工 スポーツジム
	野球部の練習に明け暮れていた		家族旅行 ゴルフを始めた	夫婦旅行を楽しむ

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【趣味・娯楽・スポーツ・旅行】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
60代後半・男性		ゴルフを始める 演劇に興味を持つ	月1回ゴルフ 夫婦で海外旅行 会員制ホテルに入会 年3回楽しむ	夫婦で海外旅行 会員制ホテルに入会 年3回楽しむ
	プラモデル作り サッカー スキー	エアガン ドライブ旅行 スキー	オートキャンプ ゴルフ	カラオケ ゴルフ
70代前半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代
70代前半・男性	野球 山登り	山登り 釣り 競馬	釣り 競馬	ガーデニング 競馬
	チームで野球	野球 ゴルフ プロレス	野球 ゴルフ サッカー ラグビー	夫婦で旅行
	バレーボール ボウリング テレビで野球観戦	パチンコ ボウリング 国内・海外旅行 テレビで野球観戦	競馬 温泉旅行（ドライブ） テレビで野球観戦	競馬 温泉旅行（ドライブ） テレビで野球観戦
	ウエイトリフティング	ゴルフ	ゴルフ ドライブ アンティーク盃台コレクション	万座温泉 ウエイトリフティング
		海釣り 軟式野球	海釣り 軟式野球 少年野球指導員	
				海外旅行
	野球	ボウリング 野球	野球	
	外遊び 鬼ごっこ・缶けり	野球 ボウリング ゴルフ ビリヤード テニス	ゴルフ ボウリング	ゴルフ
	野球 ジョギング	ボウリング	卓球 ゴルフ 海外旅行	国内旅行
		音楽（合唱）	ゴルフ テニス	音楽（合唱） 旅行
			お花 植木 旅行	お花 植木 旅行
	サイクリング スキー	ルアーフィッシング マイカー	写真 PC マイカー ルアーフィッシング	写真 パソコン スマートフォン
	野球	野球	野球 海釣り	海釣り
		スキー	ゴルフ 旅行（ハワイ・シンガポール・オーストラリア他）	ゴルフ 国内旅行
		夏休み子供連れ旅行（キャンプ・ハイキング・遊園地） テレビ野球観戦	年1・2回夫婦の温泉旅行 テレビ野球観戦	小中高大学時代の友人と温泉旅行 夫婦で北海道から九州まで国内旅行
			釣り	ジグソーパズル
	目標に向かって動く	有る程度からだを動かした	有る程度からだを動かした	スポーツは好きだが体力が衰えた
			マラソン	ウォーキング
		旅行	大阪旅行	映画 カラオケ
		登山 スキー	釣り ゴルフ	園芸 カラオケ
		野球 ゴルフに夢中	ゴルフに夢中	ゴルフオンリーで楽しんでる
	古都旅行（京都・奈良・金沢）	登山	ゴルフ パチンコ	ウォーキング
		マージャン	テトリス 将棋 ニンテンドーDS	将棋 ニンテンドーDS
		野球 国内旅行	将棋 ゴルフ 麻雀 国内旅行	ゴルフ 麻雀 国内旅行
				旅行
	クラシック音楽を長時間聴く	クラシック音楽のレコードに給料のほとんどをつぎ込む	ゴルフに熱中 仕事上の必要性から練習にも打ち込んだ	ゴルフの才能がないことを悟りきっぱりやめた クラシック音楽は市の同好会で楽しむ
	落語 映画	会社の慰安旅行 ボウリング 映画（次郎長・高倉健）	カラオケ 落語 読書	カラオケ 落語 読書
	蝶々収集 登山	海外旅行 登山 麻雀	海外旅行 ゴルフ	国内旅行 美術館博物館巡り 麻雀 ゴルフ カラオケ
	野球	後楽園遊園地 レコード鑑賞	沖縄旅行	ウォーキング
	音楽鑑賞	音楽鑑賞	音楽鑑賞	音楽鑑賞
		野球（巨人）	野球（巨人）	野球（巨人）
			競輪	競輪
	ローラースケート ボクシング 筋力トレーニング	スキー ドライブ ゴルフ カラオケ	スキー 海外旅行 ドライブ カラオケ	ドライブ
	テニスを中学から40歳まで	テニスを中学から40歳まで		グループ旅行
		ハワイアンバンドで演奏		ハワイアンバンドで演奏 ウクレレとヴォーカル CD・DVD作成
		野球	ゴルフ	ゴルフ
	野球 スキー	野球 ゴルフ 競馬 競輪	ゴルフ 競馬	グランドゴルフ
	鉄道模型HO	鉄道模型HO 写真ビデオ オーディオ	鉄道模型HO 写真ビデオ オーディオ	鉄道模型HO
	釣り 山遊び メジロ捕り	旅行 麻雀 友人と飲酒雑談	カラオケ グループで飲酒 旅行	カラオケ グループで飲酒 旅行
		スキー スケート 映画 ハイキング	野球観戦	映画 テレビ野球観戦
	デート	酒場	サイクリング	サイクリング
	一人旅	グループ旅行	一人旅を求める	温泉
		スキー		
			釣り 散歩	釣り 散歩
		遊園地	年1回の家族旅行 遊園地	週1回グランドゴルフ
		家族旅行を沢山した		夫婦で年2・3回旅行に行く
	野球 相撲 柔道	野球 相撲見物 ゴルフ	ゴルフ	海外旅行
	東京オリンピック	プロ野球観戦 テレビ囲碁将棋対局	海外旅行 CATV（囲碁・野球）	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【趣味・娯楽・スポーツ・旅行】 つづき

50代前半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代	-
50代前半・女性		年に1度大学の仲間と旅行に行くのが楽し み	ベヨンジュンにはまりネットをみるよう になりブログも始める	
		スキー 国内旅行 寝台列車 ディスコ パッチワーク	ハワイアンキルト 洋裁 健康体操教室 カーブス	
	軟式テニス	シンガポール旅行 スキー	温泉	
		スキー プール		
	バスケットボール	映画鑑賞	読書	
	外人アーティストのコンサート（クイ ーン・TOTO・イーグルス・BCR・ロッドス チュアート）	家族旅行 公園 遊園地 海 山 温泉	ライブ（セリヌディオン・ポールマッ カートニー）ビルボード東京 京都旅行	
		沖縄旅行	ジャニーズコンサートで娘と関西や長野な ど旅行	
	ハンドボール サーフィン	家族国内旅行 山 海 TDL	海外旅行（アメリカ） ウオーキング 散 歩 ストレッチ	
	水泳 サーフィン ゴルフ	海外旅行に家族でよく行く 海水浴	海外旅行 温泉 ラグビー観戦	
	海外旅行 サーフィン	海外旅行 国内旅行 サーフィン	海外旅行 国内旅行 ガーデニング	
	スキー	スキー		
	テニス ボウリング	ダイビング	観劇 落語	
		会社の保養所で宿泊の飲み会（箱根・軽井 沢など）	家族で毎週のように水族館などに出かけた 家族旅行で子供に色々な体験をさせた	
	夏は海へ海水浴 FFやCVSでアルバイト	スポーツジムでエアロビクス ジョギング 海外旅行 家族旅行 海 温泉 BBQなどアウトドア	ヨガ（DVD） ジムで筋トレ 夫婦温泉 旅行 映画鑑賞	
	バレーボール観戦 ジャニーズおっかけ	ボディボード ディズニーランド	野球観戦	
	勉強ばかりで楽しめはなかった	前半独身のときは色々な所へ旅行に行き楽し かったが結婚を機に出かけなくなった	脚を悪くして何もできなくなった	
	レコードやカセットで音楽を聴く	映画を観る	映画を観る カラオケ	
	友人との旅行	友人との旅行	温泉	
	読書	ビーズアクセサリー作り スキー 旅行	ゴスペル ヒトカラ 韓国語 ビーズアク セサリー作り	
	スキー	スキー		
	野球観戦 国内旅行（軽井沢・沖縄）	海外旅行（ハワイ・サイパン・バリ・シン ガポール・アメリカ等）	国内旅行（京都・九州）野球観戦	
	テニス 海水浴 スキー	スキー 温泉 海水浴 BBQ カラオケ ボート 潮干狩り 少年野球	海水浴 潮干狩り 子供たちの部活観戦	
	水泳 体操 テニス スキー バイオリン	テニス スキー キャンプ ハイキング サイクリング 海外旅行（ハワイ・ニュー カレドニア）	スキー キャンプ ハイキング 登山 同窓会 ビーズ	
	ドライブ 渋谷 海 ディスコ 長野旅行 花火 横浜 スキー	茶道 海外旅行 海 ディズニーランド テニス スキー 長野旅行 歌舞伎	長野（府中市営宿）ディズニーランド・ シー 富士急ハイランド	
		スキー テニス		
	バレーボール	20代・海外旅行 ゴルフ ドライブ ボウリング 30代・子供とテーマパーク	日帰りバスツアー 温泉旅行	
	テニス	海外旅行 温泉 スキー		
	バトミントン	子供中心の娯楽と旅行 ディズニーランド	子供のスポーツ観戦応援（サッカー バレー）	
	家族旅行 クラブ活動（テニス）	友人と海外国内旅行 テニス スキー TDL	30代よりママ友との食事やバレーボール 家族旅行 TDL	
	海外旅行（グアム・サイパン）ワーキング ホリデー（オーストラリア）海外でジェッ トスキー			
	テニス	グアム	コンサート	
	ソフトボール	ドライブ ラケットボール ゴルフ	国内旅行 バトミントン	
	ペンション 温泉旅行	カラオケ ディスコ ピリヤード 海外旅行		
	ライブ			
	読書 美術館	ハワイ旅行 スキー バレーボール エレクトーン	テニス ハワイ旅行 エレクトーン 御朱印集め	
	ペンション テニス バトミントン スキー	国内海外旅行 野球観戦 テニス スキー	テニス	
	バスケットボール 友人とキャンプ	テニス 家族でキャンプ	温泉旅行 低山ハイキング 舞台観劇	
	テニス スキー 国内旅行	スキー 旅行	子供がいたので何もしていない	
	TDL テニス	TDL オートバイ		
	学生時代は部活をがんばった	友達と海外旅行に何度か行った	学生時代やっていたスポーツ再開	
	バスケットボール コーラス	トールペイント	ゴルフ テニス 夫婦で国内旅行	
		友人と旅行する ディスコに行く事	娘と少し旅行にいけるようになった	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【趣味・娯楽・スポーツ・旅行】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
50代前半・女性	音楽 ライブハウス	プール 海 山 動物園	音楽	
		休暇のたびにスキーに行った		
	器械体操	機織 スキー	京都旅行	
	バレーボール	働いて得た自分のお金で友人と旅行	家族で楽しめるスポーツ 家族旅行	
	陸上競技 バレーボールワールドカップ	テニス スキー 旅行（ハワイ・シンガポール・沖縄・オーストラリア）	バトミントン 旅行（北海道・沖縄）	
50代後半・年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～1990年代	2000年代～2010年代	-
50代後半・女性		海外旅行		
		家族旅行は楽しかった	友人・夫と年数回旅行に行くのがとても楽しい	
	ロックコンサート レコード収集 読書	ロックコンサート レコードCD収集 読書 ドライブ		
	スキー サーフィン テニス 旅行（ハワイ・グアム）	スキー ハワイ旅行		
	音楽鑑賞			
	スキー	テニス ゴルフ 海外旅行	スノーボー	
		海外旅行がとても楽しかった		
		ビリヤード 社交ダンス 手芸 子供服作り	子供のテニス・サッカーの応援	
	箱根	ハワイ	ロスアンゼルス ラスベガス	ハワイ
	海水浴 キャンプ ボウリング スキー	テニス スキー ダイビング 旅行（ハワイ・ヨーロッパ）	シュノーケリング パッチワーク 登山	
			ショッピング カラオケ	
	エレクトーン スキー	テニス 海外旅行 エアロビダンス		
		茶道		
	卓球 ボランティア 高校野球		音楽鑑賞	
	旅行（ロスアンゼルス・ハワイ）	旅行（ハワイ・香港）	旅行（ハワイ・マニラ・セブ島・富山・石川）	旅行（京都・奈良）
	姉の結婚式で行ったハワイ ディスコ	スキー 新婚旅行（ロス・ハワイ）東京 ディズニーランド		
	三味線	テニス ゴルフ	油絵	
		娘とよく旅行に行った		
			娘とミュージシャンのライブによく行った	
	スキー	スキー 子供とキャンプ	ハンドベルを始める 親子三代で行った出雲大社 原爆ドーム	ハンドベル 海外旅行（イタリア・フランス）
	ディスコ 軽井沢 千葉	パチンコ 温泉 ディズニーランド	パチンコ 鬼怒川温泉 福島 千葉ディズニーシー	
	ボーリング	海外旅行		
		ディズニーシー スキー	犬と泊まれるホテル	犬と泊まれるホテル
	大相撲観戦 プロ野球観戦	大相撲観戦 プロ野球観戦	大相撲観戦 プロ野球観戦	
	母と塩湯の温泉に行った	結婚して初めて秋田に行った	ヨガと太極拳	
	10代後半はディスコ等のダンス	テニス・スキー	スキーなど家族旅行 スポーツジム	スポーツジム
	ソフトボール バンド活動		アメリカ旅行・ハワイ旅行	
		温泉	ヨガ フラダンス 朗読（リーディング）WOWWO映画 温泉	
		ハワイ旅行	ハワイ旅行	
	テニス	海外旅行 ドラゴンクエスト	ペットとの旅 若月文子のお人形 サッカー観戦 フラワーアレンジメント	
	バレーボール テニス	海外旅行 テニス	ソフトボール テニス 寺巡り	
	テニス バレーボール スキー	テニス スキー ゴルフ 家族でスキーやサイパン旅行	ジム通いを始める 夫と登山も始める 温泉旅行	
			夫婦で国内旅行	
		ダイビング	水泳	水泳
	部活でバレーボール	一人旅を楽しむ 着付け アートフラワー 洋裁を習う スキー スケート	韓国旅行 韓国語の勉強	
	バスケットボール	バレーボール	年2回友人と旅行 卓球 読書 カラオケ	
	テニス	テニス 20代に登山	50代から登山	
		旅行で色々な所へ行く 仲間とテニス	趣味に没頭（楽器演奏）	
	和琴 お花	パチンコ 酒	パチンコ	
	部活テニス	友達と旅行 家族でサッカー観戦（柏レイソル）	子供を通して知り合った友達とたまに2泊旅行に行くのが楽しみ	
		仲間と飲み会	バレーボール 野球観戦	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【趣味・娯楽・スポーツ・旅行】 つづき

50代後半・女性	卓球 考古学	旅行	お菓子作り 習字 旅行 ヨガ	料理 習字
	スキー 旅行(京都・山陰・山陽)	スキー北海道2回 日本中を旅行	子供の試合の付き添い	
	友人と夏休み旅行 コンサート	家族旅行 キャンプ コンサート 野球観戦	夫婦旅行 ドライブ 文楽	
		東山紀之に夢中	東山紀之出演のものを観る	
	六大学野球	ラグビー 編み物 テニス	サッカー ピーズアクセサリー	
		家族旅行 海水浴 テーマパーク コーラス	日帰りバス旅行 夫婦で車旅行 コーラス	
	テニス スキー 水泳 登山 各地を旅行	テニス スキー 水泳 登山 各地を旅行	テニス スキー 水泳 ジム	
60代前半年代目安	1960年代～1970年代	1970年代～1990年代	1990年代～2010年代	2010年代
60代前半・女性		区立のスポーツセンターに仕事後週3日 通った	スポーツクラブに入り健康維持 ダンス にはまる	筋トレ再開(認知症予防にも)
		テニス	テニス	子・孫と行くテーマパーク
	音楽	音楽	パッチワーク コンサート	パッチワーク 青春18切符旅行
	友達出身の伊豆へよく遊びに行った	水泳 彫金でアクセサリー作り	スポーツはやらなかったが歩くのが好き でよく出かけた	年1回位2・3日の旅行 日帰りはよく行く
		乗馬 スキー	乗馬 スキー	乗馬 水泳
	テニス グアム・フィリピン旅行	テニス 水泳 社交ダンス ハワイ旅行	国内温泉旅行	箱根・熱海温泉旅行
	ローラースケート ボウリング	スキー	国内旅行	国内旅行
	東京オリンピック開催・新幹線で初めて 東京へ 初めての都会ウキウキ	初めてアメリカのロスに行く ディズニーランドも楽しかった	子供と動物園に行くのが楽しかった	
		絵画教室 初めての山登り	50代後半からサッカー・野球のテレビ観 戦が面白くなっている	50代後半からサッカー・野球のテレビ観 戦が面白くなっている
	編み物や美術を習っていた	洋服や編み物など子供に作って着せるの が楽しかった	ビーズなどのアクセサリー作り	何かを作ることを今も続けている
	紙芝居が好きだった		夫婦で旅行	夫婦で旅行
	バスケット			
			夫婦で海外旅行(ハワイ・カナダ・アメ リカ)	
			ビーズ・天然石のネックレス作り	ビーズ・天然石のネックレス作り
	新体操	バス旅行	アクセサリー作り バス旅行 PC ペン習字	PC
	ソフトボール	子育てに追われ趣味はほとんどやってい ない	娘夫婦との旅行が楽しみ 孫も増え充実した毎日	娘夫婦との旅行が楽しみ 孫も増え充実した毎日
		ゴルフ ジャイアンツ	ゴルフ	
	ボウリング スノーピーグズ	インバーダーゲーム キティちゃん ディズニーランド	ファミコン ディズニーシー	スマホゲーム 温泉旅行
	バスケットボール	バレーボール バトミントン ドライブ 子育て仲間とプール公園	主人とソフトボール 温泉を楽しむ道の 駅巡り 着物の着付け	孫のサッカーの応援 短大時代の友人との年一回の旅行
	ローラースケート レース編み物	旅行 ボウリング	ツアー旅行 海外旅行 ダンス	ダンス 旅行
	ソフトボール 夏の海 ディスコ	テニス	ママさんソフトボール 海外旅行(ハワ イ・グアム・パリ) 母と姉妹での国内旅行	トレッキング
		友人との旅行	海外旅行 水泳	
	近所の外遊び	手芸	手芸	手芸
	学生時代に水泳	家族旅行に行けたこと		
	編み物 花工芸	体操を始める	海外旅行(ハワイ・アメリカ・カナダ・ 香港・イタリア・ドイツ・フランス)	国内旅行をしたい(箱根・伊豆等)
			海外旅行によく行っていた	子供が独立しつつあるのでパッチワーク 等趣味を少しずつ始めている
	友人と部活後のおしゃべり	ゴルフ ニューヨーク在住でアメリカ・ ヨーロッパ旅行	東北・北海道などへの旅行 スポーツジム	温泉旅行 ヨガ エアロビクス
		ゴルフ・コントラクトブリッジ	パッチワーク 手芸 海外旅行	
	スキー 音楽 クラシック全般	ヨーロッパ旅行 音楽クラシック=子供が 習っているヴァイオリン曲	音楽クラシック=子供が習っているヴァイ オリン曲	
			園芸大好き 夢科のバラクラ(英国本格 庭園)に行く夢が叶い感動した	60の手習いで勇気を出して習い事を始 めた
	映画 コンサート	各地国内旅行 温泉 スキー 海水浴 キャンプ	国内旅行 英会話 着付け 海外旅行 (スペイン・イタリア・モロッコ)映画 ガーデニング エアロビクス	国内旅行 英会話 映画 ガーデニング エアロビクス ヨガ
			国内旅行(沖縄・九州・四国)	
	東京オリンピック	ボウリング		
			国内旅行によく行く スポーツクラブで の水泳が楽しい	水泳(今も続けている)
			友達とよく日帰り旅行へ行った	
	大阪万博 ロールースケート グループ サウンス 18歳NYに住む	ディスコ シンガポール旅行 ファミコン	バス日帰り旅行 ホテルのバイキング	リオオリンピック ポケモンGO

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【趣味・娯楽・スポーツ・旅行】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
60代前半・女性			テニス	テニス カーブス（健康体操教室）
	姉妹で旅行 国民宿舎	家族旅行 プルトレインで行く	美術館巡り お寺巡り 余暇のレクダンス 中国武術	
	ダンスパーティ ポウリング	初めての家族旅行	好きな編み物をする事 年3回は孫たちと旅行する事 洋蘭の花を咲かせること	花をよく観に行く 家庭菜園 ガーデニング
	卓球	デザートクッキング	卓球	卓球
	色々な場所へドライブ	夏山 冬山によく登る	カラオケ	スポーツジム
	高校時代ウィンターフォーゲル部に入り流 行の登山やハイキングに行った		3B体操（健康体操・ダンス） ジャズダンス	3B体操（健康体操・ダンス） ジャズダンス
	中学時代バレーボール		地元のコーラス（孫と自転車で）	月1回のカラオケ 2ヶ月1度のポウリング クラブ参加（友人も出来た）
		京都旅行	バス旅行	
				家族旅行（広島・奄美大島）
	スキー 登山（立山連峰）	スキー場巡り 九州一周ドライブ旅行 月9ドラマ	海外旅行（イタリア・フランス・BMW） ジャニーズ（Hey!Say!Jump!） 温泉旅行（白湯温泉）	ポート（レガッタ）・ANA オリンピック TV観戦 アメリカ東海岸旅行
60代後半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2010年代
60代後半・女性	植物採集 ブロレス 海水浴	登山 スキー 海外旅行 音楽演奏会	バスツアー	町内会のバスツアー
	旅行	旅行		旅行
	ドラム テニス	映画 競馬 テニス	国内旅行 海外旅行 ゲーム PC	競馬 歴史
		社交ダンスを始める	社交ダンスの級が上がっていった	社交ダンスの先生になった
		ハワイ新婚旅行 友人と北海道 夫婦で九州旅行	カナダ旅行 ハワイ家族旅行 鳥取砂丘・沖縄旅行	友人と北海道旅行 ツアーで富士山登山
		国内旅行	海外旅行	
	バレーボール（東洋の魔女）		野球 サッカー	
	テニスが好きでレッスンを続ける 年3回 両親との旅行が楽しみ		夫婦で2ヶ月に1回日帰りバス旅行色々な 事を考えるのが楽しかった	
	読書 友人と行く軽井沢	スキー テニス 京都旅行	キャンプ 自動車旅行	温泉旅行 読書
	バレーボール	旅行（九州など）	ママさんバレー	テニス鑑賞
	読書	登山 読書		
	観劇 読書	横溝正史を全読	歌舞伎の猿之助が好きで8月は必ず歌舞伎座 に行くのが楽しみ	スーパー歌舞伎をほとんど全部観る四代目 のヤマタケルも遜色なし
	レース編み 刺繍	小物作り 編み物 映画	登山 映画 夫婦の海外旅行 友人との海外 旅行	映画 友人との国内旅行
	学生時代の夏休みに鶴原海岸にある友達 の別荘にはぼ1ヶ月滞在して真っ黒に フォークソングギター	海外旅行（カナディアンロッキーのドライ ブ バンフの満天星）	美術館巡り（地方等） ドライブ 旅行 （沖縄・八重山諸島） 染色（小物の型 染め）	美術鑑賞 近場の小旅行 ハイキング ウ オーキング 気が向いたときのストレッチ 体操
	バンド主催のダンスパーティ			
	テニス お茶 お花	家族で一泊の冬スキーと夏の海	家族一緒に最初で最後の富士登山	友人4人の年2・3回2泊3日旅行が楽しい
		洋裁 日本人形 映画	海外旅行	歌舞伎鑑賞 国内温泉旅行 お茶
	社交ダンス ポウリング バレーボール	社交ダンス コンパ	仕事を兼ねた旅行 コンサート	コンサート 温泉 ハンドメイド
	サイクリング（クラスの友と）	子育てに夢中でした	今があるのはすべて答えた 子供の親とし てよくされているのは最高	自由に生きている
	ポウリング	ポウリング 海 山	ヨーロッパ旅行 国内旅行	国内旅行
		会社 子供たちと旅行	グループ旅行 自治会の旅	
		スキー キャンプ テニス	テニス 海外旅行	テニス 海外旅行
	日活映画	国内旅行	海外旅行	
	部活ソフトボール 野球観戦	スキー 野球観戦	子供が片付き夫婦で旅行	
	読書 キャンプ スケート	ポウリング 登山 ドライブ	朗読 ボランティア 温泉 友人との食事会	朗読 オカリナ 家に集まりお茶タイム
	マラソンをよく行った	ポウリングをよく行った		
	マンドリン演奏 油絵 テニス	テニス 木彫り 登山	ゴルフ スポーツ観戦 木彫り 手織り 俳画 旅行（国内・海外）	ゴルフ 登山 木彫り 旅行
	合唱	読書（推理小説）編み物（毛糸・レース） テニス	読書（宮本輝・東野圭吾） バス旅行 バ ウンドテニス	寺社巡り 温泉 野球観戦
	アートフラワー	美味しいものをいただく	美味しいものをいただく 海外旅行ヨガ	美味しいものをいただく 国内旅行（鳥取島 根）海外旅行（スペイン・ポルトガル） ヨガ サーキットトレーニング 自衛術（じ ぎょうじゅつ・運動療法・体操）
			韓国旅行 歌舞伎 ミュージカル	歌舞伎 ミュージカル
	ポウリング アイススケート スキーバス旅行	テニス 日帰りドライブ	ゴルフ場の会員権を買いヨーロッパア メリカ等遠くへ出かけた	アスカクルーズで国内旅行 これからは国内旅行をゆっくり
	ポウリング	ポウリング	手芸（刺繍）	手芸 絵画
	バレーボール	ポウリング	カラオケ スポーツジム	カラオケ
		読書（色々な分野）	読書（ミステリー） ガーデニング	ガーデニング

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【趣味・娯楽・スポーツ・旅行】 つづき

60代後半女性	高校の卒業記念で親友6人と2泊3日で小旅行に行ったこと	家族4人で会社の保養所へ旅行に行ったとき子供たちがとても喜んでくれたこと	趣味の人形作りに夢中になって仲間と過ごした雑談や食事が楽しかった	
		ボウリング		観光旅行 家庭菜園を楽しむ
		山歩き	外国旅	
		旅行	インディアカボール	ホットヨガ
	バイオリン 読書	読書 剣道 料理 着付け	読書 水墨画 ピアノ 剣道 書道 中国語	読書 絵 ピアノ 書 中国語 格闘技 篆刻（てんごく印章作成）
		スキー スケート	俳句 レザークラフト ビーズアクセサリ フィットネスクラブ	フィットネスクラブ
		フィギュアスケート観戦	フィギュアスケート観戦	フィギュアスケート観戦
	卓球	ボウリング 社員旅行 海釣り		
	スケート スキー ボウリング	スキー 国内旅行	国内・海外旅行	海外旅行
		ギター スキー	海外旅行 テニス ゴルフ	ゴルフ フラダンス 俳句
70代前半年代目安		ママさんバレーボール スキー	ハワイ旅行 台湾旅行	
			編み物	編み物
70代前半・女性		1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代
				2000年代～2010年代
		年1回の家族旅行	年3回の温泉旅行 水泳教室 プール通い	年3・4回の温泉旅行 プール通い
			釣り 旅行	旅行
	親とたまの外出がとても楽しかった	友人や仲間との旅行は最高の楽しみ	絵画鑑賞に美術館へ	好きな趣味を長く続けたい
	学校で友達とワイワイおしゃべり	働くことが大変だった	働くことが大変だった	テレビを観るのが好き
	旅行 相撲観戦	カラオケ 野球観戦	カラオケ 野球観戦	カラオケ 舞台鑑賞
	家族旅行 テニス 洋服のデザインを描くのが好きだった	洋服のデザインが趣味 テニス	カラオケ	テレビ映画鑑賞 音楽鑑賞 旅行が趣味かも
		ツアー旅行を友人と	友人とよく旅行をした 自由業の夫とも友人たちとよく出かけた	未亡人となりだんだん静かに子供家族を大切にしながら暮らしている 陶芸をしている
	いけばな教室 書道 そろばん塾 テニス 修学旅行（日光）	テニス 水泳 海水浴（千葉） 社員旅行（佐渡）	ストレッチ体操 料理教室 温泉旅行（黒川温泉）	ストレッチ体操 料理教室 温泉旅行（大牧温泉）
		結婚して商売を始めた頃一泊旅行によく行った	園芸 貸し農園で野菜作り カラオケ	
	バレーボール	旅行	ダンス ボウリング 旅行	輪投げ カラオケ
	アイススケート			
	学生時代に友人宅で7・8人集まりクリスマスなどのパーティで楽しむ	休日は家族でドライブ 生け花を習って級を取得したのは楽しかった	子供たちとボーイスカウトに参加して野外活動体験をした	関東近県の温泉に宿泊
	琴 生け花 クラシックバレー 体操	琴 生け花	植木（花） 仕事で全国旅行	
		ゴルフ 旅行 ボウリング	ゴルフ 旅行 ライブ（カントリー）	旅行 ライブ（カントリー） カラオケ
			4人のグループ旅行	友人と旅行
	サーフィン	ドライブ	ゴルフ 海外旅行（フランス・イタリア）	世界遺産巡り
	修学旅行（中学）	会社の旅行 家族旅行 子供連れて動物園 海 遊園地によく行った	娘・孫との2泊3日旅行や田舎への里帰り	子供・孫との年数回の食事が楽しみ友達との食事は月1回の楽しみ
		家族・友人と旅行	ハイキング	古着で小物作り
		刺繍 レース編み	編み物	編み物 手芸
	学割旅行 合宿 登山に挑戦 アイススケート	子連れで動物園・遊園地 大阪万博ママさんバレーボール	海外旅行 国内旅行 桜紅葉巡り 東京散歩（谷中・皇居・庭園等） ダンス	月1回程度のグループごと旅行 コーラスグループを立ち上げ活動
	バレーボール部で一生懸命練習	編み物が好きだった 入社してからは旅行は社員旅行程度	子供の教育に手がかかり自分の趣味は全然出来なかった	編み物 洋裁 筋トレ サッカー観戦
		ボウリング テニス	ハイキング	小物作り 食べ歩き
	バレーボールに夢中	ママさんバレーボール		社交ダンス
	縄跳び 石蹴り かけっこ	手芸 旅行 青年会の踊り	手芸 旅行 踊り	よさこい踊り 旅行 地域行事のお手伝い
		仲の良い友人たちとの旅行	趣味の手芸に熱中していた	
	旅行（九州・大阪） ボウリング			
			幼稚園のお母さん仲間と都民劇場の会員になった	車中泊しながらの夫婦旅行
	ボウリング			
		老後に夢中になれる趣味や運動を見つけた（テニス・エアロビ・ヨガ・水墨画）	夫婦で海外旅行を始めた	海外へ友人と出かける
			京都旅行	ペ・ヨンジュ
			初めて飛行機に乗った	趣味のサークルに入った 同級生と年1回旅行を楽しむ
	和服を縫う（手仕事が好きでありとあらゆるものに挑戦した） スポーツ音痴で大嫌いだった 社会人になって友人と一泊旅行をしていた	子供と一緒にドライブの旅 テニス友人グループ4世帯の旅 園芸で家中緑いっぱい生活	バトミントクラブで猛特訓受ける50代からスキー 車で全国一周 手編み教室に通う 女性史の会で活躍	スキーを65歳まで続けたが骨折で止める 夫婦でドライブ旅行多数 手編みを30年続けている
	笛吹き童子を観にいった	社内旅行 スケート スキー	3人姉妹（3婆）で旅行に行くようになった ソシアルダンス始める ○○細工で吊り棚などを作る	姉妹旅行は加齢と金銭面で行けなくなった ソシアルダンスと○○細工は今も続けている

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【趣味・娯楽・スポーツ・旅行】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
70代前半・女性			海外旅行	船旅
				俳句
	バレーボール 文通	東京オリンピック ボウリング テニス	海外旅行 テニス	国内旅行 日帰りバスツアー
	野球（ジャイアンツファン）	ボウリング	カラオケ 温泉旅行	韓国ドラマの影響で韓国二度の旅行
	テニス スキー	テニス スキー	テニス 国内旅行（全国）	国内旅行 海外旅行
	スキーを始める	洋上大学で40日間の船旅を経験 テニスを始める	テニスに夢中 義姉のいるアメリカへ行く	主人のリタイアに伴い二人であちこち海外旅行 シムで体力作り
		ハイキング	スポーツクラブ	旅行
			この時期にあちこち海外国内旅行	
		長嶋茂雄選手引退		
		ホッピング サイクリング	草津温泉 箱根 東京ディズニーランド	旅行（千葉・京都・沖縄） 東京ディズニーシー
		旅行	旅行	旅行
			旅行	
			友人と国内旅行	
		ローケツ染め	ローケツ染め テニス 数独	切り絵 海外旅行 数独
			市の農園を借りて畑仕事	スポーツジム 農家の人から畑を 2百坪借りて農業？

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【食べ物・飲み物・食事・飲食店】

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
50代前半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代	-
50代前半・男性	餃子 銀座ナイルレストラン	カフェオレ レストランシャンテクレ (仏・ニース)	フランス料理 インド料理 スターバックスコーヒー	
	コカコーラ	肉類	魚 野菜	
	カップヌードル			
	コーラ ハンバーガー	ビール 肉料理	ワイン 和食	
	マクドナルド とんこつラーメン	ビール 梅が丘の美登利寿司	回転寿司	
	スニッカーズ	横浜ドルフィン トリスウイスキー		
		ビール ラーメン	ハイボール 焼酎	
	喫茶店でバイト	何を食べてもおいしい年代だった		
	カップヌードル	イタリアン 居酒屋 スナック	居酒屋	
	吉野家 マック		ホテルビュッフェ	
	サイゼリヤ もんじゃ コーラ カルピス	サイゼリヤ デニース ビリーザキッド	サイゼリヤ	
		ホテルや割烹に呼ばれる事が増えた	地元(江東区)飲食店	
	コーラ ファンタ 鯨肉	ビール バーボン もつ焼き スナック (飲み屋)	第3のビール ハイボール レバ刺食べ放 題の店	
		ビール 焼肉 寿司 養老乃瀧	ホッピー 日本酒 ウイスキー 立ち飲み	
	焼肉 ラーメン屋 中華屋 コカコーラ	すし屋 ビール 日本酒 ウイスキー	和食 酢の物 刺身 焼酎 赤ワイン	
	居酒屋 コンバ			
			古民家カフェ	
	駄菓子	居酒屋		
	喫茶店	居酒屋 ファミレス ファストフード	回転寿司	
	コカコーラを良く飲んだ	お酒がおいしかった	ラーメン店が増えた	
	スポーツドリンク	ウイスキー	日本酒	
	つば八	バー ディスコ	一軒目酒場	
		ビール ラーメン	ビール ワイン うなぎ	
	チェリオ ドクターペッパー コーラ	デリバリーピザ ダイエット コーラ ファミレスのサラダバー コンビニ	ノンアルコール飲料 糖質制限食品ロー カーボ	
	マクドナルド ミスタードーナツ ロッテリア	ファミレス 居酒屋 サイゼリヤ	スターバックスコーヒー 銀だこ ドンキホーテ	
	寿司 ビール	寿司 ビール	寿司 ビール	
	外食で毎日飲む	食事にこだわりよく外食	ほとんど外食をしなくなった	
		ファミレス	居酒屋 ラーメン プロテイン	
	リンガーハット			
			焼肉の食べ放題	
		友人とお酒を飲む		
		寿司	焼肉	
	チェーン店の居酒屋	バーボン ショットバー 牛角	ラーメン 焼酎 各地のグルメ	
	ファストフード	ビール	野菜	
	ベヤングソース焼きそば 餃子王将 カッ プヌードル	油そば 回転寿司 カラオケボックス 「ひまつぶし」で同僚と飲む	マクドナルドで朝食バリューセット ベベ ロンチーノを自炊で食べる	
	ビール	焼酎	焼酎	
50代後半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～1990年代	2000年代～2010年代	-
50代後半・男性	炭酸(チェリオ 7UP) スカイラーク	ティラミス ナタデココ マクドナルド モスバーガー ケンタッキーフライドチキン	焼酎 ワイン	
	ラーメン ハンバーグ うなぎ			
		お酒	お酒	
	おいしい食べ物とお酒	おいしい食べ物とお酒	おいしい食べ物とお酒	
		ファミレス	吉祥寺 ファミレス 回転寿司 コメダ咖啡店	
	マクドナルドハンバーガー 吉野家 シェーキーズのピザ	サブゲッティ 焼肉 ナタデココ	パスタ ステーキ ワイン	
	ラーメン	ラーメン	ラーメン 肉	
	コカコーラ	海外旅行で食べた物・行った店	蕎麦	
			餃子の王将好きで毎日の様に行った	
	肉 ビール	お好み焼き	なんでも	
	ウイスキー	ビール	ビール チューハイ	
		酒 居酒屋 外食	酒 居酒屋 外食	
	マクドナルド	焼肉	魚が大好き	
	コーヒー ハンバーガー インスタント ラーメン	コーヒー ラーメン	コーヒー 寿司	
	コーラ	モスバーガー	回転寿司 リンガーハット 丸亀製麺 和幸 餃子の満州	
	自販機のカップヌードルに感激			

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【食べ物・飲み物・食事・飲食店】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
50代後半・男性	大食漢	肉料理	和食	和食
	コロッケ カレー 餃子	から揚げ ハンバーグ メンチカツ	照り焼きチキン 夫ぶら ラーメン	
	ファミレス	ファミレス 居酒屋	ゆっくり会話のできる専門店 ファミレス	
	喫茶店	ファミリーレストラン 居酒屋	ラーメン屋	
		飲酒	飲酒	
	ファストフード	ファミレス	ワインバー	
		カクテル ワイン	焼酎	
	肉	肉 ドクターベッパ	肉 ドクターベッパ	
	だんご そば おしんこ ラーメン コカコーラ サイダー カルピス コーヒー パフェ 喫茶店	イタリア料理 フランス料理 アメリカ料理 アジア料理 ジェラート インドカレー タイ料理 ベトナムコーヒー タピオカ	回転寿司 しゃぶしゃぶ 焼肉 ファミレス コンビニ スターバックス マクドナルド 蕎麦 うどん サイゼリヤ	
			雰囲気の良い店で食事をする	
	バーボン	日本酒	焼酎	
		ビール		
		酒の付き合いが多くなった	健康な食事を気にするようになった	
		ファーストフードによくいく	居酒屋に妻と行く ファミレスでよく食事	
	渋谷のインディラ	ワイン	ピスタチオ ワイン	ナッツ類 牛乳 ユーグレナ（藻）
	質より量だった	お酒をよく飲みに行きお金を沢山使った	おいしいものが食べたい	
	コカコーラをサッカー部の練習の後ほぼ毎日飲んでた	出勤前にドトールコーヒーによく入ってた		
	カレー ハンバーグ ファンタオレンジ カルピス ペプシ 寿司 焼き芋	焼肉 寿司 ビール ウイスキー 日本酒 ファストフード店	和食 ワイン 焼酎	
	肉料理（焼肉・ハンバーグ）が特に好きだった	ファミリーレストラン 回転寿司 ビール	寿司 鮮魚 芋焼酎	
60代前半年代目安	1960年代～1970年代	1970年代～1990年代	1990年代～2010年代	2010年代
60代前半・男性		ファミリーレストラン ファストフード		
	ファミリーレストラン	ビアガーデン	ビール	ビール 焼肉
	（食べ物等）まったく興味なし			
	コカコーラ	ピザ ワイン	ワイン イタリアン	ワイン 和食
	とんかつ ラーメン	ビーフシチュー しゃぶしゃぶ ハイボール ビール	ビール	
	酒	酒	酒	酒
	好き嫌いがなかった コロッケが好き	仕事を始めて自分が好きな肉を良く食べた	父の介護で病気になる食事制限で食事に苦労した	体重が増えないように気にしているが食べることが好きなので困る
	自炊はせず外食のみ 好き嫌いはなかった	やはり外食中心	妻の手料理中心 昼は外食 ビールを好んで飲んだ	病後に減塩食品を多く食し油物を控えている アルコールは停止
		マクドナルド カップヌードル	ラーメン 焼肉	ラーメン
		お好み焼き		
	ラーメン	ラーメン カツどん	ファミリーレストラン	
	別にこだわりのない			
		居酒屋 カラオケ		
		ビール ウイスキーほぼ毎日	ビール ウイスキーほぼ毎日	ビール ウイスキーほぼ毎日
		呑んだくれ		
		友人と居酒屋にて談笑	日本酒	日本酒
	ラーメン	マクドナルド	回転寿司	手打ち蕎麦
			家族で外食するのが楽しかった	息子家族を交え外食するのが楽しい
		近所のレストランのバリエーションチーズ焼きが美味だった 会社のパーティでニューオータニやオークラでの立食が多かった	回転寿司とハンクグリーンタイガーのハンバーグが好き	
	ラーメン カツどん コカコーラ	コカコーラ すし屋	にごり酒 居酒屋	ウイスキー 牛丼屋 回転寿司
		スナック カラオケ 生オケ ブランド	イタリアンレストラン 高級割烹 焼酎 日本酒	焼酎 日本酒
		ハンバーガー		
	友人との飲み会	友人と飲み会 家族ぐるみの食事会	職場での飲み会	夫婦でランチにでかける
	垢垢	上海料理 スナック イタリアン ウイスキー ビール	台湾料理 ワイン	日本酒 寿司
		大人の雰囲気のスナック	会社の同僚との飲み会	居酒屋「辰巳」
	ビール	ビール	ビール 日本酒	ビール 日本酒 ウイスキー
	コーラ	ハンバーガー	ビール 日本酒	ビール 日本酒
		コンパ スウェーデンハウス ワイン バーボンウイスキー	イタリアン フレンチ ワインバー 日本酒 ワイン	フレンチ 和食寿司 ウイスキー
		ウイスキー バーボン	チューハイ	
	肉料理 炭酸飲料	肉料理 ビール	魚介料理 日本酒 ビール	魚 寿司 ワイン ビール

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【食べ物・飲み物・食事・飲食店】 つづき

60代前半・男性		マクドナルド ロッテリア ダンキンドーナツ		
	学食（ラーメン・カレー） カップラーメン	築地場外市場		
	蕎麦屋に行くのが好き	蕎麦 おでん 焼き鳥の屋台に行くのが好き	蕎麦屋に行くのが好き	
	ハンバーガー コカコーラ			
	コカコーラ ピザ	スカイラーク		
60代後半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2010年代
60代後半・男性		喫茶店	おいしい飲み屋	
		ビール		
	甘いもの	ビール 甘いもの	ワイン 甘いもの	ワイン 甘いもの
		誕生日（結婚記念日）と妻の誕生日親子4人で会食を毎年	誕生日（結婚記念日）と妻の誕生日親子4人で会食を毎年	誕生日（結婚記念日）と妻の誕生日親子4人で会食を毎年
	イタリア料理店カッペリーニ 目黒通りジロー	プリンスホテル	プリンスホテル	プリンスホテル
				孫と回転寿司に行くのが楽しみ
	コカコーラ 餃子	とんかつ 中華街で中華	焼肉 とんかつ	日本料理
	コカコーラ ブラッシー フルーツ牛乳	王将餃子 不二家レストラン ハンバーグチェーン	牛丼・ラーメンチェーン店 ファミリーレストラン 焼酎 チューハイ	コーヒー 蕎麦茶 うどんそば 中華料理チェーン
	コーラ	日本酒	（禁酒）	日本酒
	コーラ	寿司 ビール	焼酎のウーロン茶割り	
		飲酒 魚の食事	飲酒 肉・魚の食事	飲酒 魚の食事
			ラーメン	焼肉
	甘味	肉類 日本酒	蕎麦 焼酎	米 焼酎
	母の食事	ラーメン	肉類 うなぎ	
	喫茶店	喫茶店		
		肉類が多かった		栄養バランスを考えて食事をとる
			外食	外食
	肉	肉 ビール	居酒屋 スナック 魚	居酒屋 スナック 魚
			食べ放題の店を探しては大勢で行くのが楽しかった	
		デニーズ スカイラーク ジョナサン	ロイヤルホスト グリーンドア 回転寿司	回転寿司 グリーンドア
		ビール ウイスキー 焼肉	ウイスキー 寿司	魚料理
		肉 ビール	魚 ウイスキー	ワイン
		ビール	ビール	
		ウイスキー	日本酒	ウイスキー ワイン
	質より量だった	質より量だった	食事は量から質へ	食事は量から質へ
	魚類の料理を食べることが好き	色々な洋食を食べるのが好き	日本料理を食べるのが好き	日本料理を食べるのが好き
	若いときは全てが美味しかった	毎日腹をすかし何でも旅先で食べた	妻と飲食店を選び一緒に食事	妻と飲食店を選び一緒に食事
	コカコーラ	吉野家	ファミリーレストラン	
	ラーメン カレー	和食	和食	居酒屋 スナック
		居酒屋・バーによく行った 肉食		肉より魚と野菜
		酒 宴会	酒 宴会	
	肉	肉 ビール キャバレー	肉 ビール スナック	
	うどん そば	居酒屋 うどん そば ラーメン	居酒屋 うどん そば ラーメン	居酒屋 うどん そば ラーメン
		毎日のように飲み歩いていて		
			会社の同僚と居酒屋を楽しむ	ホテルのレストランで飲食が増える
	カレーライス ラーメン	ハンバーガー 寿司 焼肉 マクドナルド スカイラーク デニーズ	焼肉 うどん そば 寿司 安楽亭 久兵衛 くら寿司	左記同様+ゆで太郎 海山亭 いっちょ
70代前半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代
70代前半・男性	パン ラーメン	コーラ	缶コーヒー	ファミリーレストラン
		会社の同僚と飲み会	会社の同僚と飲み会	学生時代・会社時代の友人と飲み会
		新宿とんかつの三金	仕事先での食事（地方含め）	
	鯨肉	マクドナルド	スターバックスコーヒー	シュガーレス オイルレス 減塩 カフェ
		和食洋食半々 外食も		
	卵料理（卵焼き・目玉焼き）ラムネ	コカコーラ とんかつ オムレツ	ハンバーグ スパゲッティ	ラーメン 餃子 蕎麦 うどん
	コーラ サイダー	コーラ ラーメン	焼肉 寿司	何でも少しの量
		喫茶店	スナック	
			ラーメン ビール	
		ビール ステーキ	ビール 寿司 ステーキ	ビール 焼酎 寿司
	バヤリースオレンジ ミツヤサイダー	コーラ		
				病気が多くなり肉主体から魚と野菜主体に変化する

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【食べ物・飲み物・食事・飲食店】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
70代前半・男性		焼肉	ラーメン	和食
	色々なものを食べ歩く	食べる事は好き	量を減らす	
		アルコール 洋食	アルコール	
		カラオケ	飲みに行く	ビール 酒
	良い思い出がない		家族で食べる食事は最高	家族で食べる食事は最高
			各勤務地で飲み歩きに夢中になる	社員同僚との飲食の際に人生の経験伝達を意識した
	コカコーラ	酒	酒	興味なし
		日本蕎麦		
		ファミレス お酒	ファミレス お酒	ファミレス お酒
			お酒をよく飲む	お酒をよく飲む
	小食で痩せていた	酒を飲み始めたが食べすぎが続き一気に体重増となった	仕事上の必要から最も酒量が多かった	酒は友人との会以外には飲まないようになった
	コカコーラ オムライス デパートの大食堂	五目そばは90円と高値で食べられずラーメンを（30円）	ファミレス 回転寿司	
		飯屋 ラーメン店	ビール スナック 海鮮飲み屋 ラーメン店 イタリアン フレンチ和食	焼酎 一杯飲み屋 海鮮 和食
		アーモンドグリコ エールチョコレート ウイスキー	文明堂カステラ かっぱえびせん 焼酎	回転寿司 ハイボール 発泡酒
	ラーメン	蕎麦 寿司	蕎麦 うどん 寿司	蕎麦 うどん 寿司
		ビーフステーキ サイダー	肉 寿司 鰻	和食
		肉系	肉系	魚系
	お酒 ウイスキー ビール	お酒 ウイスキー ビール	お酒 ウイスキー ビール	ビール 焼酎
	肉 魚	ビール 焼酎 ウイスキー 魚 肉	同左 そば ラーメン	同左 そば ラーメン
		コーヒー ラーメン	コーヒー そば うどん	
	洋食	ビール	ビール	ビール
50代前半・女性	質より量の食事			好きなものを少しだけ
	サツマイモ とうもろこし サイダー ところてん	コーラ りんご パナナ	ラーメン カツ丼 玉丼 コーラ	ファミリーレストラン
	ラーメン 丼物	焼肉 丼物 ステーキ 麺類 ビール 焼酎 日本酒	焼肉 ラーメン ステーキ 和食 ビール 焼酎 日本酒	和食 ステーキ ビール 日本酒
	50代前半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代
		トッブス（カレーとケーキ）		
	ファミレス	ファミレス	方南町	
		ファミレス	スターバックス タイ料理	
	ファストフード ディスコ 原宿のお洒落なレストラン	マクドナルド 手作りお弁当 ファミリーレストラン	イタリアン 和食	
	あんみつ	江戸銀 紅花 お多幸	パンケーキ 抹茶ティ カキ氷 カフェ	
	ミスタードーナツ スカイラーク	ファミリーレストラン	和食中心の店	
			友達との食事や飲み会	
	フレンチ	イタメシ	韓国料理 タイ料理 イタメシ ホテルでのランチ	
	ファストフード			
	ファストフード マクドナルド ヤマザキの菓子パン（ナイススティック・ミニスナックゴールド）31アイスクリーム	イタリアン パスタ ティラミス チーズケーキ	チーズ全般 大豆料理 チョコレート	
	もんじゃ クレープ	コークハイ カルアミルク	スムージー	
	思いっきり炭酸飲料を飲んでた	食べ放題の店が増えてたまに行くのが楽しかった	飲食店の偽装やアルバイト学生の悪ふざけがあり外食に慎重になった	
			友人とでかけ食事する	
	ラーメン屋	ハンバーガー	チョコレート	
		カフェオレ	スムージー チーズケーキ	
	マクドナルド コージーコーナー	日本酒（居酒屋） ビアガーデン 回転寿司	刺身 寿司	
	母親の手料理 デパートレストランのお子様ランチとクリームソーダ	サイゼリヤ マクドナルド かっぱ寿司	ビックボーイ くら寿司 かっぱ寿司 ビザ	
		千疋屋のフルーツパフェ		
	すき焼き しゃぶしゃぶ 居酒屋 喫茶店 マクドナルド ファミレス 不二家 ケーキ店	ファミレス 居酒屋 ラーメン屋 イタリアンレストラン パスタ ティラミス	リリエンベルグのモンブランケーキ 焼肉店 とんかつ店	
			健康志向	
	原宿で食事 御茶ノ水でディタイムスイーツ	20代はビアガーデンや居酒屋で飲み会 30代は家族でファミレス	友達とランチバイキング 家族とディナーバイキング	
	クレープ		カフェ ホテルのアフタヌーンティ	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【食べ物・飲み物・食事・飲食店】 つづき

50代前半・女性	コカコーラ ラーメン	スカイラーク	とんでん（和食レストラン）	
		イタメシが流行った プールバー		
	ハワイアンカクテル	子供と一緒にに行ける娯楽施設やファミレスなど	食べ放題メイン別（デザート・サラダ・お肉等）	
	ドムドムバーガー	マクドナルド	ランチバイキング	
	パフェ プリン カレーライス	コーヒー お酒 ラーメン ハンバーグ ステーキ しゃぶしゃぶ	お酒 焼き鳥 蕎麦 刺身	
	ケンタッキーフライドチキン マクドナルド	ビール	赤ワイン 焼肉 イタリアン	
			スターバックスなどのカフェ	
	ファストフード	アルコール		
	ファミレス ファストフード	ファミレス ホテルで食事	ネットで探してお洒落なカフェやレストラン巡り	
	新しいお店を見つけては食べ歩いた		子供がいるのでファストフード店やファミリーレストランが多かった	
	ファミレス コーヒー チョコレート	コーヒー クレープ	コーヒー 日本茶	
		友達とよく飲みに行った	おいしいお店を探して食べに行く	
	マクドナルド サーティワン			
		友人と食べ歩き	友人と近場の飲食店に週2・3回行くのが楽しみ	
	はちみつレモン	食べ放題	回転寿司	
50代後半年代目安		焼酎		
	ジュースや甘いものが大好き	友人とランチに行くことが多かった	家族で食事に出かけるのが多かった	
	1970年代～1980年代	1980年代～1990年代	2000年代～2010年代	-
50代後半・女性		フランス料理		
	喫茶店 ウィンナーコーヒー	ブラックコーヒー ビール 酒 居酒屋	お酒 ビール 居酒屋 イタリアン 韓国料理	
		友人とランチ パンケーキ ケーキ	ホテル ランチ モーニング	
		仕事帰りに友人と飲み会に行くことが好きだった		
			かに道楽	
	ピザ	焼肉	お刺身	お寿司 和食
	ハンバーガー コーラ ピザ シェーキーズ	イタリアン フレンチ	居酒屋 焼き鳥 イタリアン	
			うなぎ	うなぎ
	イタリアントマト トップス&サクソン サーティワンアイスクリーム 資生堂バーラー	クイーンアリス シェ松尾 東京ジョーズ		
	和食	和食	和食	
	バナナは高級品で食べられなかったが初めて食べたときは感動だった			
	手作りお菓子			
	ピザ お好み焼き もんじゃ焼き	芳味亭（洋食） ミクニ（フレンチ）	銀座藤田（寿司天ぷら） 照国（ちゃんこ） 古稀殿（中国料理）	牛幸（すき焼き・しゃぶしゃぶ）
	マクドナルドが初めて銀座に開店したとき食べた カップヌードル		パンケーキ 回転寿司	
		ギルド		
			友人と長話する喫茶店を決めている	
	銀座マクドナルド 原宿ベニーレーン	スカイラークによく行った		
				銀座の有名なお脂屋さんに行った
	焼肉店 カクテル ロッテリア マック チョコパフェ バナナジュース オムライス カレー	食べ放題バイキング ビール ウイスキー ケーキ 巨峰サワー	刺身 しゃぶしゃぶ 焼き魚	
	喫茶店	ファミリーレストラン 焼肉	ビュッフェ	
		回転寿司 デニース	回転寿司 デニース	
		焼き鳥	焼肉 イタリアン ホルモン焼き	
	母と出かけたとき食べたレストランのオムライス		料理を作っている時が好き	買物を色々するのが好き
	シェーキーズのピザ食べ放題			
	新宿中村屋のホンスーメンを使った料理	中華料理 中華屋さん シノワーズ杏香楼	外で食べるよりも「家ごはん」 ビール 赤ワイン	
	マック	モスバーガー	ファミレス デニース	
		美味しいケーキ店	マダム厨房（馬車道レストラン）での食事	
	肉類中心のガッツリ系 ディスコ 部活帰りのファストフード	家族でファミレス ファストフード	お酒は赤ワイン 和食中心 夫婦で外食も	
	喫茶店でレモンスカッシュを飲んだ	ラーメン	韓国料理 ラーメン食べ歩き	
	三ツ矢サイダー ファンタ	コーヒー	コーヒー	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【食べ物・飲み物・食事・飲食店】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
50代後半・女性	小学校のときに初めて食べたグリコのバターブリッツ	学生時代のモスバーガー		
	ポテトチップス	ビール 酒 さば	ビール 酒 さば	
	家族揃っての食事が賑やかで大好きだった	仕事の帰り道に友達と食事するのが楽しかった	家族で回転寿司に行きそれぞれが好みのものを自由に食べるのがいい	
		カクテル チューハイ 日本酒 ワインなどのお酒を飲むこと	美味しいものを少しずつ食べる	
	ケーキ チョコレート	ケーキ チョコレート イタリアン	和食 おいしいランチ	和食 おいしいランチ
	友人や会社関係とよく食事した	彼氏・友人・会社関係でよく食事や飲み会をした		
	チョコレート アイスcream	チョコレート クレープ ファミリーレストラン	チョコレート ファミリーレストラン 回転寿司	
	ケンタッキーフライドチキン コーラ ミルクティ	居酒屋 日本酒	イタリアン パル ビール ワイン	
	フランス料理	イタリアン		
60代前半年代目安	1960年代～1970年代	1970年代～1990年代	1990年代～2010年代	2010年代
60代前半・女性			クーポンサイトを利用してレストランを発掘する 外食が増えた	体のため家では糖分塩分ゼロの食事を心がけている
				亜麻仁油やえごま油が気になる
	ビザ・コーラを好んでいた	レストランや喫茶店によく行った	お昼に外食するのが好きだった	お寿司屋が好き 色々な店で買うパンも好き
		食べ歩き（東急プラザ・銀座の専門店）	食べ歩き（駅ビル・東急プラザ・銀座の専門店）	食べ歩き（駅ビル・東急プラザ・銀座の専門店）
	コカコーラ クリームソーダ	ジン 美濃吉 シェ松尾	オーベルージュ リトルトーキョークンツ	
	田舎育ちで肉をあまり食べなかったのが初めて食べたハンバーグの味がとてもおいしかった	イタリアンが流行りビザやバスタ 特にビザはとてもおいしくてハマる		青山の洒落たお店でランチを食べるのが好き
	友達との飲み会	子供のお母さんとの飲み会	子供のお母さんとの飲み会	今も時々飲み会を続けている
	カツ丼をよく食べた ビツアもおいしかった			
			ファミレス	ファミレス
			コークハイ	
	お寿司 パスタ	お寿司 ビール	お寿司 和食 ビール	お寿司 和食 ビール
		バイキング	バイキング	
	好き嫌いなく何でも食べた	中華料理が好きでよく食べに行く		自分の体に必要なものを選んで食べる
			ビール	
	マクドナルド ロッテリア	ファミリーレストラン	グルメ スイーツ バイキング ファミリーレストラン	チェーン店
	外食は少なかった 部活後にジュースかアイス 友人とスバゲッティナポリタン	ビザ カルボナーラ ビールなどのアルコール 居酒屋 スナック	家族で家で鍋物 家族で外食和洋中 娘や息子と一緒にワイン	おそば アルコール
	海の幸 ヤクルト ラーメン チキンライス	居酒屋 スナック カラオケ	バイキング 回転寿司 焼肉	焼肉 居酒屋
	コーラに凝る 喫茶店でナポリタン	銀座・日本橋でよく食べた ハンバーグが美味しい店によく行く		くら寿司が好き
			ビアレストラン	
	姉妹の弁当を毎日作っていた	ビックリマンチョコ	近所にファミレスができた	スシローが好き
				孫が出来て子供向けの料理を考えるようになった
	ダイエットにはまり10キロ痩せる	ファミレスが増え始め通う デニーズ!!		和食を勉強したい
			学校関係の人たちとよくランチする事が多く友達が増え山出て嬉しい	
		得意メニューを増やす	焼酎	
	ソフトクリーム			
			スカイツリーで食べたコース料理が美味しかった	
	喫茶店 ナポリタン 不二家ケーキ ドンク	讃岐うどん 広島牡蠣 広島菜漬 お好み焼きなど転勤先の名物	イタリアン ケーキ コーヒー チーズの専門店 カルディ いくら 筋子	各国料理のレストラン ケーキ 亜麻仁油 チアシード 青魚 グリーンスムージー 玄米食
		外食（フランチャイズ店）ファミレス	ホテルでの食事 バイキング	和食中心
		ビール	ワイン	
		友達とよくスナックへ行った		
	アマンド 自販機のカップヌードル サイゼリヤ	ヘンリーアフリカ J&R サラ パプカディナル	宅配ビザ パンナコッタ ティラミス ナタデココ	ゴボウ煮など
			ビザが好き	寿司

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【食べ物・飲み物・食事・飲食店】 つづき

60代前半・女性	友達といったスタンドカレー	アルコールを覚えた頃	初めて行ったガード下の飲み屋	沢山ではないが素敵なお店
	フルーツバーラー 喫茶店	ファミレス		孫と一緒に回転寿司 ファミレス
	友と食事	家族でのイベント料理（クリスマスや誕生会）	和食を好み料理する	家庭料理が家族に喜ばれる
	喫茶店のモーニングを良く食べた	ファミレスで友人とよく食事した		
	友人ともんじゃ焼きによく行った	OL時代に昼食で行っていたサラダのお店（赤ひょうたん）が美味		
	喫茶店	炉端焼き	居酒屋	
	手打ちうどん	手打ちうどんを打つ おやつを作る	蕎麦を食べる	
	お寿司	イタリアンジェラート 博多ラーメン	ラーメン ワイン ホテルランチ	
60代後半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2010年代
60代後半・女性	ハンバーグ カレーライス おでん	ピザ スパゲティ コーヒー レストラン四季	銀座 フライデイズ 地ビール ワイン	ホッピー バーガーマニア
		サラダ（赤ひょうたん） ピッツアイン ドネシアラヤ	居酒屋	
		ケーキが好きで美味しい店を知ると出かけて食べあさった		子供や孫に会えるのが楽しみで家に来てくれると嬉しい
		ニューオータニで食事 銀座のパブ	バイキング料理 回転寿司	
	田舎住まいなので畑からとれた野菜を直接食べた	チョコレートパフェ	よくランチを食べた	肉料理が好き
			月1回の友達とのランチ 必ず行くのがメルサのDUEANGELIと明治屋	銀座三越12Fの食材が良いレストラン（LESROSIERSEGUZUKILORE・フレンチ）
			子供たちと食事に行くのが楽しみ	
		カクテル コークハイ	シズラー（カリフォルニアスタイルレストラン）パブナ（ビュッフェ）	映画 友人との国内旅行
	巣鴨コージーコーナー（モンブランケーキ） 不二家（ソフトクリーム・デリシャスパイ） 上野のケンタッキーフライドチキン	サンフランシスコで食べたロブスター トップスのカレー メキシコのタコス	仕事帰りに勤め先近くでは毎日女子会食べて飲んで全快	1.5ヶ月に1度のペースで友人とちょっと贅沢なコースランチを楽しんでいる
	学校帰りにお茶の水ジロー	キャンティチキンバスケット チャコの1ドルステーキ		ピザ
	初めてレストランでピザバイを食べたこと 中学のとき昼に毎日サンドイッチを作ったこと	ウイスキーにカルピスを入れて飲むのが好きだった	ワインにはまった	旅行の歳ホテルバイキングで一杯食べた
	もんじゃ	カクテル イタリア料理	居酒屋	和食懐石が多くなった
	チキンラーメン そば コロケ 甘味処 ジュース	紅茶 ココア 寿司 回転寿司 居酒屋 スナック ファミレス	日本茶 紅茶 ファミレス スナック	寿司 パスタ 紅茶 日本茶 ファミレス
	コンパ ピザ	コンパ 居酒屋 ピザ		
	喫茶店 コーヒー	ファミレス デニース ビール	寿司 ビール 日本酒（久保田）	ハイボール 焼酎
	たこやき（丸物デパート）	焼肉	バイキング	
			寿司 ステーキ	寿司 和食
		レモンスカッシュをよく飲む	ファミレスによく行く	
	コカコーラ	ピザ	ケーキバイキング ランチバイキング	うなぎ
			食べ歩き（中華・フレンチ・イタリアン・和食）	グランドホテル・バイキング
		美味しいものをいただく	美味しいものをいただく	美味しいものをいただく（少量美味）
			韓国料理	
	インスタントラーメン	マクドナルドのハンバーガー		夫婦での外食が増えた
	サンマー麺など麺類	中華街		寿司が大好き
		チェリオ	ラーメン 寿司	ナマ物（刺身） パン
	カレー	丼物 コーヒー 焼肉	煮物 日本茶 コーヒー	煮物 日本茶 コーヒー
	今は亡き母と週2日近所のすし屋で夕食したこと	週末に家族と近所の焼肉屋で焼肉を食べたこと	週末に夫と二人で近所のカラオケスナックで歌ったこと	月2回は友人4人と食事会に行ったこと
			ベーグル 手作りケーキ パン	ヨーグルト 塩パン
	ケーキ コーヒー パン	あらゆる料理 コーヒー	あらゆる料理 コーヒー ワイン ビール	あらゆる料理 コーヒー ワイン ビール
	寿司 紅茶 洋菓子	寿司 紅茶 洋菓子	寿司 紅茶 洋菓子	寿司 紅茶 洋菓子
	コーラ			
		喫茶店	ファミレス 回転寿司 焼肉店	回転寿司 焼肉店
	チョコレート			
70代前半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代
70代前半・女性			家族と月1回は外食	主人と週2回は外食
	外食は少なかったがたまに連れて行ってくれたことが良い思い出	仕事後に仲間と行く食事会・飲み会は楽しかった	会合の後の仲間とおしゃべりをしながらのランチ	仲間との会食を大事にしたい
				時々の友人との食事が楽しい
			焼肉 ラーメン ハンバーグ	
	母と仲良く	夫がよく食事に誘ってくれた	一番賑やかに家族と子ども友人と（外食に）出かけた	家族とよく（外食に）でかける 友人とのおしゃべり会もする

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【食べ物・飲み物・食事・飲食店】 つづき

70代前半・女性	天ぷらうどん サイダー 親の作った家庭料理	あんみつ屋 カレー屋 寿司 コーヒースタンド	フランス料理 日本料理 寿司 コーヒー ワイン 日本酒 クルーズクルーズ 間(あいだ)	ドトールコーヒー バーミヤン
	採れたて野菜	カレー	洋食	和食
	デパートの屋上で兄弟で食事		グループでの食事会 子供たちと一緒にデパートで食事	群馬県赤城方面に天然水を月1回汲みに行く 家族の体調良好だった
	家族と月1度の食事 母とその友人とコーヒー飲み	料理作り(和食) 珈琲専門店	料理(月1度10人の友人を招き作った料理を試食いただく)	仕事関係の方と食事に行く 作った料理を友人に食べていただく
		コーヒー 寿司	コーヒー 寿司	コーヒー 寿司
			4人のグループで食事会	グループで食事会
	コカコーラ		ワイン	
		家族の外食が楽しかった 焼肉 寿司 日本酒 ビール ウイスキー	仕事帰りに友達と居酒屋・ファミレスでよく食事したこと	寿司・中華類が好み 果物 日本酒 ウイスキー ワイン ビール スシロー ファミレス 中華店
	キャラメル 親の手作りのいなりずし			
	家族と一緒に和食	和食	和食	和食
	喫茶店でおしゃべり 立ち食いなど安価な所 コーヒー カレー オムライス	歌声喫茶花盛り スカイラーク・スエヒロで昼食	ランチの食べ歩き 荒 横浜中華街	熱海一泊グルメ旅行 帝国ホテルでランチ うなぎ尾花
	チョコレートが好きだった	外食は殆どしなかった	外食は殆どしなかった	和食 魚系が好き
	パンを異常に好きになった	もんじゃ/お好み焼きに出会う	食べる好みが変わった	
	農家の生活 カレー けんちん汁	町へ出て母と月1・2回ラーメンを食べに行く	月1・2回外食	家庭菜園を楽しんでいる
	好き嫌いがなく食べる			
			PTAの母親同士の食事会が楽しかった	食べ歩きと旅行での食事を楽しみにしている
	好き嫌いが激しく食が細かった 肉嫌い は生涯続く ラーメン20円 コーヒー50円 ぎょうざ50円	新婦子育てで家計が大変・やりくりしながらの食卓 外食は本当に楽しかった	友人と外食に出歩く お酒の量も増す 子供たちの家族も増え大量の手料理 レパートリー研究多々	夫と二人で外食を楽しむ 年相応の体を考え調理する
	母が作ってくれたおはぎの味が忘れられない 外食は少なかったが母と行った中華そば屋が懐かしい	母が作ってくれたおはぎの味が忘れられない 外食は少なかったが母と行った中華そば屋が懐かしい	パートに出てスナックを知り楽しかった 男性がこういう場所で飲んでいたのでね	食が細くなりシニア食が欲しいと思う
	カレー	ナポリタン ドリア	回転寿司	ケーキ
	アイス サイダー	コーヒー お菓子作り パン作り	コーヒー	コーヒー
	中華料理のかた焼きそばの美味しさに感動しました	朝食を喫茶店モーニングサービスで楽しんでいました		
			中華料理 食べ歩き	
	デパートのお好み食堂	ニコラスビザハウス	帝国ホテルのバイキングにびっくりした	クルージングでの食事
	麦ご飯			
				病気になる生きるのが精一杯
			アサヒスーパードライ	生キャラメル
	コカコーラ アーモンドチョコレート	あんみつ ホットケーキ	麦とろ	寿司 うなぎ すき焼き
	レモンスカッシュ			

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【街・ショップ・施設】

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
50代前半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代	-
50代前半・男性	神保町古本屋街 八重洲ブックセンター 銀座山野楽器	台場 新宿歌舞伎町	青山・六本木・麻布周辺 サントリー美術館	
		ディズニーランド		
	渋谷 六本木	銀座	銀座	
	市ヶ谷 二子玉川	渋谷 新宿	アウトレットパーク	
		銀座並木通り	六本木	
		色々な店をいつも見て廻った	変わっていく街並みが気になる	
	池袋 サンシャイン60	池袋 渋谷	池袋	
		杉並	石神井公園	
	丸井	ららぽーと	イトーヨーカ堂	
	繁華街・特に新宿	東京ドーム 神宮球場		
	ゲームセンター 新宿のディスコ	ディズニーランド 六本木のディスコ	熱帯魚ショップ コストコ	
		ディズニーランド	鎌倉 伊豆	
	プラモデル店 ボーリング場 パート	道の駅 ドラッグストア ファミリーレストラン	駅のショッピングセンター ディスカウント ホームセンター	
	自宅近くの公園	新宿	表参道	
			銭湯	
	デパート屋上のゲームセンター	ファミリーレストラン		
	上野アメ横	神田	道の駅	
	ボーリング場が多かった	コンビニが沢山出来た	大型スーパーが出来た	
	渋谷 下北沢	自由が丘 原宿	たまプラーザ 銀座	
		吉祥寺 渋谷		
		ジャズライブハウス ビットイン新宿	ジャズライブハウス ニカ町田	
	元町チャタリングセール 伊勢佐木町散策	シネマコンプレックス ディズニーランド	ディズニースhower 子供と行く施設 動物園 遊園地	
	元町 伊勢佐木町	シャル ジョイナス	アウトレット（ららぽーと・ベイサイド マリナ・グランベリーモール）	
		カラオケボックス		
	原宿 渋谷 お台場 東京ディズニーランド	新宿 銀座 幕張メッセ	アウトレットショップ イケア ユニバーサルスタジオ	
	実家暮らし	寮生活		
	ディスコ 雀荘	雀荘		
		ディスカウントストア ディズニーランド		
	厚木 町田	宇都宮 セントラルスポーツ	イオン	
	ディスコ	ディズニーランド ルイヴィトン	ディズニーランド	
	献血ルーム	公共のスポーツジム&プール スーパー銭湯	公共のスポーツジム&プール スーパー銭湯	
	商店街	デパートの特売衣料	ショッピングモール	
	新宿 渋谷 吉祥寺	新宿 吉祥寺 所沢 立川 ビックカメラ ヨドバシカメラ PCショップ	所沢 立川 新宿 ユニクロ 図書館 サイクルあさひ インターネット購入 （アマゾン・楽天）	
	大宮 コミュニティセンター ゲームセンター	コミセン 大宮 釣具店	ショッピングモール	
50代後半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～1990年代	2000年代～2010年代	-
50代後半・男性	中野ブロードウェイ 霞ヶ関ビル 大阪万博 上野動物園パンダ	東京ドーム 福岡ドーム ブールバー	六本木ヒルズ 原宿ヒルズ	
		新宿	川崎ラゾーナ 横浜赤レンガ 鎌倉	
		古本街	古本街	
	銀座 六本木	池袋	イオンモール アウトレット ヨドバシ GU	
	VANショップ ディスコ グロース ウリウリ場	シブス・ビームス ラボエーム ZEST（レストラン）	東急シネマ 東宝シネマ ミッドタウン	
	空手道場 公共スポーツ施設	公共スポーツ施設	公共スポーツ施設 スポーツクラブ	
	北区王子	銀座	池袋 ビックサイト	
	池袋	新宿 銀座	ホームセンター巡り	
	上野アメ横	銀座すずらん通り	西新井 アリオ	
	JR小岩駅ビル	神田 神保町	上野 御徒町	
		豊島園 ディズニーランド		
		湘南（サーフィンで）		
	吉祥寺 新宿	ファミリーレストラン 焼肉店	回転寿司	
	新宿	無印良品 東京流通センター	ドンキホーテ ハードオフ セカンドストリート	
	ブランドショップ	アウトレットモール 趣味の専門店	アウトレットモールやショッピングモールの 多店舗商業施設 食品スーパー	

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【街・ショッピング・施設】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
50代後半・男性	吉祥寺 渋谷	ディズニーランド	量販店	
	バチンコ	サウナ	図書館	
	百貨店	ショッピングセンター	アウトレットモール	
	吉祥寺	江ノ島 鎌倉 寺巡り	鎌倉 京都 寺巡り	
	新宿	新宿	お台場	
	デパート 駅ビル 喫茶店	グローバルダイニングの店 ゼスト品川 渋谷 六本木 新宿 原宿 自由が丘 代官山 下北沢 溝口	アウトレット 港北 イケア 東急ららぽーと カースポート スパイアス 湯けむりの庄 宮前平	
		ららぽーと		
	ボウリング場	ボウリング場		
	渋谷パルコ 東急百貨店			
	大型店舗が近くになく不便だった	近隣での買物	近所に大型店舗が出来て便利に	
	JUN VANのセールで鷺谷の山崎ビルに 年何回か行った	週末に必ず渋谷へ（カラオケ等） 那須（テニス）		
	デパート 遊園地	ディズニーランド	アウトレット 専門店 USJ ディズニーランド	
	ダイエー 図書館	アウトレットモール	銀座周辺ショッピング 池袋	
60代前半年代目安	1960年代～1970年代	1970年代～1990年代	1990年代～2010年代	2010年代
60代前半・男性		スポーツセンター		
	デパートの屋上		アウトレットモール ショッピングセンター	
			スポーツジム	スポーツジム
	渋谷	吉祥寺	自由が丘 銀座	新宿
	VANショップ	六本木 自由が丘	六本木	各アウトレット
		渋谷	渋谷	
	池袋	池袋	池袋	池袋
	豊島園に行くのが好き	デートなどで色々な所へ行った	病院ばかり行くことになった	家族で買物をする事が一番良い
	15歳で上京 大田区蒲田の映画街商店街を多 く利用	数回転居 いずれも商店街 大衆食堂を利用	地元スーパーに週1回夫婦で	地元スーパーに週1回夫婦で
		横浜元町	銀座	ホームセンター 100円ショップ
		ビックサイト	池袋 スカイツリー	
		上野 新宿	上野	
			スカイツリー	
	早朝等ボウリング場へよく行く			
		ホームセンター	アウトレット	
		独身の時は銀座や渋谷など色々な街で食事 をした		大型ショッピングモールに時々
	新宿	新宿	スパ	スパ
		京都 ファッションビル パル	パルコ 渋谷 銀座	
		横浜		
			大型ショッピングセンターへ行くことが多い	大型ショッピングセンターへ行くことが多い
	海 ブール ディスコ			
	秦野市	戸塚駅前	鶴ヶ峰駅前	
	渋谷 原宿	新宿歌舞伎町 赤坂 銀座 吉祥寺	銀座 田町 赤坂 コストコ イオンモール	銀座 ソニービル
		東京ディズニーランド		
	上野 ブルボン ボウリング場	銀座東急 ビヤガーデン	新宿 千葉や栃木のゴルフ場 ゴルフ5	イオンモール 千葉ゴルフ場 ゴルフ5
		秋葉原	秋葉原	
	中小スーパーマーケット	大型スーパーマーケット		
	銀座 百貨店	新宿		
60代後半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2010年代
60代後半・男性				本屋 図書館
	銀座 新宿	銀座 新橋	銀座 新橋	銀座 新橋
	生まれ故郷岩手県山田町へ春休みと夏休 みに長期滞在しふるさとを満喫	社会人になってからも年1回山田町を訪問	ふるさと山田同郷会の加入	山田町ふるさと納税 訪問
	青山 渋谷	渋谷	渋谷 二子玉川（ニコタマ）	渋谷 ニコタマ
				孫と行くホームセンターが楽しみ
	自由が丘	渋谷の映画館 新宿の飯屋	横浜	
	後楽園 豊島園ブール 池袋西武	上野アメ横 遊園地	秋葉原の専門店 ドラッグストア	アウトレットパーク シネコン
		新宿ビットイン	高円寺から吉祥寺まで	池袋 豊島園庭の湯
	渋谷	東急 高島屋	カインズ	カインズ ホームセンター
	新宿 銀座	銀座 ゴルフ場	新橋 神田	神田 近所
	京都の街 柴又			アリオ（ショッピングモール）

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【街・ショップ・施設】 つづき

60代後半・男性	上野 池袋	新宿 原宿 渋谷 池袋 上野 銀座 札幌	銀座 日本橋 北千住 浅草	銀座 日本橋 北千住 浅草
	銀座 VANショップ		ショッピングセンター	ショッピングセンター
	小学校高学年から中学の頃に同級生と繁華街に行くのが楽しかった			
	長崎屋 ミドリ屋 西友 五反田 新宿 渋谷	ダイクマ ミドリ屋 西友 イトーヨーカドー 五反田 高円寺 四谷上北沢	イトーヨーカドー 新宿 大久保 池袋	イトーヨーカドー
	新宿御苑	仙台市 横浜市 八方尾根スキー場	横浜中華街	横浜中華街
		小田急デパート	小田急デパート	登山用品ショップ 新宿 町田
			アウトレット	アウトレット
		妻と子供の買物や旅行によく行く	妻と子供の買物や旅行によく行く	
	図書館	高層ビル	世界遺産の街や施設 明治座	コンビニ
		数十カ国を旅したので全てが印象的	夫婦旅行で店や街・施設を選び行く	夫婦旅行で店や街・施設を選び行く
		御徒町 アメ横		浅草 スカイツリー
		超高層ビル		
	野球場	野球場	野球場	
		銀座 六本木		
			イオンモール セキチュー・カインズホーム ドイト	イオンモール セキチュー・カインズホーム ドイト
70代前半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代
70代前半・男性	商店街の縁日	デパート 商店街	ディスカウントショップ	ディスカウントショップ
	渋谷	新宿		
	三田	銀座 自由が丘 デパート	ショッピングセンター郊外型	
		街でショッピング	ホームセンター デパート	
	配給で街に並んだ頃	銀座ショッピング	六本木でウインドウショッピング	地元商店街でショッピング
		渋谷	六本木 品川	二子玉川 横浜
			ホームセンター	ホームセンター
		ルアーショップ	ルアーショップ	スポーツセンター
			オズ	
	松坂屋	三越 松坂屋 上野 銀座	三越 高島屋 カインズ 紀伊國屋	三越
		登山用品の買物		
		上野 渋谷		
			池袋	図書館
	本を立ち読み	本を買い込む	本の分野が広がった	ブックオフで定期的に買い込む
	東京オリンピック工事 コマ劇場	東京オリンピック 大晴天	ショッピングモール	
	新宿 渋谷		六本木 赤坂 銀座 スナック クラブ	赤坂
			ルノアール	カラオケ
	札幌	上野 御徒町	秋葉原	秋葉原
			フィットネスジム	
		後楽園球場 新宿 六本木	神田 日本橋	
		上野	八千代市緑ヶ丘	八千代台駅前エルム
	商店街 デパート マーケット	ショッピングセンター デパート スーパー	ショッピングセンター モール スーパー デパート	デパート スーパー コンビニ 専門店
	武蔵野の雑木林での遊び	東京タワー 高速道路のドライブ		スカイツリー
50代前半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代	-
50代前半・女性	原宿	原宿 新宿	新宿 方南町	
	ボウリング場	BEAMS 下北沢	新宿ルミネ	
	新宿 渋谷 原宿 青山 キディランド オリエンタルバザー ベルコモンズ 武道館	仙台 図書館 科学館 デパート	新宿 二子玉川 銀座	
	五反田 品川 広尾 麻布 東京 渋谷	横浜 町田 箱根 伊豆 沖縄 ハワイ	大阪 原宿 渋谷 吉祥寺 新宿	
	吉祥寺 立川	子供向け施設 二子玉川 渋谷こどもの城 自由が丘 児童館	二子玉川 満の口 大井町 新宿 自由が丘	
	渋谷 原宿 六本木	銀座 渋谷 六本木 赤坂 代官山 横浜	銀座 渋谷 自由が丘 二子玉川 横浜 アウトレット	
	渋谷 新宿	銀座 有楽町		
	船橋ららぽーと TDL キディランド	六本木 銀座 (ブランタン・松屋) 丸井	ルミネ 北千住 有楽町 丸井 イトーヨーカドー	
	原宿 渋谷	ディズニールランド	神宮 日比谷	
		複合商業施設が増え買物が楽になった	街に外国人が多くなって怖い	
	新宿	スーパー	上野	
		湘南 江ノ島 鎌倉	自然が感じられる場所 (海・山・公園など)	
	池袋 サンシャイン パルコ 東急ハンズ	ららぽーと		

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【街・ショッピング・施設】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
50代前半・女性	原宿 東京ディズニーランド	原宿 銀座 東京ディズニーランド ヒーローショー	アウトレット コストコ ららぽーと ら らガーデン 池袋 原宿 渋谷	
	新宿 吉祥寺	渋谷 丸の内 小金井	府中	
	映画館 海 町田 マリーローランサン美 術館 横浜中華街 町田ジョルナ店	町田 新宿 ディズニーランド 伊勢 丹 ルミネ ミロード 101渋谷	ライフ ディズニーランド ディズニー シー 市営プール 昭和記念公園	
	ラフォーレ原宿や竹下通りで買物	丸井 バルコ	イオンモール武蔵村山 アウトレット南大沢	
	地元の洋服店	駅ビル	アウトレット	
		会社帰りによく行った銀座 ディスコ	アウトレットモールで家族と買物	
	渋谷・新宿のディスコ	東京ディズニーランド・シー	モールなどの複合ショッピングセンター	
	サンリオ	原宿 渋谷 六本木	アウトレットショップ	
	渋谷	スポーツクラブ	アウトレット	
	原宿	新宿 六本木		
			ユニクロ	
		ららぽーと	ロクシタン（南仏コスメ） ららぽーとTOKYOBAY	
	10代後半にオープンした東京ディズニ ーランド			
	ディスコ	カラオケ	アウトレット カラオケ	
	大型ショッピングセンター	大型ショッピングセンター	大型ショッピングセンターに行かなくな った	
	ジャスコ			
	子供と出かけられるところを探して行っ た	色々な所のアウトレットモール		
	大型ショッピングセンター	銀座 日本橋		
原宿 ラフォーレ原宿 丸井 竹下通り	健康ランド スーパー銭湯 マンガ喫茶	日帰り温泉 ららぽーと		
	ディズニーランド			
住んでいる近くに出かける	学校や仕事のそばに出かける	アウトレットモールによく出かける		
スパリゾートハワイアンズ（当時は常 盤ハワイアンセンター）	ディズニーランド カラオケボックス ハワイアンセンター）			
50代後半年代目安	1970年代～1980年代	1980年代～1990年代	2000年代～2010年代	-
50代後半・女性	吉祥寺			
			一人でデパートを上から下までゆっく り見て 買物する事がストレス発散になっていた	
		渋谷109	大久保	
		青山 表参道 二子玉川 自由が丘	銀座 日本橋	
		横浜		
			子供を児童館で遊ばせながら他の母 親と交 流するのが楽しかった	
			銀座	
	銀座	ディズニーランド マクドナルド 六 本木	USJ	自由が丘 温泉
	横浜元町 山下公園	渋谷 六本木	池袋 青山	
	渋谷 赤坂 日比谷 銀座コア	銀座 吉祥寺 原宿	アウトレットモール	
	所沢 東久留米 新宿	池袋 渋谷	池袋 新宿	
	ディスコ	博物館	水族館 博物館	
	表参道 赤坂 六本木	六本木 麻布 代官山	銀座 代官山 六本木	銀座 日本橋
	横浜元町 フクソー ミハマ ダイヤモンド地下街		ららぽーと	
		上野アメ横 渋谷109 銀座	高島屋 銀座	
		一人でよく街歩きをした		
	原宿竹下通り		娘のお供で原宿・新宿へよく行っ たレイ クタウン（イオン）へよく行く	
		バルコ	ディズニーランド	
	原宿 新宿 小岩駅ビル	ナコス 小岩 新小岩 市川 ブランタン ららぽーと	小岩 千葉 ホームズ ららぽーと	
	原宿 池袋	新宿		
		デパート	アウトレット デパート	アウトレット デパート
		宝塚劇場		
	渋谷によく買物に行った			日帰り温泉
	上野 新宿 ディスコは赤坂	20代銀座 渋谷 30代青葉台 たま プ ラーザ等自宅周辺	自宅周辺	自宅周辺
	ライブハウス ディスコ		ライブハウス	
	新宿伊勢丹	新百合丘	新百合ヶ丘 町田オダキュー オーバ イトーヨーカ堂 ビブレ 無印良品	
横浜	原宿 ディズニーランド			

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【街・ショップ・施設】 つづき

50代後半・女性	北千住	品川プリンスの丸井バーゲンセール 渋谷	アウトレットで買物 ららぽーと 横浜	
	四谷 池袋 ルミネ 六本木 渋谷	六本木・渋谷・銀座で飲み歩く 結婚後は ほぼ横浜 子供向け施設	アウトドアショップによく出かける	
			高島屋 ユニクロ	
	障害者施設にボランティアに行った	ジム通い 図書館	図書館通い	
		原宿 渋谷	ららぽーと ニトリ	
		東京ディズニーランド		
	青山 赤坂	原宿 両国	両国	
	母親とデパートに行くのが楽しかった	姉と二人でショッピング・好みが合うので 楽しかった	若い頃は一人でのショッピングが楽しかったが今は親しい人と一緒の方が楽しく思う	
		ウインドウショッピング		
	原宿	南越谷 草加	新宿 吉祥寺 北千住	新宿 吉祥寺 北千住
	洋服をたまに買った	洋服を買いまくっていた		
		主に銀座でショッピング		
		渋谷 池袋	レイクタウン	
	自由が丘	自由が丘 渋谷のショッピング		
	池袋 新宿	渋谷 三軒茶屋 池袋	浅草 巣鴨	
60代前半・女性			温泉	
	1960年代～1970年代	1970年代～1990年代	1990年代～2010年代	2010年代
60代前半・女性		職場の近くでディスカウントストア発見、 定価では買わない主義になる	トレーニング後にカフェを利用することが 多くなった くつろぎのひとときコーヒー が好きになった	
				子・孫との買物
				スカイツリー
	銀座・新宿・渋谷が好きだった	銀座によく行った	二子玉川が好きだった	二子玉川に今も好んで行く
		蒲田 銀座 渋谷 原宿	蒲田 銀座 渋谷 原宿 万葉の湯 おふろの王様	蒲田 銀座 渋谷 原宿 アメ横
	六本木 渋谷 原宿	六本木 ディスコ 広尾 丸井	銀座 六本木 西麻布 クラブ	銀座
	初めて原宿に行く 今と違い静かで外人が 多く大人風の街だった			
			吉祥寺の色々なお店を見てまわるのが好き	中華街やお台場など人の多いところに行く のが好き
		子供をよくデパートの屋上で遊ばせた		
	池袋パレコ	新宿 池袋	新宿 中野 吉祥寺	
	新宿	中野 三鷹 練馬	練馬	練馬
			コストコ イケア	
	渋谷パレコ 新宿	銀座 渋谷	錦糸町 浅草	浅草橋 日本橋
		近くにダイエーがあり買物便利	娘や孫たちとの買物（お台場 ららぽーと 幕張）	娘や孫たちとの買物（お台場 ららぽーと 幕張）
		新宿 銀座		
	デパート	デパート	アウトレット街 デバ地下	ショッピングモール街
	新宿（短大の頃に友人と遊びと買物に行った）	池袋・赤羽（友人と飲食・悩みを相談）子 育て中の友人との集まり	川口・西新井・池袋 アウトレットモール 有楽町 アンテナショップ道の駅	池袋 アウトレットモール
	デパート	銀座 新宿	銀座 浅草 船橋	銀座 浅草
	池袋ショッピングセンターや銀座によく 行った	東京駅の地下街によく行った	自宅近くのスーパー位しか行かない	小岩・新小岩の商店街をよく歩く
		パレコ	イオン 地元	池袋
	東京に驚いた	東京ディズニーランド	都内に行く 伊勢丹 ユニクロ	近所 ヨーカドーなど ユニクロ
		東急デパートに通う パレコ 吉祥寺に家を持つ		リサイクルショップが少なくなってきたので 探している
			アウトレット	
		吉祥寺	立川	
	横浜元町	横浜元町 ディズニーランド	新宿 紀伊国屋書店 伊勢丹	
	三宮センター街 三愛 梅田阪急	高松三越 広島そごう	新潟伊勢丹 玉川高島屋 ショッピングセ ンター 自由が丘 町田 二子玉川	青葉台東急スクエア たまプラーザSC 二子玉川 横浜ららぽーと 渋谷
			プレミアムアウトレット デパート	
	伊勢佐木町 鎌倉	湘南	元町	
	ACB 日劇ウエスタンカーニバル テントのアングラ劇場	渋谷パレコ2（オープン時働く） ミス タードーナツ（子供と） MUGEN ビブ ロス 船橋ららぽーと	六本木ヒルズ コストコ スカイツリー タワーマンション	渋谷パレコの閉店 ライザップ 虎ノ門ヒルズ
	原宿 新宿 赤坂	美術館 公園巡り	神社仏閣巡り	
	銀座	船橋ららぽーと 千葉	銀座 ディズニーランド 大型ショッピン グモール	道の駅 大型ショッピングモール
	デパート	動物園	デパート	大型ショッピングセンターが楽しい

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【街・ショッピング・施設】 つづき

	10代	20代・30代の頃	40代・50代の頃	60代・70代の頃
60代前半・女性	土曜の夜の街の夜市が楽しかった			
	10代後半の会社帰りに銀座でショッピング（西銀座デパート）			
	デパート	デパート		アウトレット
	スキー場	ディズニーランド 岩田屋デパートニ子玉川高島屋 渋谷 東急東横線	佐野アウトレットモール 銀座 ディズニーシー 温泉旅館	オーベルージュ 鳩居堂 高島屋
60代後半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2010年代
60代後半・女性	デパート 渋谷 恵比寿	スーパーマーケット 銀座 六本木ディズニーランド	ショッピングモール 神戸屋パン 目黒	イオンモール 広尾
	喫茶店	銀座並木通り ソニープラザ 日劇	新宿 荻窪ルミネ	
			コマ劇場	宝塚劇場
		渋谷の街		
	歌声喫茶	カラオケ店 風俗店		
	銀座に妹とでかけデパート巡り			
	渋谷 新宿 伊勢丹	銀座	自由が丘	近所の商店
	デパート	近くの喫茶店でモーニング	デバ地下	オリンピック施設への疑問
	渋谷が中心 東急百貨店 109	渋谷 新宿 買物は伊勢丹（欲しいものが絶対にある）	三越で買物するので池袋か銀座	三越
		練馬区	練馬区	練馬区
			コストコ イケア	ニ子玉川ライズ 品川プリンス
	買物は上野アメ横・池袋 学校は大塚・巣鴨	日本橋（勤務地） 銀座（買物） 青山（スエーデン織物教室）	八重洲（勤務地）東京駅地下ショッピング街 銀座 日本橋	殆ど地元 上野（美術館） 銀座・日本橋・ソラマチ 地元図書館
	御茶ノ水 銀座	青山 六本木 銀座		
	年末になると通りに笹の木を立て風が吹くとその音が懐かしい 街に高いビルはなく木造の家が多かった	小さなビルの中にいくつもの会社が入り始めた	店内を見ることが好きだった	スーパー アウトレットに行っている 気持ち癒される ベンチもありほっとできるのがよい
	万博			
			コンサート・イベント会場 リサイクルショップ	コンサート・イベント会場 温泉 リサイクルショップ
		ドライブによく行く	1年1回家族旅行	今はデジカメでその日がそっと写せて消せる幸せ?
	新宿 銀座三愛	上野アプアプ 新宿 銀座	上野アプアプ 松坂屋 銀座	
	銀座アシベ 浅草	新宿 東京 浅草 東京ドーム	埼玉 久喜 町田 柿生	宇都宮
		新宿 立川 遊園地 動物園	大型ショッピングセンター	立川 吉祥寺 デパート
	デパート	銀座 デパート	新宿伊勢丹 アウトレット	
	池袋 渋谷（五島プラネタリウム）	吉祥寺ノデパート 駅ビル	国分寺丸井 立川駅ビルグランデュオ 田無リビン	スカイツリーソラマチ 立川（昭和記念公園）
		下北沢・自由が丘に子供と一緒に	銀座アンテナショップ	銀座アンテナショップ
			新大久保	銀座
				近くの公共施設で稽古ごと
	横浜元町 横浜高島屋	元町 高島屋 原宿 銀座	銀座	ニ子玉川
				友人とのデパート巡り
		デパート	アウトレットモール	近くの店
	大手町地下街 日本橋 美術館	船橋西武 銀座 美術館	銀座 本郷 九段 神保町 美術館	神保町 銀座 柏 美術館
	デパート	銀ブラ	デパート	ショッピングモール アウトレット
		新宿伊勢丹	池袋東武 銀座コアビル	銀座ブランタン
70代前半年代目安	1950年代～1960年代	1960年代～1980年代	1980年代～2000年代	2000年代～2010年代
70代前半・女性	銀座三愛で買物	デパート（東急・三越）	ユニクロ デバ地下	ユニクロ デバ地下
		土日のショッピング		ウインドウショッピングを楽しむ
				時々ショッピングをするのが好き
	勤務し始めの頃 日本橋高島屋 日本橋白木屋	バーゲンに行った	外出の時はお酒落をしてでかけた	流行もあるので買物も適当にする 高価でなくてよい
	浅草 錦糸町 御茶ノ水 歌声喫茶ともしび	有楽町そごう 銀座松屋	新宿 銀座 京王 小田急 デパート ブティックV.V	地元商店 ブティックV.V デパート
		代々木のオリンピック会場	街並みが賑やかに明るくなった	としよりの原宿
			サンシャインシティで買物	
	姉とデパート・専門店で服選び	新宿駅周辺をウインドウショッピング		
			友人とのショッピング	
	原宿 銀座みゆき通り		銀座 日本橋 デパート	
		鎌倉・江ノ島が好きな場所		
		デパート 友人との銀ブラ		友人・子供との近場ショッピングとティータイム
	三越 高島屋 松坂屋 白木屋 西銀座 デパート 東京タワー 黒部ダム	品川ボウリング場	泉岳寺	スカイツリー

人生を振り返って楽しかったこと・好きだったこと・夢中になっていたこと

【街・ショップ・施設】 つづき

70代前半・女性				一人でショッピングが好き!
	街に年2・3回連れて行ってもらう	デパート・街へ友達と	子供たちとデパートの屋上へ	月2回位街へ行き買物を楽しむ
				友人とのんびり美術館巡りや都内の名所巡りをする事
	三越 高島屋 松坂屋 白木屋 西銀座 デパート 東京タワー 黒部ダム	品川ボウリング場	泉岳寺	スカイツリー
				一人でショッピングが好き!
	街に年2・3回連れて行ってもらう	デパート・街へ友達と	子供たちとデパートの屋上へ	月2回位街へ行き買物を楽しむ
				友人とのんびり美術館巡りや都内の名所巡りをする事
	吉祥寺が好き			
	新宿			
	予備校通いに忙しい			筋トレの必要・メタボ予防からジムに通う
				新大久保
				ららぽーとが出来た
	学生時代に銀座を見たり新宿へときどきしながら大人の体験 街は都電やトロリーバスが走りのどか	30代は地方転勤のため町や店とは程遠い環境 マーケットがまだなかったので食品以外は全てデパートだった 三越 高島屋 松坂屋	お寺巡り始まる ご朱印で観音霊場巡り 暇があると図書館	人生の50年間は下町・50代以降は横浜でショッピング 街の様子の変化に新たな視点が広まった
	伊勢佐木町の1・6 (イチロク) 夜店が楽しかった	横浜西口繁華街が楽しかった あの頃はジュークボックスから可愛いベイビーが流れていた		購買欲が無くなり出かける回数が減ってきました これではいけないと思っています
		ディズニーランド	ソニープラザ	湘南
	駅前商店街 セタ祭り	歌声喫茶 東京タワー 屋上ビアガーデン デパートで買物	ショッピングモール 船橋ヘルスセンター	
		ボウリング場が予約待ち状態		大型ショッピングモール
	銀座の街	銀座の街		
	クリスマスに家族で銀座に行った	丸の内オフィス街のショップ 銀座の店めぐり	街にモールが出来たので車であちこちに行く	ヤフー アマゾン
		万博		
	宇都宮オリオン通り	浅草仲見世通り 佐竹商店街	中野ブロードウェイ	レイクタウン

次世代高齢者研究報告書
変化し続ける高齢者意識の研究
～世代や年代の差異がもたらすもの～
(Phase1)

発 行 2017 年 9 月

発 行 所 公益財団法人ハイレイフ研究所

〒104-0061

東京都中央区銀座 1-8-14 銀座 YOMIKO ビル 8 階

Tel.03-3563-8686 (代表) Fax.03-3563-7987

www.hilife.or.jp

©公益財団法人ハイレイフ研究所
